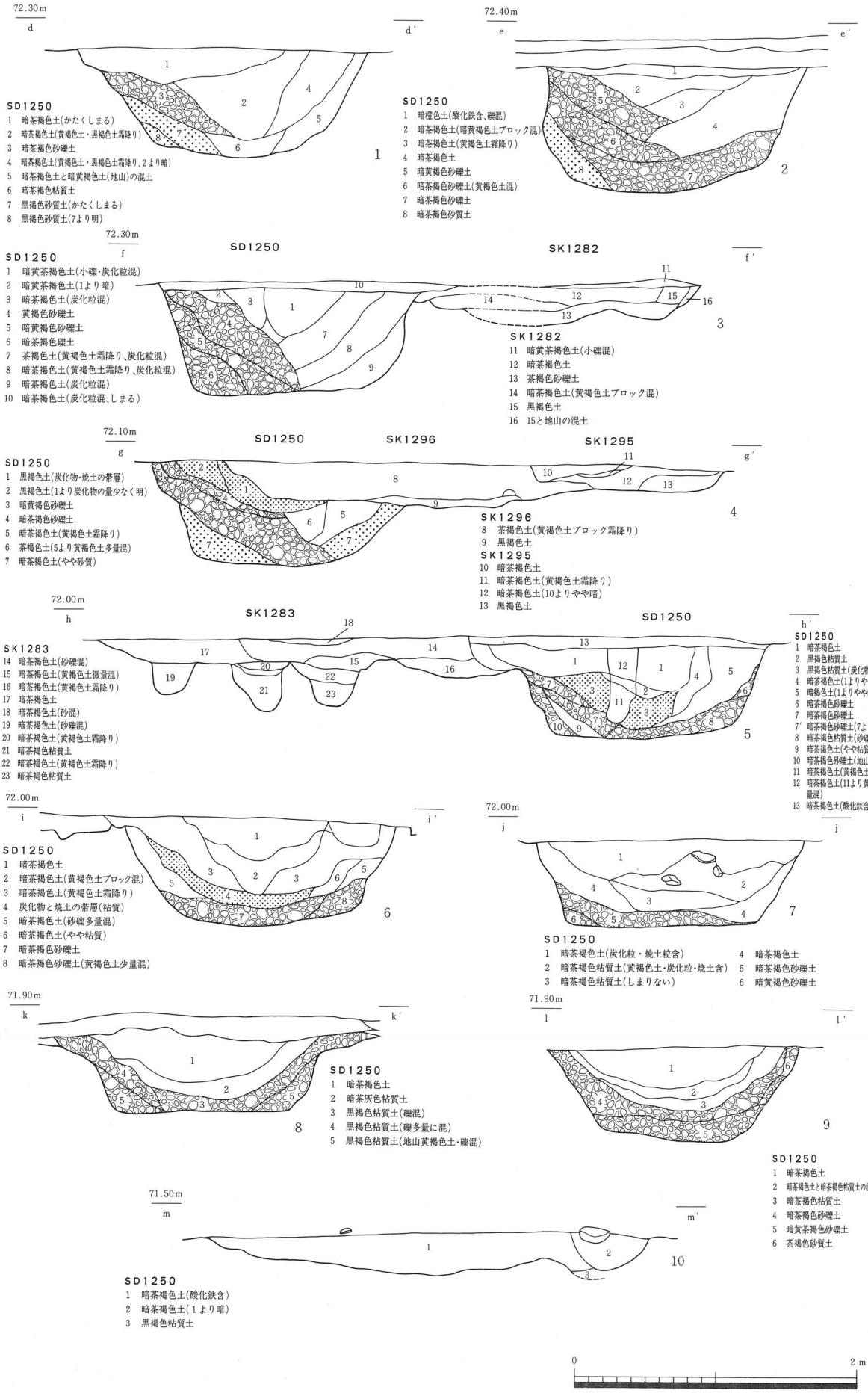
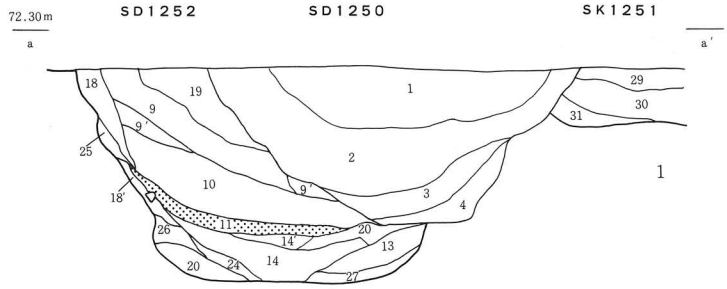
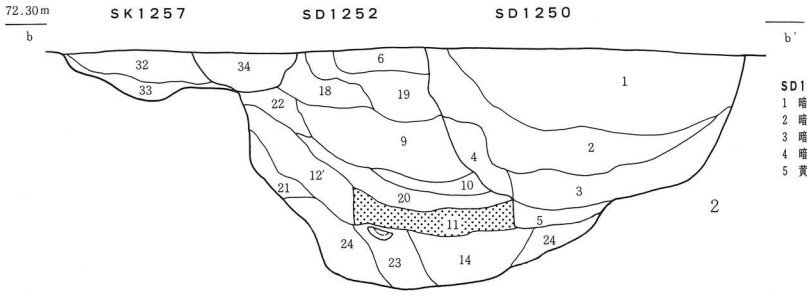


第73図　遺構実測図(中世前期)

1～10.SD1250

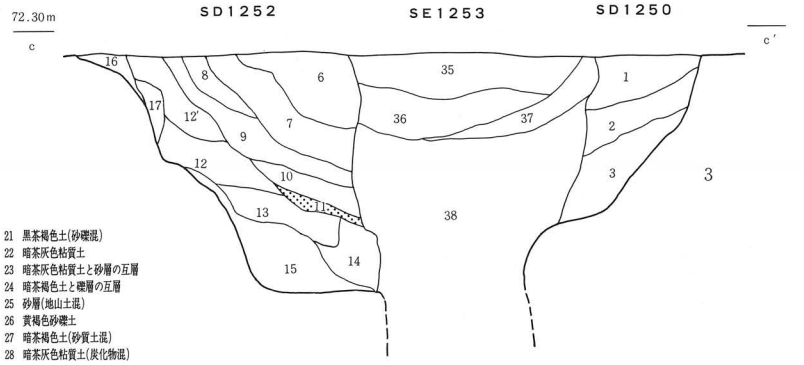


SK1251
29 暗茶褐色土(黄褐色土霜降り、炭化粒混)
30 暗茶褐色土(黄褐色土少量霜降り、炭化物・砂礫混)
31 暗茶褐色土



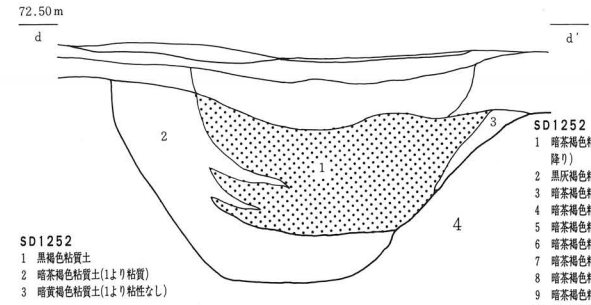
SK1257
32 暗茶褐色砂礫土
33 黒褐色土(黄褐色土霜降り)
34 暗茶褐色土(砂礫混)別遺構

SD1250
1 暗茶褐色土(黄褐色土ブロック・小砂礫混)
2 暗茶褐色土(黄褐色土霜降り)
3 暗茶褐色土(1・2より暗、やや粘質)
4 暗茶褐色土
5 黄褐色砂礫土

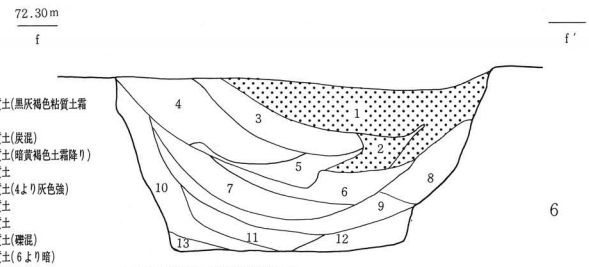


SD1252(A・B・Cセクション)
6 暗茶褐色土(黄褐色土小ブロック混)
7 暗茶褐色土(砂混)
8 暗茶褐色土(砂混)
9 橙褐色砂層と暗茶灰色粘質土の互層
9′ 黄褐色土
10 暗茶灰色粘質土
11 炭化物層(粘土混)
12 黒茶褐色土
12′ 黒茶褐色土(小礫混)
13 暗茶褐色粘質土(黄褐色土ブロック混)
14 暗茶褐色粘質土
14′ 暗茶褐色粘質土(14より明)
15 茶褐色砂礫土
16 茶褐色土
17 黒茶褐色土(地山土混)
18 黒茶褐色砂礫土
19 暗茶褐色土(黄褐色土ブロック混)
20 暗茶灰色粘質土(礫混)
21 黒茶褐色土(砂礫混)
22 暗茶灰色粘質土
23 暗茶灰色粘質土と砂層の互層
24 暗茶褐色土と礫層の互層
25 砂層(地山土混)
26 黄褐色砂礫土
27 暗茶褐色土(砂質土混)
28 暗茶灰色粘質土(炭化物混)

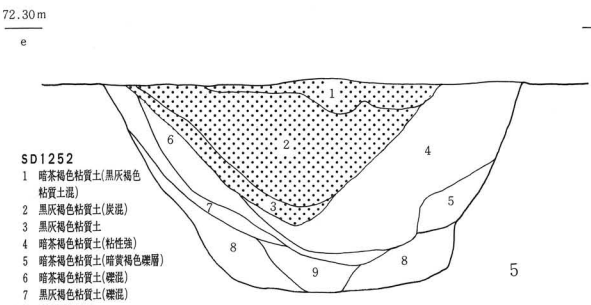
SE1253
35 暗茶褐色土(下層に焼土ブロック層)
36 暗茶褐色土
37 暗黄茶褐色土
38 暗茶褐色粘質土(砂礫混)



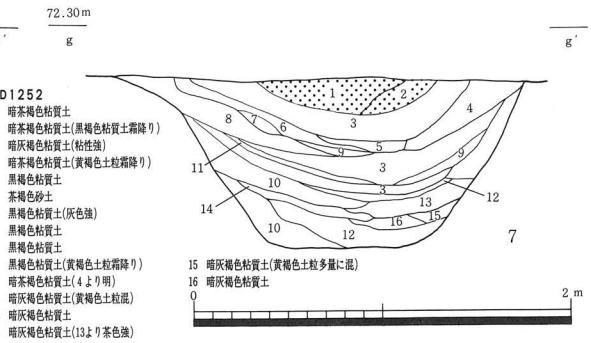
SD1252
1 黒褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土(1より粘質)
3 暗黄褐色粘質土(1より粘性なし)



SD1252
1 暗茶褐色粘質土(黒灰褐色粘質土霜降り)
2 黒灰褐色粘質土(炭混)
3 暗茶褐色粘質土(暗黄褐色土霜降り)
4 暗茶褐色粘質土
5 暗茶褐色粘質土(4より灰色強)
6 暗茶褐色粘質土
7 暗茶褐色粘質土
8 暗茶褐色粘質土(礫混)
9 暗茶褐色粘質土(6より暗)
10 暗灰褐色粘質土(炭混)
11 暗茶褐色粘質土(灰色強)
12 暗黄褐色粘質土と暗茶褐色粘質土の互層
13 黒褐色粘質土

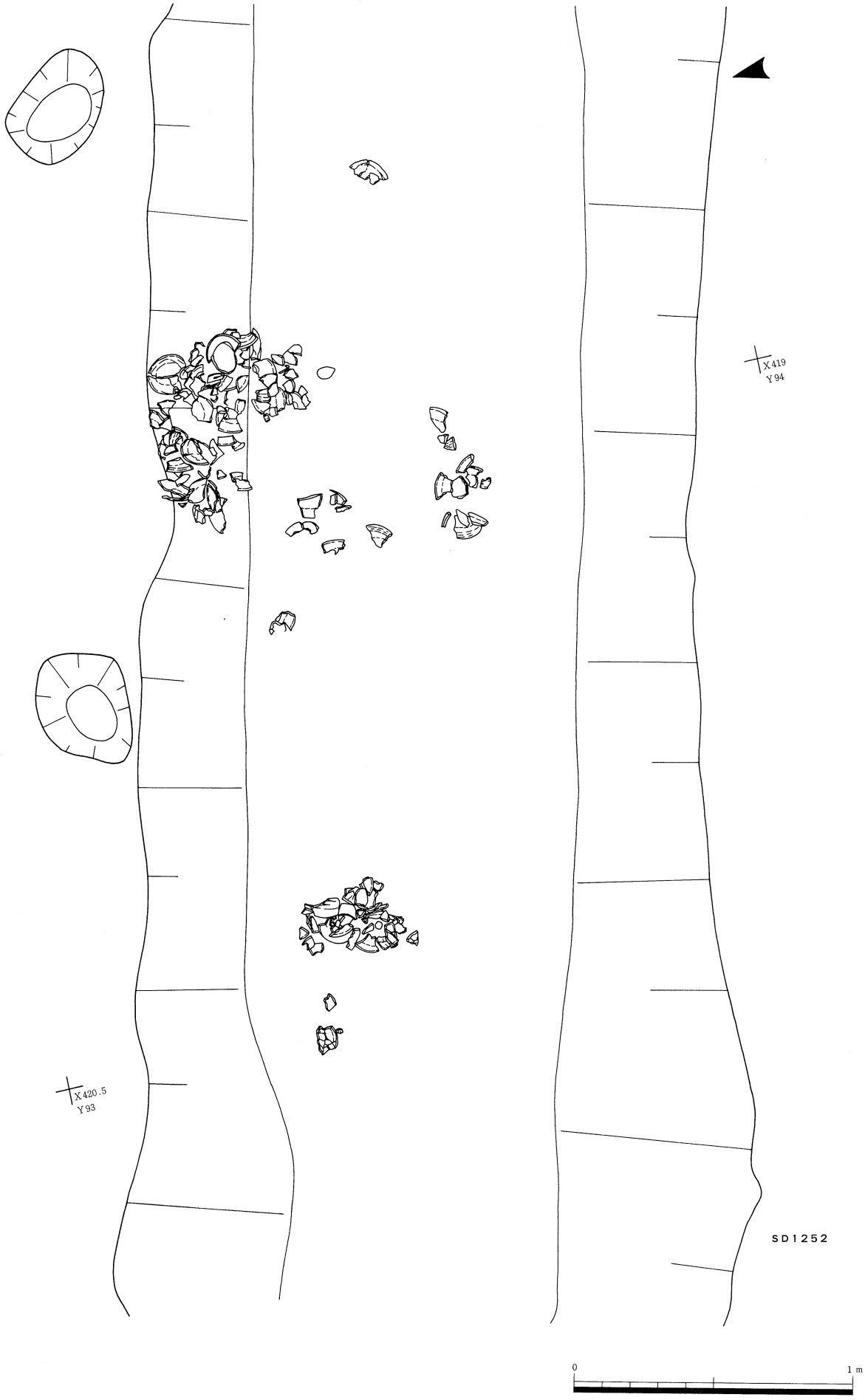


SD1252
1 暗茶褐色粘質土(黒灰褐色粘質土混)
2 黒灰褐色粘質土(炭混)
3 黒灰褐色粘質土
4 暗茶褐色粘質土(粘性強)
5 暗茶褐色粘質土(暗黄褐色礫層)
6 暗茶褐色粘質土(礫混)
7 黒灰褐色粘質土(礫混)
8 暗茶褐色礫層
9 暗茶褐色粘質土

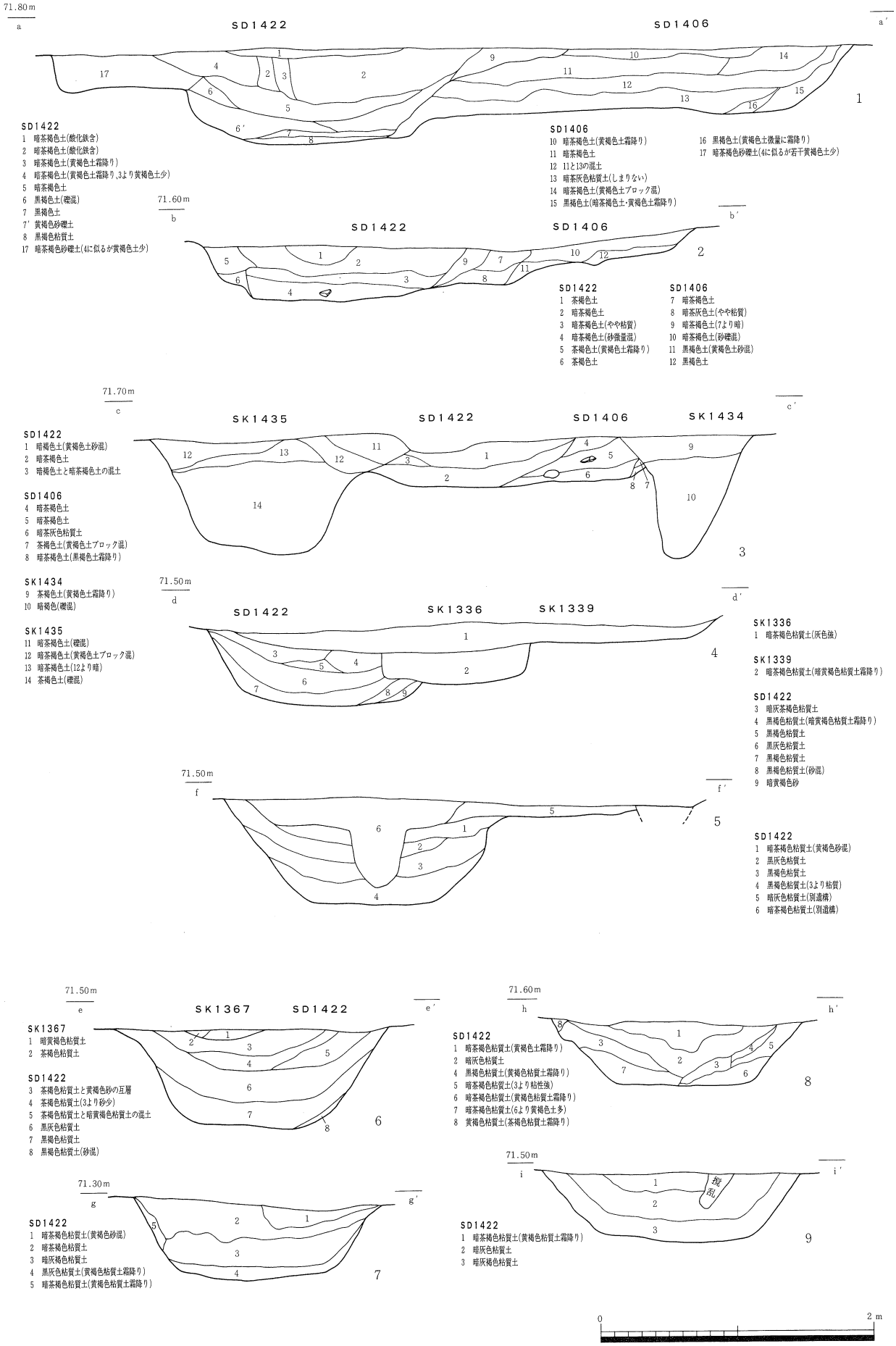


SD1252
1 暗茶褐色粘質土
2 暗茶褐色粘質土(黒褐色粘質土霜降り)
3 暗灰褐色粘質土(粘性強)
4 暗茶褐色粘質土(黄褐色土粒霜降り)
5 黒褐色粘質土
6 茶褐色砂土
7 黒褐色粘質土(灰色強)
8 黒褐色粘質土
9 黒褐色粘質土
10 黒褐色粘質土(黄褐色土粒霜降り)
11 暗茶褐色粘質土(4より明)
12 暗灰褐色粘質土(黄褐色土粒混)
13 暗灰褐色粘質土
14 暗灰褐色粘質土(13より茶色強)
15 暗灰褐色粘質土(黄褐色土粒多量に混)
16 暗灰褐色粘質土

第74図　遺構実測図(中世前期)
1~3.SD1250・SD1252　4~7.SD1252

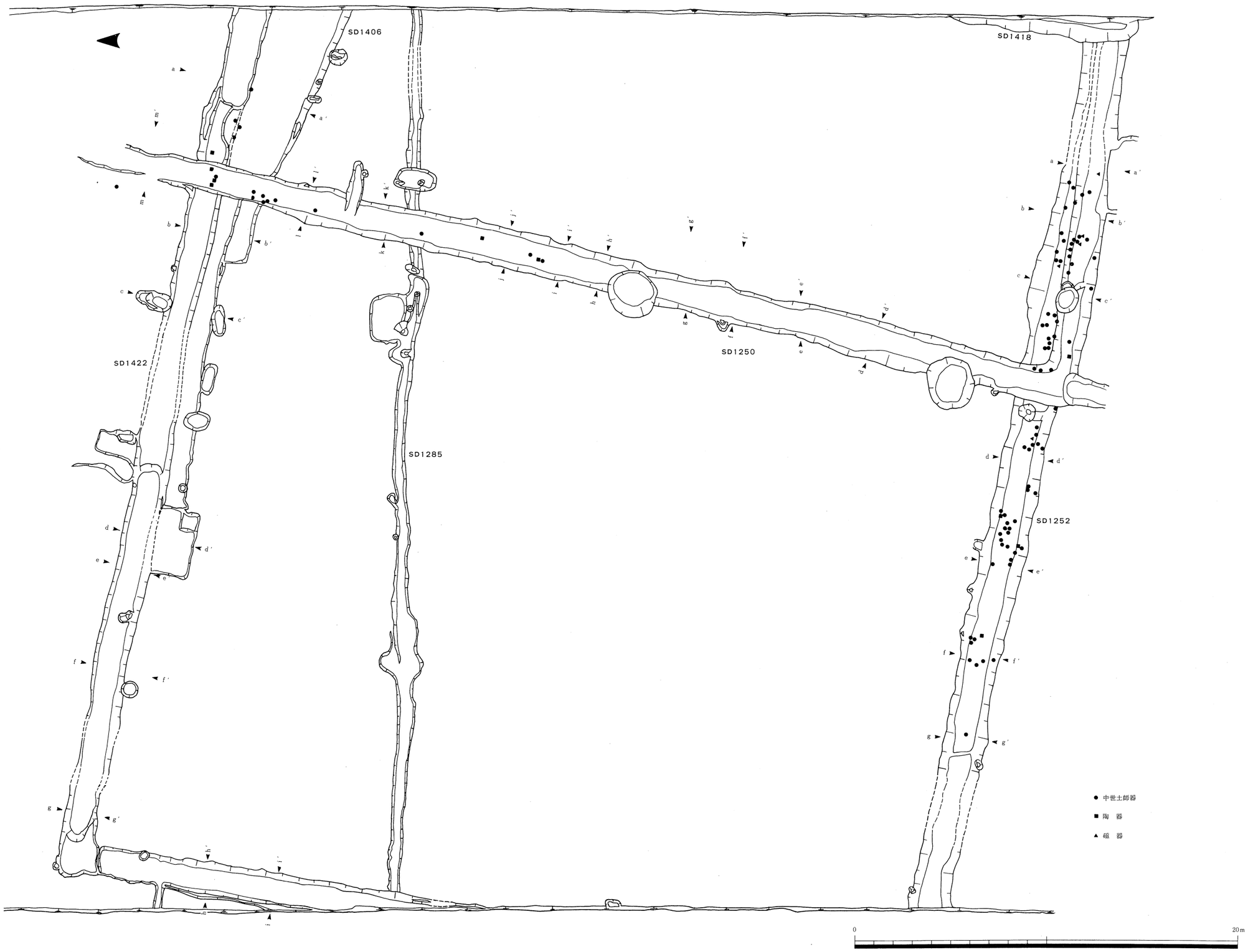


第75図　遺構実測図（中世前期）
ＳＤ１２５２遺物出土状況

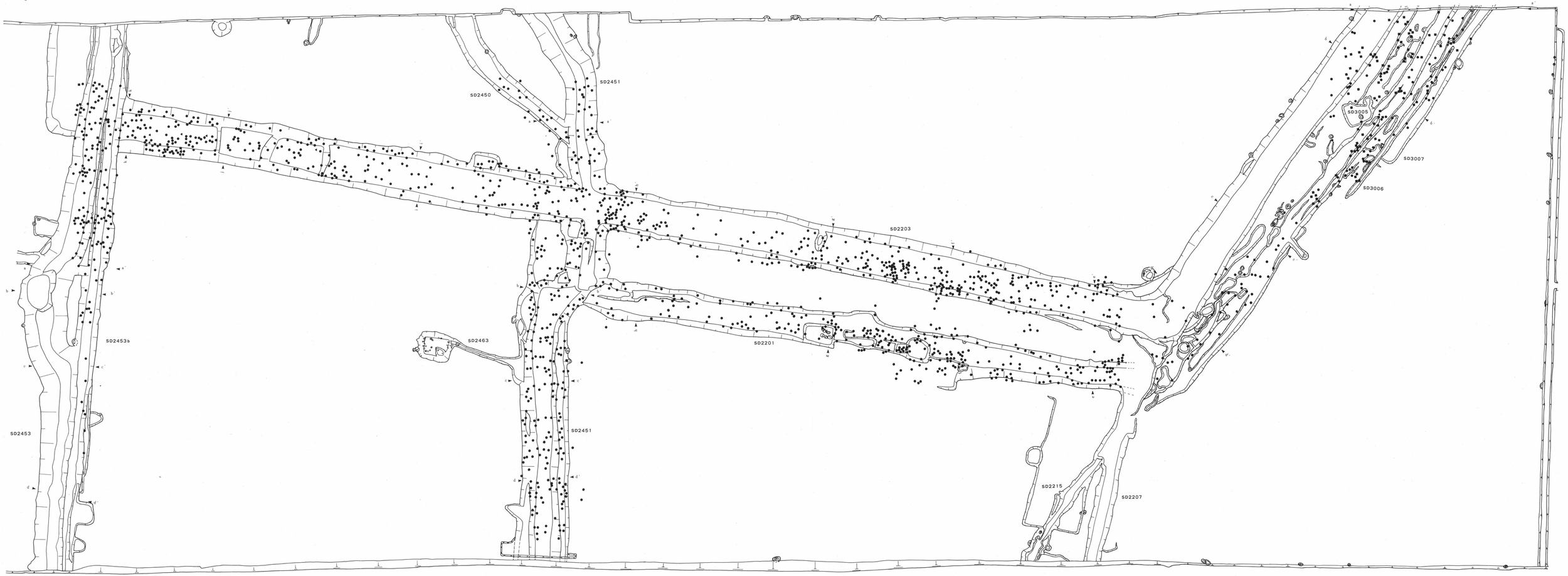


第76図　遺構実測図(中世前期)

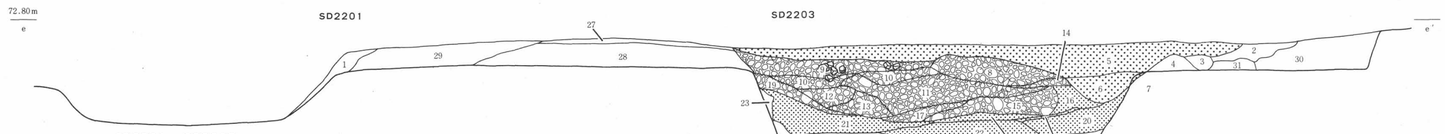
1~3.SD1406・SD1422　4~9.SD1422



第77図　遺構実測図(中世前期)
SD1250・SD1252・SD1406・SD1442遺物出土状況



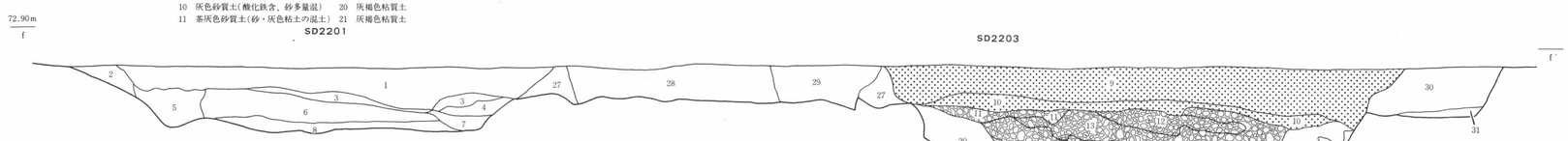
第78図　遺構実測図（中世前期）
SD2203・SD2450・SD2451・SD2453・SD3005・SD3006・SD3007遺物出土状況



SD2201
1 暗黄褐色土

SD2203
2 明茶褐色土
3 褐色土
4 暗黄褐色土(６よりしまり良)
5 茶褐色土
6 暗茶褐色土
7 暗黄褐色土
8 暗茶色砂礫土
9 暗茶色砂礫土
10 灰色砂質土(酸化鉄含、砂多量混)
11 茶灰色砂質土(砂・灰色粘土の混土)
12 白黄色砂土
13 茶色砂土(２より目の粗い砂)
14 茶色砂質土
15 茶灰色砂質土
16 灰色粘質土
17 茶色砂層
18 茶色砂質土
19 茶灰褐色土
20 灰褐色粘質土
21 灰褐色粘質土
22 茶灰色砂質土(砂と灰色粘土の混土)
23 灰褐色粘質土(酸化鉄多量含)
24 灰色粘質土
25 灰色粘質土(酸化鉄多量含)
26 茶色砂質土
27 茶褐色砂利土
28 青色砂利土(黄色土混)
29 褐色土(砂利混)
30 茶褐色土
31 明茶褐色土(しまり良)

1

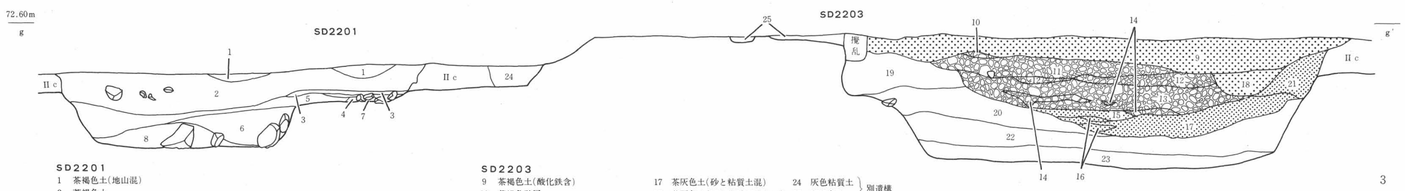


SD2201
1 茶褐色土
2 明茶褐色土(しまり良)
3 明茶褐色土(砂混)
4 褐色土
5 明茶褐色土(地山縞状に混)
6 褐色土
7 明茶褐色土(小礫多量混、砂混)
8 褐色粘質土

SD2203
9 茶褐色土
10 灰茶褐色土(やや砂質)
11 砂利層
12 黄褐色砂層(酸化鉄多量含)
13 茶灰色砂層
14 茶褐色砂層
15 灰色粘質土
16 黄褐色砂層
17 灰色粘質土
18 茶灰色粘質土(砂混)
19 茶灰色粘質土
20 灰色粘質土(酸化鉄含)
21 黒褐色土(粘質)
22 灰色粘質土(少々砂混)
23 黒褐色土(地山混)
24 黒褐色土(地山多量混)
25 黒褐色土(地山混)
26 灰褐色粘質土
27 茶灰褐色粘質土(酸化鉄縞状に含)
28 灰褐色粘質土
29 灰色粘質土
30 茶褐色土
31 茶褐色土(小礫多量混)

別遺構

2

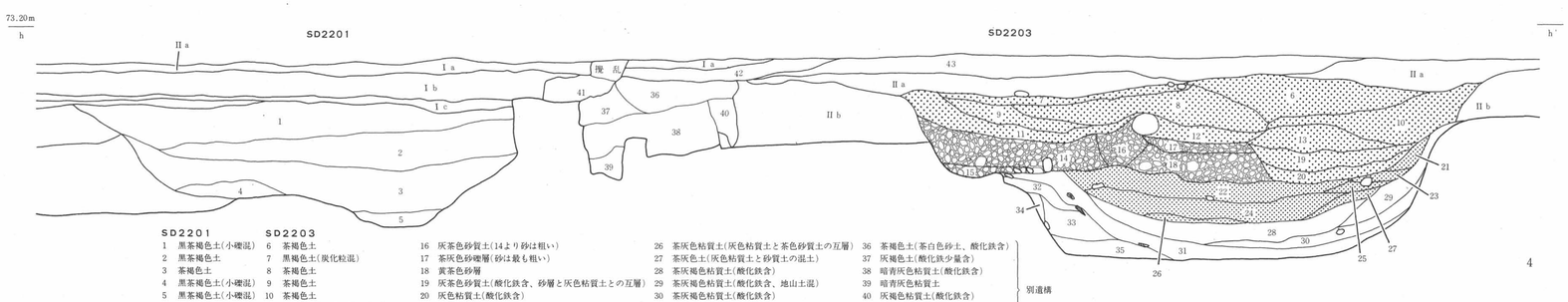


SD2201
1 茶褐色土(地山混)
2 茶褐色土
3 茶色砂層(茶褐色土混)
4 黄褐色粘質土(ブロック状に混)
5 灰褐色粘質土
6 茶色砂層(茶褐色土混)
7 茶褐色土(小礫砂土混)
8 灰褐色土(粘性あり)

SD2203
9 茶褐色土(酸化鉄含)
10 黄褐色砂層
11 茶灰色砂層(砂層と灰色粘質土の混土)
12 茶褐色砂層
13 茶灰色土(砂層と灰色粘質土の混土)
14 黄褐色砂層(しまりのよい砂礫土)
15 黒褐色土(黄褐色砂混)
16 黄褐色砂層
17 茶灰色土(砂と粘質土混)
18 茶灰色土(13より砂が少ない)
19 灰褐色土(酸化鉄含)
20 暗灰褐色土
21 灰褐色土(砂混)
22 灰褐色土(砂少量混)
23 灰褐色粘質土
24 灰色粘質土
25 茶褐色土

別遺構

3

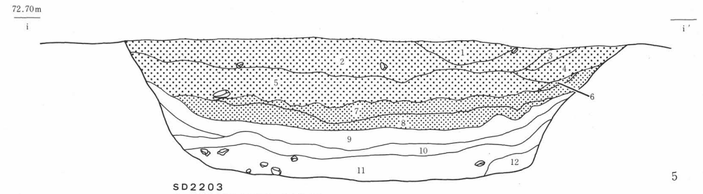


SD2201
1 黒茶褐色土(小礫混)
2 黒茶褐色土
3 茶褐色土
4 黒茶褐色土(小礫混)
5 黒茶褐色土(小礫混)

SD2203
6 茶褐色土
7 黒褐色土(炭化粒混)
8 茶褐色土
9 茶褐色土
10 茶褐色土
11 黒褐色土(炭粒・焼土粒混)
12 茶褐色土(砂質土混、酸化鉄含)
13 茶褐色土(砂質土混、酸化鉄含)
14 茶灰色砂質土(酸化鉄含)
15 茶灰色砂利土(小礫混)
16 灰茶色砂質土(14より砂は粗い)
17 茶灰色砂礫層(砂は最も粗い)
18 黄茶色砂層
19 灰茶色砂質土(酸化鉄含、砂層と灰色粘質土との互層)
20 灰色粘質土(酸化鉄含)
21 褐色土(酸化鉄含)
22 灰色粘質土(茶色砂土ブロック混、酸化鉄含)
23 灰褐色土(地山土混)
24 灰黄茶色砂質土(砂と灰色粘土の互層)
25 灰褐色土(酸化鉄含)
26 茶灰色粘質土(灰色粘質土と茶色砂質土の互層)
27 茶灰色土(灰色粘質土と砂質土の混土)
28 茶灰褐色粘質土(酸化鉄含)
29 茶灰褐色粘質土(酸化鉄含、地山土混)
30 茶灰褐色粘質土(酸化鉄含)
31 黒灰褐色粘質土(酸化鉄含、地山土混)
32 黒灰褐色粘質土(酸化鉄含、炭化物混)
33 茶灰褐色粘質土(酸化鉄含、炭化物混)
34 茶灰褐色粘質土(酸化鉄含、地山土混)
35 茶灰褐色粘質土(酸化鉄含)
36 茶褐色土(茶白色砂土、酸化鉄含)
37 灰褐色土(酸化鉄少量含)
38 暗青灰色粘質土(酸化鉄含)
39 暗青灰色粘質土
40 灰褐色粘質土(酸化鉄含)
41 茶褐色砂礫土
42 茶褐色砂礫土
43 暗黄褐色土(地山土に茶褐色土混)

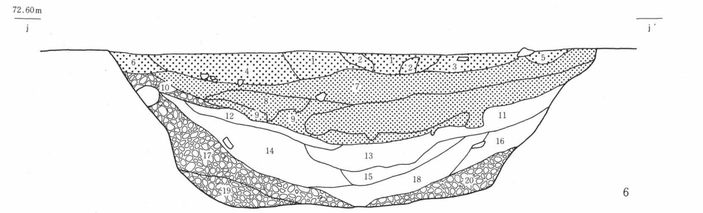
別遺構

4



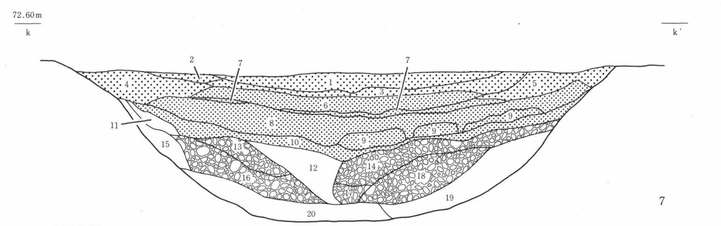
SD2203
1 黒褐色土(地山少量混、酸化鉄含)
2 茶褐色土(礫少量混)
3 淡黄褐色砂質土
4 暗灰褐色粘質土
5 灰褐色粘質土(酸化鉄少量含)
6 明灰褐色砂質土
7 灰褐色粘質土(砂混)
8 赤褐色砂質土(砂と粘土の互層)
9 灰褐色粘質土
10 暗茶褐色粘質土
11 暗灰褐色粘質土
12 灰褐色粘質土(酸化鉄多量含)

5



SD2203
1 灰茶褐色砂質土(酸化鉄含)
2 黄褐色砂土
3 茶黒褐色土
4 茶黒褐色土(礫多量混)
5 暗黄褐色土
6 黒茶褐色土(酸化鉄含)
7 茶灰色粘質土(酸化鉄含)
8 黄褐色土と灰色粘質土の互層(酸化鉄含)
9 黄灰色砂質土
10 黒灰色粘質土(酸化鉄含)
11 黒灰色粘質土(酸化鉄含)
12 茶灰色土(酸化鉄少量含)
13 灰褐色粘質土(酸化鉄少量含)
14 砂利層(酸化鉄含)
15 黒灰色土(やや粘質)
16 灰茶褐色土(酸化鉄多量含)
17 黒灰色土(小礫混、酸化鉄含)
18 茶褐色土(やや砂質)
19 黒茶褐色土(小礫多量混、酸化鉄含)
20 黒茶褐色土(小礫多量混、酸化鉄含)

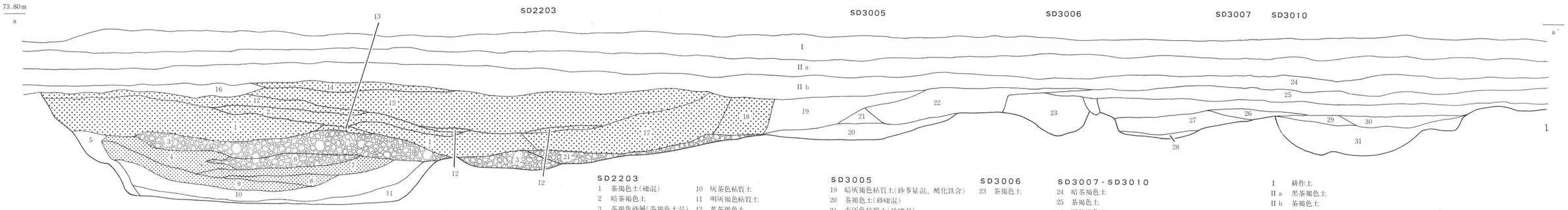
6



SD2203
1 灰褐色土(地山土・礫混、酸化鉄含)
2 黄茶色砂利土(礫混、酸化鉄含)
3 茶褐色土(やや粘質、酸化鉄含)
4 茶褐色土(酸化鉄含)
5 茶褐色土(酸化鉄含)
6 茶褐色砂質土
7 灰色土(やや粘質)
8 灰黄褐色砂質土
9 黄灰色砂質土
10 灰褐色土(酸化鉄含)
11 黄灰褐色土(地山土混、酸化鉄含)
12 灰褐色土
13 茶褐色砂利層
14 茶褐色砂利層
15 茶褐色土(酸化鉄少量含)
16 茶褐色土(小礫多量混、酸化鉄少量含)
17 茶褐色土(酸化鉄少量含)
18 茶褐色砂利層(礫多量混、酸化鉄含、ブロック状に入る)
19 茶褐色土(礫混、やや粘質、酸化鉄多量含)
20 褐色土(礫混、やや粘質)

0 2m

第79図　遺構実測図(中世前期)
1~4.SD2201・SD2203　5~7.SD2203



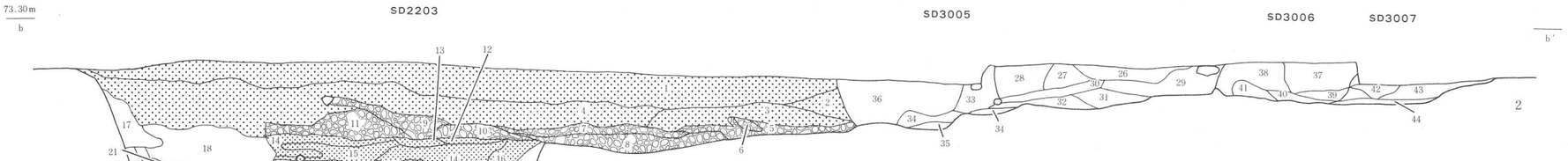
SD2203
1 茶褐色土(礫混)
2 暗茶褐色土
3 茶褐色砂層(茶褐色土混)
4 暗褐色粘質土(やや粘質)
5 茶褐色土(地山混)
6 黄褐色砂層(小砂礫混)
7 茶褐色土(砂混)
8 黄褐色砂層
9 暗褐色粘質土(砂混)
10 灰茶色粘質土
11 明灰褐色粘質土
12 黄茶褐色土
13 暗茶褐色土
14 暗灰茶褐色土
15 茶褐色土(細砂礫混)
16 明茶褐色土
17 暗茶褐色土
18 明灰褐色土(砂多量混、酸化鉄含)

SD3005
19 暗灰褐色粘質土(砂多量混、酸化鉄含)
20 茶褐色土(砂礫混)
21 青灰色粘質土(砂礫混)
22 灰色砂層(砂礫多量混)

SD3006
23 茶褐色土

SD3007・SD3010
24 暗茶褐色土
25 茶褐色土
26 明茶褐色土
27 茶褐色土(地山混)
28 茶褐色土(地山多量混)
29 茶褐色土(地山多量混)
30 暗茶褐色土
31 茶褐色土(地山混)

I 耕作土
II a 黒茶褐色土
II b 茶褐色土

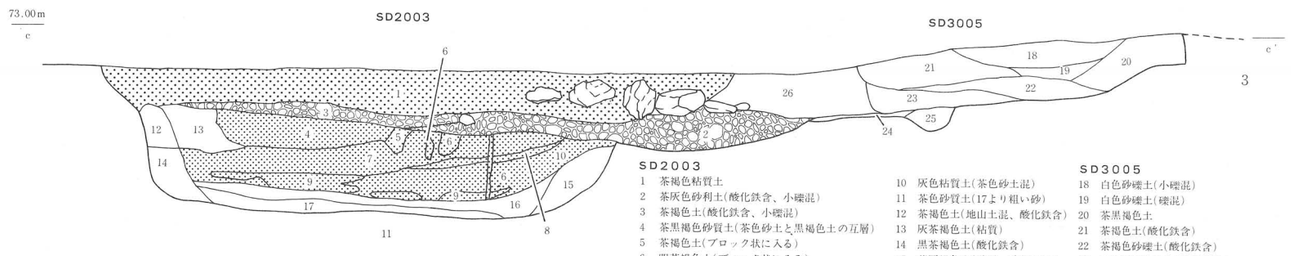


SD2203
1 茶褐色土(炭化物混)
2 茶褐色土(地山土混)
3 茶褐色土(地山土少量混)
4 茶褐色土(砂・地山土少量混、酸化鉄少量含)
5 茶褐色砂質土(地山土混)
6 砂礫土
7 茶褐色土(23より砂多い、酸化鉄含)
8 砂礫土(酸化鉄含)
9 茶褐色砂質土(礫混)
10 茶黄褐色砂礫土(酸化鉄含)
11 茶黄色砂礫土(29より礫小さい)
12 灰褐色粘質土(酸化鉄含)
13 黄褐色粘質土(酸化鉄含)
14 灰色粘質土(灰色粘質土と細かい黄色砂土の互層)
15 黄褐色砂土
16 黄褐色土(砂・地山土混)
17 茶色土(茶褐色土と地山土の混土、炭化物混)
18 灰茶褐色土(砂・地山土混)
19 暗黄褐色土(地山混)
20 黒褐色粘質土(地山土縞状に混)
21 白茶色砂土(ブロック)
22 灰褐色土(砂・地山土混)
23 灰黒茶褐色土(地山土・黄色砂土混、酸化鉄含)
24 黒灰色粘質土(地山土混)
25 黒黄褐色土(黒褐色土・地山土混)

SD3005
26 黄白色砂利土(小礫・砂混)
27 黄白色砂利土(小礫26より少ない)
28 茶褐色土(酸化鉄含)
29 灰褐色粘質土
30 茶色砂礫土(茶褐色土に礫・砂混)
31 茶色砂礫土(茶褐色土に礫・砂混)
32 灰褐色粘質土(酸化鉄含)
33 黒茶褐色粘質土(炭化物混)
34 暗黄色砂質土(細かい砂混)
35 灰色粘質土
36 灰褐色粘質土(酸化鉄含)

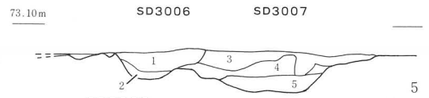
SD3006
37 茶褐色土(地山粒混)
38 茶灰褐色土
39 黒茶褐色土(地山混)
40 黒茶褐色土
41 暗黄褐色土

SD3007
42 黄黒茶褐色土(地山土と黒茶褐色土の混土)
43 黒茶褐色土
44 黄茶褐色土(茶褐色土に地山混)



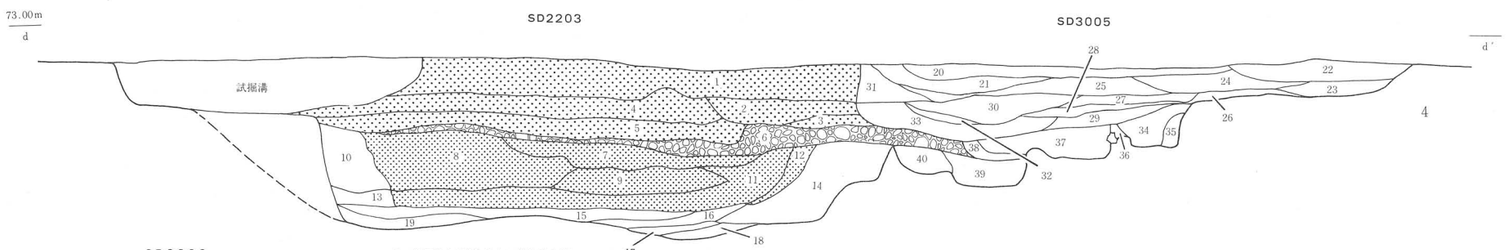
SD2003
1 茶褐色粘質土
2 茶灰色砂利土(酸化鉄含、小礫混)
3 茶褐色土(酸化鉄含、小礫混)
4 茶黒褐色砂質土(茶色砂土と黒褐色土の互層)
5 茶褐色土(ブロック状に入る)
6 明茶褐色土(ブロック状に入る)
7 茶灰色土(灰色粘質土と茶色砂土との互層)
8 茶色砂質土(16の砂より粗い砂)
9 茶色砂質土(17の砂より細かい16より粗い砂)
10 灰色粘質土(茶色砂土混)
11 茶色砂質土(17より粗い砂)
12 茶褐色土(地山土混、酸化鉄含)
13 灰茶褐色土(粘質)
14 黒茶褐色土(酸化鉄含)
15 茶灰褐色土(砂混、酸化鉄含)
16 灰褐色土(砂混、酸化鉄含)
17 灰褐色粘質土(酸化鉄含)

SD3005
18 白色砂礫土(小礫混)
19 白色砂礫土(礫混)
20 茶黒褐色土
21 茶褐色土(酸化鉄含)
22 茶褐色砂礫土(酸化鉄含)
23 黒灰褐色粘質土(酸化鉄含)
24 茶褐色砂質土
25 灰褐色粘質土(酸化鉄含) } 別遺構
26 黒灰褐色粘質土(酸化鉄含) } 別遺構



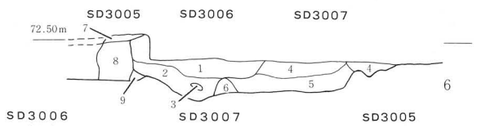
SD3006
1 茶褐色土(炭化物・地山土混)
2 暗黄褐色土(地山土に茶褐色土混)

SD3007
3 茶色土(地山土多量に縞状に混、炭化物混)
4 茶褐色土(地山土混)
5 暗黄褐色土(地山土に茶褐色土混)



SD2203
1 茶褐色土(酸化鉄含)
2 灰褐色土(砂質、酸化鉄含)
3 茶灰色砂土(砂土に黒褐色粘土混、酸化鉄含)
4 灰茶褐色土(酸化鉄含)
5 灰茶褐色砂質土(酸化鉄含)
6 茶褐色砂礫土
7 茶灰色土(灰色粘土に茶色砂土混)
8 茶灰色砂質土(茶色砂土と灰色粘土の互層)
9 茶灰色土(灰色粘土に茶色砂土混)
10 茶灰色土(灰色粘土と茶色砂土の互層、酸化鉄含)
11 黒灰褐色粘質土(炭化粒混)
12 黒灰褐色粘質土(暗緑色砂質土・地山粒混)
13 黒茶灰色粘質土(炭化粒混)
14 黒緑色土(暗緑色粘質土(地山)に黒褐色土混)
15 緑灰色粘質土
16 暗褐色砂質土
17 灰色粘質土
18 暗緑色砂質土
19 黄茶褐色土(黄褐色粘質土ブロック混)

SD3005
20 茶褐色砂礫土(酸化鉄含)
21 茶褐色土(砂土混)
22 黒青灰色粘質土(炭化粒混)
23 黒灰色土(小礫・砂土混)
24 茶褐色土(砂土混)
25 黄茶褐色砂質土(砂土と黒青灰色粘土の互層)
26 黒茶色砂礫土
27 黒灰褐色土(炭化粒・小礫混)
28 茶褐色砂質土(砂土に黒青灰色粘土少量混)
29 黄灰色粘質土(地山に灰色土混)
30 黒灰褐色土(砂土混、酸化鉄含)
31 灰茶褐色土(酸化鉄含)
32 青灰茶褐色土(酸化鉄含)
33 茶青灰褐色土(酸化鉄含)
34 灰色粘質土
35 青灰色粘質土(地山に灰色土混)
36 暗黄緑色粘質土(地山混)
37 黄黒灰色粘質土
38 黒灰色砂礫土
39 黒黄灰色粘質土(37より暗)
40 茶褐色土(砂土混)
} 別遺構



SD3006
1 茶褐色土
2 黒茶褐色土(粘質)
3 暗黄褐色土(地山ブロック)

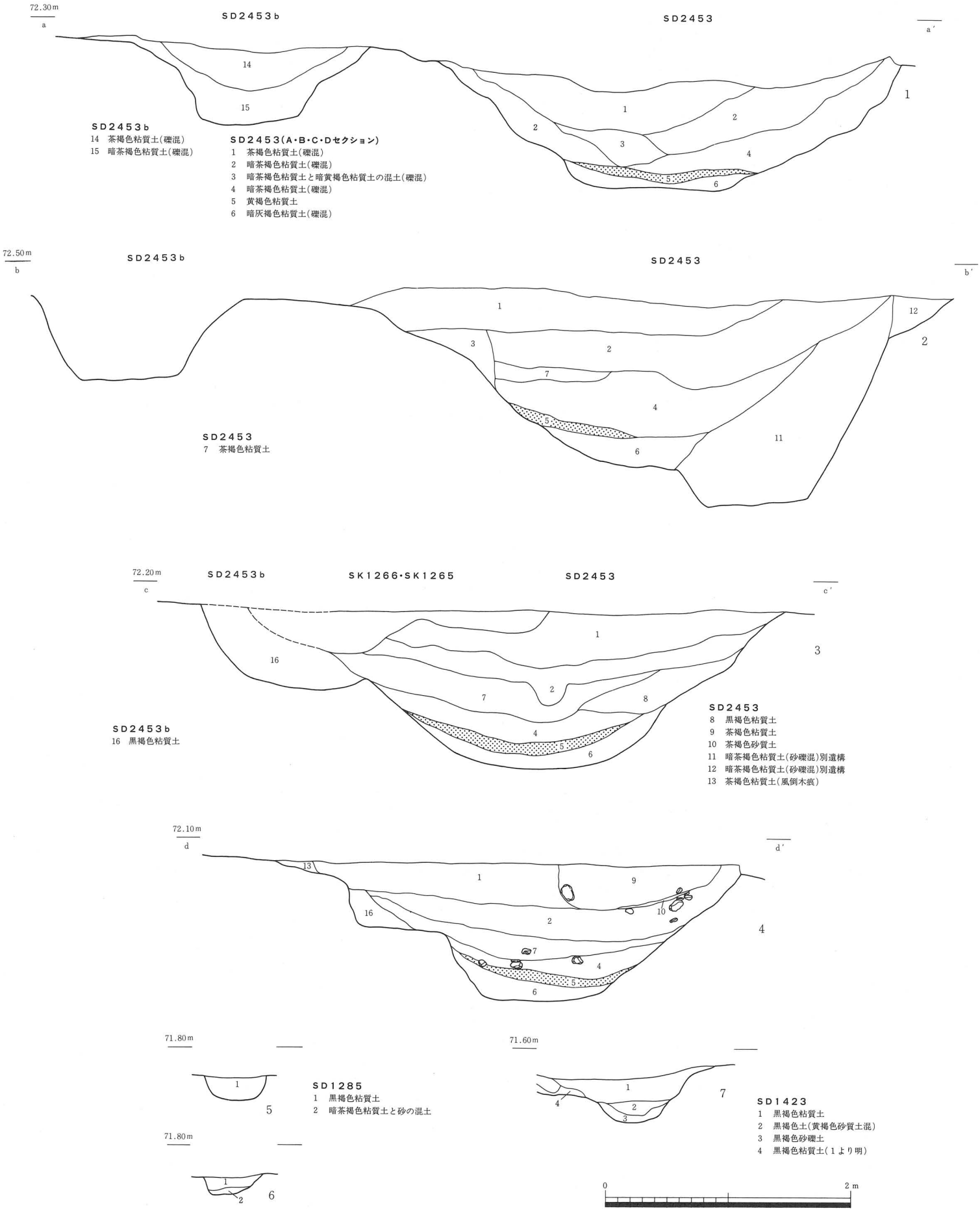
SD3007
4 茶色土(地山土ブロック混)
5 茶褐色土
6 茶褐色土

SD3005
7 灰色砂利土(礫混)
8 茶灰褐色土(酸化鉄含)
9 茶灰褐色土

0 2 m

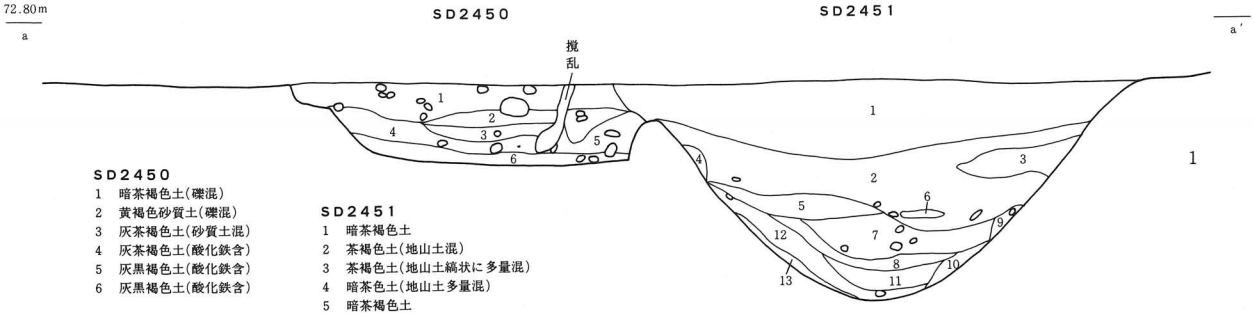
第80図　遺構実測図(中世前期)

1.SD2203・SD3005～SD3007・SD3010 2.SD2203・SD3005～SD3007 3・4.SD2203・SD3005 5.SD3006・SD3007 6.SD3005～SD3007



第81図　遺構実測図(中世前期)

1~4.SD2453・SD2453b　5・6.SD1285　7.SD1423

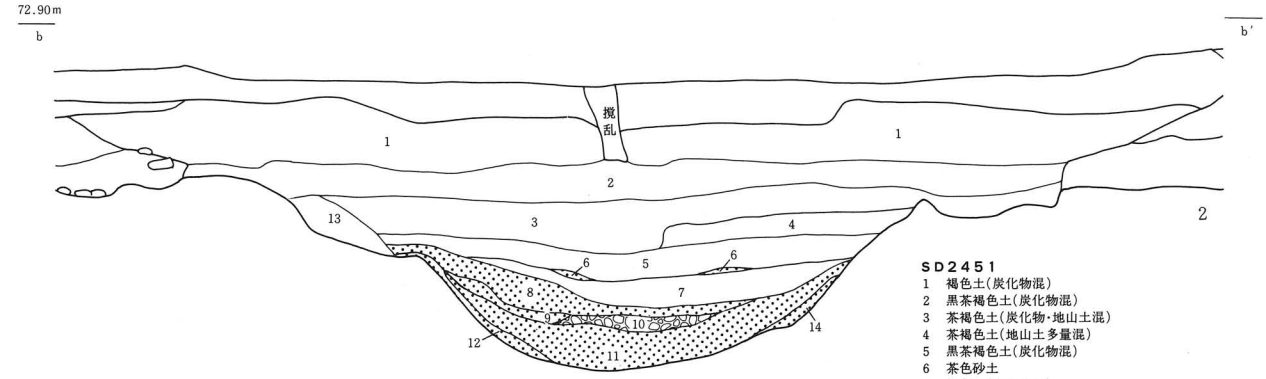


SD2450

1　暗茶褐色土(礫混)
2　黄褐色砂質土(礫混)
3　灰茶褐色土(砂質土混)
4　灰茶褐色土(酸化鉄含)
5　灰黒褐色土(酸化鉄含)
6　灰黒褐色土(酸化鉄含)

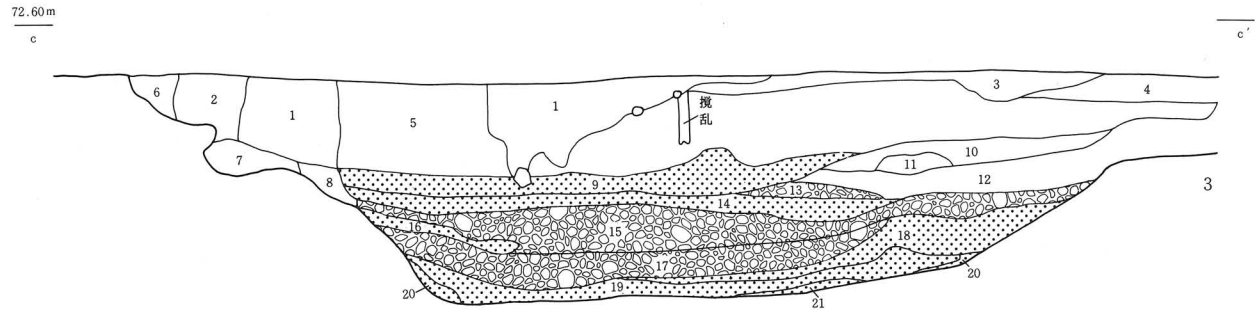
SD2451

1　暗茶褐色土
2　茶褐色土(地山土混)
3　茶褐色土(地山土縞状に多量混)
4　暗茶色土(地山土多量混)
5　暗茶褐色土
6　黒褐色土(帯状)
7　茶褐色土(地山土・小礫混)
8　茶色土(茶褐色土と地山土の混土)
9　茶褐色土(3と似)
10　褐色土(小礫多量混)
11　黒褐色土
12　暗茶褐色土(地山土混)
13　褐色土(地山土混)



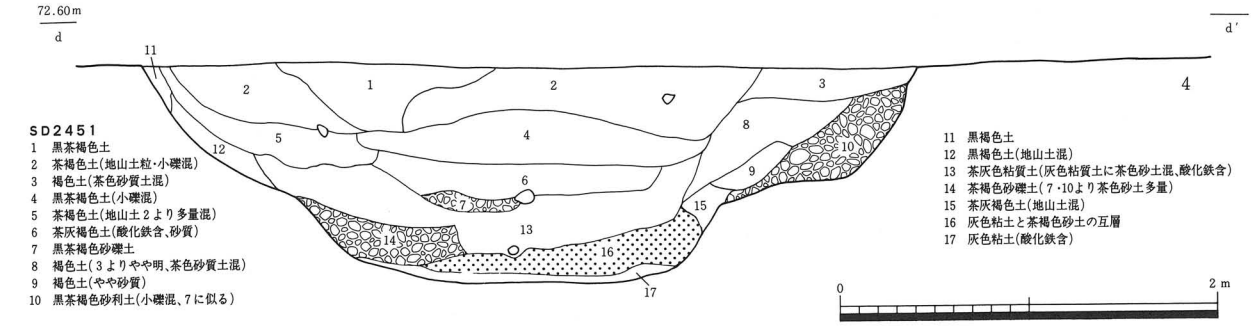
SD2451

1　褐色土(炭化物混)
2　黒茶褐色土(炭化物混)
3　茶褐色土(炭化物・地山土混)
4　茶褐色土(地山土多量混)
5　黒茶褐色土(炭化物混)
6　茶色砂土
7　褐色土(炭化物混)
8　茶色砂土
9　灰茶色砂質土(灰色粘質土と茶色砂土の混土)
10　褐色砂礫土
11　灰茶色砂質土(灰色粘質土と茶色砂土の混土、酸化鉄含)
12　茶色砂質土(灰色粘質土少量混)
13　褐色土
14　茶褐色土(やや粘質)



SD2451

1　灰茶褐色土(酸化鉄含)
2　茶褐色土(地山粒混)
3　茶褐色土(小礫混)
4　褐色土
5　黒茶褐色土
6　黒褐色土
7　灰色粘質土(酸化鉄含)
8　茶灰色土(酸化鉄含、やや砂質)
9　灰茶褐色砂質土(酸化鉄含)
10　茶褐色土(砂土混)
11　黒茶褐色土(黒褐色土と茶褐色土の混土)
12　灰茶褐色土(やや砂質)
13　黒茶褐色砂利土(小礫混)
14　茶灰色砂質土
15　黒茶褐色砂利層(小礫混)
16　茶褐色砂土(粗い砂)
17　黒茶褐色砂利層(茶色砂土と小礫混)
18　灰茶褐色砂土(茶色砂土と灰色粘土の互層)
19　灰色粘土
20　茶褐色砂土(16より粗い砂)
21　茶灰色粘土(灰色粘土と茶色砂土の互層)



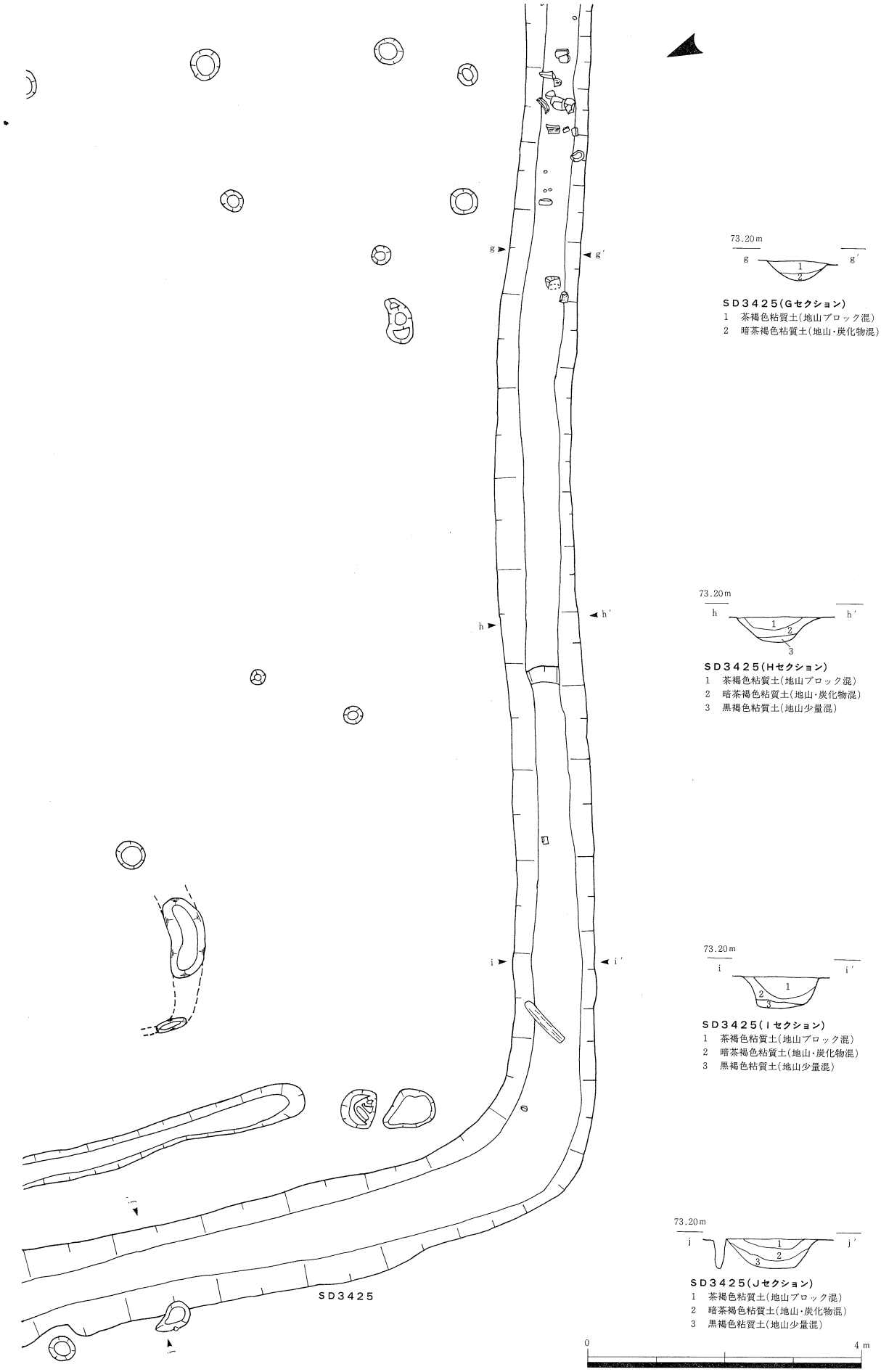
SD2451

1　黒茶褐色土
2　茶褐色土(地山土粒・小礫混)
3　褐色土(茶色砂質土混)
4　黒茶褐色土(小礫混)
5　茶褐色土(地山土2より多量混)
6　茶灰褐色土(酸化鉄含、砂質)
7　黒茶褐色砂礫土
8　褐色土(3よりやや明、茶色砂質土混)
9　褐色土(やや砂質)
10　黒茶褐色砂利土(小礫混、7に似る)
11　黒褐色土
12　黒褐色土(地山土混)
13　茶灰色粘質土(灰色粘質土に茶色砂土混、酸化鉄含)
14　茶褐色砂礫土(7・10より茶色砂土多量)
15　茶灰褐色土(地山土混)
16　灰色粘土と茶褐色砂土の互層
17　灰色粘土(酸化鉄含)

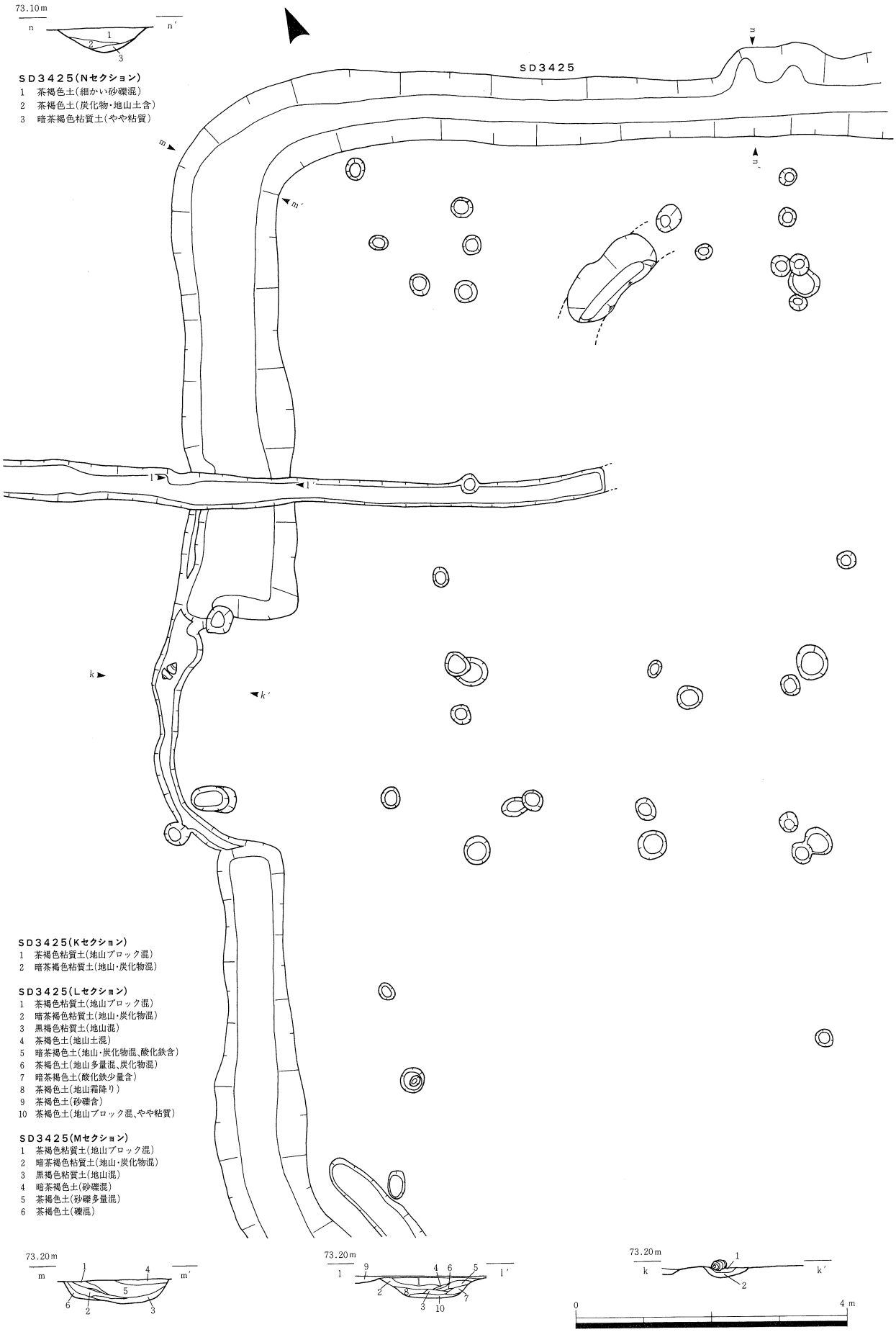
第82図　遺構実測図(中世前期)
1.SD2450・SD2451　2~4.SD2451

第83図　遺構実測図(中世前期)
SD3425

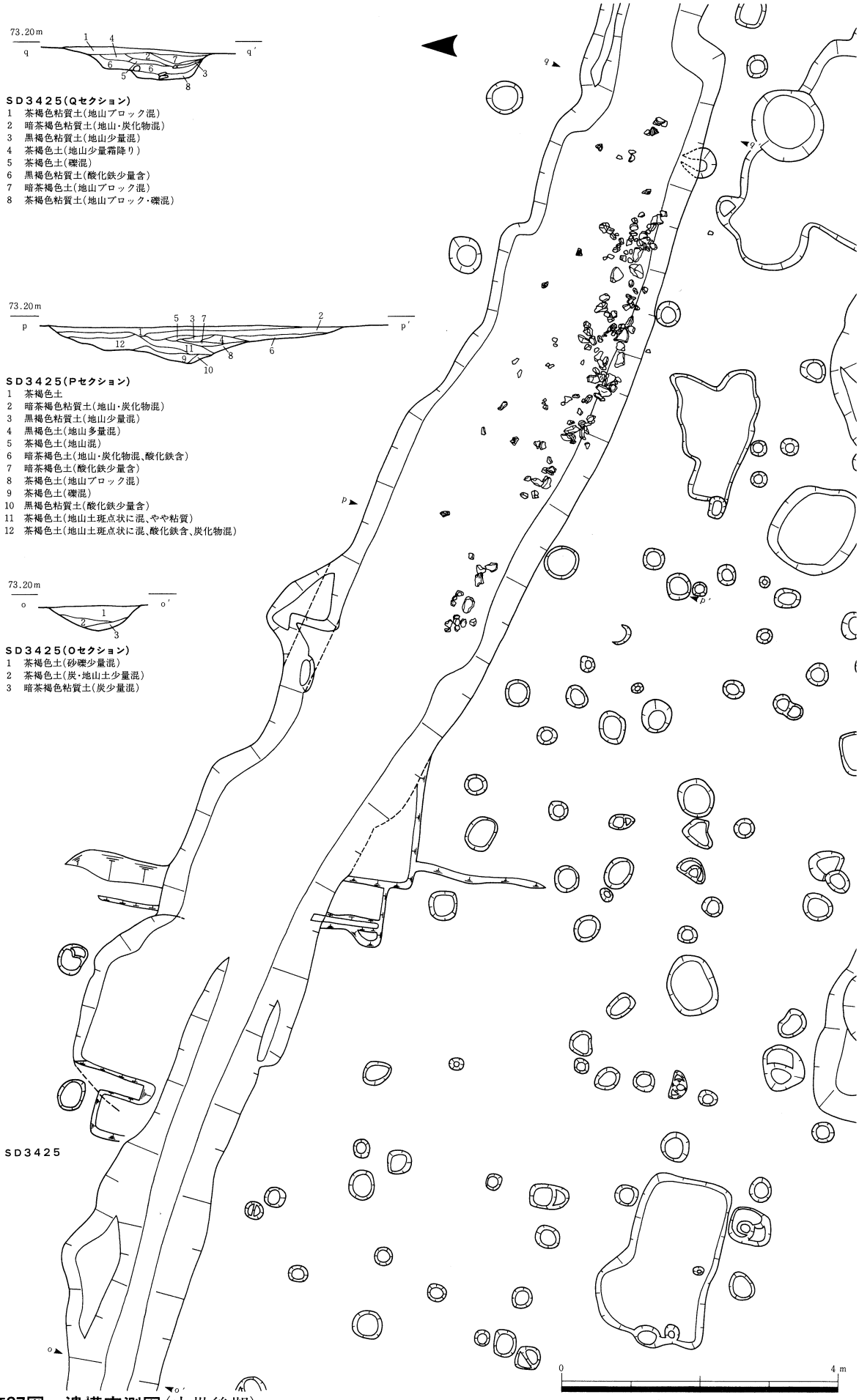
第84図　遺構実測図(中世後期)
SD3425



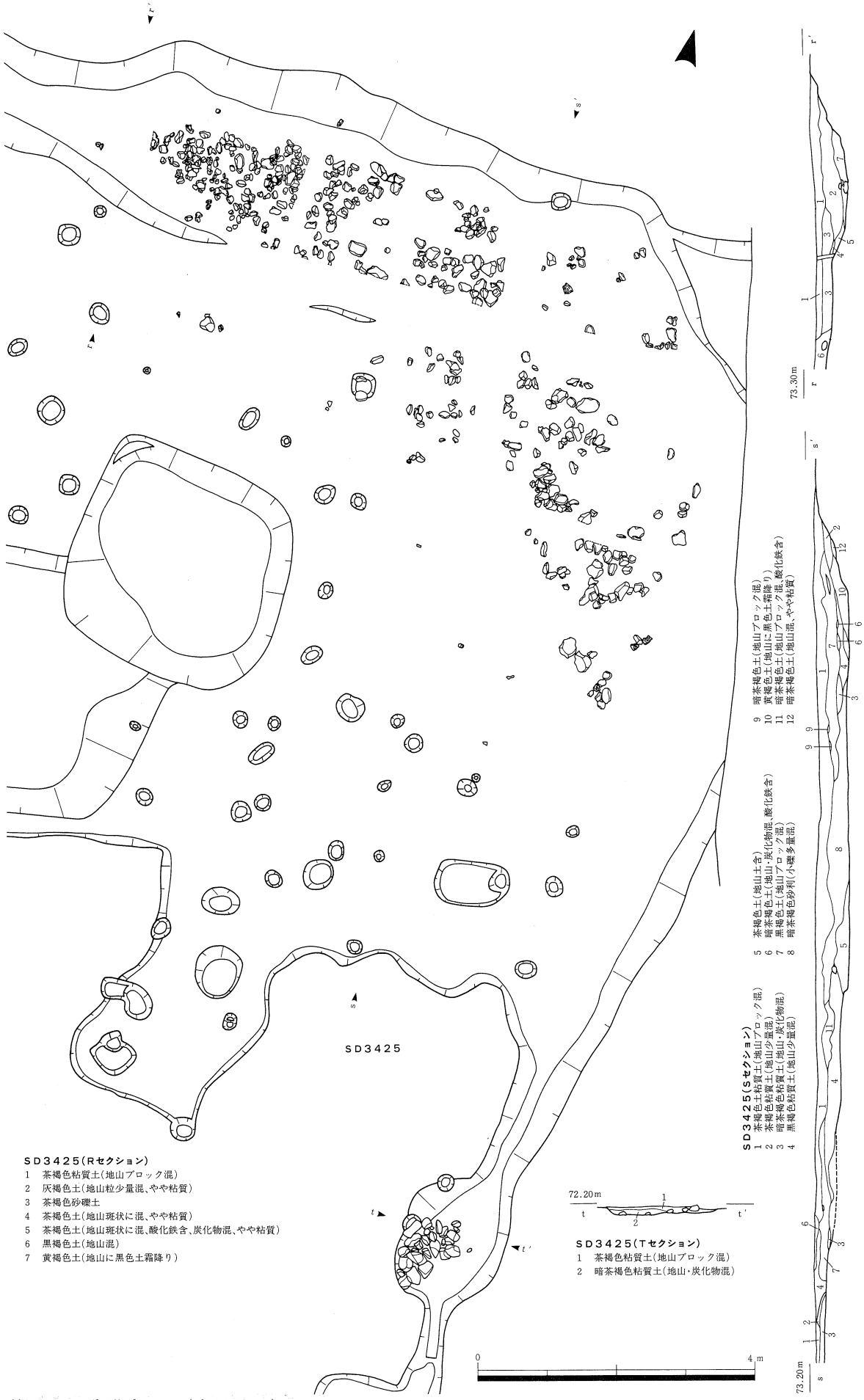
第85図　遺構実測図(中世後期)
SD3425



第86図　遺構実測図(中世後期)
SD3425



第87図　遺構実測図(中世後期)
SD3425



第88図　遺構実測図(中世後期)
SD3425

3　井　　戸

中世前期の井戸は31検出されている。時期は出土遺物から決定しているため，時期の下る遺構も含まれている可能性がある。古くは12世紀後半の遺物を含むものもあるが，ほとんどが13・14世紀のものである。分布は，Ａ地区の南側とＢ地区の北側で比較的多く検出している。型式で分けるとほとんどが素掘井戸である。本来は井戸側の施設をもっていたものもあろうが，残っているものは少ない。残っていたものの中には木組井戸があり，大きく分けて板材を組むものと曲物を積上げるものがある。遺物の出土量は概して少ない。

Ａ地区

1253号井戸（ＳＥ1253，第90図）

ＳＤ1250・ＳＤ1252が重複するＸ417Ｙ105で検出した素掘井戸である。断面観察からＳＤ1250より新しい。掘形は，若干裾すぼまりの円筒形である。平面形は楕円形，規模は長軸145cm，短軸118cm，深さ247cmである。付属施設は検出されなかった。覆土は小礫が混じる暗茶褐色粘質土で，第１層と第２層の境には焼土のブロック層がある。遺物には14世紀の中世土師器がある。

1254号井戸（ＳＥ1254，図面７）

ＳＤ1252内で検出した素掘井戸である。上面での確認が遅れたが，出土遺物よりＳＤ1252より新しいと考える。平面形はＳＤ1252床面で楕円形を呈し，長軸89cm，短軸84cm，深さはＳＤ1252の床面から64cmである。遺物には中世土師器・八尾・珠洲・青磁があり，時期は14世紀である。

1255号井戸（ＳＥ1255，図面７）

Ｘ420Ｙ102で検出した素掘井戸で，ＳＤ1250の西側の肩を切る。ＳＤ1250とは覆土に明確な差が見られないため，ＳＤ1250との時期差はあまりないものと考える。ＳＤ1250の水溜の役割をしていた可能性もある。掘形は円筒形，平面形は楕円形，規模は長軸269cm，短軸243cm，深さ291cmである。覆土は暗茶褐色粘質土が主体で，第１層と第２層と第３層の境には，微量の炭化物が混じる黒褐色土ブロックの薄い層があり，下層になると礫が混じるようになる。遺物は中世土師器・八尾・珠洲・越前があり，時期は14世紀である。

1284号井戸（ＳＥ1284，図面６）

Ｘ429Ｙ105で検出した素掘井戸で，ＳＤ1250の西側の肩，及びＳＫ1283の南東の肩を切る。掘形は先がすぼまる円筒形で，ＳＥ1255と形態が似ており，同様にＳＤ1250の水溜の役割をしていた可能性がある。平面形は直径241cmの円形，深さは315cmである。深さ160cm以上からは，湧水が見られた。地山が砂礫の混じる粘質土のためか，井壁の崩落が著しい。遺物には中世土師器・八尾・珠洲があり，時期は13・14世紀である。

1291号井戸（ＳＥ1291，第90図）

ＳＫ1294内より検出した素掘井戸。平面形は直径111cmの円形，深さは122cmと比較的浅い。覆土は黄褐色土が混じる暗茶褐色粘質土で，焼土・中世土師器片が多く混じる。下層の地山は砂層となり，底には大きな石が埋め込まれていた。湧水は見られない。時期は13世紀である。

1314号井戸（ＳＥ1314，第90図）

Ｘ434Ｙ100に位置する楕円形の素掘井戸で，長軸250cm，短軸210cm，深さ161cmを測る。覆土は礫の混じった暗茶褐色粘質土で，中世土師器の砕片が多数混じっており，特に南西区に集中している。遺物には中世土師器・八尾・珠洲・白磁・青磁があり，時期は14・15世紀である。

2468号井戸（ＳＥ2468，第91図，図版60）

X406Y90で検出した方形の木組井戸である。平面形は265cm×233cmの長方形で，掘形は擂鉢形で，下層から井戸側の痕跡を確認した。深さは188cmである。厚さ約2cm，高さ約90cmの縦板で，一辺125cmの方形の井戸側をつくっている。北・東・南面には痕跡が残るが，西面には見られなかった。井戸側の外側には，板材の上端まで暗黄褐色砂礫土が充填され，この土によって板材を保持したものであろう。この上層は黒褐色土・褐色土が自然堆積する。底面は地山礫層に達するが，現在は湧水は見られない。底近くから中世前半の珠洲甕片を検出したことから，当期にあてた。遺物は他に13世紀の中世土師器がある。

2497号井戸（ＳＥ2497，第91図，図版61）

ＳＥ2468から4ｍ北にある，ほぼ同軸方向の方形の井戸である。平面形は275cm×263cmの正方形に近い長方形で，掘形は擂鉢形である。深さは175cmである。平面形，断面形共にＳＥ2468に似るが，井戸側等の痕跡はなかった。しかし，同じような褐色砂礫土が覆土の中に見られることから，同様な施設をもっていた可能性は高い。遺物には13・14世紀の中世土師器・青磁がある。なお，この井戸にはＳＢ78が伴い，上屋構造があったと考える。

2658号井戸（ＳＥ2658，第92図）

近世の溝ＳＤ2485の下層から検出した素掘井戸である。東接するＳＫ2483より新しい。平面形は約130cmの正方形をなし，掘形は円筒形である。覆土は上層が灰褐色粘質土・茶褐色土で，炭化物粒・焼土粒が混じり，下層は茶褐色砂礫土となっている。単純な堆積が多い井戸にあって，やや複雑な層位となっている。深さは226cmで，検出面より195cm下のレベルで湧水がみられた。遺物には中世土師器・珠洲があり，時期は13世紀末～14世紀である。

3052号井戸（ＳＥ3052，第92図）

X367Y105，Ａ2地区とＡ3地区の境で検出した素掘井戸である。平面形は長軸105cm，短軸95cmの楕円形で，掘形は円筒形，深さ214cmである。覆土は上面が黒褐色土，下層が茶黒褐色土である。湧水は見られない。遺物には中世土師器がある。

3431号井戸（ＳＥ3431，第94図，図版64）

歪んだ長方形に巡る，ＳＤ3425に囲まれた区画の南東隅付近で検出した素掘井戸である。東にあるＳＫ3450よりは新しい。平面形は一辺93cmの方形，断面は円筒形，深さ108cmである。覆土は上層が茶褐色土，下層が暗茶褐色粘質土である。遺物は主に中・下層から出土している。地山の粘質土が厚いためか井壁がもたず，遺構の肩の周囲がほとんど崩落してしまった。遺物には中世土師器・珠洲，箸・底板などの木製品，最下層から出土した13世紀後半の八尾がある。

3591号・3592号井戸（ＳＥ3591・ＳＥ3592，第96図，図版64）

X334・335Y99で検出した2基の素掘井戸である。2基とも上面の茶褐色土の浅い土坑の下層から検出した。2基の切り合いはない。ＳＥ3591の覆土は砂礫の混じる茶褐色土，深さは137cmである。ＳＥ3592の覆土は上層が黒褐色土，下層は茶褐色土，深さは162cmである。遺物はＳＥ3591が13・14世紀の中世土師器・珠洲・青磁，ＳＥ3592が13世紀の中世土師器・八尾・青磁がある。

3852号井戸（ＳＥ3852，第96図）

ＳＫ3771の北辺中央上面で検出した，直径90cmの円形の素掘井戸である。掘形は円筒形で，覆土は上層が茶褐色土・黒褐色土の堆積，下層が砂礫の混じる茶色土となる。深さは190cmである。底は砂礫層に達するが，湧水は見られない。遺物には14世紀の中世土師器がある。

3880号井戸（ＳＥ3880，第96図，図版62）

X350Y85で検出した，長軸170cm，短軸107cmの長楕円形の素掘井戸である。掘形は擂鉢形で，覆土は茶褐色土・暗茶褐色粘質土，深さは209cmである。遺物には14世紀の中世土師器がある。

3970号・3971号井戸（ＳＥ3970・ＳＥ3971，第92図，図版62）

X349Y105で検出した，重複している２基の井戸である。断面観察ではＳＥ3970のほうが新しいが，遺物からはあまり大きな時期差はないものと考える。ＳＥ3970は長軸200cmの楕円形を呈し，掘形は歪んだ擂鉢形，深さは250cmである。覆土は炭化物を含んだ茶褐色土で，下層は礫が混じる。ＳＥ3971は部分検出のため平面形は不明だが，掘形は円筒形，深さは167cmである。覆土は炭化物が混じる暗茶褐色土である。遺物は上面から中・下層にかけて多く出土している。共に13・14世紀の中世土師器・珠洲・青磁，ＳＥ3970から加工木が出土している。

Ｂ地区

3412号井戸（ＳＥ3412，第95図）

X314Y92に位置する，直径136cmの円形の素掘井戸である。西側３分の１が暗渠に削られており，北側のＳＫ3411よりは新しい。覆土は上層が茶褐色土，下層が黒灰褐色粘質土である。遺物は椀・加工木などの木製品や，13世紀の中世土師器がある。

3418号井戸（ＳＥ3418，第93図，図版63）

ＳＫ3409の西辺上で検出した，直径108cmの円形の曲物積上げ井戸である。ＳＫ3409より新しい。上面より30cm下げると，中央より南側に偏ったところで曲物の井戸側を検出した。曲物は土圧の影響で長軸58cm，短軸48cmの楕円形に歪んでおり，内部には黒色漆・赤色漆の飛沫痕が見られた。曲物枠の詳細については，遺物編で述べたい。曲物は１段のみで，この中には植物繊維の多く混じった黒褐色土が堆積していた。この下層は，直径約30cmの円筒形の石組になっており，水溜であったと考える。石は３～４段，下から反時計回りに積まれていた。石組の外側は小礫が充塡され，内側の下層には礫の混じった黒褐色土が堆積していた。遺物は曲物の中から木製品が出土している他，13世紀～14世紀の中世土師器がある。

3420号井戸（ＳＥ3420，第95図，図版62）

ＳＫ3409の東辺上にあり，直径135cmの方形に近い円形の曲物積上げ井戸と推定する。南側２分の１は暗渠による攪乱を受けている。北西にあるＳＫ3656よりは新しい。掘形は擂鉢形で，深さ72cm，覆土は灰褐色粘質土である。北壁の深さ約20cmのところで，木杭と曲げ物の残欠が検出されていることから，曲物の井戸側の存在が窺える。遺物には13世紀末の中世土師器・珠洲・青磁，加工木がある。

4332号井戸（ＳＥ4332，第97図，図版65）

X310Y95で検出した，142cm×131cmの方形に近い木組井戸である。覆土は黒褐色粘質土で，深さ44cmである。下層から木組の井戸側の一部を検出した。これは横板を枘組にして保持するもので，横板井籠組井戸に分類され，その中の一方に凸枘，他方に枘穴をつけて組むｃ類となる。長さ62cm，幅約５cm，厚さ３cmの横板を，方形に１段組んだ状況で検出したため，上部の構造は不明である。井戸側の内部には，やや中央からずれるが深さ35cmの楕円形の穴があり，水溜であった可能性がある。遺物には珠洲がある。

4355号井戸（ＳＥ4355，第97図，図版65）

Ａ３Ｓ地区とＢ１地区の境近くX312Y95で検出した，方形の木組井戸である。ＳＫ4322，ＳＥ4357より古いと考える。深さは50cmで，覆土は茶褐色粘質土・黄褐色粘質土である。下層から木組の井戸側の一部を検出した。ＳＥ4322と同じ横板井籠組に分類されるが，組み方までは不明である。残存す

る横板は長さ60cm余り，幅約4 cmである。遺物には中世土師器・珠洲がある。

4619号井戸（ＳＥ4619，図面14）

Ｘ291Ｙ98で検出した，長軸83cm，短軸73cmの楕円形の素掘井戸である。掘形はやや擂鉢形，地山の青灰色砂礫層を約67cm掘削する。底からは湧水が見られる。覆土は黒茶褐色土である。遺物には白磁・青磁，漆器がある。

4732号井戸（ＳＥ4732，図面14）

Ｘ292Ｙ90で検出した，長軸85cm，短軸70cmの楕円形の曲物積上げ井戸である。曲物は１段のみで，直径約65cm，高さ35cm，茶灰色粘質土を裏込めし，固定される。内部には炭化粒が混じった黒褐色土が堆積し，上・中層から中世土師器，漆器が出土している。

4733号・4735号井戸（ＳＥ4733・ＳＥ4735，図版66）

Ｘ291Ｙ85で検出し，共に暗渠によって攪乱を受ける。ＳＥ4733は直径77cmの円形で，ＳＫ4734より新しい。深さは70cm，掘形は擂鉢形の素掘りの井戸で，覆土は上層が暗茶褐色土，下層が黒褐色土である。ＳＥ4735は２段の曲物積上げ井戸である。一部しか残存していないが，高さ12cmと18cmのものが確認されている。内部は黒褐色土が堆積し，中世土師器・越前，箸が出土している。

5009号井戸（ＳＥ5009，図面17）

Ｘ245Ｙ99で検出した楕円形の素掘井戸である。規模は長軸95cm，短軸75cm，深さ79cmを測り，覆土は少量の砂礫が混じる黒褐色粘質土である。遺物に13世紀の中世土師器・珠洲があり，遺物から時期を決定した。

5342号井戸（ＳＥ5342，図面16）

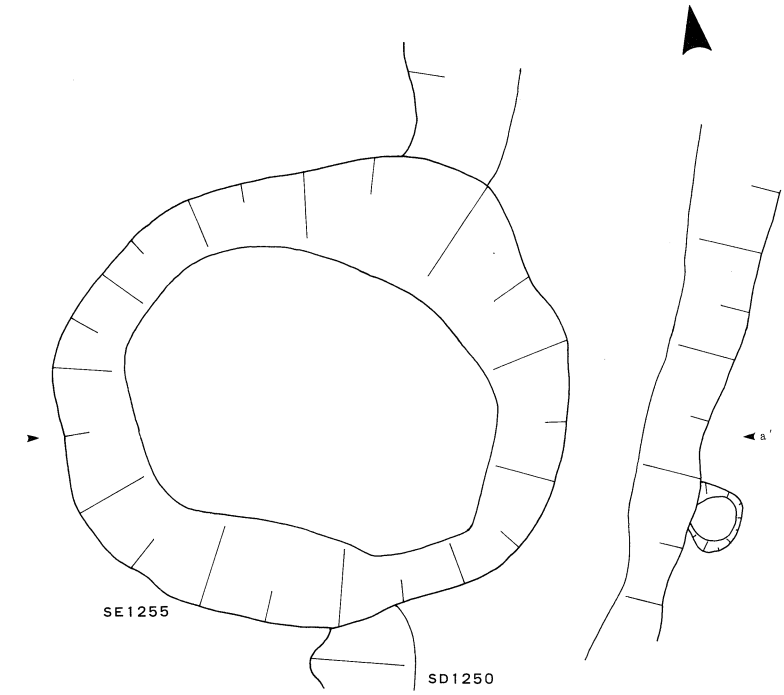
ＳＫ5331の北辺中央よりやや東よりで接する，井戸と考える土坑である。切り合いではＳＫ5331，ＳＫ5340，ＳＫ5341より古く，ＳＥ5341ｂより新しい。ＳＥ5342も断面観察からＳＥ5342とＳＥ5342ｂとに分けられる。平面形は全体で長方形を呈し，長軸200cm，短軸120cm，深さ108cmを測る。遺物に13世紀の中世土師器・青磁がある。

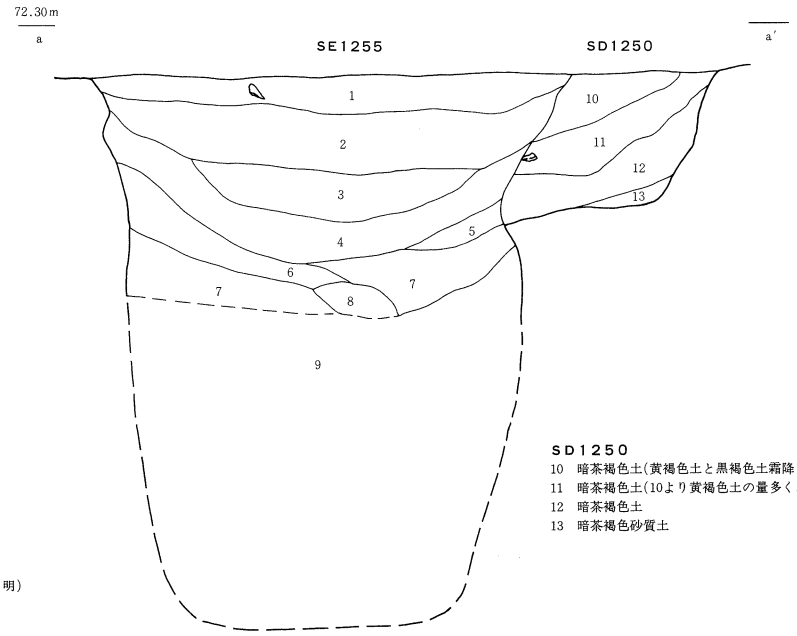
5596号井戸（ＳＥ5596，図面16）

Ｘ265Ｙ85で検出した，直径75cmの円形の素掘井戸である。深さは94cmで，覆土は茶褐色粘質土が主体である。遺物に13・14世紀の中世土師器・珠洲がある。（島田美佐子）

遺構番号	整理番号	地　区	平面形	規模；長	規模；短	規模；深	覆　　土	出　土　遺　物	備　　考	時　　期	最終レベル	湧水レベル
SE1253	SE553	A1	楕円形	145	118	247	暗茶褐色土	中世土師器		14C初	69.71	
SE1254	SE554	A1	楕円形	89	84	64	—	中世土師器・八尾・珠洲・青磁		14C	70.09	
SE1255	SE555	A1	楕円形	269	243	291	暗茶褐色土	中世土師器・八尾・珠洲・越前		14C	69.11	
SE1284	SE584	A1	円形	241		315	—	中世土師器・八尾・珠洲		13・14C	68.79	70.34
SE1291	SE591	A1	円形	111		122	暗茶褐色粘質土	中世土師器・鉄滓		13C	70.52	湧水なし
SE1314	SE614	A1	楕円形	250	210	161	暗茶褐色粘質土	中世土師器・八尾・珠洲・白磁・青磁		14・15C	70.00	
SE2468	SE268	A2	方形	265	233	188	黒褐色土・褐色土	中世土師器・珠洲	木組井戸	13C前半	70.42	70.38
SE2497	SE297	A2	方形	275	263	175	黒褐色土・褐色砂礫土	中世土師器・青磁	枠は無いが、SE2468に形態似る	13・14C	70.55	
SE2658	SE458	A2	方形	130	130	226	灰褐色粘質土・茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲		13C末～14C	70.04	70.35
SE3052	SE52	A3N	楕円形	105	95	214	黒褐色土	中世土師器			70.88	
SE3412	SE12	A3S	円形	136		—	茶褐色土	中世土師器・加工木・椀	曲物積上げ井戸	13C		
SE3418	SE18	A3S	円形	108		83	黒褐色土	中世土師器・加工板	曲物積上げ井戸	13C後半～14C前半	72.60	
SE3420	SE20	A3S	円形	135		72	灰褐色粘質土	中世土師器・珠洲・青磁・加工木	曲物積上げ井戸	13C末	72.63	
SE3431	SE31	A3S	方形	93		108	茶褐色土	中世土師器・八尾・珠洲・底板・加工板・箸		13C後半	70.97	
SE3591	SE191	A3S	円形	72		137	砂礫混茶褐色土	中世土師器・珠洲・青磁		13・14C	71.68	
SE3592	SE192	A3S	円形	100		162	黒褐色土	中世土師器・八尾・青磁		13C	71.47	
SE3852	SE452	A3S	円形	90		190	茶褐色土・黒褐色土	中世土師器		14C	70.93	
SE3880	SE480	A3S	楕円形	170	107	209	茶褐色土・暗茶褐色粘質土	中世土師器			70.75	
SE3970	SE570	A3S	楕円形	200		250	茶褐色土	中世土師器・珠洲・青磁・加工木		13・14C	70.42	
SE3971	SE571	A3S	—	—	—	167	暗茶褐色土	須恵器・中世土師器・珠洲・青磁		13・14C	71.27	
SE4332	SE32	B1	方形	142	131	44	黒褐色粘質土	珠洲	横板井籠組井戸		73.14	
SE4355	SE55	B1	方形	—	—	50	茶褐色粘質土・黄褐色粘質土	中世土師器・珠洲	横板井籠組井戸	13C	73.08	
SE4514	SE214	B1	楕円形	126	101	76	灰黒褐色粘質土・礫	中世土師器		13・14C		
SE4619	SE19	B1－3	楕円形	83	73	67	黒茶褐色土	白磁・青磁・漆器			73.40	
SE4732	SE132	B1－3	楕円形	85	70	45	黒褐色土	中世土師器・漆器	曲物積上げ井戸		73.55	
SE4733	SE133	B1－3	円形	77		70	暗茶褐色土	—			73.32	
SE4735	SE135	B1－3	不整円形	80		57	黒褐色土	中世土師器・越前・曲物・箸	曲物積上げ井戸	14C	73.59	
SE5009	SE2009	B2N	楕円形	95	75	79	黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲		13C～	74.35	
SE5342	SE2342	B2N	方形	200	120	108	暗茶褐色粘質土・黒褐色粘質土	中世土師器・青磁		13C	73.88	
SE5596	SE2596	B2N	円形	75		94	茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・板材		13・14C	74.15	
SE8006	SE906	B3	円形	76		—	茶褐色砂礫層	珠洲・青磁		14C		

第６表　井戸（中世前期）一覧

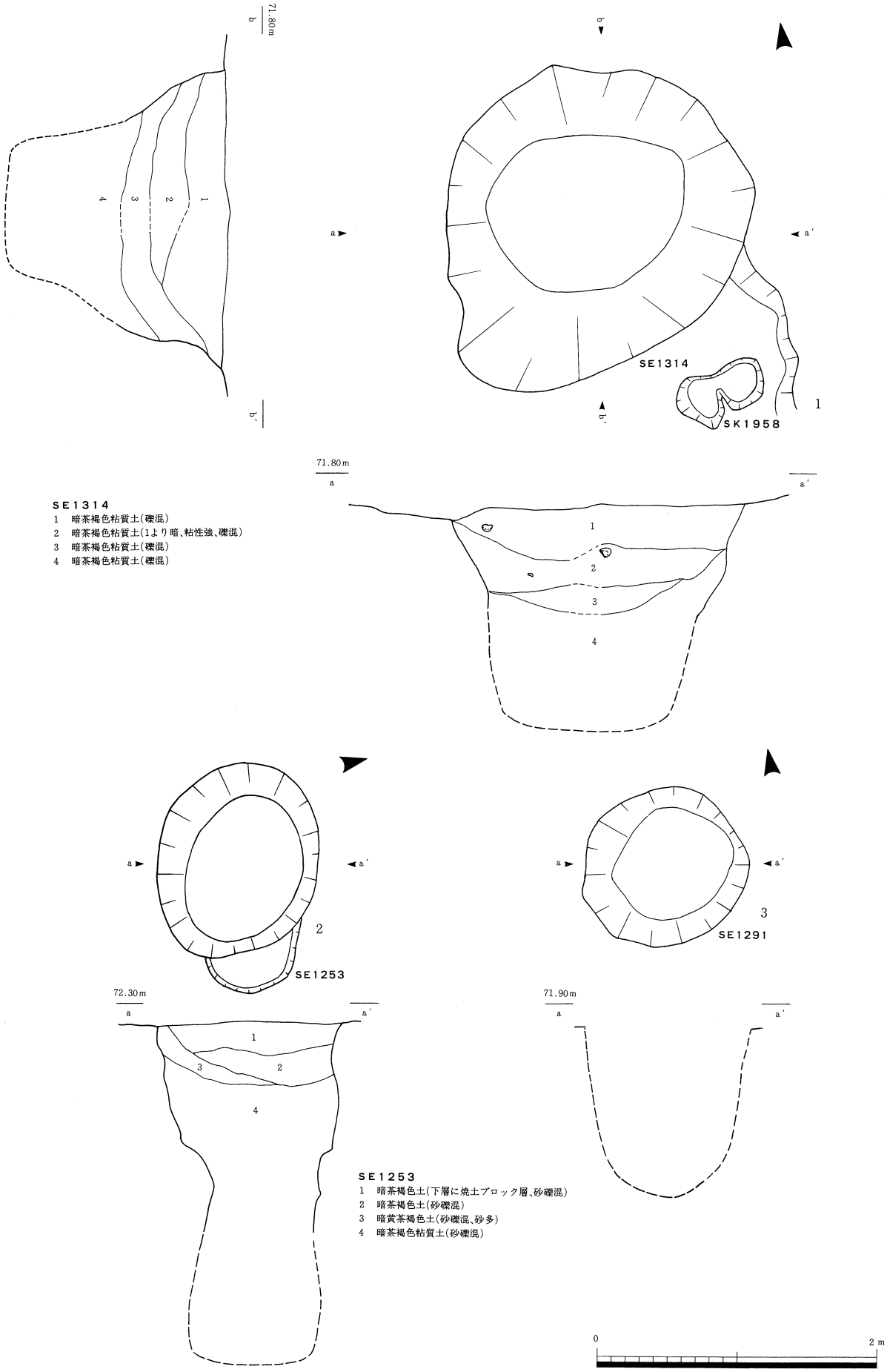




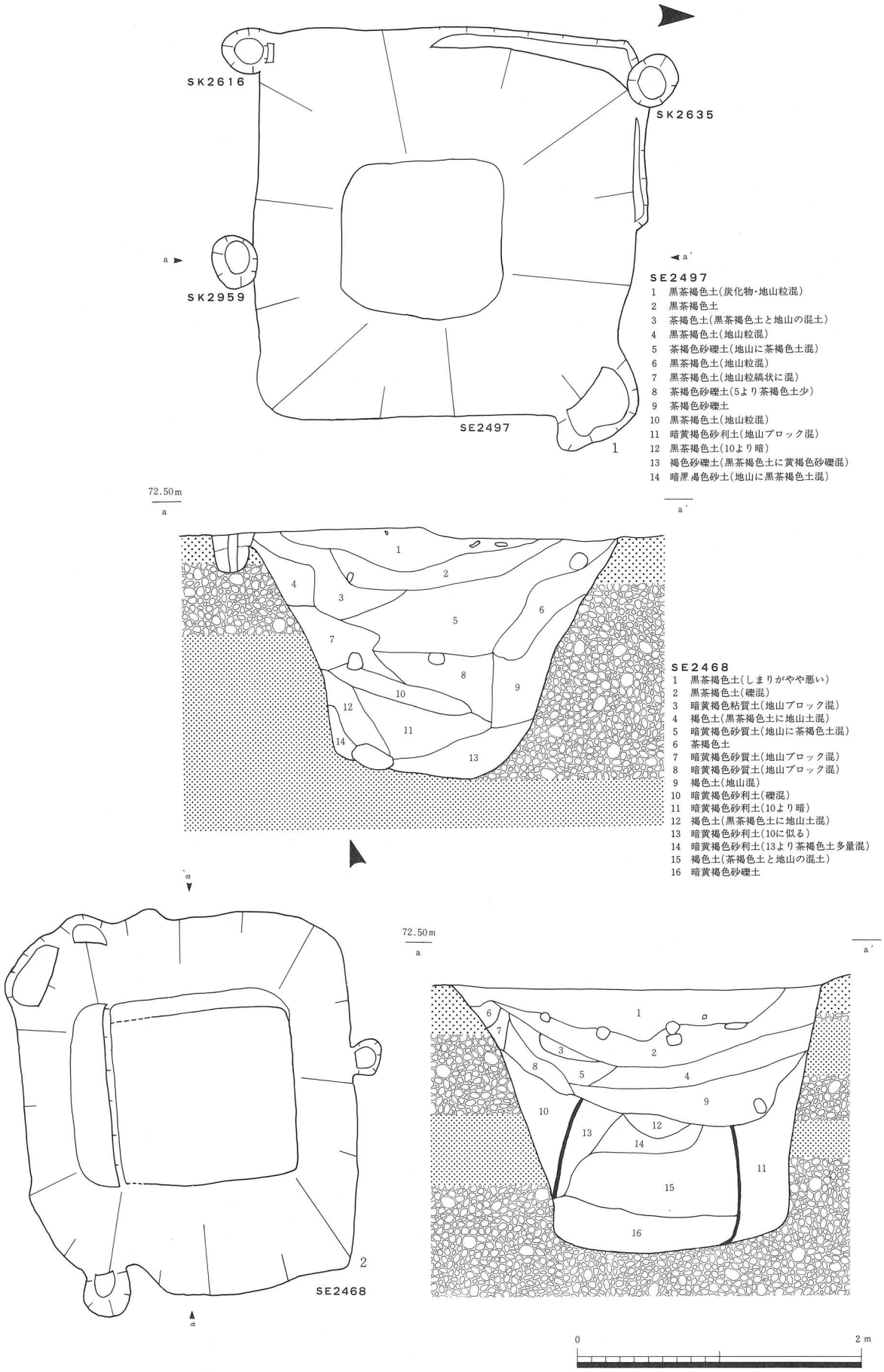
SD1250
10　暗茶褐色土(黄褐色土と黒褐色土霜降り)
11　暗茶褐色土(10より黄褐色土の量多く、明)
12　暗茶褐色土
13　暗茶褐色砂質土

SE1255
1　暗茶褐色土
2　暗茶褐色土(1より明)
3　暗茶褐色土
4　暗茶褐色粘質土
5　暗茶褐色土(地山・黄褐色砂質土混)
6　暗茶褐色粘質土(黄褐色土ブロック・礫混)
7　暗茶褐色粘質土(礫混)
8　黄褐色土ブロック
9　暗茶褐色粘質土(地山・砂礫混)

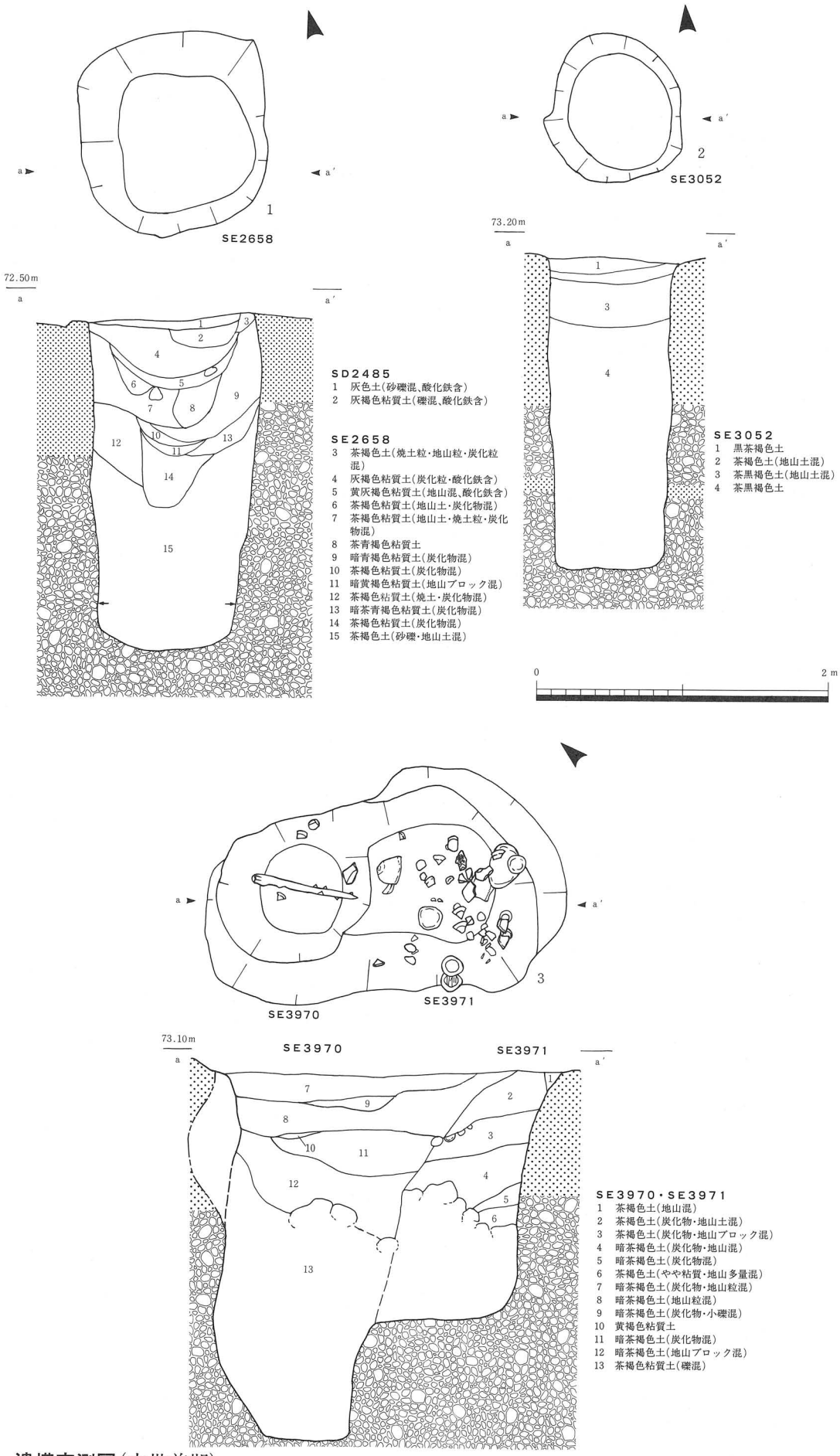
第89図　遺構実測図(中世前期)
SE1255



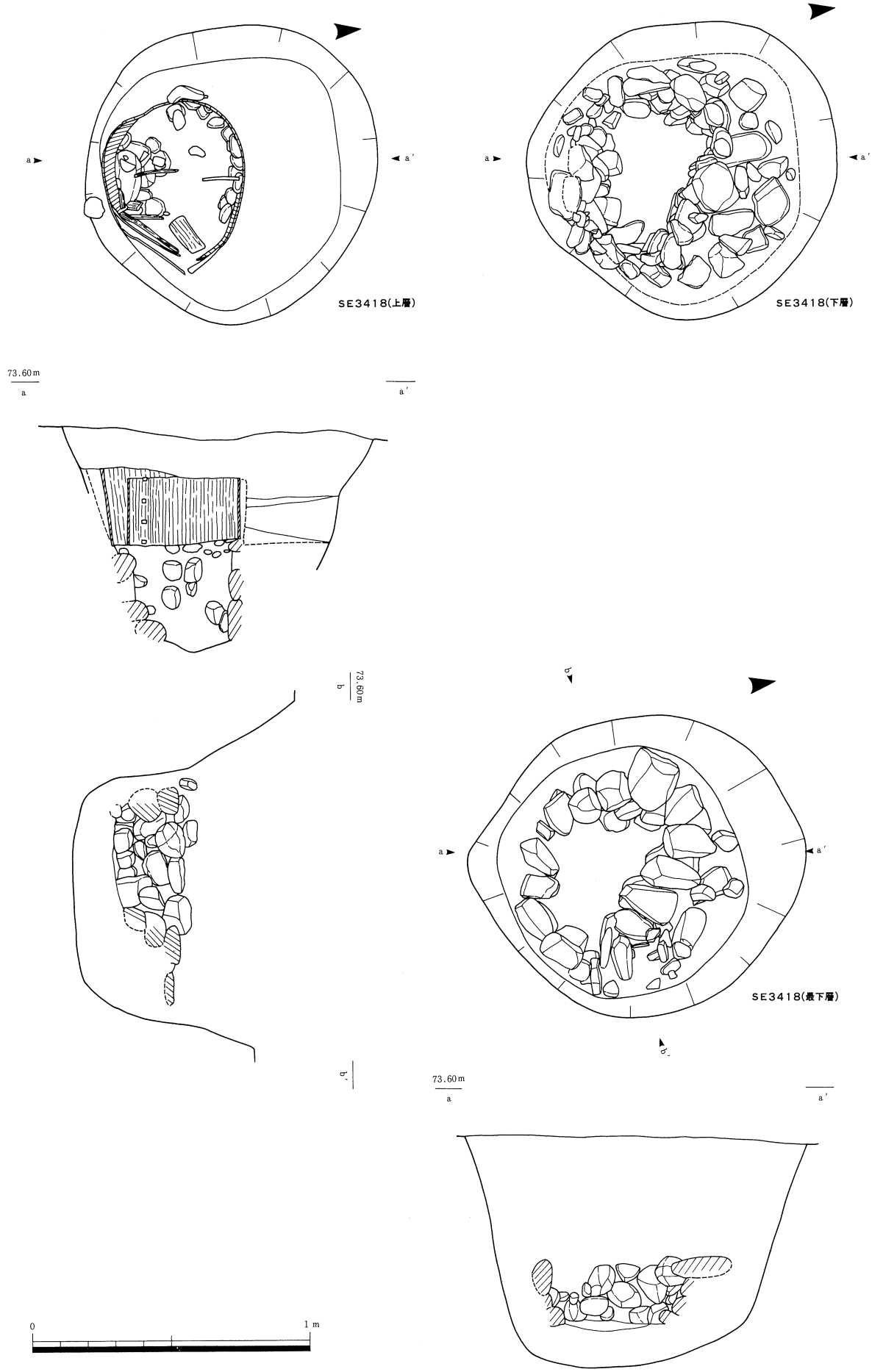
第90図　遺構実測図(中世前期)
1.SE1314　2.SE1253　3.SE1291



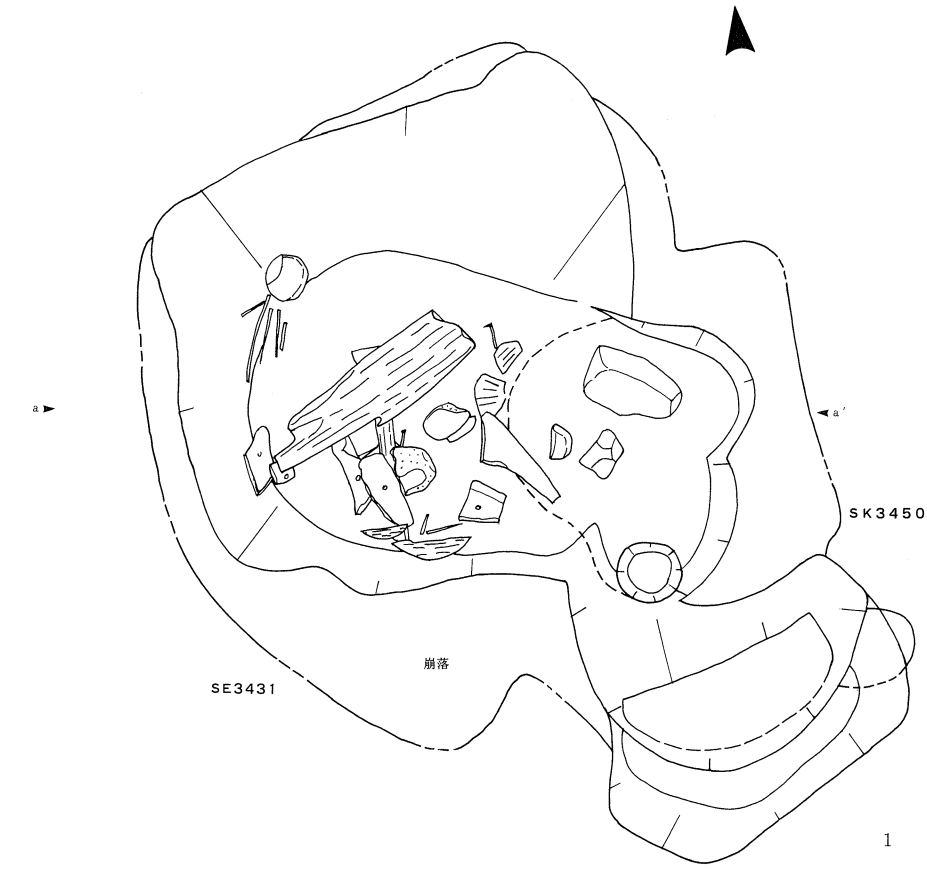
第91図　遺構実測図(中世前期)
1.SE2497　2.SE2468

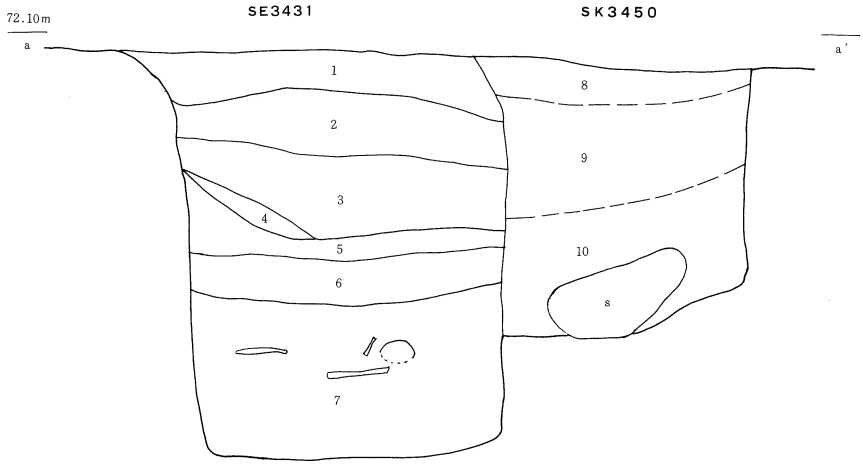


第92図　遺構実測図(中世前期)
1.SE2658　2.SE3052　3.SE3970・SE3971



第93図　遺構実測図(中世前期)
SE3418

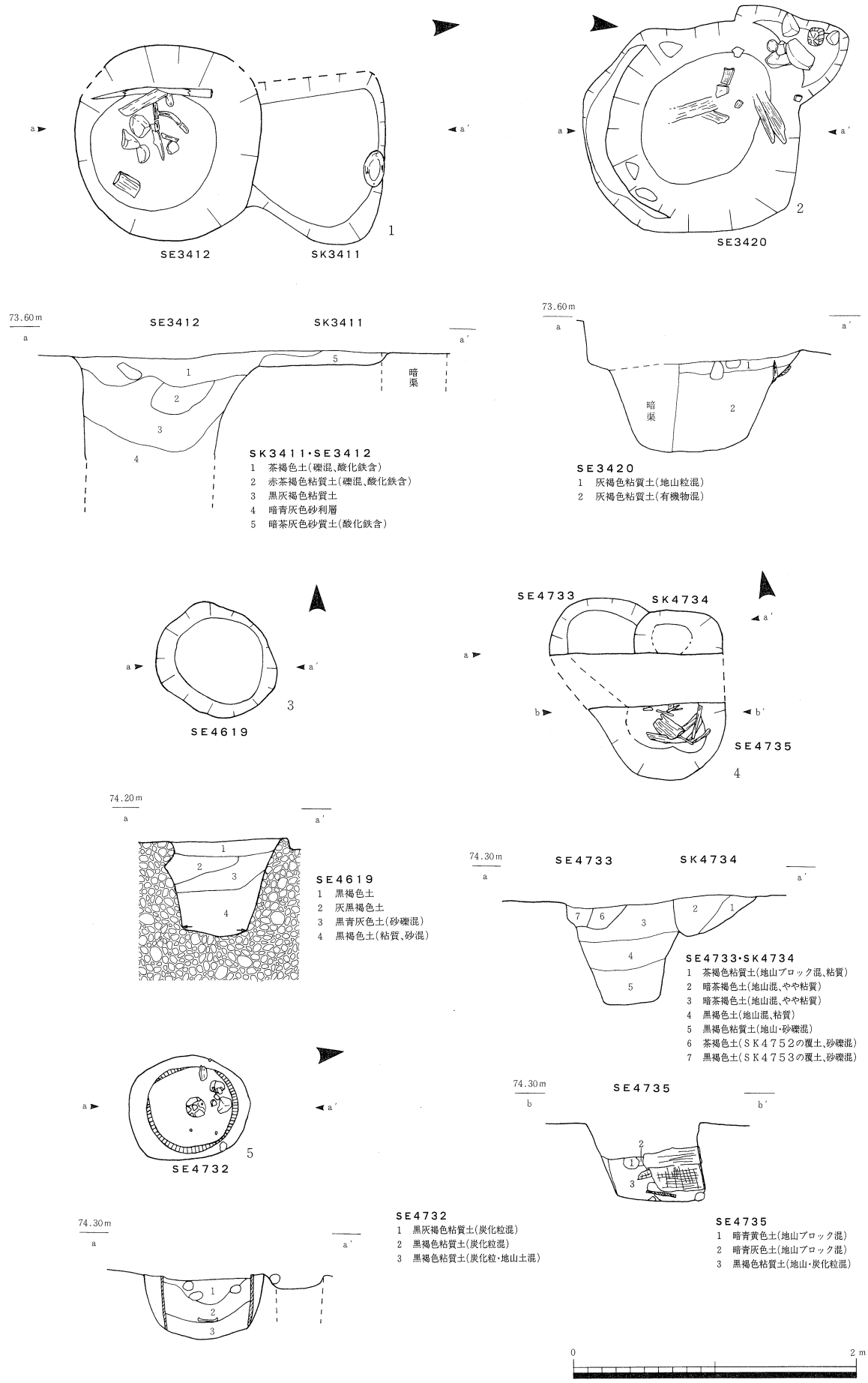




SE3431
1　茶褐色土
2　灰褐色土(酸化鉄含、やや粘質)
3　灰色粘質土(酸化鉄含)
4　黄褐色粘質土(灰色粘質土混)
5　茶褐色粘質土(黄褐色粘質土ブロック混)
6　暗灰褐色粘質土(酸化鉄含)
7　暗茶褐色粘質土

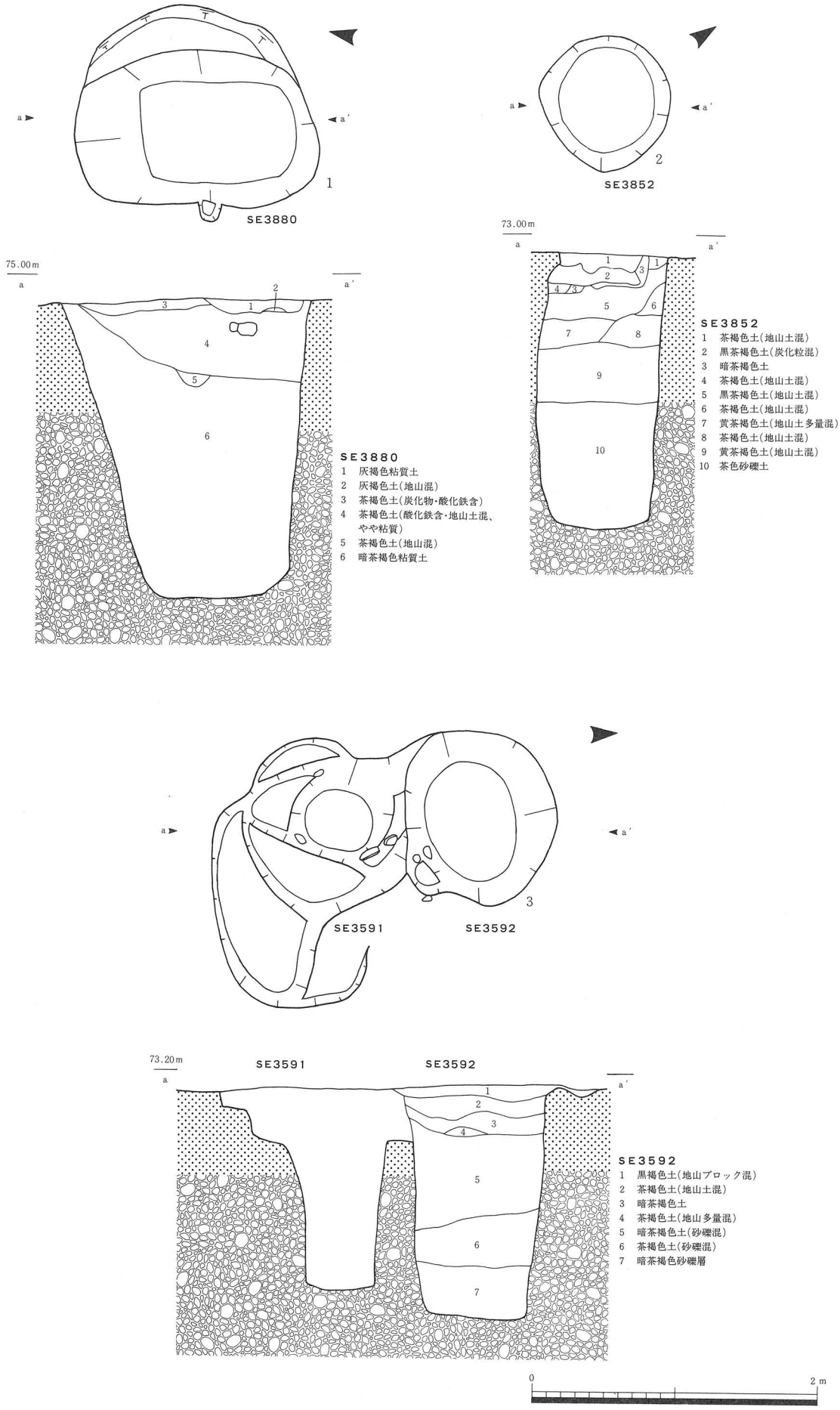
SK3450
8　茶褐色土(酸化鉄含、黄褐色粘質土混)
9　灰色粘質土(黄褐色粘質土混)
10　灰青色粘質土(粘性強、緑灰色・黄褐色粘質土ブロック混)

第94図　遺構実測図(中世前期)
SE3431

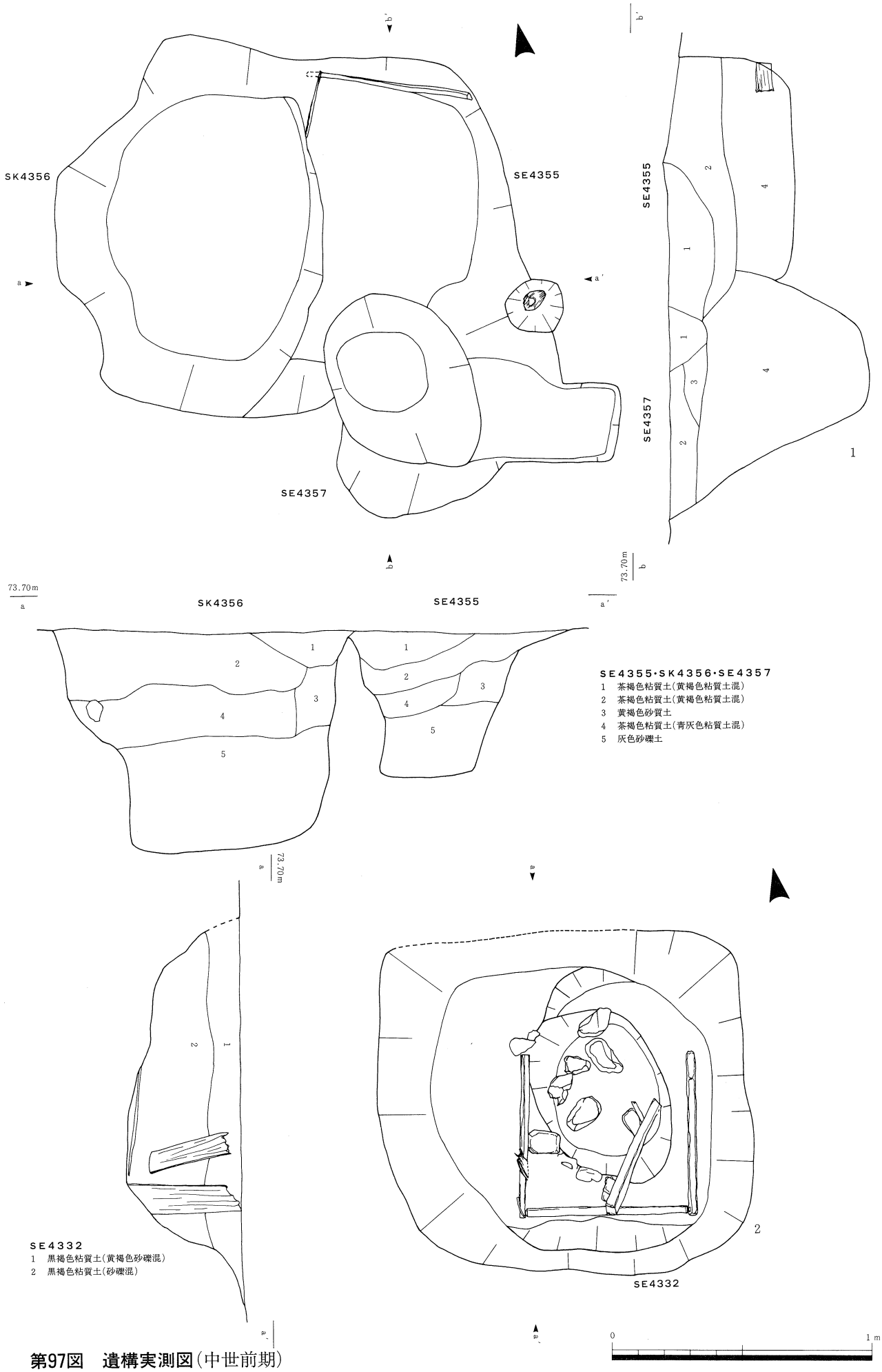


第95図　遺構実測図(中世前期)

1.SE3412　2.SE3420　3.SE4619　4.SE4733・SE4735　5.SE4732



第96図　遺構実測図(中世前期)
1.SE3880　2.SE3852　3.SE3591・SE3592



第97図　遺構実測図(中世前期)
1.SE4355・SE4357　2.SE4332

4　土　　坑

中世前期の土坑は約233基検出した。平面形は主に円形と方形のものがあるが，方形のものが多い。方形のものは，壁の立ち上がりが明確なものが多く，遺物の出土量も多い。長軸方向から建物に伴う土坑（竪穴状土坑）も含まれているが，概して，性格がはっきりするものは少ない。

A地区

6号土坑（ＳＫ06，第98図）

A地区の北側中央部，X492Y99区に位置する。地山土が褐色土混じりの礫層であるため，遺構検出面がやや凸凹になっている。長軸104cm，短軸95cmの円形で，深さ11cmである。覆土は礫混じりの黒茶褐色土である。出土遺物はないが，周辺の遺構・遺物から中世前期と考えたい。

7号土坑（ＳＫ07，第98図）

6号土坑の北側，X493Y98に位置する。長軸95cm，短軸76cmの楕円形で，深さ28cmである。底は礫層に達しているため，少し凸凹している。覆土は礫混じりの茶褐色土(上層)，礫混じりの明茶褐色土（下層）で，水平に堆積している。ＳＫ06と同様に出土遺物はないが，周辺の遺構・遺物から中世前期と考えたい。

303号土坑（ＳＫ303　第99図，図版67）

X481･482Y112･113に位置し，ＳＢ13に伴う竪穴状土坑である。長軸420cm，短軸340cmの長方形で，深さ26cm，浅く皿状に窪む。底は礫層のため凸凹である。調査の計画上年度を違えて土坑を掘っているため，一部東西セクションのつながりが摑めていない。覆土は，茶褐色粘質土に一部黒褐色粘質土や地山土が混じる。遺物には中世土師器・珠洲・白磁・青磁があり，12世紀後半～13世紀前半である。なお，土坑の南側は地山土が礫混じりの茶褐色土のため，地山土を少し下げ過ぎてくぼみになっている。土坑の南東部にある張出しは，上面で明確なプランを確認できたのでなく，地山とのわずかな土の違いで掘り下げたため，掘り過ぎて不整形になっている。

304号土坑（ＳＫ304，第99図）

X478Y102に位置する。ＳＫ303と同様，２年度に亘る調査のため，土坑のプランを明確に把握できなかった。土坑の南半分の上場は不明瞭である。確認できる上場の長軸は310cmである。土坑の形状は不明だが，円形であろう。深さは17cmである。覆土は茶褐色粘質土の単層である。遺物には中世土師器・珠洲があり，時期は13世紀であろう。

305号土坑（ＳＫ305，第98図）

A地区の北側中央部，X481Y105に位置する。長軸112cm，短軸96cmの不整形である。土坑の南半分は途中に段を持ち，断面はヘルメット状である。底での深さは46cmである。覆土は黒褐色粘質土(上層)，茶褐色粘質土（下層）で，地山土がブロック状に混じる。12世紀後半～13世紀前半の中世土師器が出土している。

306号土坑（ＳＫ306，第98図，図版67）

ＳＫ305の北西，X482Y103に位置する。長軸100cm，短軸96cmの円形で，深さ17cmである。覆土は地山土混じりの土（第２層～第４層）がレンズ状に入り，上面には第１層の暗褐色粘質土が堆積している。第１層から中世土師器の完形品が出土している。時期は12世紀後半～13世紀初めである。その他の遺物には，珠洲がある。

307号土坑（ＳＫ307，第98図）

ＳＫ306のすぐ南側に位置する。長軸84cm，短軸82cmの円形で，深さ34cmである。土坑の覆土は，

暗褐色粘質土（第１層），その土に地山土が混じる土（第２・３層）である。遺物には中世土師器・珠洲がある。時期は12世紀後半～13世紀初めである。

309号土坑（ＳＫ309，第98図，図版67）

Ｘ480Ｙ100・101に位置する。長軸398cm，短軸314cmの円形である。南の方は，少し段になっているが，南北セクションから別の遺構が窺えない。深さは64cmである。覆土は暗茶褐色粘質土(上層)，暗灰茶褐色粘質土（下層）で，地山土が部分的に混じっている。遺物には中世土師器・珠洲・白磁，鍛冶滓があり，12世紀後半の良好な資料である。

760号土坑（ＳＫ760，第100図，図版68）

調査区幅のほぼ中央，Ｘ472・473Ｙ100・101で検出した不整方形の土坑で，ＳＢ26に伴う。南北390cm，東西367cmを測るが，南辺が210cmとすぼまる形となる。北辺が東西軸と平行することから，ＳＢ26に伴う方形竪穴状土坑と考える。遺存状況は良好で，壁の立ち上がりもしっかりしている。覆土は，黄褐色土ブロックとしまった暗茶褐色土ブロックが霜降り状に混じる暗茶褐色土の単層である。深さは中央部にかけて緩やかに深くなり，最深部で30cmである。床面は北半が黄褐色粘質土で，南半は砂礫層に達している。土坑内で検出した穴は同時期，又は以前のものである。西側を南北に走るＳＤ780は土坑よりも古い。遺物の出土は平面的には北東区に集中し，深さは検出面から約10cm～20cmの地点から見られる。遺物には12世紀後半～13世紀前半の中世土師器・白磁，八尾・珠洲・瓷器系甕の胴部片，半月形の砥石がある。量は中世土師器が最も多い。

761号土坑（ＳＫ761，第100図）

ＳＫ760の南，ＳＤ780より新しい長方形の土坑である。南北155cm，東西58cmで，深さは16cmと浅い。覆土は黒褐色土，暗黄褐色土，茶褐色土，暗茶褐色土に黄褐色土ブロックが混じる土で，それぞれ西からレンズ状に堆積する。遺物は皆無であるが，位置関係などから当時期と考える。

762号土坑（ＳＫ762，第100図）

ＳＫ761の南，ＳＤ780より新しく，ＳＤ778，ＳＫ781より古い長方形の土坑である。南北188cm，東西155cmである。深さは北半が10cmで平坦であるが，南半は浅くくぼみ，最深部で25cmを測る。覆土は暗茶褐色粘質土の単層である。遺物には中世土師器がある。時期は13世紀である。

773号土坑（ＳＫ773，第101図）

南北に走るＳＤ785の中央で検出した長方形の土坑で，ＳＢ23内北東隅に位置する方形竪穴状土坑と考える。切り合いではＳＤ785より新しい。南北345cm，東西435cm，深さは32cmである。断面形は逆台形で，壁の立ち上がりはしっかりしており，床面は平坦である。特徴的な覆土は，西側・南側に堆積する第１層の暗茶褐色粘質土と暗黄褐色粘質土の混土で，堅くしまっており，叩き床の様を呈している。北・東側にはその上に暗茶褐色粘質土が堆積する。遺物には須恵器・緑釉陶器，13世紀の中世土師器・12世紀後半の格子目叩きをもつ珠洲甕胴部片・12世紀の白磁（碗・皿）・13世紀後半の青磁がある。時期は13世紀後半である。

781号土坑（ＳＫ781，第100図）

ＳＫ762の北側上面で検出した土坑である。ＳＫ762，ＳＤ778より新しい。南北128cm，東西83cmの長方形である。床面は平坦で，深さは19cmである。覆土は地山土が霜降り状に混じる暗茶褐色粘質土の単層である。遺物には13世紀の中世土師器がある。

783号土坑（ＳＫ783，第102図）

ＳＤ302とＳＤ701との間で検出した，平面形が長方形と推定する土坑である。ＳＤ302は土坑の周辺

を沿うように北流している。北側・東側は遺存状況が良いが，南側の立ち上がり部分が試掘溝にあたっており，不明瞭となっている。このため，南にあるＳＫ839との切り合い関係も不明である。西側も床面がだらだらとＳＤ701に向かって下がっており，明確な立ち上がりは見られない。覆土は暗茶褐色砂礫土が主体で，地山の砂礫土との区別は難しい。第７層には土器片・焼土が含まれているが，これはＳＫ839の覆土と考える。これらからでは確かな平面形さえもつかめないが，ＳＫ783は後述するＳＫ839の関連施設の可能性があると考えている。遺物には須恵器，13世紀～14世紀の中世土師器・珠洲・越前・白磁（碗）・青磁（鎬蓮弁文碗）がある。時期は13世紀～14世紀である。

784号土坑（ＳＫ784，第101図，図版68）

ＳＫ773の北，Ｘ472Ｙ110で検出した，掘形が逆円錐形の土坑である。平面形は長軸245cm，短軸210cmのやや楕円形で，深さは67cmである。覆土は上から暗茶褐色粘質土，暗茶褐色粘質土と黒褐色粘質土の互層，茶褐色砂質土と黒褐色土の混土，暗灰褐色粘質土の順で堆積する。最下層では礫が集中して検出された。土坑の東側斜面の２基の小穴は，土坑の下層から検出したもので，このうちの１基はＳＢ17を構成するものである。遺物には須恵器・土師器，中世土師器がある。時期は13世紀である。

787号土坑（ＳＫ787，第103図）

南北に走るＳＤ785の起点，Ｘ462Ｙ106で検出した長方形の土坑である。北西のＳＫ788より古く，ＳＤ785より新しい。南北290cm，東西170cm，壁の立ち上がりはしっかりしているが，深さは12cmと浅い。覆土は黒褐色土が主体で，床面は平坦である。南東の壁際の土坑は断面観察から，ＳＫ787より新しい。遺物には13世紀の中世土師器がある。

839号土坑（ＳＫ839，第102図，図版68）

ＳＫ783の南で検出した土坑である。表土除去，試掘溝跡確認の段階から確認されていたが，ＳＫ783と同じく試掘溝によって攪乱を受けており，平面形の正確な確認は難しく，断面観察による復元となった。規模は南北195cm，東西200cmの長方形になると推定される。残存部では比較的壁の立ち上がりはしっかりしており，床面は平坦である。壁，床ともに火を受けた跡は見られないが，第１層には多量の土器細片・焼土・炭化物が混じる。土器片は厚めの焼きのあまいものが多い。土師器焼成窯の可能性も考えたが，壁・床面が熱を受けていないので問題が残る。しかし，上面，及び覆土中からの土器片の量は夥しいものがあり，特別な機能をもつ土坑と考える。遺物には12世紀後半～13世紀初の中世土師器・須恵器，珠洲，白磁がある。

913号土坑（ＳＫ913，第104図，図版69）

Ｘ475Ｙ110，調査区東縁で検出した土坑である。南東隅のＳＫ915はＳＫ913より新しい。平面形は南北277cm，東西220cmの楕円形で，断面形はレンズ形である。深さは最深部で48cmである。覆土は暗茶褐色粘質土主体の土が単純に堆積する。遺物は土坑の中央から多く出土し，層位では第１・２層からが多い。遺物は中世土師器と白磁で，中世土師器の中には柱状高台のものも混じる。時期は12世紀後半～13世紀初である。

920号土坑（ＳＫ920，第103図）

調査区東縁，ＳＤ924の東で検出した土坑である。平面形は一辺160cmの三角形状で，深さは29cmである。覆土は茶褐色粘質土で，最下層には暗茶褐色粘質土が堆積する。中央上層には大小の礫が混じる。遺物には13世紀の中世土師器がある。

1074号土坑（ＳＫ1074，第101図）

Ｘ485Ｙ115で検出した小型の土坑である。平面形は南北70cm，東西80cmの不整形な楕円形をして

いる。深さは22cmと浅い。覆土は第1層が黒褐色粘質土，第2層が暗茶褐色粘質土であるが，底面の深さが異なることから，不定形の2基の土坑が重なっている可能性が強い。遺物には12世紀後半の中世土師器がある。

1251号土坑（ＳＫ1251，第105図）

ＳＤ2203が東に直角に折れる地点と，ＳＤ1250の間で検出した方形の土坑である。ＳＤ2203より新しいが，ＳＤ1250より古いため南北長は不明である。東西長は400cm，深さは28cmである。南辺は試掘トレンチによって攪乱を受けているが，遺存状況は概ね良好である。覆土は暗茶褐色土が主体で，砂礫・黄褐色土・炭化粒が混じる。遺物には中世土師器・珠洲・白磁・青磁がある。時期は13世紀～14世紀である。

1256号土坑（ＳＫ1256，第106図，図版70）

ＳＤ1250が北に直角に折れる地点の内側，Ｘ419･420Ｙ104･105で検出した土坑である。平面形は南北273cm，東西243cmの長方形で，深さは63cmである。壁の立ち上がりはしっかりしており，床面は平坦である。覆土は上層が暗茶褐色土，下層が暗茶褐色粘質土で，上層を取り去ると中央を東西に並ぶ石列が現れた。面を取って並んでいるという風でなく，どちらかと言えば雑然とした列になって並んでいるという状況であった。石列の北と南の覆土の違いは，北が暗茶褐色粘質土であるのに対し，南は砂礫の混じる暗茶褐色土や黒褐色土である。東壁は地山を掘削したものではなく，ＳＫ1256ｂの覆土で埋めたものか，または掘削して造られたものである。このためＳＫ1256ｂの覆土はどれもしまっている。ＳＫ1258の西壁も同様に造られたものであるから，位置関係からも2基の土坑は同時に存在していたと考える。遺物には13世紀～14世紀の中世土師器，珠洲・白磁がある。

1258号土坑（ＳＫ1258，第106図）

ＳＫ1256の東に隣接する長方形の土坑である。南北285cm，東西320cm，深さは70cmである。壁の立ち上がりはしっかりしており，床面は平坦である。覆土は東半上層に暗茶褐色や黄褐色の砂礫土が堆積し，その下層は暗茶褐色土に黄褐色土がブロック状に混じったり，霜降り状に混じったりする土が帯状に堆積する。遺物には中世土師器・八尾・珠洲がある。時期は13世紀である。

1259号土坑（ＳＫ1259，第106図）

ＳＫ1256の南に接する，長方形の土坑である。北側は一部ＳＫ1256に切られるが，南北120cm，東西270cmで，深さは15cm，床面は平坦である。覆土は砂礫・焼土・炭化物の混じる暗茶褐色土である。西接するＳＫ1636，ＳＫ1637との切り合いは不明瞭であるが，土坑内の穴は土坑より古いものである。遺物には白磁がある。

1267号土坑（ＳＫ1267，第112図，図版70）

Ｘ420･421Ｙ90･91，ＳＤ1252の上面で検出した長方形の土坑である。規模は南北380cm，東西345cm，深さ35cmである。覆土は多量の礫，炭化物が混じる暗茶褐色粘質土である。炭化物は層をなして堆積している。覆土中からは14世紀初頭の中世土師器・14世紀末の八尾・珠洲・瀬戸美濃・白磁・青磁，伊万里，鉄釘が出土している。伊万里は上層からの混入品で，時期は14世紀と考えている。

1268号・1269号土坑（ＳＫ1268・ＳＫ1269，第112図，図版70）

共にＸ418･419Ｙ94･95で検出した，ＳＫ1301の上面で確認した浅い土坑である。ＳＫ1268は溝状の土坑で，ＳＫ1301の西側を南北に走る。幅が56cm，長さが215cmである。覆土は暗灰褐色粘質土である。ＳＫ1269はＳＫ1301の南側上面で確認した土坑で，南北153cm，東西258cmの不整形の楕円形である。覆土は暗茶褐色粘質土である。遺物はＳＫ1268から中世土師器・珠洲，ＳＫ1269から中世土師

器が出土しており，ＳＫ1301と同時期と考えて当時期とした。

1271号・1280号・1281号土坑（ＳＫ1271・ＳＫ1280・ＳＫ1281，第107図）

Ｘ419～421Ｙ109で検出した不整形な長方形の土坑である。中央に南北240cm，東西208cmのＳＫ1271がある。深さは37cmで，床面は中央が浅くくぼむ。北辺寄りでは，東壁の手前が一部欠けてはいるが，東西にわたる石列を検出した。石列は土坑の内側に向かって面を取っている。石列の外側の覆土は内側の覆土と同じである。覆土は第１層がよくしまった暗茶褐色土で，第２層がやや粘質の暗茶褐色土である。遺物には13世紀の中世土師器，珠洲がある。

ＳＫ1280はＳＫ1271の北に張り出した部分で，プランこそ違うが床面が同じことから関連遺構と考える。覆土はしまりのないボソボソした暗茶褐色土である。ＳＫ1281はＳＫ1271の南の部分で，プラン・床面は変わらないが，覆土の違いで分けたものである。従って同遺構の可能性もある。覆土は第１層茶褐色土，第２層暗茶褐色土，第３層黒褐色土で，第２・３層はよくしまった土である。ＳＫ1280，ＳＫ1281ともに遺物の出土はない。

1275号土坑（ＳＫ1275，第106図）

ＳＫ1299の東側で検出した土坑である。ＳＫ1299とは深さ，覆土の違いによって分けた。平面形はＳＫ1258・ＳＫ1299に切られており，不明である。特に北側の立ち上がりが不明瞭であった。覆土は第１層が暗茶褐色土，第２層が黒褐色土で，ともに砂礫が混じる。深さは38cmである。遺物には13世紀～14世紀の中世土師器，白磁がある。

1277号土坑（ＳＫ1277，第105図）

ＳＫ1271の西で検出した，不整形な浅い落ち込みである。南北525cm，東西188cmで，壁の立ち上がりはあまく，深さも所によりまちまちである。覆土は暗茶褐色土が主体で，部分的に黄褐色土が混じる。東側では炭化粒・焼土が混じる黒褐色土の層が上面に堆積しており，これは東に隣接する，フイゴの羽口が出土したＳＫ1609と関係があるものと考える。遺物には12世紀後半～13世紀の中世土師器，珠洲（Ｉ期の鉢），12世紀後半の白磁が出土している。

1282号土坑（ＳＫ1282，第111図）

Ｘ425･426Ｙ105･106，ＳＤ1250の東肩で検出した土坑である。ＳＤ1250よりは古いと考える。北側の張り出し部は，試掘トレンチ・風倒木痕によって攪乱を受けてはっきりしない。本体部分の規模は南北242cm，東西推定で約230cmである。深さは31cmで，床面は平坦，壁の立ち上がりはしっかりしている。覆土は第２・３層に炭化粒・焼土が混じり，全体に土器細片が多量に混入する。壁・床面には熱を受けた痕跡はない。遺物には須恵器，13世紀の中世土師器・珠洲，白磁・青磁がある。時期は13・14世紀である。

1283号土坑（ＳＫ1283，第108図）

Ｘ429･430Ｙ104･105のＳＤ1250の西肩，ＳＥ1284の北で検出した土坑である。東側をＳＤ1250・ＳＥ1284に切られ，これらよりも古い。南北は360cm，方形の土坑であったと考える。壁は比較的緩やかに立ち上がっており，北壁は上面に砂層が見られ，別遺構が切り合っているものと考える。床面は部分的に浅くくぼみ，下層から７基の小穴を検出したが，いずれも土坑より古いものである。覆土は上層が砂礫の混じるしまった暗茶褐色土で，下層はこれに砂礫が混じらず黄褐色土が混じる。遺物には13世紀～14世紀の中世土師器・13世紀後半の珠洲・青磁があり，時期は13世紀～14世紀である。

1286号土坑（ＳＫ1286，第116図）

Ｘ434Ｙ108でＳＤ1285の上面で検出した土坑である。南北200cm，東西116cmの長方形の土坑で，

深さは15cmと浅い。ＳＫ2009は土坑より新しく，北端にある土坑はＳＫ1286より古い。覆土は暗茶褐色土の単層である。遺物には中世土師器がある。

1292号土坑（ＳＫ1292，第109図）

Ｘ430Ｙ107，ＳＫ1294の西側で検出した土坑である。ＳＫ1294よりは古いと考える。南北235cm，東西161cmの長方形の土坑で，深さは38cmである。壁の立ち上がりはしっかりしており，床面は平坦である。覆土は暗茶褐色粘質土に黄褐色土が混じる土がやや不規則に堆積する。南端の穴は土坑より古い。遺物には中世土師器・珠洲があり，時期は13世紀である。

1293号土坑（ＳＫ1293，第109図）

ＳＫ1284の南側で検出した土坑である。ＳＫ1294と重複しているため，断面にのみ残っている。南北182cm，東西約115cmの長方形である。床面はＳＫ1294の床面とほとんど変わらず，深さは18cmである。覆土は第１層が黄褐色土の混じる暗茶褐色土で，中世土師器が出土している。第２層は暗茶褐色土である。時期は14世紀である。

1294号土坑（ＳＫ1294，第109図）

Ｘ429～431Ｙ108･109で検出した不定形の浅い落ち込みである。南側の壁はしっかりしているが，北側の壁ははっきりしない。覆土は暗茶灰色粘質土で，部分的に暗茶褐色土や黒灰色粘質土が堆積する。重複して検出した土坑との切り合いは，ＳＫ1294よりは新しいが，ＳＫ1293・ＳＥ1291・ＳＤ1290よりは古い。しかし，特にＳＤ1290が新しい以外は時期差はあまりないと考えている。遺物には14世紀の中世土師器，Ｉ期の珠洲の壺，13世紀前半の青磁がある。時期は13世紀～14世紀である。

1295号土坑（ＳＫ1295，第110図）

Ｘ427Ｙ106･107で検出した，南北370cm，東西365cmのほぼ正方形の土坑である。南側は試掘溝により攪乱を受けている。深さは33cm，壁の立ち上がりはしっかりしており，床面もほぼ平坦である。覆土は第１・２層が暗茶褐色土，第３層が黒褐色土である。床面北側の小穴の上面には礫の混じる黒褐色土が堆積する。遺物は北東ブロックから多く出土しており，主に第２層からである。種類は中世土師器・八尾・珠洲・越前・白磁・青磁がある。時期は13世紀である。

1297号土坑（ＳＫ1297，第110図）

ＳＫ1295の南で検出した不整形な落ち込みである。南北110cm，東西385cmを測る。床面は凸凹で，プランも不明瞭であった。覆土は暗茶褐色土が主体である。遺物は13世紀の中世土師器がある。

1298号土坑（ＳＫ1298，第108図）

Ｘ427Ｙ102で検出した長方形の土坑である。南北245cm，東西156cmを測る。床面は平坦，壁の立ち上がりはしっかりしている。深さは50cmである。覆土は上層が砂礫の混じる暗茶褐色土，下層がしまりのない茶褐色土である。遺物は13世紀の中世土師器がある。

1299号土坑（ＳＫ1299，第111図）

ＳＫ1298の北，Ｘ430Ｙ103で検出した円形の土坑である。直径は95cmで，底面は丸みを帯びる。覆土は上層が茶褐色土，下層が黒茶褐色土で，ともに炭化物粒を多く含む。また，上層からは多量の中世土師器片が出土している。時期は14世紀である。

1300号土坑（ＳＫ1300，第112図，図版70）

ＳＫ1301の北側上面で検出した，浅い長方形の土坑で，ＳＢ59を切る。規模は東西180cm，南北130cm，深さは10cmである。覆土は炭化物の混じった暗茶褐色粘質土で，床面は平坦である。上面から中世土師器が出土しており，付近は包含層掘削の時点から遺物が多く出土した地点である。他に青磁

がある。時期は14世紀前半である。

1301号土坑（ＳＫ1301，第112図，図版70）

東西に走るＳＤ1252とＳＤ2453の間で検出した，不整形の土坑である。規模は南北310cm，東西368cm，深さは最深部で32cmである。上面にはＳＫ1268・ＳＫ1269・ＳＫ1300が重複する。覆土は暗黄褐色粘質土の混じる暗茶褐色粘質土である。遺物は上面から13世紀後半の中世土師器が出土している。

1302号土坑（ＳＫ1302，第113図，図版71）

Ｘ430Ｙ95で検出した，いわゆる靴下の形をした土坑である。東西155cm，南北は狭いところで60cm，広いところで110cmある。壁の立ち上がりはしっかりしており，床面は平坦である。西端・東辺の壁際には20cm～30cm大の集石が見られる。並んでいたとは考えにくく，石に混じって中世土師器・珠洲・13世紀の青磁が出土しており，土坑の外側の上面の石の中にも混じる。覆土は暗茶褐色粘質土の単層である。時期は13世紀である。

1305号土坑（ＳＫ1305，第113図，図版71）

ＳＫ1302の南東に位置する土坑である。規模は南北225cm，東西272cmの長方形である。壁はしっかり立ち上がり，深さは49cm，床面は平坦である。覆土は上層が暗茶褐色粘質土が主体で，西側半分に２回に分けて焼土・炭化物の混じる層が堆積する。下層は暗灰茶褐色粘質土が堆積するが，上層との間には２回に分けて暗茶褐色砂層の堆積が見られる。遺物のほとんどは上層から出土している。種類には13世紀～14世紀初の中世土師器・珠洲・越前・白磁・青磁がある。

1306号土坑（ＳＫ1306，第114図，図版72）

ＳＫ1305の南東に位置する土坑である。南北280cm，東西285cmのほぼ正方形で，底は丸く，深さは88cmと深い。土坑上面から多量の中世土師器片が出土している。覆土は３層に分かれ，第１層暗茶褐色粘質土から第２層礫の混じる暗灰褐色粘質土の全面に集石が見られた。集石となっている石は焼けた痕跡もなく，意識的に投げ込まれた様相であった。遺物もほとんどがこの層から出土しており，一緒に投げ込まれたものと考える。遺物の種類には14世紀の中世土師器・八尾，15世紀の珠洲・白磁・青磁がある。

1307号土坑（ＳＫ1307，第114図，図版73）

Ｘ426Ｙ90，調査区の西際で検出した長方形の土坑である。南北300cm，東西128cm，深さ37cmである。長軸方向はやや東にふれるものの北を指している。壁の立ち上がりはしっかりしているが，南辺はやや緩やかである。覆土は第１層の黄褐色土が混じる暗茶褐色粘質土は中央にレンズ状に堆積し，第２層は暗茶褐色粘質土である。遺物は北壁際に割れた珠洲の壺の底部，中央南寄りの東壁際に中世土師器が出土した。時期は13世紀である。

1401号土坑（ＳＫ1401，第115図）

Ｘ437Ｙ103～105で検出した大型の土坑である。南北330cm，東西513cmの長方形を呈し，深さは25cmである。壁の立ち上がりは浅いがしっかりしており，床面もほぼ平坦である。覆土は黒褐色土と暗茶褐色土が主体である。土坑内の穴の多くは土坑よりも新しいものである。遺物には中世土師器がある。時期は12世紀後半である。

1402号土坑（ＳＫ1402，第115図）

ＳＫ1401の南に隣接する不整形の土坑である。規模は南北130cm，東西110cm，深さ15cmである。遺物は中世土師器が出土している。覆土がＳＫ1401と似ているため同時期と考える。

1403号土坑（ＳＫ1403，第116図）

X441Y107，ＳＤ1422の北側で検出した土坑である。南北350cm，東西175cmの長方形で，プランはしっかりしているが，床面は中央部が盛り上がって平坦ではない。覆土は暗茶褐色土の単層である。遺物は中世土師器が出土しており，時期は13世紀初頭である。

1408号・1409号・1410号土坑（ＳＫ1408・ＳＫ1409・ＳＫ1410，第117図）

X436･437Y107～109，調査区東際で検出した土坑である。３基の土坑は重複しており，ＳＫ1408，ＳＫ1410，ＳＫ1409の順で新しい。ＳＫ1408は南北375cmの浅い土坑で，東側はＳＫ1417に切られる。覆土は酸化鉄を含む暗茶灰色粘質土で，深さは17cmである。北東への広がりは不明瞭だが，ＳＫ1416の上面にも広がっていた模様である。ＳＫ1410は３基の中で一番プランがしっかりしたもので，東西300cm，南北235cmの長方形で，深さは42cmである。壁の立ち上がりは直角に近く，覆土は暗茶灰色粘質土が主体である。遺物には13世紀の中世土師器がある。ＳＫ1409は，ＳＫ1410の北に重複して一部検出したもので，東西幅285cm，深さ12cmである。覆土は黒褐色土，黄褐色土が混じる暗茶褐色土である。遺物の出土はない。

1411号土坑（ＳＫ1411，第118図，図版74）

X417Y108でＳＤ1252の上面で検出した土坑である。南北180cm，東西195cmのほぼ正方形を呈し，断面形は逆台形である。深さは50cmで，覆土は上層が暗茶褐色土，下層はこれよりやや色調が暗く，礫が混じる。遺物には13世紀の中世土師器・珠洲・白磁・青磁がある。

1412号土坑（ＳＫ1412，第118図，図版74）

ＳＫ1411の南，ＳＤ1252・ＳＤ1250の上面で検出した土坑である。ＳＫ1411より新しい。規模は南北223cm，東西285cm，深さ45cmである。床面はほぼ平坦であるが，壁の立ち上がり方は均一ではない。覆土は黄褐色土・砂礫の混じる茶灰色土である。遺物には中世土師器・珠洲・青磁がある。

1413号土坑（ＳＫ1413，第119図）

X428Y112，調査区の東寄りで検出した長方形の土坑である。南北325cm，東西95cm，深さ30cmである。床面はほぼ平坦であるが，中央が浅くくぼんでおり，別遺構が切り合っている模様である。覆土は上層に焼土・炭化粒が混じる黒褐色粘質土，下層には砂層がバンド状に混じる黒褐色土が堆積する。遺物には中世土師器・白磁がある。時期は13世紀である。

1414号土坑（ＳＫ1414，第119図）

ＳＫ1413の北西に隣接する土坑である。切り合いはＳＫ1414が新しい。規模は南北200cm，東西180cmの長方形である。断面形は壁の立ち上がりが明瞭な逆台形である。深さは34cmである。覆土は黄褐色土・砂礫が混じる暗茶褐色粘質土の単層である。遺物は中世土師器・白磁がある。時期は13世紀である。

1416号土坑（ＳＫ1416，第117図）

ＳＫ1410の東で検出した溝状の土坑である。部分検出のため溝か土坑かは判別できない。溝状であるが，東壁際では壁の立ち上がりがあまくなっている。ＳＫ1410との切り合いは不明瞭であったが，ＳＫ1417よりは新しいと考える。幅90cm，深さ28cm，覆土は上層が暗茶褐色粘質土，下層はこれに黄褐色砂が混じる。遺物には13世紀の中世土師器がある。

1417号土坑（ＳＫ1417，第117図）

ＳＫ1416の南の土坑である。ＳＫ1408はこの上面にも広がっていた。部分検出のため規模は不明であるが，南壁の立ち上がりはしっかりしており，砂層の床面も平坦である。深さは48cmで，覆土は暗黄褐色砂質土が主体である。遺物には13世紀の中世土師器がある。

1421号土坑（ＳＫ1421，第110図）

ＳＫ1297の西にある楕円形の土坑である。南北85cm，東西130cm，深さは15cmと浅い。覆土は暗茶灰色土で，上面に礫が混じる。床面は酸化鉄によって赤化し，堅くしまっている。遺物には13世紀の中世土師器がある。

1427号・1428号土坑（ＳＫ1427・ＳＫ1428，第116図）

Ｘ435Ｙ111，ＳＤ1406の南側で検出した土坑である。ＳＫ1427は南北110cm，東西100cmのほぼ正方形の土坑である。壁の立ち上がりは垂直に近く，床面は平坦である。覆土は暗茶褐色土の混じる暗黄褐色土の単層である。遺物には13世紀末～14世紀初頭の中世土師器がある。ＳＫ1428はＳＫ1427の北上面に重複する土坑である。ＳＤ1406より新しい。南北95cm，東西80cmの方形で，深さは62cmである。覆土は黄褐色土の混じる暗茶褐色土で，底は丸い。南端には新しい小穴が切り合っている。遺物は白磁がある。

1430号土坑（ＳＫ1430，第103図）

ＳＫ1403の北東で検出した長方形の土坑である。ＳＫ1430の検出面はＳＫ1403の面から一段下がっており，約40cmの差がある。規模は南北230cm，東西330cm，深さ32cmである。覆土は上層が礫の混じる暗茶褐色粘質土，下層が礫の混じるしまりのない暗茶灰色土である。遺物には中世土師器・白磁があり，時期は13世紀後半である。

1432号土坑（ＳＫ1432，第116図）

ＳＫ1403の北東で検出した楕円形の土坑である。長軸140cm，短軸125cm，深さ47cmである。底は丸く，遺構の肩は南側が高く傾斜している。覆土は黒褐色粘質土が主である。遺物には13世紀の中世土師器がある。

1609号土坑（ＳＫ1609，第107図）

ＳＫ1271・ＳＫ1281とＳＫ1277の間で検出した土坑である。直径85cmの円形，深さ48cmで東側が深くなる。この東側で検出面から約15cmの深さから羽口が出土した。この横からは火を受けた跡のある石も出土している。覆土は茶褐色土に地山が混じる土で，焼土・炭化物の混入は見られない。時期を決定する遺物は出土していないが，周辺の遺構との関係から当期と推定する。

1700号土坑（ＳＫ1700，第118図）

Ｘ399Ｙ109で検出した方形の土坑である。ＳＤ2203の東側は遺構の密度が希薄になる地帯である。南北112cm，東西95cmを測り，深さは35cmである。覆土は第１・２層が茶褐色土で，第３層が暗茶褐色粘質土である。第１層と第２層の間には炭化物の層がある。遺物には14世紀の中世土師器がある。

1701号土坑（ＳＫ1701，第118図）

ＳＫ1700の北で検出した土坑である。規模は南北145cm，東西115cm，深さ30cmである。壁の立ち上がりはしっかりしており，床面は平坦である。覆土は茶褐色土が主体であるが，第３層には炭化物の厚い層がみられる。遺物には14世紀の中世土師器があり，ＳＫ1700と同時期と考える。

1830号土坑（ＳＫ1830，第107図）

ＳＫ1271の南東，Ｘ419Ｙ110で検出した土坑である。平面形は南北295cm，東西245cmの長方形である。南半はいくらか膨らみ，深さも北半が８cmに対し，21cmと深くなるが，覆土に変化は見られず，第１層は炭化粒がわずかに混じる黒褐色土，第２層は黒褐色土に地山土が混じる土である。ほとんど第１層が主体を占め，単層に近い。覆土中からは大小の礫に混じって，中世土師器・珠洲・青磁・白磁が出土した。礫のなかには表面に熱を受けているものもある。

1852号・1854号土坑（ＳＫ1852・ＳＫ1853，第111図）

ＳＫ1283の西で検出した土坑である。ＳＫ1283との切り合いは，不明瞭である。ＳＫ1852は東西に長い楕円形の土坑で，西側が穴状にくぼみ，ＳＫ1853より古い。覆土は上層が茶黒褐色土，下層が黒褐色土で共に礫が混じる。遺物には13世紀～14世紀の中世土師器がある。ＳＫ1853は直径50cm の不整形な円形である。深さは28cm で，覆土は上層が地山土ブロックが混じる茶黒褐色土，下層が黒褐色土である。遺物には14世紀の中世土師器，13世紀の青磁がある。

1857号・1858号・1859号土坑（ＳＫ1857・ＳＫ1858・ＳＫ1859，第108図）

ＳＫ1298の東にある浅い落ち込み状の穴である。ＳＫ1298とは接するのみで切り合いはない。ＳＫ1857が一番新しく，ＳＫ1858とＳＫ1859は平面形のみの違いである。ＳＫ1857は深さ13cm で，覆土は礫・炭化物粒の混じる黒褐色土である。ＳＫ1858・ＳＫ1859の覆土は礫・炭化物粒の混じる黒茶褐色土である。遺物は，ＳＫ1859から14世紀と考える中世土師器が出土している。

1880号・1881号土坑（ＳＫ1880・ＳＫ1881，第119図）

Ｘ423Ｙ110で検出した土坑である。ＳＫ1880は１辺200cm のやや歪んだ正方形である。深さは60cm で，断面形は逆台形状である。覆土は地山と炭化物粒の混じる黒褐色土が主体の土が，３層に分かれてレンズ状に堆積する。床面は砂層となっている。ＳＫ1881はＳＫ1880の北に接する楕円形の土坑である。長軸136cm，東西100cm の規模で，深さは16cm と浅く，床面は平坦ではない。覆土は黒茶褐色土の単層である。遺物はともに中世土師器が出土している。

2205号土坑（ＳＫ2205，第120図，図版74）

Ａ２地区を南北に流れるＳＤ2201の中央部，Ｘ378Ｙ94･95に位置する。長軸205cm，短軸191cm の方形で，深さ49cm である。土坑の上場はＳＤ2201を掘り下げて確認できる。覆土は上層が黒褐色土，中層が黄褐色砂土と灰褐色粘質土との互層，下層が黒褐色粘質土である。遺物は13世紀～14世紀の中世土師器である。

2206号土坑（ＳＫ2206，第120図）

ＳＤ2205の北側，Ｘ379Ｙ93に位置する。ＳＤ2201を掘り下げて，土坑のプランが確認できる。長軸276cm，短軸184cm の長方形で，深さ59cm である。覆土は下層部分しか確認できないが，茶色砂土と灰褐色土である。底には22cm～38cm の石がある。遺物は出土していないが，溝との切り合い関係から，13世紀～14世紀であろう。

2208号土坑（ＳＫ2208，第121図）

Ａ２地区の南西側，ＳＤ2201の西側，ＳＤ2207の北側に位置する。ＳＢ88を切っており，ＳＢ87に伴うと考える。長軸約550cm（推定），短軸238cm の長方形である。深さは５ cm で東側に行くほど浅くなる。覆土は暗茶褐色土の単層である。斜めに横断するＳＤ2215は土坑より古い。遺物は13世紀の中世土師器である。

2211号土坑（ＳＫ2211，第122図，図版75）

Ｘ380Ｙ93，ＳＫ2208に接するように位置する。長軸155cm，短軸133cm の方形で，深さ33cm である。覆土は上層が茶褐色土，下層が暗褐色土で，灰色粘質土や黄灰色粘質土がブロック状に混じる。土坑の北西部分に，完形に近い珠洲四耳壺が横向け状態で出土した。壺内の土には骨等は入っていない。その他の出土遺物は中世土師器である。時期は13世紀前半である。

2216号土坑（ＳＫ2216，第120図，図版74）

ＳＤ2201の西側，Ｘ378･379Ｙ93に位置する。長軸275cm，短軸176cm の長方形で，深さ55cm であ

る。土坑の南部分に，別の土坑が重複している。覆土は茶褐色土や褐色土に，砂質土・炭化物を混じる。遺物は12世紀～13世紀の中世土師器である。

2217号土坑（ＳＫ2217，第120図，図版75）

Ｘ376･377Ｙ88･89に位置する。長軸158cm，短軸132cmの長方形で，深さ25cmである。覆土は茶褐色土（上層）･黒褐色土（下層）である。底には10cm～20cmの石がある。土坑の北西部分はＳＢ88の柱穴によって切られている。遺物は13世紀の中世土師器である。

2218号土坑（ＳＫ2218，第123図）

Ａ２地区の南西側，Ｘ383～385Ｙ86･87に位置する。土坑の西側部分が未調査区なので，規模は不明である。南北セクションから，長さは628cmを測る。深さは40cmである。底は地山土が礫層のため，少し凸凹している。覆土は茶褐色土（上層）･褐色土（下層）で，地山土･炭化物が混じる。遺物は13世紀～14世紀の中世土師器である。

2220号土坑（ＳＫ2220，第124図）

ＳＤ2451の南側，Ｘ389･390Ｙ89･90に位置し，ＳＫ2246を切る。長軸205cm，短軸178cmの方形である。覆土は黒褐色土・茶黒褐色土である。出土遺物は13世紀の中世土師器である。なお，この土坑はこれを覆うようにして検出したＳＢ83に伴う可能性がある。

2221号土坑（ＳＫ2221，第122図）

ＳＤ2451の南側，Ｘ389Ｙ87に位置する。土坑の西側部分が未調査区のため，規模は不明である。南北セクションから，長さ140cmを測る。覆土は黒褐色土で，炭化物・地山土が混じる。遺物には中世土師器・珠洲・スサ入り粘土塊があり，時期は13世紀である。なお，土坑を切るように，近世の土坑ＳＫ2221ｂがある。

2228号土坑（ＳＫ2228，第125図，図版75）

ＳＤ2203の東側，Ｘ369～371Ｙ102･103に位置する。平面形から２基の土坑が確認でき，北の方をＳＫ2228，南の方をＳＫ2228ｂとする。南北セクションを観察すれば，両土坑の覆土は区別できない。両土坑は壁面が直立するように立ち上がり，土坑間には10cm～30cm大の石を置いている。その石が一部崩れたために，石はＳＫ2228ｂの方に多く確認できる。ＳＫ2228は長軸340cm，短軸230cmの長方形で，深さ69cmである。ＳＫ2228ｂは長軸280cm，短軸192cmの長方形で，深さ50cmである。両覆土は茶褐色土で，地山土が混じる。両土坑の遺物には，中世土師器・珠洲・瀬戸・白磁がある。時期は14世紀～15世紀である。なお，土坑周辺の柱穴や土坑の深さから，上屋を持つ竪穴状土坑と考えられる。

2229号土坑（ＳＫ2229，第125図）

ＳＤ2203の東側，Ｘ372Ｙ101に位置する。長軸200cm，短軸132cmの長方形で，深さ24cmである。覆土は黒褐色土で，茶色粘質土がブロック状に混じる。遺物は13世紀～14世紀の中世土師器である。

2246号土坑（ＳＫ2246，第124図）

Ｘ390Ｙ90に位置する。ＳＫ2220に切られているが，長軸120cm，短軸95cmの方形で，深さ５cmである。覆土は黒褐色土である。出土遺物がないので時期不明だが，ＳＫ2220との切り合いから，13世紀以前と考える。

2258号土坑（ＳＫ2258，第125図）

ＳＤ2203の東側，Ｘ375Ｙ104に位置する。長軸175cm，短軸112cmの長方形で，深さ30cmである。覆土は茶褐色土・灰茶褐色土である。出土遺物がないが，その他の遺構との関連から中世前期と考え

たい。

2310号土坑（ＳＫ2310，第124図）

ＳＤ2201の西側，Ｘ390Ｙ94･95に位置する。長軸403cm，短軸343cmの楕円形で，深さ37cmである。覆土は茶褐色土で，部分的に黄褐色土（地山土）が混じる。黒茶褐色土の遺構確認面で，土坑のプランが確認できた。遺物には縄文土器，土師器，中世土師器がある。時期は13世紀～14世紀である。

2452号土坑（ＳＫ2452，第126図，図版76）

Ｘ394Ｙ105･106に位置し，ＳＤ2203に切られる。長軸243cm，短軸206cmの長方形で，深さ50cmである。覆土は茶褐色土で，地山土・焼土・炭化物が一部混じる。遺物は13世紀～14世紀の中世土師器である。

2455号土坑（ＳＫ2455）

ＳＤ2451が屈曲する，Ｘ393･394Ｙ99～101に位置する。東西の幅は明確でないが，東西約500cm(推定)，南北210cmの長方形で，深さ43cmである。ＳＤ2451を通るセクションから，ＳＤ2451より古い。覆土は茶褐色土，黒褐色土，灰茶褐色砂質土である。遺物には中世土師器・白磁・青磁がある。時期は13世紀～14世紀である。

2456号土坑（ＳＫ2456，第127図，図版76・77）

Ｘ400Ｙ97に位置し，長軸291cm，短軸248cmの長方形である。深さは59cmで，底の一部が深くなっている。覆土は黒褐色土（上層），黒褐色土（中層），茶褐色土（下層）である。中層には炭化物が混じる。遺物には中世土師器・青磁がある。完形に近い中世土師器が，上層から下層まで，約60点程出土している。時期は13世紀後半～14世紀初めと考える。

2457号土坑（ＳＫ2457，第126図，図版76）

Ａ２地区の北中央部，Ｘ397Ｙ100に位置する。長軸200cm，短軸156cmの長方形である。底は二段になっていて，中央に方形の穴（95cm×95cm）がある。深さは浅い所で20cm，中央で30cmを測る。覆土は茶褐色土（上層），黒褐色土（中層），褐色土（下層）で，中・下層には炭化物が混じる。遺物には13世紀～14世紀の中世土師器があり，完形品が５点出土している。

2459号土坑（ＳＫ2459，第126図）

Ｘ401Ｙ101に位置する。長軸298cm，短軸161cmの長方形で，深さ28cmである。覆土は茶褐色土，褐色土である。遺物は13世紀～14世紀の中世土師器である。

2460号土坑（ＳＫ2460，第128図，図版78）

Ｘ401･402Ｙ89･90に位置し，長軸408cm，短軸278cmの長方形である。深さは51cmである。覆土は黒褐色土で，地山土・炭化物が混じる。土坑の西半分は少し段になっている。遺物には中世土師器・白磁，砥石がある。時期は13世紀後半～14世紀である。

2461号土坑（ＳＫ2461，第129図，図版78）

Ａ２地区の北西部，Ｘ403･404Ｙ90･91に位置する。長軸229cm，短軸210cmの方形で，深さ62cm。覆土の上層はＳＫ2462に削平される。下層は黒褐色土で，地山土・炭化物が混じる。一部，茶褐色土がブロック状に混じる。遺物には中世土師器・珠洲，砥石がある。時期は13世紀～14世紀である。

2462号土坑（ＳＫ2462，第129図）

Ｘ403～405Ｙ90に位置し，ＳＫ2461を切る。形状は不整形だが，一辺513cmを測る。覆土は黒茶褐色土で，一部，灰黒褐色土が混じる。遺物には中世土師器・珠洲・瀬戸，砥石がある。時期は14世紀である。

2464号土坑（ＳＫ2464，第130図）

Ａ２地区の北西部分，Ｘ408・409Ｙ88・89に位置する。南北は440cm，東西は現存260cmである。西側は未調査区だが，平面形は方形であろうか。土坑の東部分は浅い段になっている。覆土は黒褐色土がレンズ状に堆積し，地山土・焼土・炭化物がわずかに混じる。出土遺物には中世土師器・珠洲・白磁がある。中世土師器は上層から下層まで数多く出土し，特に，東側の上層からの出土が多い。時期は13世紀～14世紀である。

2466号土坑（ＳＫ2466，第130図）

ＳＫ2464の南側，Ｘ410・411Ｙ89に位置する。長軸256cm，短軸192cmの不整形で，深さ45cmである。土坑の南西部分は他の遺構が重複している。覆土は茶褐色土で，地山土が混じる。遺物には中世土師器・八尾・珠洲がある。時期は13世紀～14世紀である。

2470号土坑（ＳＫ2470，第129図）

Ｘ404Ｙ88・89に位置し，ＳＫ2462に切られる。西側は未発掘区のため，長さは不明である。短軸153cm，深さ50cmである。覆土は，茶褐色土，黒褐色土である。地山土・炭化物が混じる。遺物には中世土師器・珠洲・瀬戸・青磁がある。時期は13世紀～14世紀である。

2471号土坑（ＳＫ2471，第128図）

Ｘ404Ｙ91に位置し，ＳＫ2495に切られる。長軸175cm，短軸150cmの方形で，深さ９cmである。覆土は茶褐色土で，地山土がブロック状に混じる。土坑の底には柱穴がある。深さ46cm，27cm×23cmの円形のものと，深さ18cm，24cm×22cmの円形のものである。遺物には13世紀～14世紀の中世土師器がある。なお，土坑の北西部分を，柱穴（44cm×35cmの円形，深さ20cm）が切っている。

2473号土坑（ＳＫ2473，第128図，図版73）

Ｘ403Ｙ95・96に位置し，長軸215cm，短軸98cmの長方形である。北側で柱穴と接する。覆土は黒茶褐色土，茶色土で，炭化物が混じる。中世土師器が出土しており，時期は13世紀である。

2480号土坑（ＳＫ2480，第126図）

Ｘ408Ｙ101に位置する。長軸137cm，短軸98cmの長方形で，深さ16cmである。土坑の底中央部に，25cm×20cmの穴（深さ26cm）がある。覆土は暗灰色粘質土，暗褐色粘質土である。中央の円形の穴から中世土師器が出土している。

2482号土坑（ＳＫ2482，第131図）

Ｘ411Ｙ100に位置し，長軸117cm，短軸100cmの楕円形で，深さ37cmである。覆土は小礫・砂利が一杯詰まっている茶色土である。遺物は14世紀の中世土師器である。

2483号土坑（ＳＫ2483，第131図）

Ａ２地区の北中央部，Ｘ409Ｙ100に位置し，ＳＫ2658を切る。長軸98cm，短軸85cmの方形で，深さ57cmである。覆土は茶褐色土，黄褐色土（最下層）である。遺物には縄文土器，中世土師器・白磁がある。時期は13世紀～14世紀である。

2486号土坑（ＳＫ2486，第131図，図版79）

Ｘ409・410Ｙ97・98に位置し，長軸320cm，短軸314cmの不整方形である。土坑の北部分は深さ57cm，南部分は73cmと深い。覆土は茶褐色土で，地山土が混じる。特に５cm～30cm大の石は，中層から上層に多く入っており，南半分に石が多い。遺物には，中世土師器・瀬戸・白磁・青磁・青白磁がある。時期は13世紀～14世紀である。

2489号土坑（ＳＫ2489，第132図，図版79）

X412Y94に位置し，長軸197cm，短軸180cmの方形で，深さ50cmである。覆土は茶褐色土，暗褐色土で，地山土・炭化物が混じる。遺物には中世土師器・珠洲・白磁・青磁，砥石がある。中世土師器の完形品が多い。時期は13世紀～14世紀である。

2490号土坑（ＳＫ2490，第126図）

X404Y94に位置する。長軸123cm，短軸93cmの長方形で，深さ10cmである。覆土は茶褐色土(上層)，黒褐色土（中層），褐色土（下層）で，中・下層には炭化物が混じる。遺物は14世紀の中世土師器である。なお，土坑はＳＢ11の中にあり，建物に伴うものと考える。

2492号土坑（ＳＫ2492，第132図，図版80）

X411･412Y90･91に位置し，長軸358cm，短軸268cmの長方形で，深さ36cmである。覆土は茶褐色土で，10cm～45cm大の礫が混じる。遺物には中世土師器・白磁がある。時期は13世紀～14世紀である。東側にＳＢ06があり，建物に伴うとも考えられる。

2495号土坑（ＳＫ2495，第128図）

X404Y91に位置し，ＳＫ2471を切る。長軸123cm，短軸122cmの方形で，深さ19cmである。覆土は焼土・炭化物が混じる茶褐色土である。遺物には14世紀の中世土師器がある。

3009号土坑（ＳＫ3009，第133図，図版80）

X352･353Y104･105に位置する。ＳＫ3010に切られているため，全長は不明であるが，現長軸は東西セクションで250cm確認できる。幅190cm，深さ34cmである。覆土は茶褐色土で，水平に堆積している。遺物には，土師器・須恵器，中世土師器，鉄滓がある。時期は13世紀～14世紀である。

3010号土坑（ＳＫ3010，第133図）

ＳＫ3009を切る，幅283cm，深さ45cmの土坑である。土坑は東部分の未発掘区に延びているが，現長軸は420cmである。覆土は茶褐色土で，地山土・炭粒が混じる。遺物には中世土師器・珠洲，鉄滓がある。時期は13世紀～14世紀である。

3013号土坑（ＳＫ3013，第134図）

Ａ３地区の北西部分，X367･368Y86･87に位置する。長軸185cm，短軸185cmの方形で，深さ20cmである。覆土は茶灰褐色粘質土，灰褐色粘質土で，酸化鉄を含む。遺物には中世土師器・八尾・青磁がある。時期は13世紀後半～14世紀である。

3019号土坑（ＳＫ3019，第134図，図版80）

X335･356Y98に位置する，長軸205cm，短軸168cmの長方形で，深さ46cmの土坑である。覆土は茶褐色土（上層），黒茶褐色土（下層）である。上層には地山土・炭化物・焼土・小礫が混じる。遺物には中世土師器がある。時期は13世紀～14世紀である。この土坑はＳＢ08に伴うと考える。

3020号土坑（ＳＫ3020，第134図，図版82）

ＳＫ3019の南西側，X355Y97に位置する，長軸172cm，短軸83cmの長方形で，深さ24cmの土坑である。覆土は茶褐色土，黒茶褐色土である。遺物には13世紀～14世紀の中世土師器がある。

3021号土坑（ＳＫ3021，第134図，図版82）

X352Y100に位置する，長軸137cm，短軸125cmの円形の土坑である。ＳＢ16に伴う竪穴状土坑である。深さ18cmで，浅く掘り窪めている。覆土は黒褐色土である。遺物は13世紀の中世土師器である。

3022号土坑（ＳＫ3022，第134図）

X350･351Y104に位置する，長軸133cm，短軸98cmの楕円形で，深さ25cmの土坑である。覆土は黒褐色土，茶黒褐色土である。遺物は13世紀～14世紀の中世土師器である。ＳＢ20に伴う土坑である。

3023号土坑（ＳＫ3023，第134図）

Ｘ352Ｙ102に位置する，長軸105cm，短軸76cmの長方形で，深さ５cmである。土坑にはＳＢ107の柱穴が重複しているが，前後関係は不明である。覆土は黒茶褐色土である。遺物は13世紀～14世紀の中世土師器である。

3025号土坑（ＳＫ3025，第134図）

Ｘ350・351Ｙ99・100に位置する。長軸203cm，短軸170cm（推定），深さ10cmである。南半分のプランは不明瞭だが，平面は方形と考える。ＳＢ15に伴う竪穴状土坑と考える。覆土は地山土混じりの茶褐色土である。南北セクションの観察によれば，土坑は14世紀以降のＳＢ110の柱穴を切っている。遺物は中世土師器である。時期は14世紀以降である。

3026号土坑（ＳＫ3026，第135図）

Ｘ363・364Ｙ106・107，ＳＤ2203の北側に位置する。２基の土坑が重なっている。南北セクションの観察から，長軸145cm，短軸140cmの方形で，深さ８cmの土坑（ＳＫ3026）がある。もう１基は長軸263cm，短軸197cmの長方形で，深さ23cmの土坑（ＳＫ3026ｂ）である。ＳＫ3026は，ＳＫ3026ｂを切る。覆土は共に茶褐色土で，地山土が混じる。遺物には縄文土器，須恵器，中世土師器・白磁，フイゴの羽口がある。時期は13世紀である。

3028号土坑（ＳＫ3028，第135図，図版82）

ＳＫ3026のすぐ西側に接し，ＳＫ3051を切る。長軸223cm，短軸147cmの長方形で，深さ11cmである。覆土は明茶褐色土で，地山土が混じる。遺物は中世土師器である。時期は13世紀である。

3051号土坑（ＳＫ3051，第135図，図版82）

ＳＫ3028に切られる，長軸254cm，短軸172cm，深さ22cmを測る長方形の土坑である。土坑の底には長さ176cm，幅26cm，深さ10cmの溝がある。覆土は地山土混じりの茶褐色土である。遺物には縄文土器，中世土師器・青磁，鉄滓がある。時期は12世紀後半～13世紀である。

3409号土坑（ＳＫ3409）

Ａ３地区の南中央部，Ｘ312・314Ｙ93・98に位置する。東西930cmで，南部分は暗渠のため切られているが，南北の現存長は330cmである。平面形は長方形である。土坑の北部分は深さ10cmで，南部分は深さ20cmと少し深い。底面は地山が礫層のため，少し凹凸に窪んでいる。覆土は黒茶褐色土で，小砂利が混じる。遺物は中世土師器・珠洲・白磁・青花で，時期は13世紀～14世紀である。土坑の東部分に柱根が出土しているが，建物は復原できない。その柱穴より古いのが，ＳＥ3420である。また，ＳＥ3418・ＳＫ3549は土坑を切る。土坑の底中央部には近世のＳＫ3549がある。

3456号土坑（ＳＫ3456，第136図，図版83）

ＳＤ3425の南側，Ｘ327・328Ｙ87・88に位置する。長軸154cm，短軸140cmの方形で，深さ30cmである。覆土は茶褐色土（上層），褐色粘質土（下層）で，共に炭化物が混じる。底面から完形に近い中世土師器が出土した。時期は12世紀後半である。

3470号土坑（ＳＫ3470）

ＳＫ3528の東側，Ｘ333Ｙ98・99に位置する。長軸115cm，短軸93cmの長方形で，深さ15cmである。覆土は茶褐色土，茶褐色粘質土である。遺物には14世紀の中世土師器がある。なお，土坑の南側に幅25cmの溝があるが，土坑との切り合い関係は不明である。また，ＳＢ35の柱穴は，土坑に切られる。

3483号土坑（ＳＫ3483，第137図，図版83）

ＳＤ3425の区画内，Ｘ328～330Ｙ96～98に位置する。ｃ－ｃ'断面図から，２基の土坑が確認できる。

ＳＫ3484に切られる土坑（ＳＫ3483）と，ＳＫ3483に切られている土坑（ＳＫ3483ｂ）である。ＳＫ3483は，長軸240cm，短軸200cmの円形で，深さ25cmである。覆土は茶褐色土，茶褐色粘質土で，地山土・酸化鉄が混じる。ＳＫ3483ｂは，長軸430cm，短軸250cmの長方形で，深さ20cmである。ＳＥ3529・ＳＫ3455にも切られる。覆土は茶褐色土，灰褐色土，灰褐色粘質土である。遺物は中世土師器・八尾・珠洲・越前で，時期は14世紀である。

3484号土坑（ＳＫ3484，第137図）

ＳＫ3483を切る，長軸130cm，短軸105cmの円形で，深さ10cmである。覆土は茶褐色土で，酸化鉄が縞状に含まれる。遺物には縄文土器，中世土師器がある。

3485号土坑（ＳＫ3485，第136図，図版84）

ＳＤ3425の南側，Ｘ325～328Ｙ82に位置する。現況は南北690cm，東西150cmの三角形で，深さ45cmである。土坑が未調査区に掛かるため，全形は不明であるが，細長い溝状になるのであろう。覆土は灰褐色土で，炭化物・砂・酸化鉄が混じる。遺物には中世土師器・八尾・珠洲・越前・白磁・青磁，銅製皿・宋銭（景徳元宝）がある。時期は14世紀～15世紀である。なお，土坑を横断するように，暗渠が東西方向に２条（板組と粗朶のもの）走っている。

3488号土坑（ＳＫ3488，第137図）

ＳＫ3484に接する南北152cm，東西120cmの不整形で，深さ22cmである。ＳＢ37に切られる。覆土は茶褐色土（上層），黒褐色粘質土（下層）である。上層は地山土が霜降り状に混じる。遺物は中世土師器である。時期は13世紀～14世紀である。

3489号土坑（ＳＫ3489，第138図，図版83）

ＳＤ3425の区画内，ＳＫ3483の北側に位置する。長軸255cm，短軸224cmの方形で，深さ30cmである。覆土は暗褐色土，暗茶褐色土，黒褐色粘質土である。遺物には縄文土器，中世土師器・珠洲がある。時期は13世紀～14世紀である。なお，縄文土器の出土は，土坑が中世の遺構検出面の下にある縄文時代の包含層を削平したためである。

3496号土坑（ＳＫ3496，第138図，図版83）

ＳＫ3489の東側，Ｘ331・332Ｙ95・96に位置する。長軸306cm，短軸300cmの円形で，深さ25cmである。覆土は黒褐色土で，炭粒・酸化鉄が混じる。ｄ－ｄ’断面図の観察から，土坑はＳＥ3500に切られる。遺物には中世土師器・珠洲がある。時期は13世紀である。ＳＢ32の柱穴に切られる。

3524号土坑（ＳＫ3524，第139図，図版84）

ＳＤ3425の区画内，Ｘ329・330Ｙ101・102に位置する。長軸320cm，短軸250cmの方形で，深さ16cmである。ＳＢ37の柱穴に切られる。覆土は黒褐色土・茶褐色土（上層），黄褐色粘質土（下層）である。上層は地山土が霜降り状に混じる。遺物には中世土師器・瀬戸がある。時期は13世紀～14世紀である。

3527号土坑（ＳＫ3527）

ＳＤ3425の区画内，Ｘ333・334Ｙ96～98に位置し，ＳＢ127を切る。長軸254cm，短軸233cmの不整方形で，深さ25cmである。土坑の南部分はＳＥ3503に切られるが，ＳＢ42の柱穴は土坑を切る。覆土は茶褐色土（上層），暗茶褐色土（下層）である。遺物には中世土師器・珠洲・越前・青磁がある。時期は14世紀～15世紀である。

3528号土坑（ＳＫ3528，第145図，図版74）

ＳＤ3425の区画内，Ｘ333・334Ｙ96～98に位置する。長軸333cm，短軸256cmの長方形で，深さ45cmである。ＳＢ42に伴う土坑と考える。覆土は褐色土，黒茶褐色土で，酸化鉄を含む。遺物には中世土

師器・八尾・珠洲・瀬戸・白磁・青磁がある。時期は14世紀～15世紀である。

3553号土坑（ＳＫ3553，第139図）

ＳＫ3524の北側，ＳＤ3425の区画内に位置する。長軸225cm，短軸187cmの不整楕円形の土坑である。深さは東側で35cm，西側では10cm～15cmと浅くなる。覆土は茶褐色土(上層)，黄褐色土(中層)，黒褐色粘質土（下層）である。遺物には中世土師器・珠洲がある。時期は13世紀～14世紀である。

3597号土坑（ＳＫ3597，第141図，図版85）

ＳＤ3425の区画内，Ｘ333･334Ｙ96～98に位置する。長軸365cm，短軸200cmの長方形で，深さ17cmである。覆土は茶褐色土である。下層は炭が多く混じる。土坑の上層には地山土が多く混じり，貼床面を形成している。遺物には中世土師器・珠洲・青白磁がある。遺物は上層や下層からも出土しており，特に，下層から羽釜が出土している。南北断面図の観察から，土坑の北側は別の土坑に切られる。

3686号土坑（ＳＫ3686，第140図）

ＳＤ3425の区画内，Ｘ339･340Ｙ91･92に位置する。長軸233cm，短軸133cmの長方形で，深さ15cmである。覆土は茶褐色土で，地山土・炭粒がわずかに混じる。遺物には中世土師器，スサ入り粘土塊がある。時期は14世紀～15世紀である。

3707号土坑（ＳＫ3707，第142図）

Ｘ337･338Ｙ97～99に位置し，ＳＫ3691に切られ，ＳＫ3779を切る。現況は長軸240cm，短軸240cmの方形だが，本来は土坑の壁面がもう少し南側に延び，平面形は長方形であろう。覆土は暗茶褐色土で，地山土が多く混じる。遺物には中世土師器・八尾・珠洲・白磁，砥石，鉄滓がある。時期は14世紀～15世紀である。

3748号土坑（ＳＫ3748，第143図）

ＳＤ3425の区画内，Ｘ341･342Ｙ90に位置する，長軸205cm，短軸166cmの隅丸方形で，深さ47cmである。覆土は暗茶褐色土（上層），黒褐色土（中層），黒褐色粘質土（下層）で，それぞれ地山土・酸化鉄が混じり，水平に堆積する。遺物には中世土師器がある。時期は14世紀～15世紀である。

3750号土坑（ＳＫ3750，第141図，図版86）

ＳＤ3425の区画内，Ｘ336～338Ｙ97～100に位置する。長軸447cm，短軸360cmの長方形で，深さ51cmである。地山面が礫層のため，土坑の底は凸凹している。底中央にある小さな穴は底面で確認でき，少ししまりのない黒褐色土が入っている。覆土は黒褐色土，(暗)茶褐色土で，地山土がブロック状に混じる。土坑の東側の覆土には，５cm～45cm大の石が多く入り，南側のそれには砂利を含んだ茶褐色土が多い。土坑の覆土の一部は，ＳＫ3751に切られている。土坑の西側及び南側は地山土・砂利を含んだ土，底面は炭化物を含んだ土が多くある。後者の土は，底面に藁状のものを敷いたとも考えられる。遺物には中世土師器・八尾・珠洲・青磁，フイゴの羽口，石鉢，鍛冶滓が出土している。時期は14世紀～15世紀である。土坑周辺に柱穴が少なく，建物には復元できなかったが，上屋を持つ竪穴状土坑と考える。

3751号土坑（ＳＫ3751，第141図）

Ｘ338･339Ｙ97～99に位置し，ＳＫ3750に切られる。長軸310cm，短軸310cmの方形で，深さ57cmである。土坑の底は礫層のため凸凹している。覆土は茶褐色砂利土（上層），暗褐色土（下層）である。下層は地山土と茶褐色土との互層で，貼床と考える。遺物には中世土師器・八尾・珠洲・越前・青磁がある。時期は14世紀～15世紀である。この土坑もＳＫ3750と同様の性格をもつと考える。

3769号土坑（ＳＫ3769，第140図）

X403Y93で，ＳＤ3425を切る。長軸195cm，短軸170cm（推定）の円形で，深さ22cmである。覆土は暗茶褐色土であり，上層には地山土が霜降り状に混じる。遺物には中世土師器・珠洲・羽釜がある。時期は14世紀～15世紀である。

3771号土坑（ＳＫ3771，第143図，図版87）

X348・349Y88～90に位置する，長軸594cm，短軸220cmの細長い長方形で，深さ15cmの土坑である。土坑の底には５cm～15cm大の石が残っている。覆土は，黒茶褐色土で，地山土・炭化物が混じる。遺物は中世土師器・珠洲で，時期は13世紀である。

3772号土坑（ＳＫ3772，第144図）

ＳＤ3425の北側，X347Y98に位置する。長軸125cm，短軸67cmの長方形で，深さ７cmである。ＳＢ13の柱穴より新しい。覆土は黒褐色土で，地山土・炭化物が混じる。遺物には13世紀の中世土師器がある。

3773号土坑（ＳＫ3773，第144図，図版87）

X346Y99に位置する，長軸205cm，短軸110cmの長方形で，深さ12cmの土坑である。覆土は褐色土で，地山土・炭化物が混じる。ＳＫ3776を切っている。遺物には，13世紀の中世土師器がある。

3774号土坑（ＳＫ3774，第144図，図版87）

ＳＫ3773の北側に位置する，長軸434cm，短軸105cmの細長い長方形の土坑である。深さは北側で52cm，南側では10cmと浅く段になる。覆土は褐色土（上層），茶褐色土（中層），黒褐色土（下層）で，地山土・炭化物が混じる。遺物には中世土師器・珠洲がある。時期は13世紀～14世紀である。

4008号土坑（ＳＫ4008，第140図，図版85）

X347Y107に位置する。南北は176cm，東西は130cmである。未調査区に掛かるが，形状は方形であろう。深さは11cmと浅く，10cm～30cm大の石が東側に多い。覆土は茶褐色土の単層で，炭化物・地山土が霜降り状に混じる。遺物は14世紀～15世紀の中世土師器である。

Ｂ地区

4322号土坑（ＳＫ4322，第146図）

X303Y88で検出した不整方形の土坑である。東のＳＥ4329には切り合いで勝つ。規模は南北140cm，東西145cm，深さ42cmである。覆土は上層が暗茶褐色粘質土，下層が焦茶色粘質土である。検出面から約20cmの深さの下層からしゃもじが出土している。この他に14世紀の中世土師器が出土している。

4345号土坑（ＳＫ4345，第145図）

X308Y95で検出した浅い不整形の落ち込み状の土坑である。南側は橋本川に切られる。検出した部分の東西幅は455cmである。深さは７cmで床面は平坦である。覆土は茶色粘質土の単層である。遺物は13世紀の珠洲が出土している。遺物で当期としたが，以降に下る可能性もある。

4360号土坑（ＳＫ4360，第146図）

X304Y82で検出した楕円形の土坑である。南北315cm，東西230cm，深さ13cmで，ＳＫ4328・ＳＫ4361には切り合いで負ける。壁の立ち上がりは緩やかで，床面はほぼ平坦である。覆土は主に灰黄色粘質土ブロック・小礫が混じる茶褐色粘質土である。

4479号土坑（ＳＫ4479，第146図）

X311Y85で検出した不整形の土坑である。規模は南北202cm，東西170cm，深さは70cm，底は丸みを帯びる。覆土は主に黒褐色粘質土である。遺物は加工木のみであるが，覆土から当期と判断した。

4613号土坑（ＳＫ4613）

X288～290Y95・96で検出した長方形の土坑である。規模は南北330cm，東西170cmの長方形で，深さは約12cm，床面は平坦ではない。覆土は砂礫の混じる暗茶褐色土である。遺物は13・14世紀の中世土師器・白磁，18世紀の伊万里が出土している。南側のＳＤ4624との切り合いが不明瞭な点があり，時期は下る可能性がある。

4683号土坑（ＳＫ4683）

X292Y80で検出した円形の土坑である。直径約60cm，深さ約20cmで，西側のＳＫ4716には切り合いで負ける。覆土は暗灰色粘質土の単層である。遺物は13世紀～14世紀の中世土師器がある。

4804号土坑（ＳＫ4804）

X269・270Y85で検出した不整形の浅い落ち込み状の土坑である。Ｂ地区南端で部分的に検出したが，Ｂ２地区との境に攪乱が入ったため，つながりは不明である。覆土は肌色粘土ブロックが混じる黒褐色土の単層である。遺物は14世紀の珠洲がある。しかし，北東に隣接するＳＫ4803はこの土坑と覆土がよく似ており，15世紀の中世土師器・珠洲，羽口が出土していることから，この遺構の時期も15世紀まで下る可能性がある。

4807号土坑（ＳＫ4807）

この地区では比較的遺構の残りの良い町道下で検出した長方形の土坑で，ＳＢ142に伴う。東側は一段下がっている。規模は南北428cm，東西380cmで，特に北壁の立ち上がりはしっかりしており，床面は平坦である。覆土は上層に一部暗褐色粘質土，中層に黒褐色粘質土，一部下層に暗青灰色粘質土が混じる黒褐色粘質土である。遺物には13世紀～14世紀の中世土師器がある。

（宮田進一　島田美佐子）

5　その他

ここでは，土坑の中でも特殊な性格をもつと考えるものを記載する。土壙墓１基，供養関連の遺構１基，集石土坑２基，石組土坑１基，畝状土坑１基がある。土壙墓，供養関連の遺構以外のものは，性格については明らかではない。なお，規模・出土遺物などについては，第７表土坑（中世前期）一覧で合わせて掲載している。

土壙墓

1199号土壙墓（ＳＺ1199，第147図，図版88）

Ｘ472Ｙ98，ＳＤ302の西側で検出した長軸185cm，短軸80cm，深さ30cmの長方形の掘形をもつ。木棺の痕跡は見られないが，副葬品の出土状況から木棺墓であったと推定できる。人骨は残っておらず，土坑内の北端の検出面から５cm～10cmの深さで中世土師器の大皿１枚と小皿４枚を検出した。中世土師器はすべて完形品で，小皿４枚の中央に大皿を配するという形で置かれている。これらは一様に南に向かって傾いた状態で整然と出土していることから，一辺約25cm内外の折敷状のものに載せて棺の上に置かれてあった可能性がある。覆土は北から南に向かっての堆積の流れが見られ，上層が暗茶褐色土，下層が暗黄茶褐色土で，地山の土と大きな違いは見られない。土坑の主軸方向はほぼ真北を示し，遺体は北枕であったと推定される。副葬品の中世土師器は13世紀初めの時期のものである。ＳＤ302の東側には同時期の建物が検出されており，土壙墓がＳＤ302と同時期の自然河川ＳＤ701との間に築かれたことからＳＤ302が居住空間との一種の結界となっていた模様である。

供養関連遺構

4483号土坑（ＳＫ4483，第147図，図版89）

Ｘ309Ｙ83，ＳＤ3404の西肩に重複してその下層から検出した不整方形の土坑である。南北105cm，東西120cm，深さ45cmを測る。覆土は上層が茶褐色粘質土，暗茶褐色粘質土，下層が黒褐色粘質土で，上層には砂礫が混じる。下層からは多量の中世土師器と木製品が出土した。木製品には板塔婆，柄，箸がある。板塔婆は両端を三角形に削り出した形をしており，両面には梵字が墨書されていた。箸も祭祀の場において結界を示す斎串の役割を果たすことがある。中世土師器の出土量も周囲の他の土坑に比べて群を抜いて多く，この土坑で何らかの供養関連の祭祀を行ったものであろう。梵字の解読によってその性格を知ることは可能となるはずである。時期は中世土師器から13世紀である。

集石遺構・石組遺構

2477号集石遺構（ＳＸ2477，第151図）

Ａ２地区の北中央部，Ｘ412Ｙ98に位置する。長軸120cm，短軸104cmの長方形で，深さ29cmである。１cm～15cm大の小石が，土坑全体に入っている。現状では，石を半分はずして図化した。石と石の間には，茶褐色土が入っている。床面は平坦である。後世の混入品と考えられる唐津が出土している。中世の遺物は出土していないが，ＳＸ2972との関連から，この土坑を13世紀～14世紀と考える。

2972号集石遺構（ＳＸ2972，第151図，図版89）

Ａ２地区の北中央部，Ｘ410Ｙ98・99に位置する。長軸350cm，短軸130cm～172cmの不整形で，深さ20cmである。土坑は４基に分れると考えられるが，断面では確認できなかった。２cm～18cm大の小石が，土坑全体を覆っている。現状では，ＳＸ2477と同様，石を半分はずして図化した。石と石の間には，茶褐色土・地山土・炭粒が混じる。石の下から，２基の穴が確認できた。床面は平坦で，壁は緩やかに立ち上がる。遺物は中世土師器である。小破片だが，時期は13世紀～14世紀である。

2458号石組遺構（ＳＸ2458，第148・149図，図版90）

Ａ２地区の中央西部，Ｘ399・400Ｙ93に位置する。長軸228cm，短軸160cmの長方形で，深さ62cmである。底には30cm～60cm大の河原石を敷き，四面の壁には，河原石（30cm～50cm）を二段に積む。内法は長軸167cm×短軸105cmである。外に面している石は，火を受けて赤い。覆土は茶黒褐色土，黒褐色土で，中層に炭が混じる。掘形の裏込め土は茶褐色土で，底だけ茶褐色砂質土である。遺物は中世土師器である。完形品もあるが，わずかな量である。時期は13世紀後半～14世紀初めである。骨などは検出しなかった。遺構がＳＢ13の中に位置しているため，建物と関連して考えたい。

畝状遺構

3011号畝状遺構（ＳＸ3011，第150図，図版81）

ＳＤ3005の南側，Ｘ361～364Ｙ91～95に位置する。長軸8.0m，短軸7.4mの長方形の範囲に，細長い畝状の溝が，東西に35条，南北に６条の計41条連なっている。溝間の両端は，西側で7.8m，東側で７ｍである。東西方向の溝は，１条だけのものが4条で，東・西に別れるものが，北から３条・３条，６条・７条，３条・４条，２条・３条ある。後者の溝の間に前者の溝が入っている。前者の１条溝の長さは，5.7m～6.0mで，後者のものは0.5m～４ｍである。両者の溝の幅・深さは似る。溝の幅は22cm～62cmで，30cm～40cmのものが多い。深さは６cm～38cmで，20cm～30cmのものが多い。南北方向の溝は東西方向のそれを切っている。溝の長さは3.8m～7.2mである。西側の３条が長く，東側の２条が短い。溝の幅は28cm～58cmで，30cm～40cmのものが多い。深さは12cm～39cmで，20cm～30cmのものが多い。溝の底は丸く，覆土は茶褐色土である。上層は地山土が縞状に混じるものが多い。下層は地山土が混じらない黒茶褐色土が多い。木の枝等の痕跡は確認できなかった。遺物には中世土師器・珠洲・白磁・青磁がある。時期は13世紀～14世紀である。なお，ＳＢ98の柱穴は，この遺構より古い。

（宮田進一　島田美佐子）

遺構番号	整理番号	地区	平面形	規模；長	規模；短	規模；深	覆土	出土遺物	備考	時期
ＳＫ06	ＳＫ06	Ａ	円形	104	95	11	黒褐色土	－		
ＳＫ07	ＳＫ07	Ａ	楕円形	95	76	28	褐色土混小礫	－		
ＳＫ08	ＳＫ08	Ａ	楕円形	185	70	22	黒褐色粘質土	－		
ＳＫ162	ＳＫ162	Ａ	楕円形	150	80	39	暗灰褐色粘質土	－		
ＳＫ183	ＳＫ183	Ａ	方形	115	72	18	－	－		
ＳＫ188	ＳＫ188	Ａ	楕円形	285	80	36	茶褐色粘質土	－		
ＳＫ303	ＳＫ303	Ａ	方形	420	340	26	褐色粘質土	中世土師器・珠洲・白磁・青磁		12Ｃ後半～13Ｃ前半
ＳＫ304	ＳＫ304	Ａ	円形？	310	－	17	褐色粘質土	中世土師器・珠洲		13Ｃ
ＳＫ305	ＳＫ305	Ａ	不整形	112	96	46	黒褐色粘質土	土師器・中世土師器		12Ｃ
ＳＫ306	ＳＫ306	Ａ	円形	100	96	17	暗褐色粘質土	中世土師器・珠洲		12Ｃ後半～13Ｃ初
ＳＫ307	ＳＫ307	Ａ	円形	84	82	34	暗褐色粘質土	中世土師器・珠洲		12Ｃ後半～13Ｃ初
ＳＫ308	ＳＫ308	Ａ	不整形	200	150	15	－	－		
ＳＫ309	ＳＫ309	Ａ	円形	398	314	64	暗褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越前・白磁		12Ｃ中
ＳＫ760	ＳＫ60	Ａ１	不整方形	390	367	30	暗茶褐色土	中世土師器・八尾・珠洲・瓷器系・白磁・砥石		12～13Ｃ前半
ＳＫ761	ＳＫ61	Ａ１	方形	155	58	16	茶褐色土他	－		
ＳＫ762	ＳＫ62	Ａ１	方形	188	155	25	暗茶褐色粘質土	中世土師器		13Ｃ
ＳＫ763	ＳＫ63	Ａ１	－	－	－	20	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲		13Ｃ
ＳＫ770	ＳＫ70	Ａ１	－	－	－	－	暗茶褐色粘質土	中世土師器		13Ｃ前半
ＳＫ773	ＳＫ73	Ａ１	方形	435	345	32	暗茶褐色粘質土	須恵器・緑釉・中世土師器・珠洲・白磁・青磁		12Ｃ後半～13・14Ｃ
ＳＫ781	ＳＫ81	Ａ１	方形	128	83	19	暗茶褐色粘質土	中世土師器		13Ｃ
ＳＫ783	ＳＫ83	Ａ１	方形	780	－	40	暗茶褐色砂礫土	須恵器・中世土師器・珠洲・越前・白磁・青磁		13～14Ｃ
ＳＫ784	ＳＫ84	Ａ１	楕円形	245	210	67	暗茶褐色粘質土	須恵器・土師器・中世土師器		9～10Ｃ・13Ｃ
ＳＫ787	ＳＫ87	Ａ１	方形	290	170	12	黒褐色土	中世土師器		13Ｃ
ＳＫ793	ＳＫ93	Ａ１	楕円形	88	47	25	暗茶褐色土	中世土師器		13Ｃ
ＳＫ796	ＳＫ96	Ａ１	方形	110	90	7	－	中世土師器		13Ｃ
ＳＫ804	ＳＫ104	Ａ１	方形	95	56	54	暗茶褐色土	中世土師器		13Ｃ
ＳＫ831	ＳＫ131	Ａ１	方形	110	100	62	暗茶褐色土	中世土師器		13Ｃ
ＳＫ839	ＳＫ139	Ａ１	方形	200	195	45	茶褐色粘質土	須恵器・中世土師器・珠洲・白磁		12～13Ｃ初
ＳＫ874	ＳＫ174	Ａ１	方形	－	－	45	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲		12Ｃ後半～13Ｃ前半
ＳＫ876	ＳＫ176	Ａ１	方形	290	180	37	暗茶褐色粘質土	中世土師器		13Ｃ？
ＳＫ913	ＳＫ213	Ａ１	楕円形	277	220	48	暗茶褐色粘質土	中世土師器・白磁		12Ｃ後半～13Ｃ初
ＳＫ920	ＳＫ220	Ａ１	楕円形	160	105	29	茶褐色粘質土	中世土師器		13Ｃ
ＳＫ960	ＳＫ260	Ａ１	方形	110	54	5	－	中世土師器		13Ｃ
ＳＫ971	ＳＫ271	Ａ１	方形	107	75	28	暗茶褐色土	中世土師器		13Ｃ
ＳＫ1074	ＳＫ374	Ａ１	楕円形	80	70	22	黒褐色粘質土	中世土師器		12Ｃ後半
ＳＫ1085	ＳＫ385	Ａ１	方形	220	150		－	中世土師器・珠洲・瓷器系		13Ｃ
ＳＫ1214	ＳＫ514	Ａ１	楕円形	100	85	22	暗茶褐色土	中世土師器		13Ｃ
ＳＫ1251	ＳＫ551	Ａ１	方形	400		28	暗茶褐色土	中世土師器・珠洲・白磁・青磁		13～14Ｃ
ＳＫ1256	ＳＫ556	Ａ１	方形	273	243	63	暗茶褐色土	中世土師器・珠洲・白磁		13～14Ｃ
ＳＫ1258	ＳＫ558	Ａ１	方形	320	285	70	暗茶褐色土	中世土師器・八尾・珠洲		13Ｃ
ＳＫ1259	ＳＫ559	Ａ１	方形	270	120	15	暗茶褐色土	白磁		
ＳＫ1263	ＳＫ563	Ａ１	楕円形	110	50	24	暗灰茶褐色粘質土	中世土師器		14Ｃ
ＳＫ1267	ＳＫ567	Ａ１	方形	380	345	35	暗茶褐色粘質土	中世土師器・八尾・珠洲・瀬戸美濃・白磁・青磁・伊万里		14Ｃ

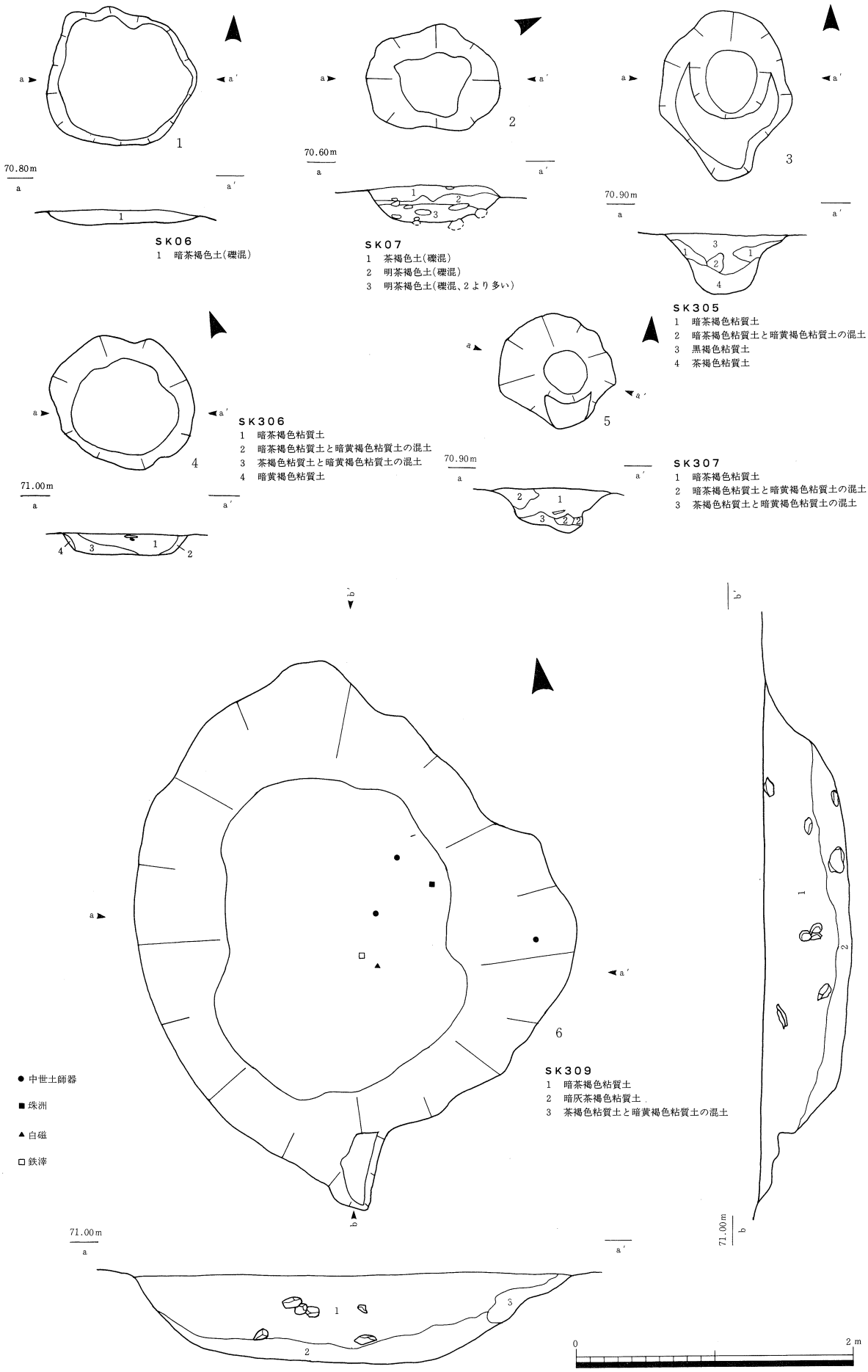
第７表　土坑（中世前期）一覧(1)

遺構番号	整理番号	地区	平面形	規模；長	規模；短	規模；深	覆土	出土遺物	備考	時期
SK1268	SK568	A1	−	215	56	84	暗灰褐色粘質土	中世土師器・珠洲		
SK1269	SK569	A1	楕円形	258	153	12	暗茶褐色粘質土	中世土師器		
SK1271	SK571	A1	不整形	240	208	37	暗茶褐色土	中世土師器・珠洲		13C
SK1273	SK573	A1	方形	−	−	13	−	中世土師器・青磁		13～14C
SK1274	SK574	A1	方形	85	85	19	−	中世土師器		13～14C
SK1275	SK575	A1	方形	−	−	38	暗茶褐色土	中世土師器・白磁		13～14C
SK1276	SK576	A1	不整形	150	70	20	茶褐色土	中世土師器		13～14C
SK1277	SK577	A1	不整形	525	188	20	暗茶褐色土	中世土師器・珠洲・白磁		12C後半・13C
SK1280	SK580	A1	−	−	−	21	暗茶褐色土	−		
SK1281	SK581	A1	−	−	−	36	茶褐色土	−		
SK1282	SK582	A1	方形	242	230	31	暗茶褐色土	須恵器・中世土師器・珠洲・白磁・青磁		13・14C
SK1283	SK583	A1	方形	360	330	33	暗茶褐色土	中世土師器・珠洲・青磁		13～14C
SK1286	SK586	A1	方形	200	116	15	暗茶褐色土	中世土師器		
SK1292	SK592	A1	方形	235	161	38	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲		13C
SK1293	SK593	A1	方形	182	115	18	暗茶褐色土	中世土師器		14C
SK1294	SK594	A1	不整形	470	445	12	暗茶灰色粘質土	中世土師器・珠洲・青磁		13～14C
SK1295	SK595	A1	方形	370	365	33	暗茶褐色土	中世土師器・八尾・珠洲・越前・白磁・青磁		13C
SK1296	SK596	A1	方形	158	138	19	黄茶褐色土・暗茶褐色土	中世土師器・白磁		13～14C
SK1297	SK597	A1	不整形	385	110	20	暗茶褐色土	中世土師器		13C
SK1298	SK598	A1	方形	245	156	50	暗茶褐色土	中世土師器		13C
SK1299	SK599	A1	円形	95		28	茶褐色土	中世土師器		14C
SK1300	SK600	A1	方形	180	130	10	暗茶褐色粘質土	中世土師器・青磁		14C前半
SK1301	SK601	A1	不整形	368	310	32	暗茶褐色粘質土	中世土師器		13C後半
SK1302	SK602	A1	不整形	155	110	21	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・青磁		13C
SK1305	SK605	A1	方形	272	225	49	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越前・白磁・青磁		13C
SK1306	SK606	A1	方形	285	280	88	暗茶褐色粘質土	中世土師器・八尾・珠洲・白磁・青磁・唐津		14・15C
SK1307	SK607	A1	方形	300	128	37	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲		13C
SK1309	SK609	A1	−	−	−	−	暗茶褐色粘質土	中世土師器		13・14C前半
SK1310	SK610	A1	−	−	−	−	暗茶褐色粘質土	中世土師器		14C
SK1318	SK618	A1	方形	196	194	22	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越前・白磁		
SK1336	SK636	A1	方形	375	350	21	暗茶褐色粘質土	中世土師器・白磁・青磁		13～14C
SK1375	SK675	A1	楕円形	214	130	48	−	中世土師器		13C
SK1401	SK701	A1	方形	513	330	25	黒褐色土・暗茶褐色土	中世土師器		12C後半
SK1402	SK702	A1	不整形	130	110	15	黒褐色土	中世土師器		12C後半
SK1403	SK703	A1	方形	350	175	35	暗茶褐色土	中世土師器		13C初
SK1408	SK708	A1	方形	375	139	17	暗茶灰色粘質土	中世土師器・珠洲		
SK1409	SK709	A1	方形	285	70	12	暗茶褐色土	−		
SK1410	SK710	A1	方形	300	235	42	暗茶灰色粘質土	中世土師器		13C
SK1411	SK711	A1	方形	195	180	50	暗茶褐色土	中世土師器・珠洲・白磁・青磁		13C
SK1412	SK712	A1	方形	285	223	45	茶灰色土	中世土師器・珠洲・青磁		
SK1413	SK713	A1	方形	325	95	30	黒褐色粘質土	中世土師器・白磁		13C
SK1414	SK714	A1	方形	200	180	34	暗茶褐色粘質土	中世土師器・白磁		13C
SK1416	SK716	A1	方形	90		28	暗茶褐色粘質土	中世土師器		13C
SK1417	SK717	A1	方形	−	−	48	暗黄褐色砂質土	中世土師器		13C
SK1421	SK721	A1	楕円形	130	85	15	暗茶灰色土	中世土師器		13C
SK1427	SK727	A1	方形	110	100	37	暗黄褐色土	中世土師器		13C末～14C初
SK1428	SK728	A1	方形	95	80	62	暗茶褐色土	白磁		
SK1430	SK730	A1	方形	330	230	32	暗茶褐色粘質土	中世土師器・八尾・白磁		13C後半
SK1432	SK732	A1	楕円形	140	125	47	黒褐色粘質土	中世土師器		13C
SK1433	SK733	A1	楕円形	102	85	43	黒褐色粘質土	中世土師器		
SK1443	SK743	A1	−	−	−	50	暗褐色土	中世土師器		13C後半
SK1609	SK909	A1	円形	85	−	48	茶褐色土	羽口		
SK1687	SK987	A1	楕円形	87	76	28	茶褐色土	中世土師器		13C
SK1695	SK995	A1	−	−	−	−	−	中世土師器		13C
SK1700	SK1000	A1	方形	112	95	35	茶褐色土	中世土師器		14C
SK1701	SK1001	A1	方形	145	115	30	茶褐色土	中世土師器		14C
SK1707	SK1007	A1	方形	90	60	36	茶褐色土	中世土師器		13C
SK1718	SK1018	A1	方形	65	62	11	−	中世土師器		12C
SK1830	SK1130	A1	方形	295	245	21	黒褐色土	中世土師器・珠洲・白磁・青磁		13C
SK1843	SK1143	A1	方形	75	75	31	茶黒褐色土・茶褐色土・黒褐色土	中世土師器		13C
SK1852	SK1152	A1	楕円形	58	48	37	茶黒褐色土	中世土師器		13～14C
SK1853	SK1153	A1	円形	50	−	28	茶黒褐色土	中世土師器・青磁		13・14C
SK1857	SK1157	A1	不整形	141	108	13	黒褐色土	中世土師器		
SK1858	SK1158	A1	不整形	78	24	5	黒茶褐色土	−		
SK1859	SK1159	A1	不整形	65	63	13	黒茶褐色土	中世土師器		14C？
SK1880	SK1180	A1	方形	200	200	60	黒褐色土	中世土師器		
SK1881	SK1181	A1	楕円形	136	100	16	黒茶褐色土	中世土師器		
SK2000	SK1300	A1	方形	201	−	−	茶褐色土	中世土師器		13C
SK2030	SK1330	A1	円形	102	−	25	茶褐色土	中世土師器		13C
SK2032	SK1332	A1	楕円形	93	46	11	−	中世土師器		13C
SK2205	SK05	A2	方形	205	191	49	黒褐色土	中世土師器	SD2201＞SK2205	13～14C
SK2206	SK06	A2	方形	276	184	59	−	−		13・14C
SK2208	SK08	A2	方形	550	238	5	暗茶褐色土	縄文土器・中世土師器	SK2208＞SD2215	13C
SK2211	SK11	A2	方形	155	133	33	茶褐色土	中世土師器・珠洲（四耳壺）		13C初
SK2216	SK16	A2	方形	275	176	55	茶褐色土	中世土師器・縄文土器		13C
SK2217	SK17	A2	方形	158	132	25	茶褐色土	中世土師器・縄文土器		13C
SK2218	SK18	A2	−	628	−	40	褐色土	中世土師器		13・14C
SK2220	SK20	A2	方形	205	178	15	黒褐色土・茶黒褐色土	中世土師器		
SK2221	SK21	A2	−	140	−	50	黒褐色土	中世土師器・火舎・珠洲・越中瀬戸・伊万里		13C・18C
SK2225	SK25	A2	方形	310	215	27	−	中世土師器		13・14C
SK2227	SK27	A2	不整形	−	−	−	−	中世土師器		14C
SK2228	SK28	A2	方形	340	230	69	茶褐色土	中世土師器・珠洲・瀬戸・白磁・砥石	bと遺物は混在する	14・15C
SK2228b	SK28b	A2	方形	280	192	50	茶褐色土	中世土師器・珠洲・瀬戸・白磁		
SK2229	SK29	A2	方形	200	132	24	黒褐色土	中世土師器		13・14C
SK2246	SK46	A2	方形	120	95	5	黒褐色土	−		
SK2258	SK58	A2	方形	175	112	30	茶褐色土・灰茶褐色土	−		
SK2310	SK110	A2	楕円形	403	343	37	茶褐色土他	縄文土器・土師器・中世土師器		13～14C
SK2323	SK123	A2	−	−	−	−	−	中世土師器		14C
SK2452	SK252	A2	方形	243	206	50	茶褐色土	中世土師器・白磁	SK2452＞SD2203	13・14C
SK2455	SK255	A2	方形	500	210	43	茶褐色土他	中世土師器・白磁・青磁		13～14C
SK2456	SK256	A2	方形	291	248	59	黒褐色土	中世土師器・青磁		13・14C
SK2457	SK257	A2	方形	200	156	48	茶褐色土・黒褐色土	中世土師器・青磁		13・14C
SK2459	SK259	A2	方形	298	161	28	茶褐色土・褐色土	中世土師器		13・14C
SK2460	SK260	A2	方形	408	278	51	黒褐色土	中世土師器・珠洲・白磁・黄釉・砥石		13C後半・14C
SK2461	SK261	A2	方形	229	210	62	黒褐色土	中世土師器・珠洲・砥石		13・14C
SK2462	SK262	A2	不整形	620	−	36	黒茶褐色土	中世土師器・珠洲・瀬戸・砥石		13～14C
SK2464	SK264	A2	方形	440	260	92	黒褐色土	中世土師器・白磁・珠洲		13・14C
SK2465	SK265	A2	−	−	−	−	−	中世土師器		14C

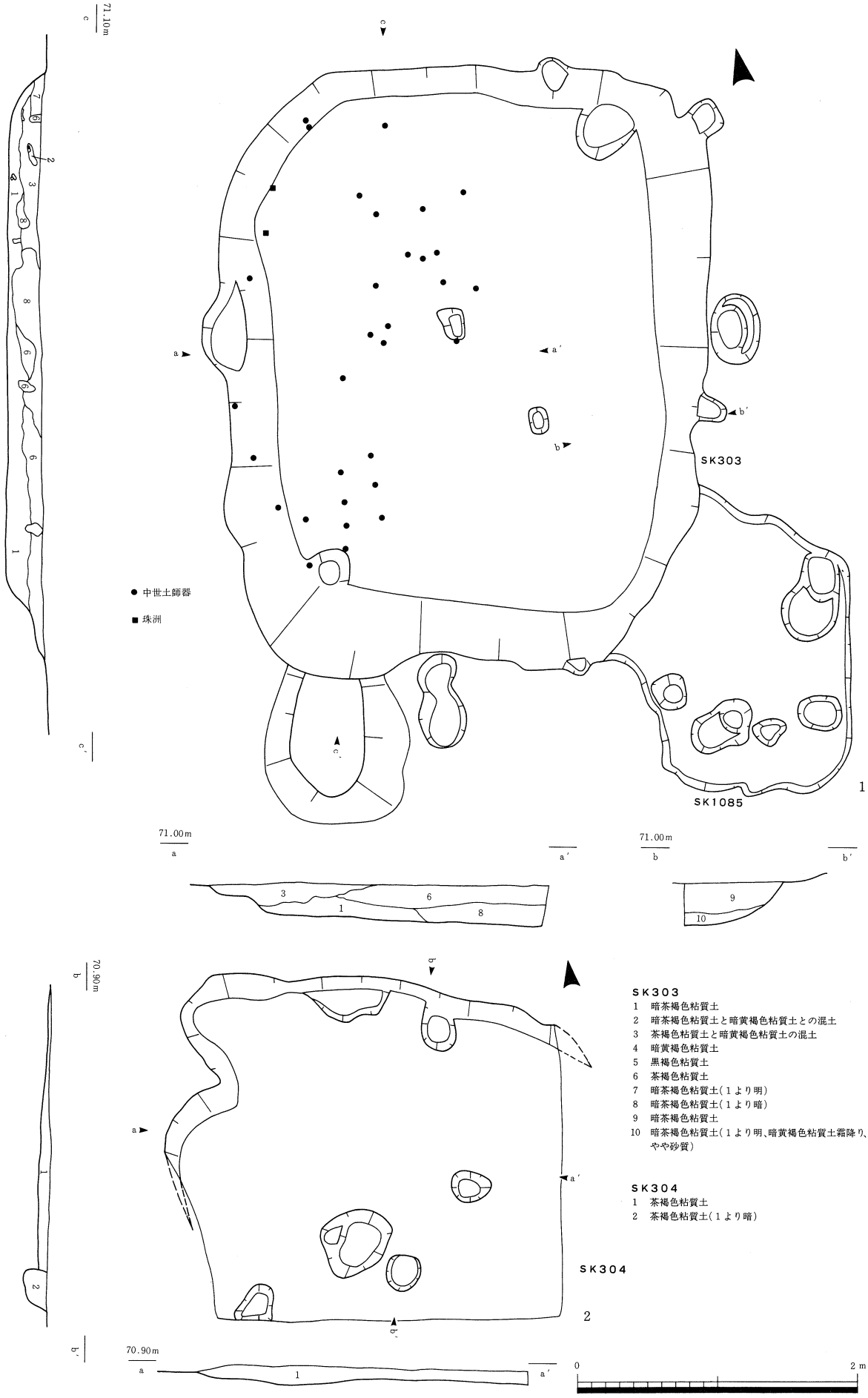
第７表　土坑（中世前期）一覧(2)

遺構番号	整理番号	地区	平面形	規模；長	規模；短	規模；深	覆土	出土遺物	備考	時期
SK2466	SK266	A2	不整形	256	192	45	褐色土	中世土師器・八尾・珠洲		13・14C
SK2467	SK267	A2	楕円形	120	90	32	茶褐色土	縄文土器・中世土師器		
SK2470	SK270	A2	楕円形		153	50	黒褐色土・黒褐色土	中世土師器・珠洲・瀬戸・青磁・黄釉		13・14C
SK2471	SK271	A2	方形	175	150	9	茶褐色土	中世土師器・伊万里		13～14C
SK2473	SK273	A2	方形	215	98	16	黒褐色土	中世土師器		13C
SK2475	SK275	A2	方形	250	240	23	黒褐色土	－		
SK2480	SK280	A2	方形	137	98	16	暗灰色粘質土・暗褐色粘質土	中世土師器		
SK2482	SK282	A2	円形	117	100	37	茶色砂利礫層	中世土師器		14C
SK2483	SK283	A2	方形	98	85	57	茶褐色土	縄文土器・中世土師器・白磁・青花		13・14C
SK2486	SK286	A2	不整形	320	314	73	褐色土・暗褐色土	中世土師器・山茶碗・白磁・青磁・瀬戸		13・14C
SK2488	SK288	A2	不整形	170	165	32	－	中世土師器		
SK2489	SK289	A2	方形	197	180	50	褐色土・暗褐色土	中世土師器・珠洲・白磁・青磁・砥石		13・14C
SK2490	SK290	A2	方形	123	93	10	褐色土	中世土師器		14C
SK2492	SK292	A2	方形	358	268	36	茶褐色土	中世土師器・白磁		13～14C
SK2494	SK294	A2	円形	105	－	9	－	中世土師器		13C
SK2495	SK295	A2	方形	123	122	19	茶褐色土	中世土師器	SK2495＞SK2471	14C
SK2496	SK296	A2	不整形	－	－	－	－	中世土師器		14C
SK2497	SK297	A2	方形	270	264	177	－	中世土師器・青磁		13・14C
SK2509	SK309	A2	円形	85	85	22	茶褐色土	中世土師器		
SK2518	SK318	A2	不整形	120	－	26	－	中世土師器・珠洲		
SK2545	SK345	A2	方形	140	110	16	－	中世土師器		13・14C
SK2577	SK377	A2	方形	130	70	60	－	中世土師器		13・14C
SK3009	SK09	A3N	方形	－	190	34	茶褐色土	土師器・須恵器・中世土師器		13・14C
SK3010	SK10	A3N	方形	450	283	45	褐色土	中世土師器・珠洲		13・14C
SK3013	SK13	A3N	方形	185	185	20	灰褐色粘質土	中世土師器・八尾・青磁		13C後半～14C
SK3019	SK19	A3N	方形	205	168	46	茶褐色土・黒茶褐色土	中世土師器		13・14C
SK3020	SK20	A3N	方形	172	83	24	茶褐色土・黒褐色土	中世土師器		13・14C
SK3021	SK21	A3N	円形	137	125	18	黒褐色土	中世土師器		13・14C？
SK3022	SK22	A3N	楕円形	133	98	25	黒褐色土・茶黒褐色土	中世土師器・珠洲		13・14C
SK3023	SK23	A3N	方形	105	76	5	黒茶褐色土	中世土師器		13・14C
SK3024	SK24	A3N	方形	102	60	8	黒褐色土	中世土師器		
SK3025	SK25	A3N	方形	203	170	10	茶褐色土	中世土師器		13・14C？
SK3026	SK26	A3N	方形	145	140	8	茶褐色土	縄文土器・須恵器・中世土師器・白磁・羽口	bと遺物は混在する	13C
SK3026b	SK26b	A3N	方形	263	197	23	茶褐色土	縄文土器・須恵器・中世土師器・白磁・羽口		
SK3028	SK28	A3N	方形	223	147	11	明茶褐色土	中世土師器	SK3028＞SK3051	13C？
SK3051	SK51	A3N	方形	254	172	22	茶褐色土	縄文土器・中世土師器・青磁		12C後半～13C
SK3070	SK70	A3N	方形	76	67	32	－	中世土師器		13C
SK3409	SK09	A3S	方形	930	330	10	黒茶褐色土	中世土師器・珠洲・白磁・青花		13・14C
SK3456	SK56	A3S	方形	154	140	30	茶褐色土・褐色粘質土	中世土師器		12C後半
SK3470	SK70	A3S	方形	115	93	15	茶褐色土・茶褐色粘質土	中世土師器		14C
SK3483	SK83	A3S	円形	240	200	25	暗茶褐色土	中世土師器・八尾・珠洲・越前	bと遺物は混在する	14C
SK3483b	SK83b	A3S	不整形	430	150	20	茶褐色土	中世土師器・八尾・珠洲・越前		
SK3484	SK84	A3S	円形	130	105	10	茶褐色土	縄文土器・中世土師器		
SK3485	SK85	A3S	三角形	690	150	45	灰褐色土	中世土師器・八尾・珠洲・越前・白磁・青磁・銅製品・銅銭		14・15C
SK3488	SK88	A3S	不整形	152	120	22	褐色土・黒褐色粘質土	中世土師器		13～14C
SK3489	SK89	A3S	方形	255	224	30	暗褐色土・黒褐色土	中世土師器・珠洲		13・14C
SK3496	SK96	A3S	円形	306	300	25	黒褐色土	縄文土器・中世土師器・珠洲		13C
SK3524	SK124	A3S	方形	320	250	16	黒褐色土	中世土師器・瀬戸・越中瀬戸		13～14C
SK3527	SK127	A3S	不整形	254	233	25	暗褐色土	中世土師器・珠洲・越前・青磁		14～15C
SK3528	SK128	A3S	方形	333	256	45	褐色土	中世土師器・八尾・珠洲・瀬戸・白磁・青磁		14・15C
SK3540	SK140	A3S	円形	24	－	5	灰白色土	中世土師器		13C
SK3553	SK153	A3S	楕円形	225	187	35	茶褐色土・黄褐色土・黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲		13・14C
SK3560	SK160	A3S	楕円形	95	55	63	黒褐色土	中世土師器		14C
SK3570	SK170	A3S	不整形	130	90	14	茶褐色土	中世土師器		14C
SK3597	SK197	A3S	方形	365	200	17	茶褐色土	中世土師皿・珠洲・白磁・羽釜		
SK3626	SK226	A3S	円形	50		5	－	中世土師器		14C
SK3686	SK286	A3S	方形	233	133	15	茶褐色土	中世土師器		14～15C
SK3707	SK307	A3S	方形	380	250	32	暗褐色土	中世土師器・八尾・珠洲・瀬戸美濃・白磁・砥石		14～15C
SK3748	SK348	A3S	方形	250	166	47	暗茶褐色土・黒褐色粘質土	中世土師器		14・15C
SK3750	SK350	A3S	方形	447	360	51	褐色土・暗褐色土	中世土師器・八尾・珠洲・青磁・羽口・石鉢		14～15C
SK3751	SK351	A3S	方形	310	310	57	暗褐色土・褐色砂利	中世土師器・八尾・珠洲・越前・青磁		14・15C
SK3769	SK369	A3S	円形	195	170	22	暗褐色土	中世土師器・珠洲・羽釜	SK3769＞SD3425	14・15C
SK3771	SK371	A3S	方形	594	220	15	黒茶褐色土	須恵器・中世土師器・珠洲		13C
SK3772	SK372	A3S	方形	125	67	7	黒褐色土	中世土師器		13C
SK3773	SK373	A3S	方形	205	110	12	黄褐色土	中世土師器		13C
SK3774	SK374	A3S	方形	434	105	52	褐色土	縄文土器・中世土師器・珠洲		13・14C
SK3779	SK379	A3S	円形	115	－	12	褐色土	中世土師器・珠洲		12C
SK3855	SK455	A3S	不整形	150	85	9	褐色土	中世土師器		14C
SK4008	SK608	A3S	方形	176	130	11	茶褐色土	中世土師器		14～15C
SK4061	SK661	A3S	楕円形	41	24	21	黒茶褐色土	－		
SK4322	SK22	B1	不整形	145	140	42	暗茶褐色粘質土	中世土師器・しゃもじ		14C
SK4337	SK37	B1	楕円形	128	71	34	灰黒褐色土	中世土師器・珠洲		13C？
SK4345	SK45	B1	方形	455		7	茶色粘質土	珠洲		13C？
SK4360	SK60	B1	楕円形	315	230	13	茶褐色粘質土	瀬戸		
SK4479	SK179	B1	不整形	202	170	70	黒褐色粘質土	挽き木・加工木		
SK4613	SK13	B1－3	方形	330	170	12	暗茶褐色土	中世土師器・白磁・伊万里		13・14・18C
SK4683	SK83	B1－3	円形	60	－	20	暗灰色粘質土	中世土師器		13～14C
SK4687	SK87	B1－3	方形	148	－	23	灰茶褐色粘質土	中世土師器		13・14C
SK4786	SK186	B1－3	円形	－	－	－	－	青磁		14C
SK4801	SK01	B	方形	600	160	23	黒褐色粘質土	中世土師器	SD4802＞SK4801	14C
SK4804	SK04	B	方形	－	390	12	黒褐色土に肌色粘質土ブロック	珠洲		14C
SK4807	SK07	B	方形	428	380	45	暗褐色粘質土・黒褐色粘質土	中世土師器		13～14C
SK4834	SK34	B	円形	95	－	43	－	中世土師器・八尾・珠洲		14C
SK4844	SK44	B	円形	85	－	37	－	中世土師器・曲物・漆器椀・箸		13C
SK4886	SK86	B	方形	105	80	68	－	中世土師器・羽口・加工木・柱		14C
SK4899	SK99	B	楕円形	94	86	121	－	珠洲		14C？
SZ1199	SZ499	A1	方形	185	80	30	暗茶褐色土	中世土師器	土壙墓	13C初
SK4483	SK183	B1	不整形	120	105	45	茶褐色粘質土・暗茶褐色粘質土・黒褐色粘質土	中世土師器・板塔婆・柄・箸	供養関連土坑	13C
SX2477	SX277	A2	方形	120	104	29	茶褐色土	－	集石土坑	13～14c
SX2972	SX772	A2	不整形	350	130～172	20	茶褐色土	中世土師器	集石土坑	13～14c
SX2458	SX258	A2	方形	228	160	62	黒褐色土・暗茶褐色土	中世土師器	石組遺構	13・14C
SX3011	SX11	A3N	方形	800	740	39	茶褐色土	中世土師器・珠洲・白磁・青磁	畝状遺構	13・14C

第7表　土坑（中世前期）一覧 (3)



第98図　遺構実測図(中世前期)
1.SK06　2.SK07　3.SK305　4.SK306　5.SK307　6.SK309



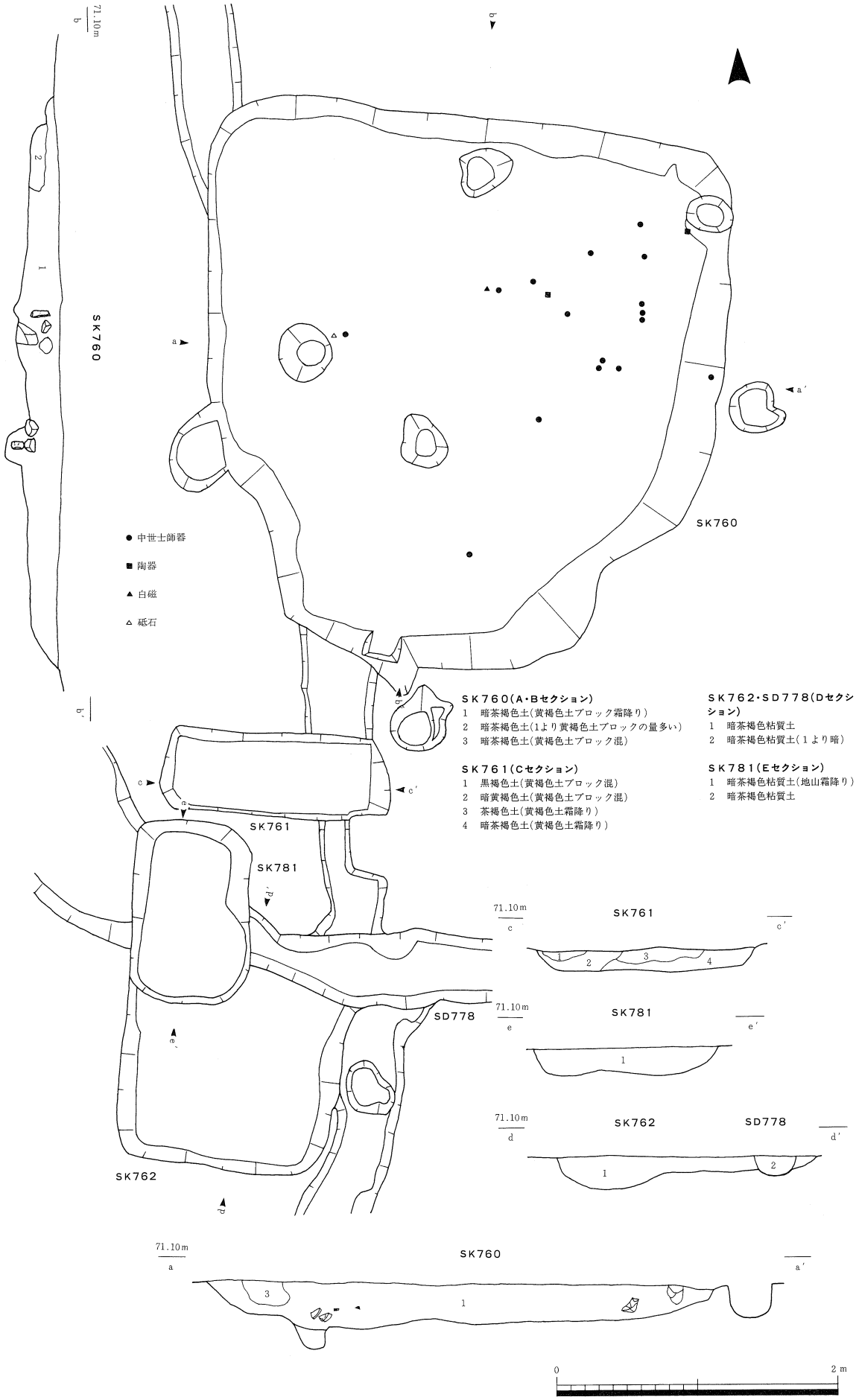
SK303

1　暗茶褐色粘質土
2　暗茶褐色粘質土と暗黄褐色粘質土との混土
3　茶褐色粘質土と暗黄褐色粘質土の混土
4　暗黄褐色粘質土
5　黒褐色粘質土
6　茶褐色粘質土
7　暗茶褐色粘質土（1より明）
8　暗茶褐色粘質土（1より暗）
9　暗茶褐色粘質土
10　暗茶褐色粘質土（1より明、暗黄褐色粘質土霜降り、やや砂質）

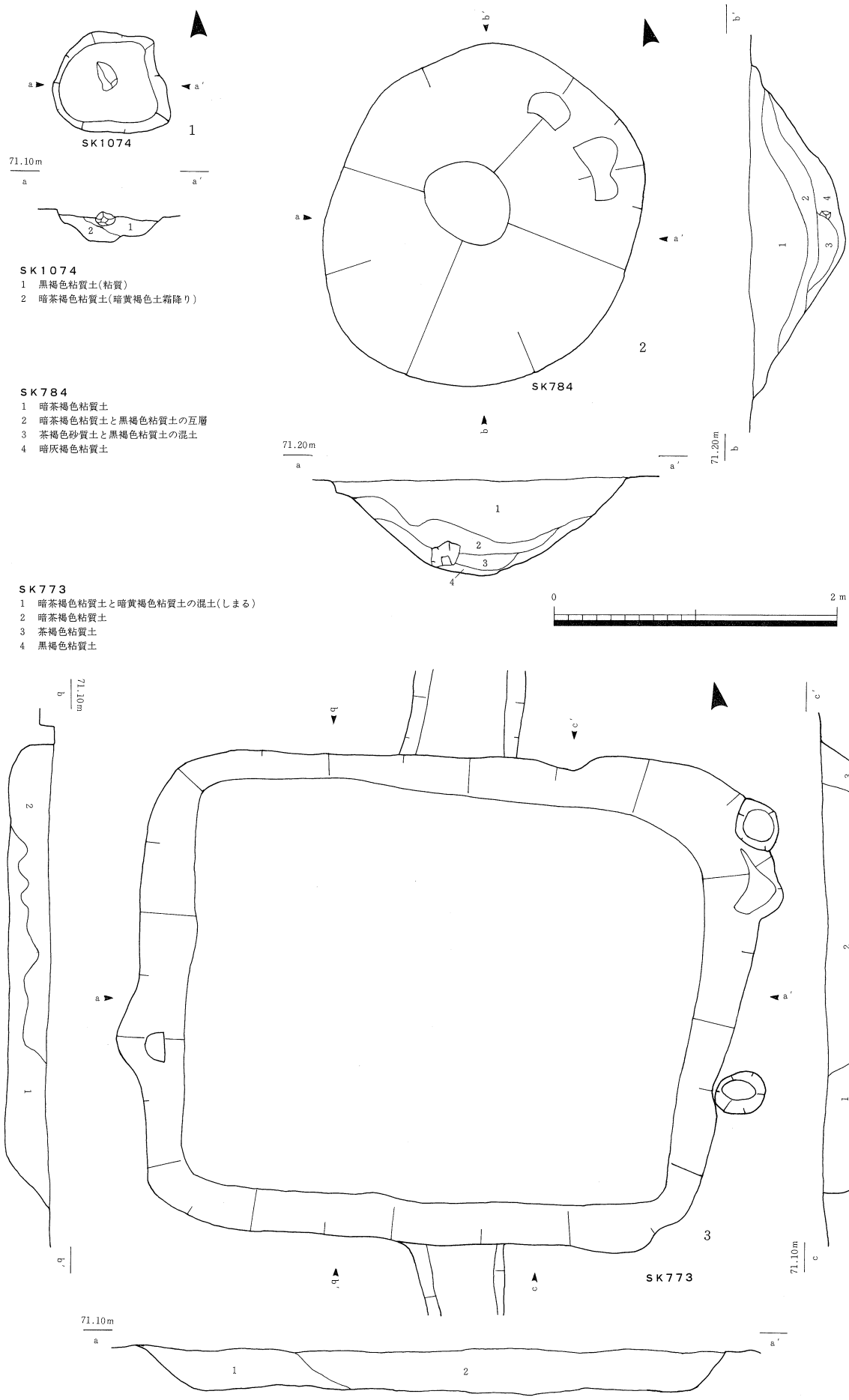
SK304

1　茶褐色粘質土
2　茶褐色粘質土（1より暗）

第99図　遺構実測図（中世前期）
1.SK303　2.SK304



第100図　遺構実測図(中世前期)
SK760・SK761・SK762・SK781

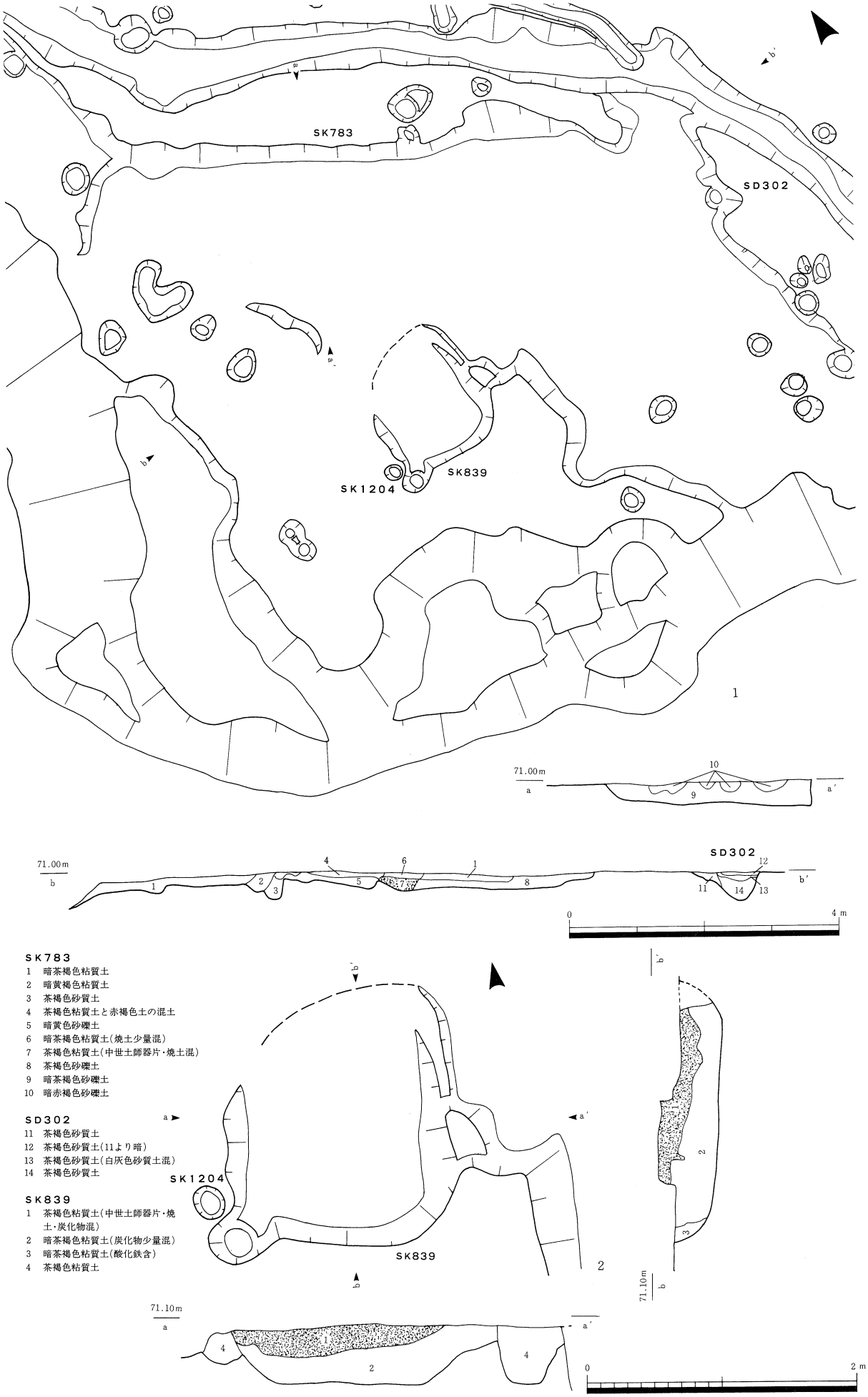


SK1074
1　黒褐色粘質土(粘質)
2　暗茶褐色粘質土(暗黄褐色土霜降り)

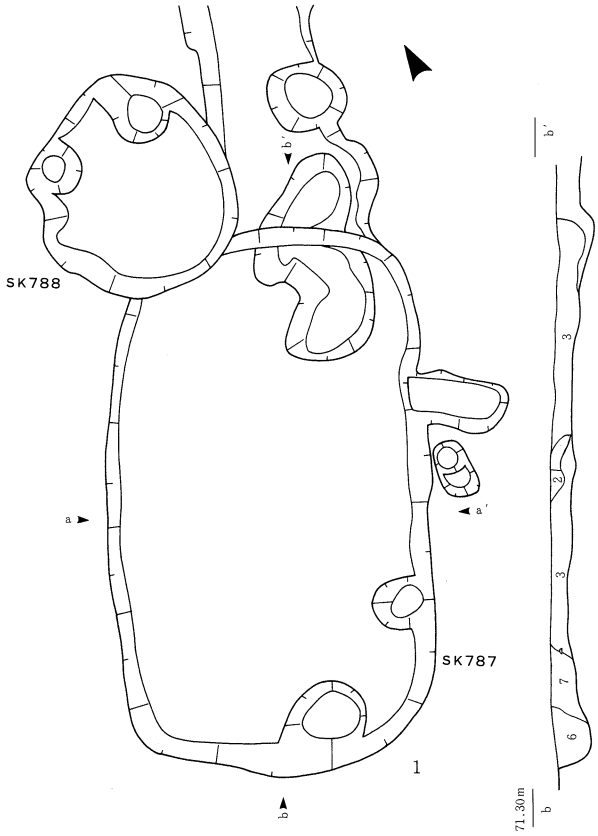
SK784
1　暗茶褐色粘質土
2　暗茶褐色粘質土と黒褐色粘質土の互層
3　茶褐色砂質土と黒褐色粘質土の混土
4　暗灰褐色粘質土

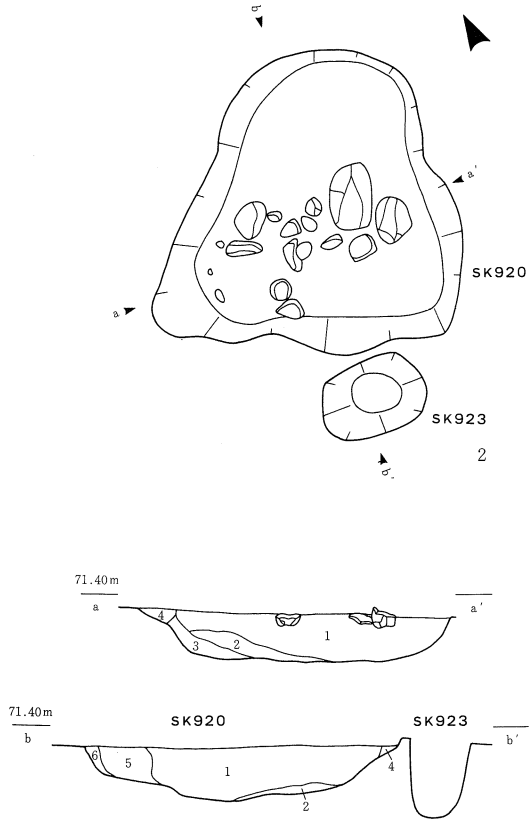
SK773
1　暗茶褐色粘質土と暗黄褐色粘質土の混土(しまる)
2　暗茶褐色粘質土
3　茶褐色粘質土
4　黒褐色粘質土

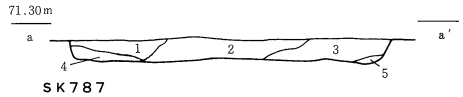
第101図　遺構実測図(中世前期)
1.SK1074　2.SK784　3.SK773



第102図　遺構実測図(中世前期)
1.SK783・SK839　2.SK839

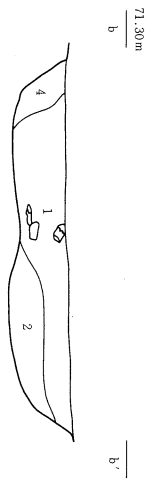


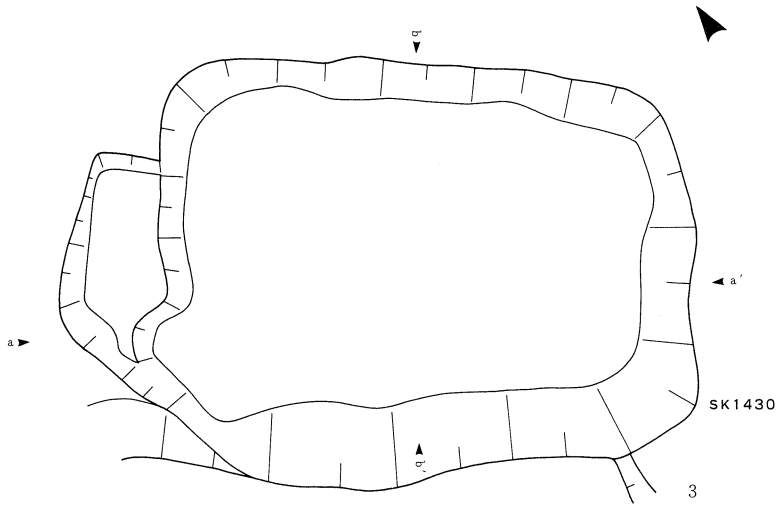


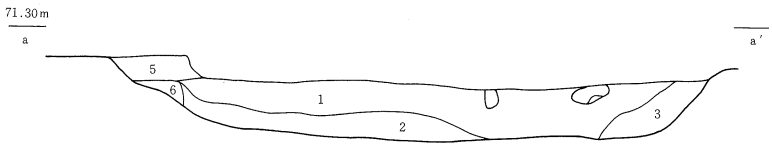


SK787
1　黒褐色土
2　黒褐色土(茶褐色土ブロック混)
3　暗茶褐色土(黄褐色土霜降り)
4　黒褐色土(黄褐色土霜降り)
5　黄褐色土(暗茶褐色土混)
6　黒褐色土
7　暗茶褐色土

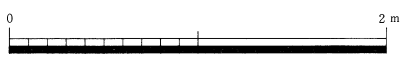
SK920
1　茶褐色粘質土
2　暗茶褐色粘質土
3　暗茶褐色粘質土(酸化鉄含)
4　暗黄褐色粘質土
5　暗黄褐色粘質土(黒褐色粘質土斑状に混)
6　暗灰褐色粘質土



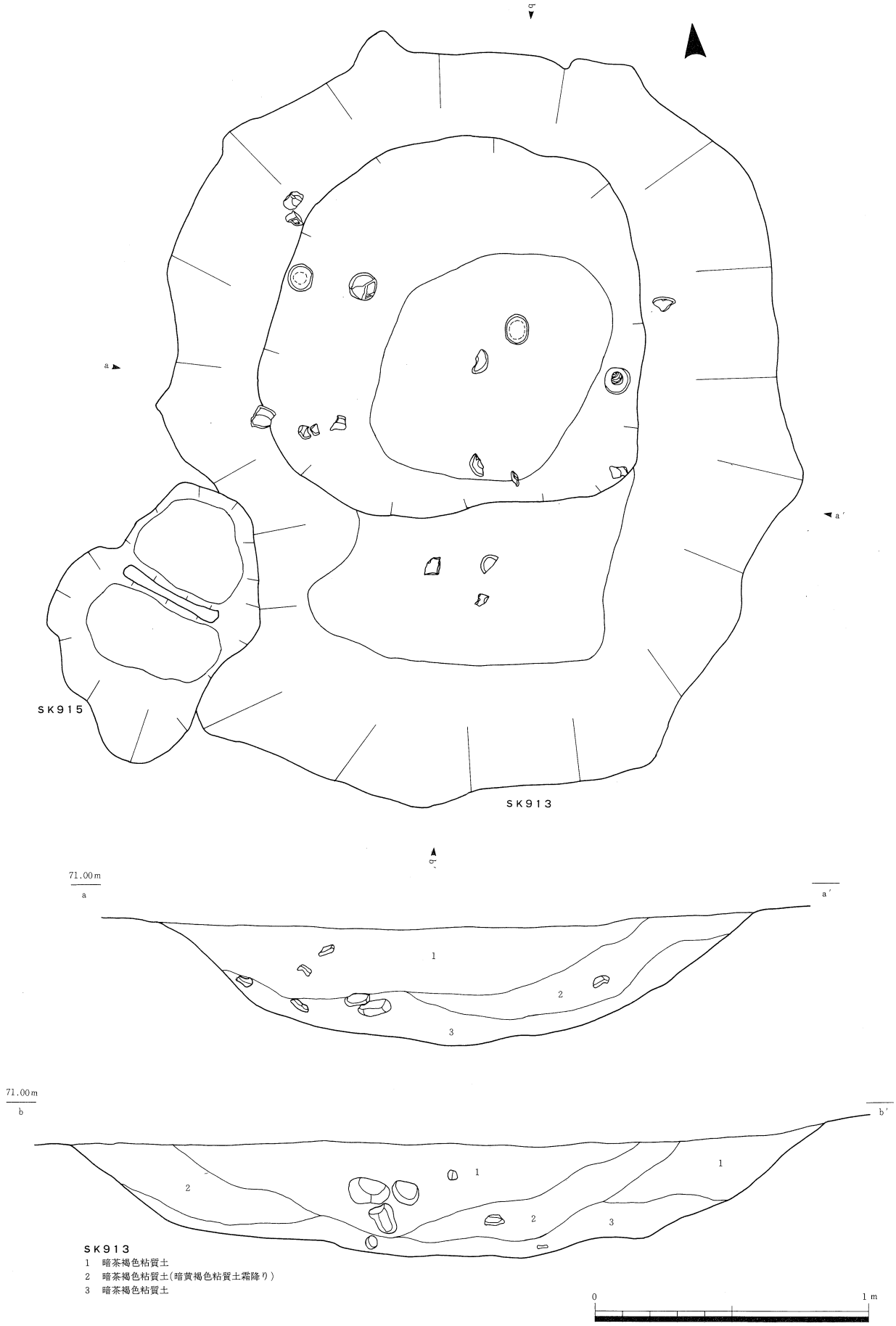




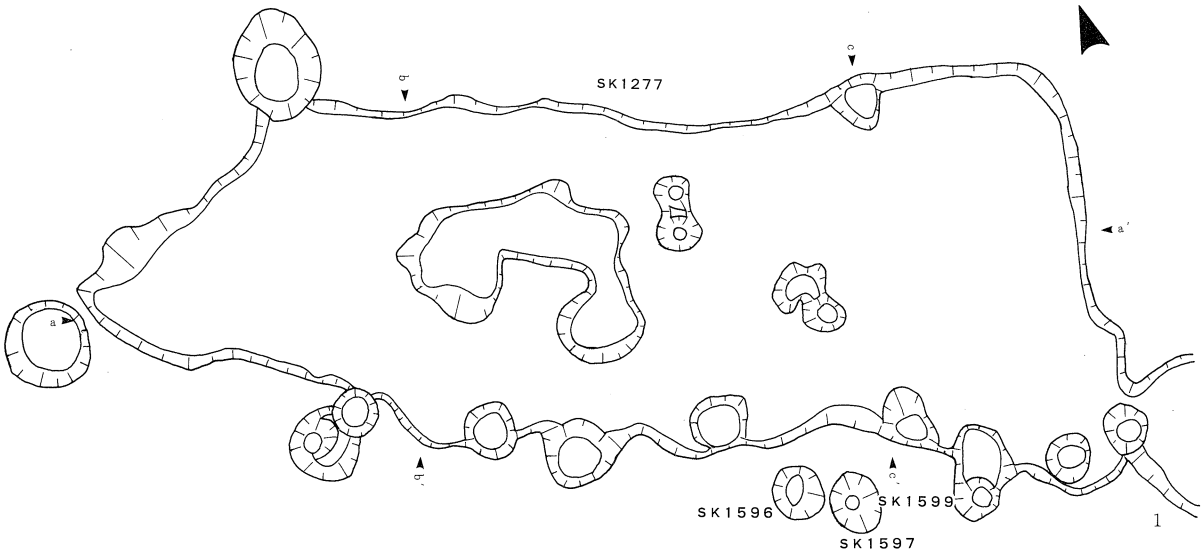
SK1430
1　暗茶褐色粘質土(礫混)
2　暗茶灰色粘質土(礫混、しまりなし)
3　暗茶褐色土(やや砂質)
4　茶褐色土(やや砂質)
5　暗茶褐色粘質土
6　暗茶褐色土(黄褐色土ブロック混)

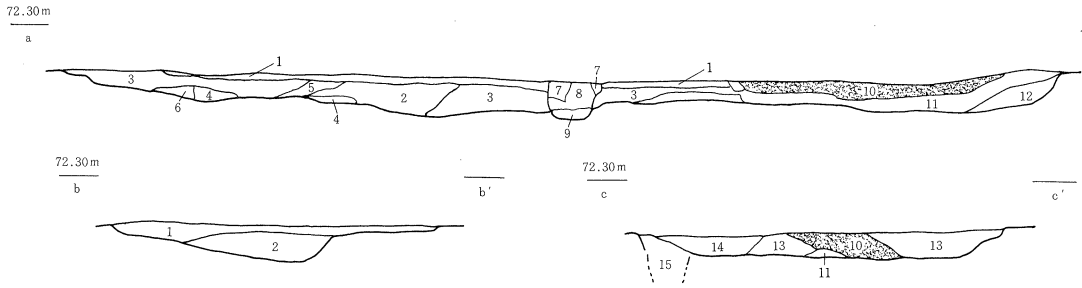


第103図　遺構実測図(中世前期)
1.SK787　2.SK920　3.SK1430



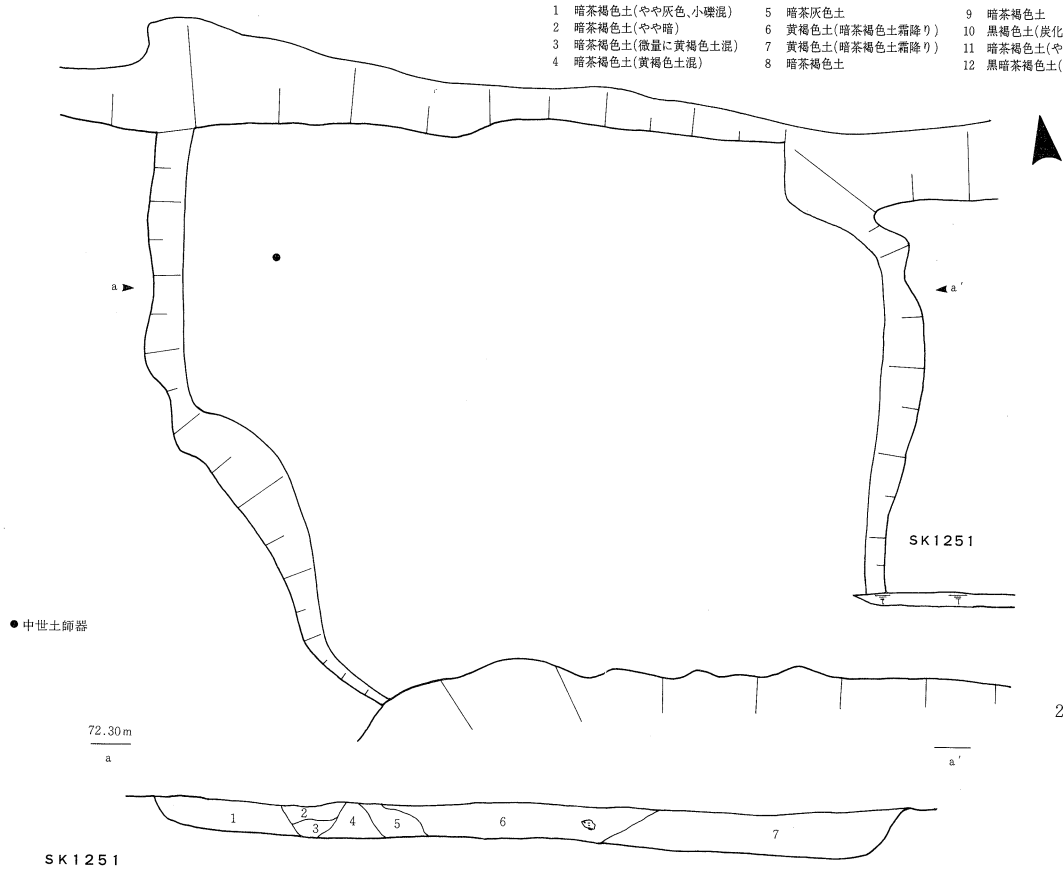
第104図　遺構実測図(中世前期)
SK913





SK1277

1 暗茶褐色土(やや灰色、小礫混)
2 暗茶褐色土(やや暗)
3 暗茶褐色土(微量に黄褐色土混)
4 暗茶褐色土(黄褐色土混)
5 暗茶灰色土
6 黄褐色土(暗茶褐色土霜降り)
7 黄褐色土(暗茶褐色土霜降り)
8 暗茶褐色土
9 暗茶褐色土
10 黒褐色土(炭化粒・焼土混)
11 暗茶褐色土(やや粘質)
12 黒暗茶褐色土(1より暗)

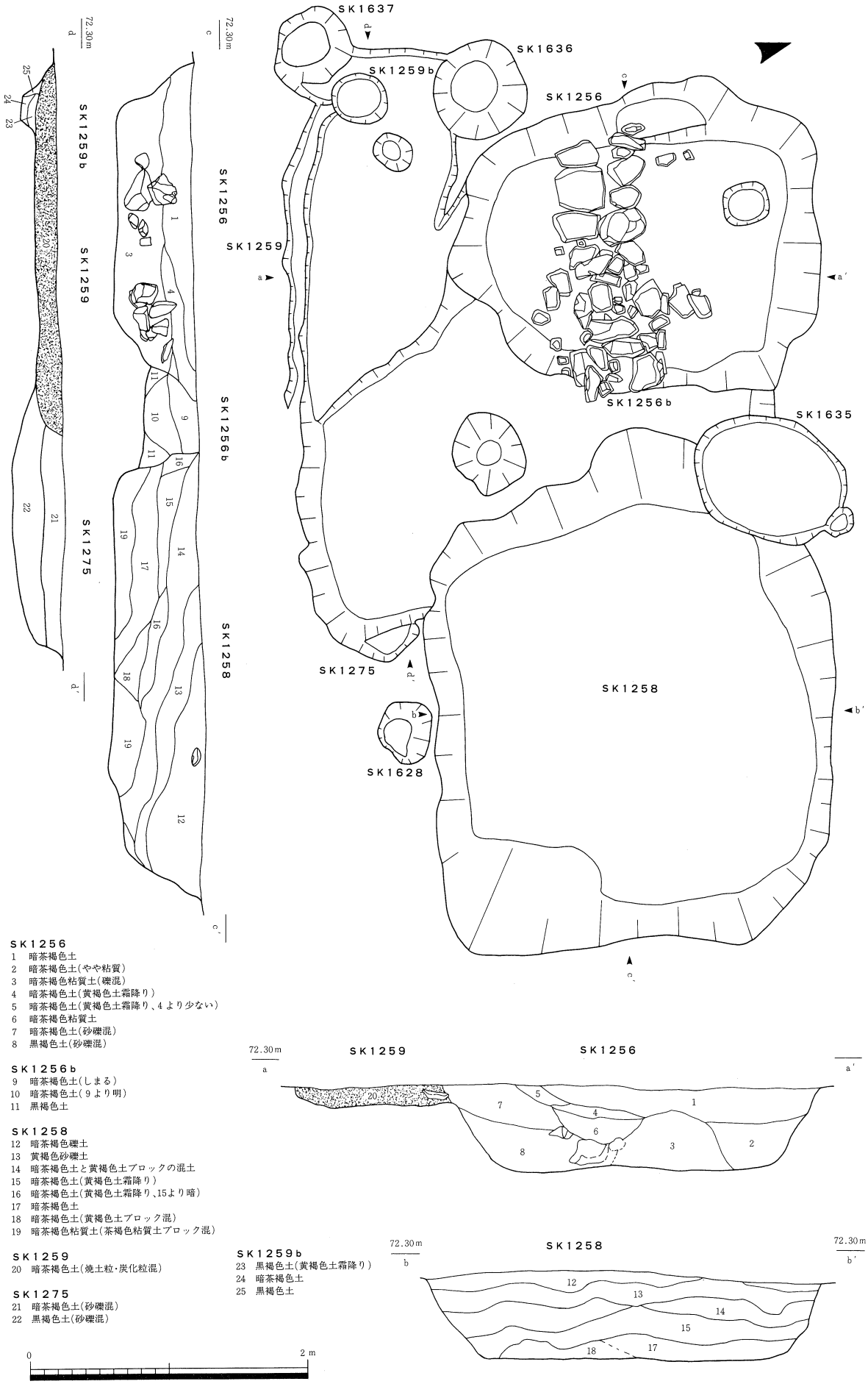


SK1251

1 暗茶褐色土(炭化粒混、黄褐色土霜降り)
2 暗茶褐色土(黒色土霜降り)
3 暗茶褐色土
4 暗茶褐色土(黄褐色土霜降り)
5 暗茶灰色土(やや粘質)
6 暗茶褐色土(炭化粒・礫混、黄褐色土霜降り)
7 暗茶褐色土(小礫混)

0 2m

第105図　遺構実測図(中世前期)
1.SK1277　2.SK1251



SK1256
1　暗茶褐色土
2　暗茶褐色土(やや粘質)
3　暗茶褐色粘質土(礫混)
4　暗茶褐色土(黄褐色土霜降り)
5　暗茶褐色土(黄褐色土霜降り、4より少ない)
6　暗茶褐色粘質土
7　暗茶褐色土(砂礫混)
8　黒褐色土(砂礫混)

SK1256b
9　暗茶褐色土(しまる)
10　暗茶褐色土(9より明)
11　黒褐色土

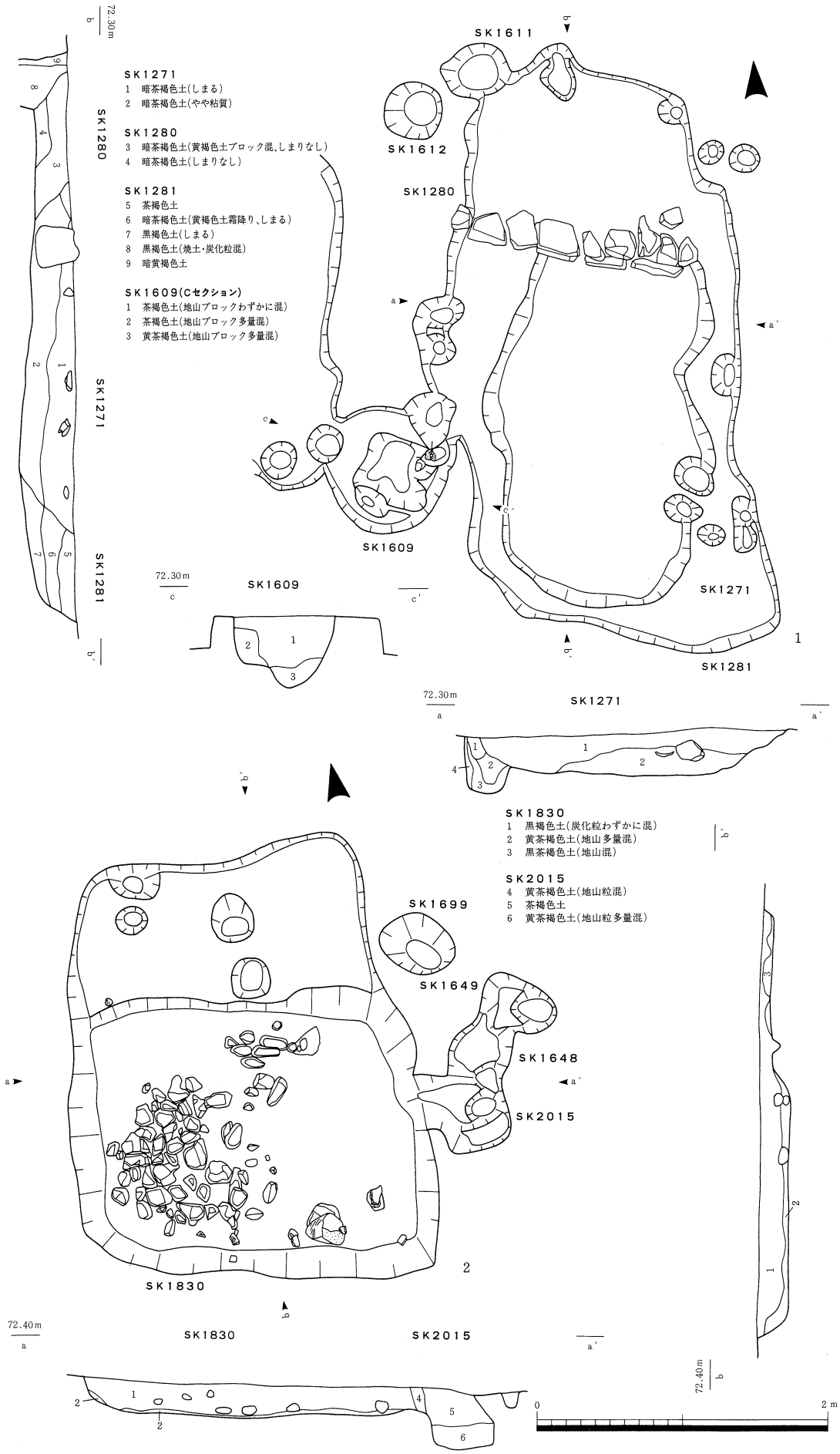
SK1258
12　暗茶褐色礫土
13　黄褐色砂礫土
14　暗茶褐色土と黄褐色土ブロックの混土
15　暗茶褐色土(黄褐色土霜降り)
16　暗茶褐色土(黄褐色土霜降り、15より暗)
17　暗茶褐色土
18　暗茶褐色土(黄褐色土ブロック混)
19　暗茶褐色粘質土(茶褐色粘質土ブロック混)

SK1259
20　暗茶褐色土(焼土粒・炭化粒混)

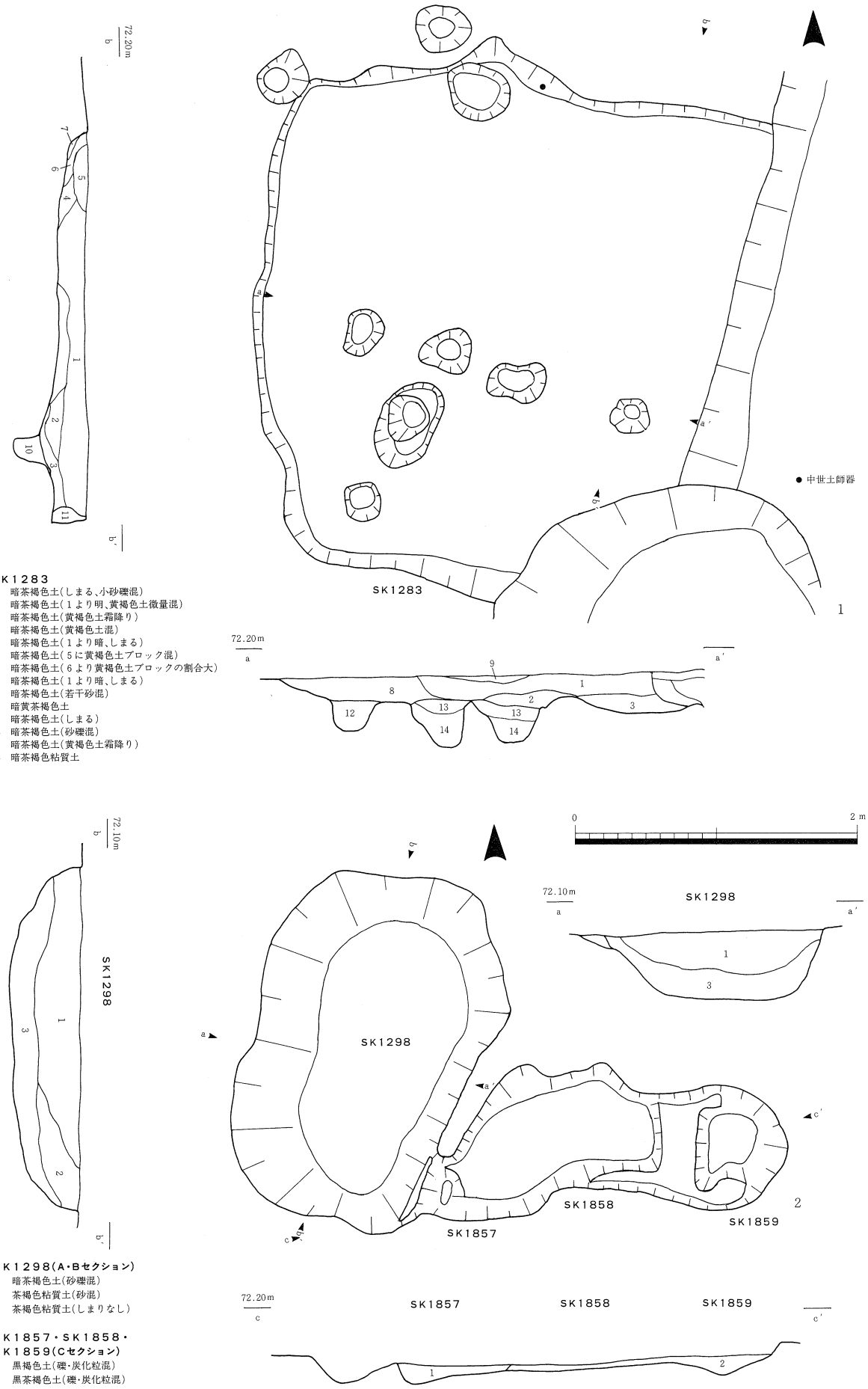
SK1275
21　暗茶褐色土(砂礫混)
22　黒褐色土(砂礫混)

SK1259b
23　黒褐色土(黄褐色土霜降り)
24　暗茶褐色土
25　黒褐色土

第106図　遺構実測図(中世前期)
SK1256・SK1256b・SK1258・SK1275・SK1259・SK1259b



第107図　遺構実測図(中世前期)
1.SK1271・SK1280・SK1281・SK1609　2.SK1830

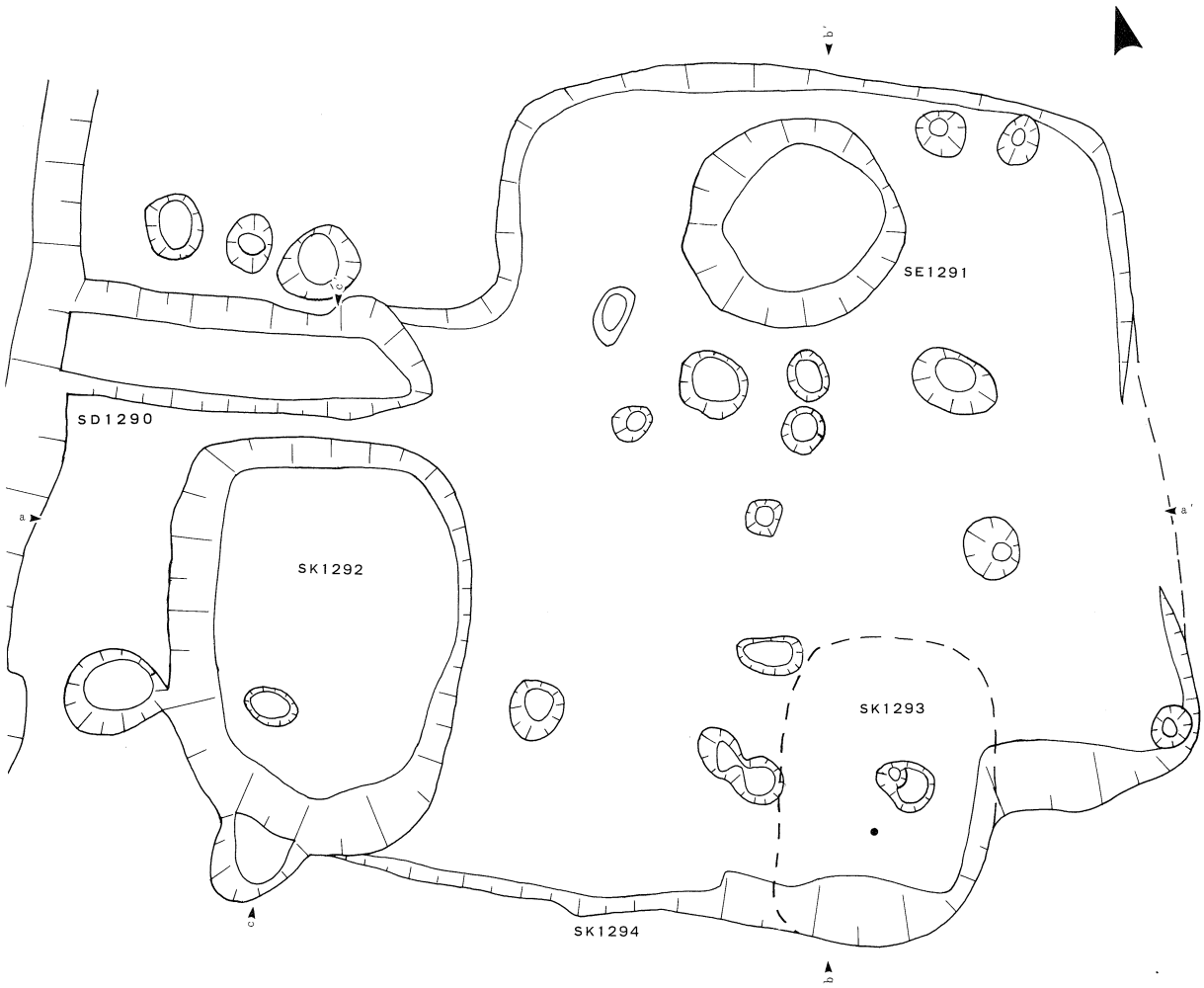


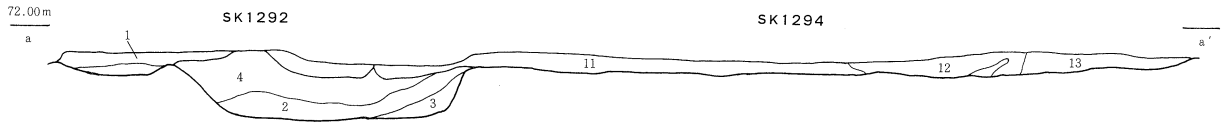
SK1283
1　暗茶褐色土(しまる、小砂礫混)
2　暗茶褐色土(1より明、黄褐色土微量混)
3　暗茶褐色土(黄褐色土霜降り)
4　暗茶褐色土(黄褐色土混)
5　暗茶褐色土(1より暗、しまる)
6　暗茶褐色土(5に黄褐色土ブロック混)
7　暗茶褐色土(6より黄褐色土ブロックの割合大)
8　暗茶褐色土(1より暗、しまる)
9　暗茶褐色土(若干砂混)
10　暗黄茶褐色土
11　暗茶褐色土(しまる)
12　暗茶褐色土(砂礫混)
13　暗茶褐色土(黄褐色土霜降り)
14　暗茶褐色粘質土

SK1298(A・Bセクション)
1　暗茶褐色土(砂礫混)
2　茶褐色粘質土(砂混)
3　茶褐色粘質土(しまりなし)

SK1857・SK1858・SK1859(Cセクション)
1　黒褐色土(礫・炭化粒混)
2　黒茶褐色土(礫・炭化粒混)

第108図　遺構実測図(中世前期)
1.SK1283　2.SK1298・SK1857・SK1858・SK1859



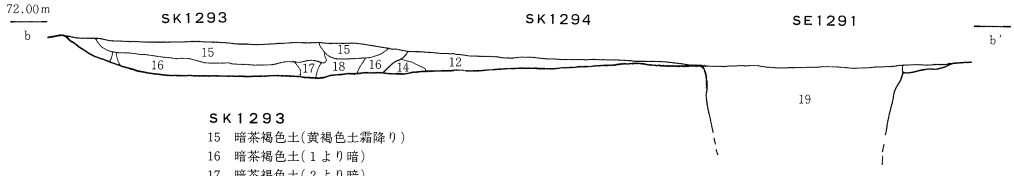


SK1292

1　暗茶灰色粘質土(小礫混)
2　暗茶褐色粘質土(やや粘質、小礫混)
3　暗茶褐色粘質土
4　暗茶褐色土(黄褐色土霜降り)
5　暗茶褐色粘質土
6　暗茶褐色土
7　黄褐色土(暗茶褐色土霜降り)
8　暗茶褐色粘質土
9　暗茶褐色土(黄褐色土わずかに霜降り)
10　暗茶褐色土(黄褐色土・黒褐色土わずかに霜降り)

SK1294

11　暗茶灰色粘質土
12　暗茶褐色土(黄褐色土霜降り)
13　暗茶褐色土(黄褐色土霜降り、2より暗、炭化粒混)
14　黒灰色粘質土

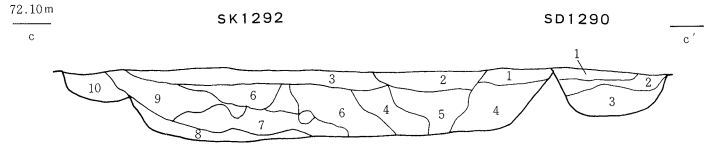


SK1293

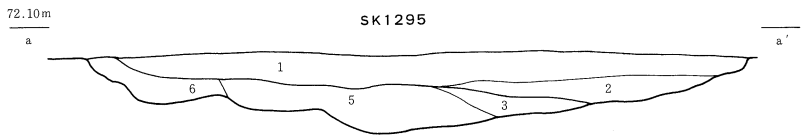
15　暗茶褐色土(黄褐色土霜降り)
16　暗茶褐色土(1より暗)
17　暗茶褐色土(2より暗)
18　暗茶褐色土(黄褐色土地山霜降り)

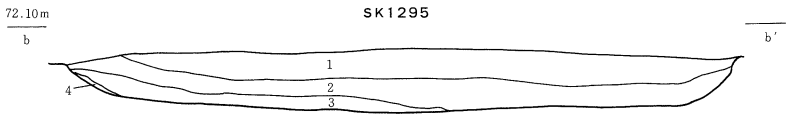
SE1291

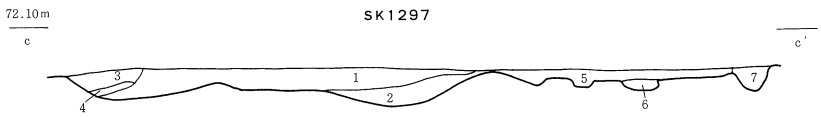
19　暗茶褐色粘質土(黄褐色土霜降り、焼土混)

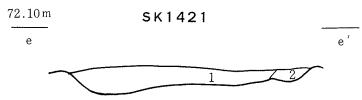


第109図　遺構実測図(中世前期)
SK1292・SK1293・SK1294





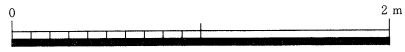




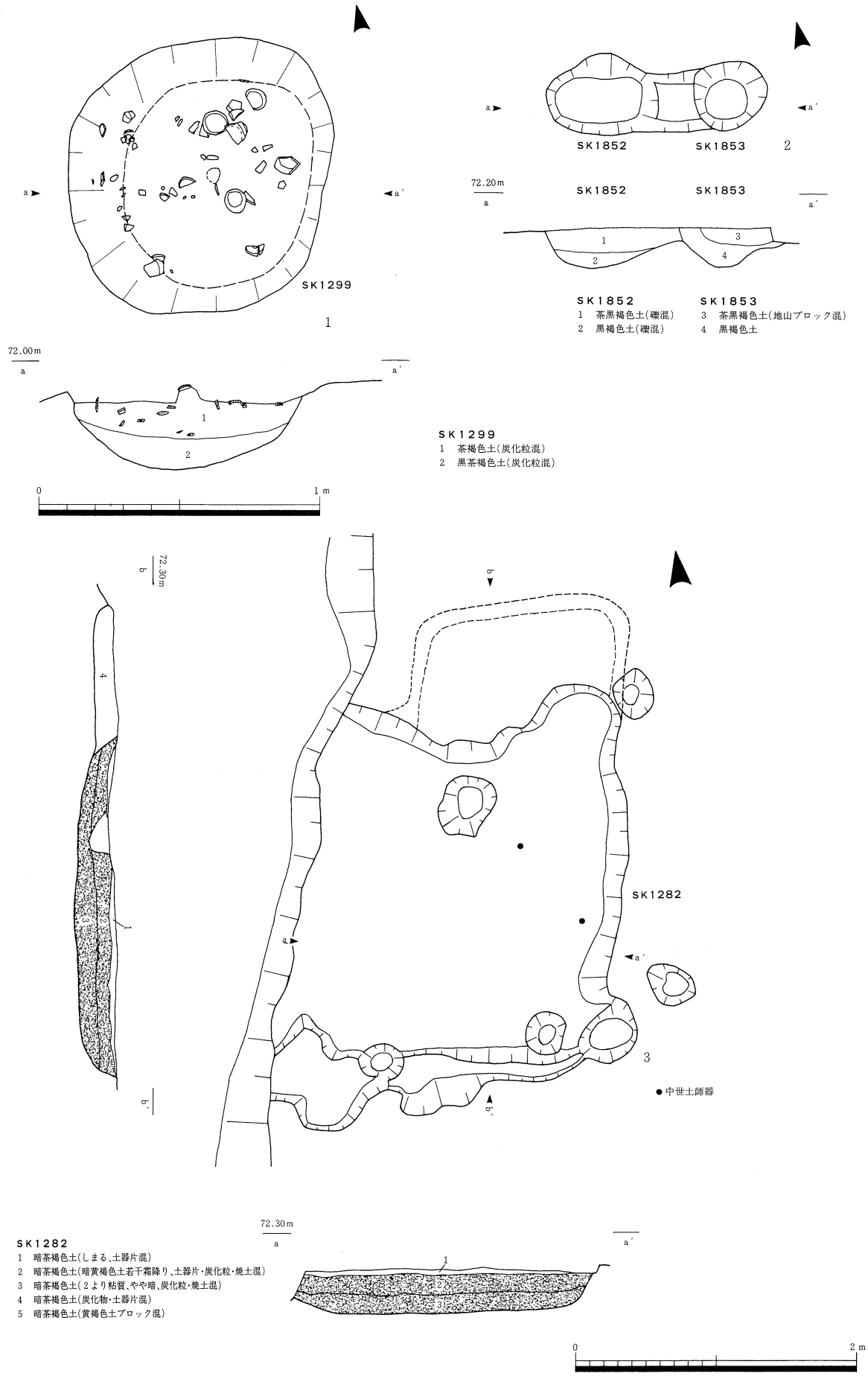
SK1295
1 暗茶褐色土
2 暗茶褐色土(微量に黄褐色土霜降り)
3 黒褐色土
4 黒褐色土と地山の混土
5 黒褐色粘質土(礫混)
6 黒褐色砂礫土

SK1297
1 暗茶褐色土(しまる)
2 暗茶褐色土
3 暗茶褐色土(しまりない)
4 暗茶褐色土(黄褐色土霜降り、しまりない)
5 暗茶褐色土
6 暗茶褐色土(黄褐色土霜降り、礫混)
7 暗茶褐色土(5より明るい)

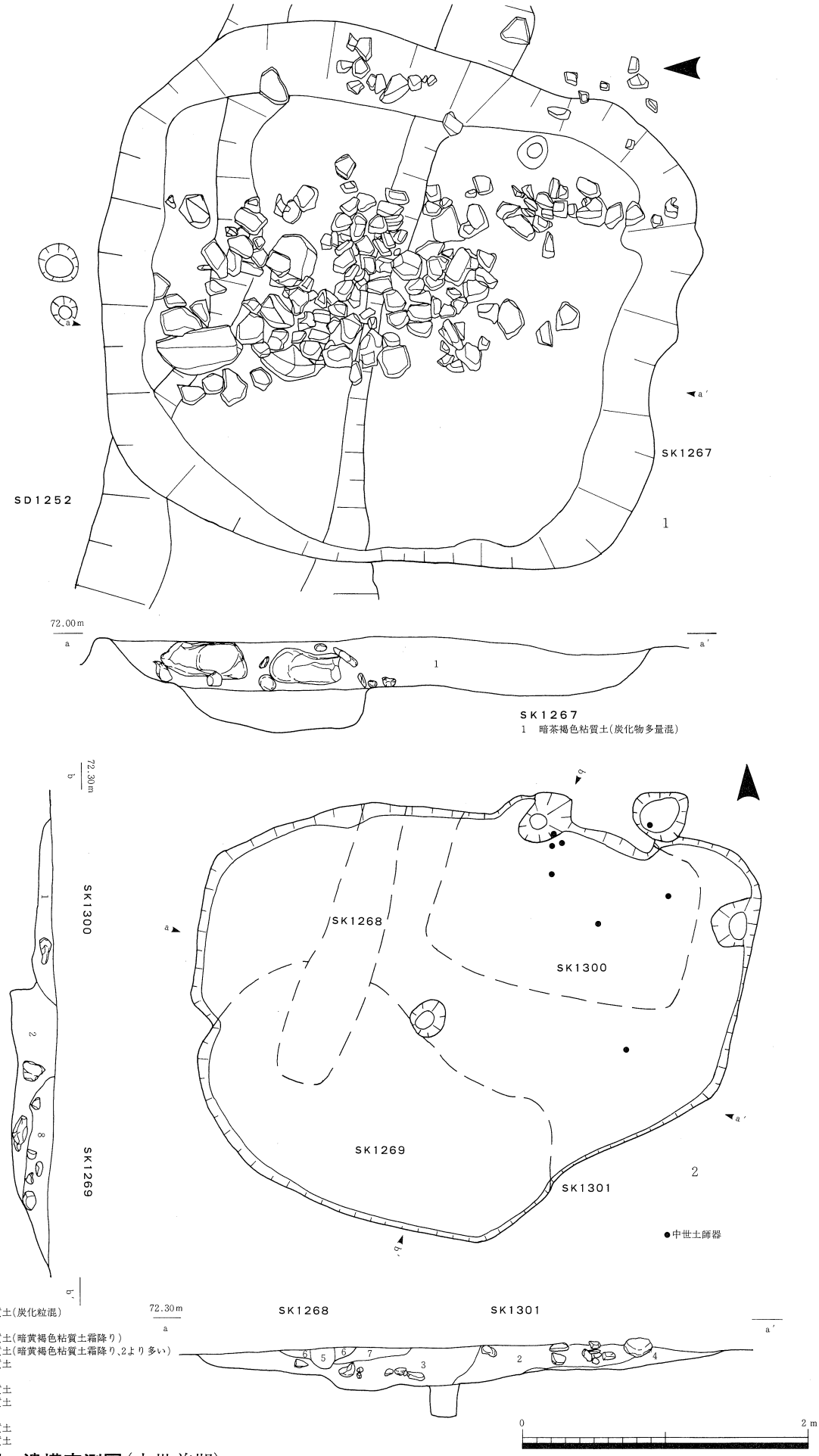
SK1421
1 暗茶褐色土(しまる、上面礫混)
2 暗茶褐色土



第110図　遺構実測図(中世前期)
SK1295・SK1297・SK1421

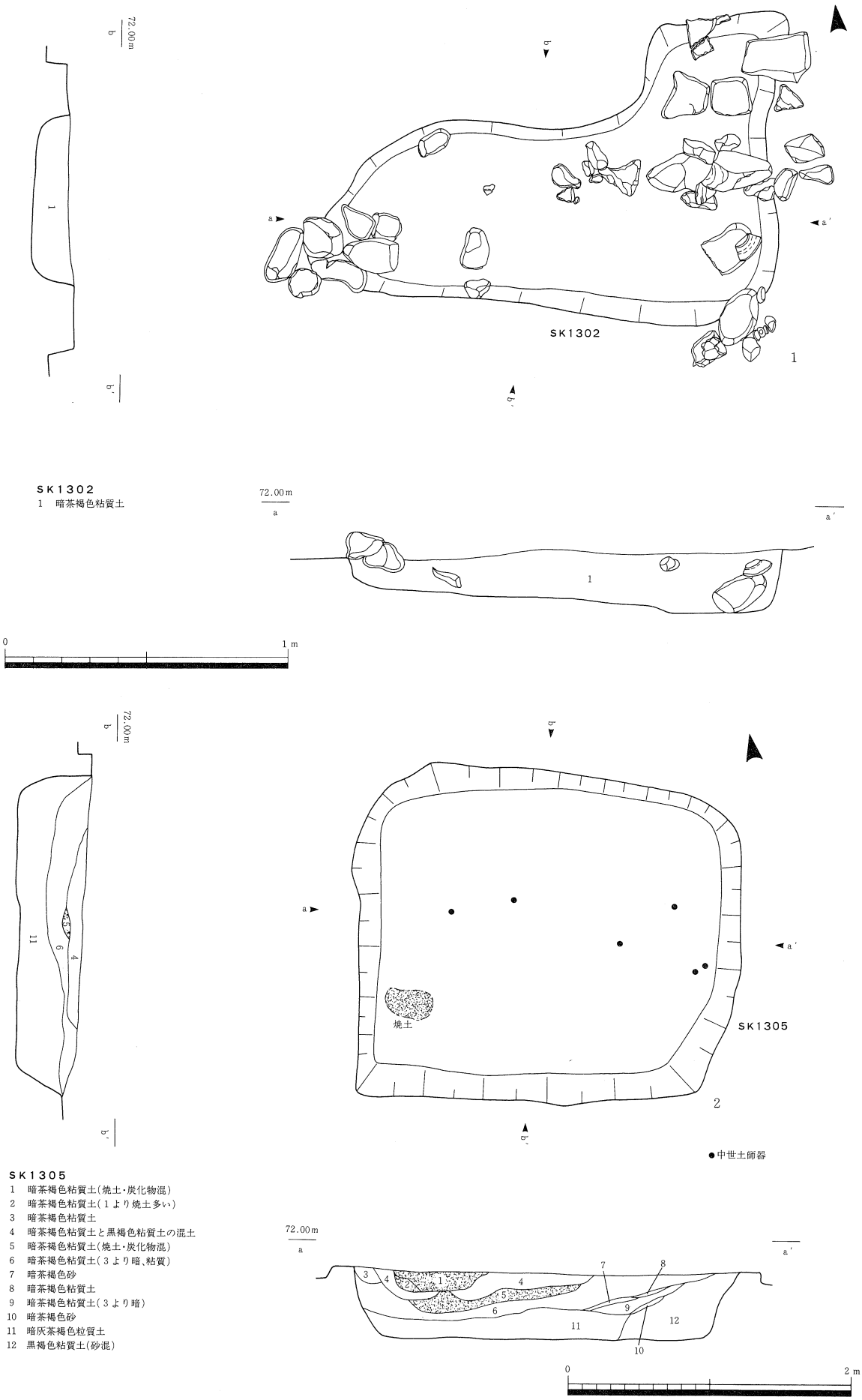


第111図　遺構実測図(中世前期)
1.SK1299　2.SK1852・SK1853　3.SK1282



第112図　遺構実測図(中世前期)

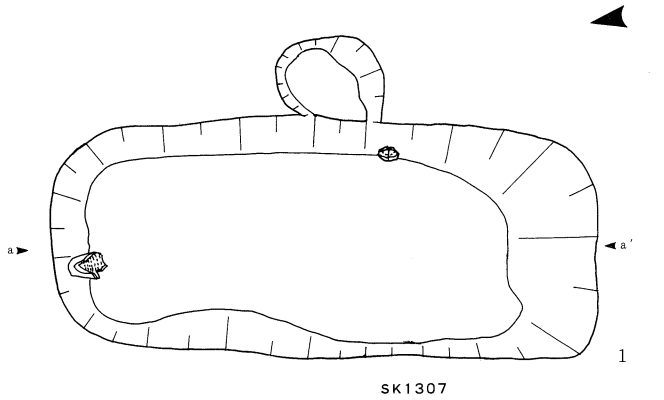
1.SK1267　2.SK1268・SK1269・SK1300・SK1301

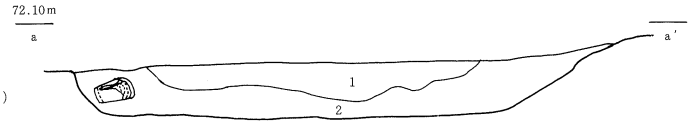


SK1302
1　暗茶褐色粘質土

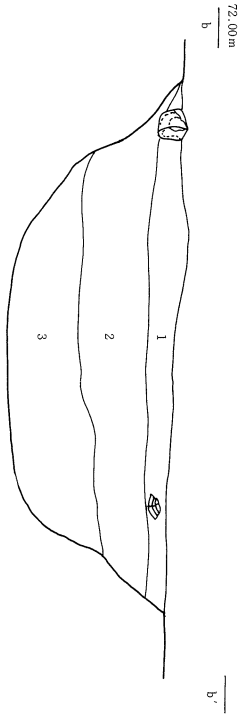
SK1305
1　暗茶褐色粘質土(焼土・炭化物混)
2　暗茶褐色粘質土(1より焼土多い)
3　暗茶褐色粘質土
4　暗茶褐色粘質土と黒褐色粘質土の混土
5　暗茶褐色粘質土(焼土・炭化物混)
6　暗茶褐色粘質土(3より暗、粘質)
7　暗茶褐色砂
8　暗茶褐色粘質土
9　暗茶褐色粘質土(3より暗)
10　暗茶褐色砂
11　暗灰茶褐色粒質土
12　黒褐色粘質土(砂混)

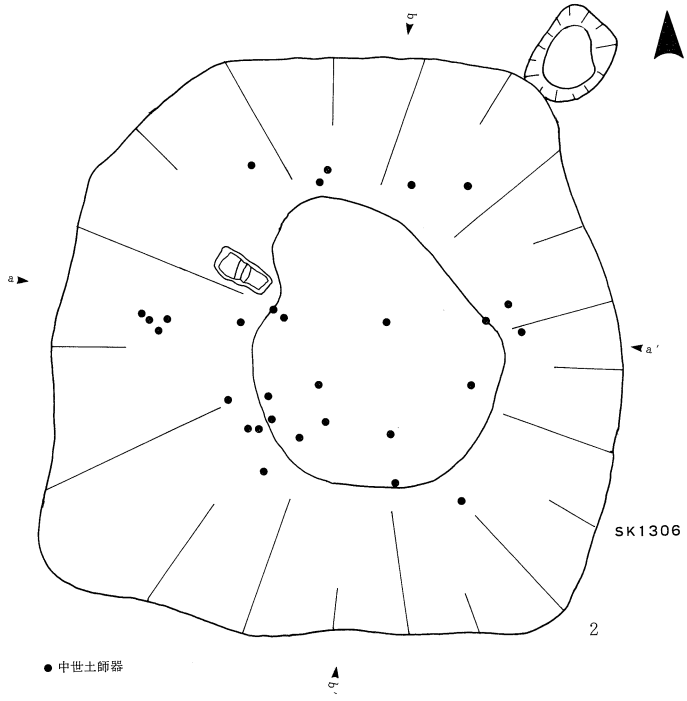
第113図　遺構実測図(中世前期)
1.SK1302　2.SK1305



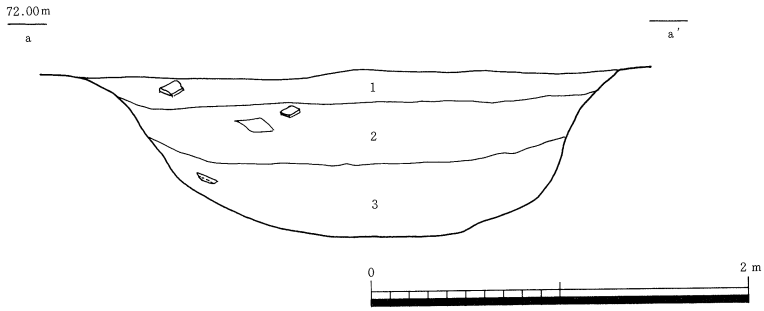


SK1307
1　暗茶褐色粘質土(暗黄褐色粘質土霜降り)
2　暗茶褐色粘質土

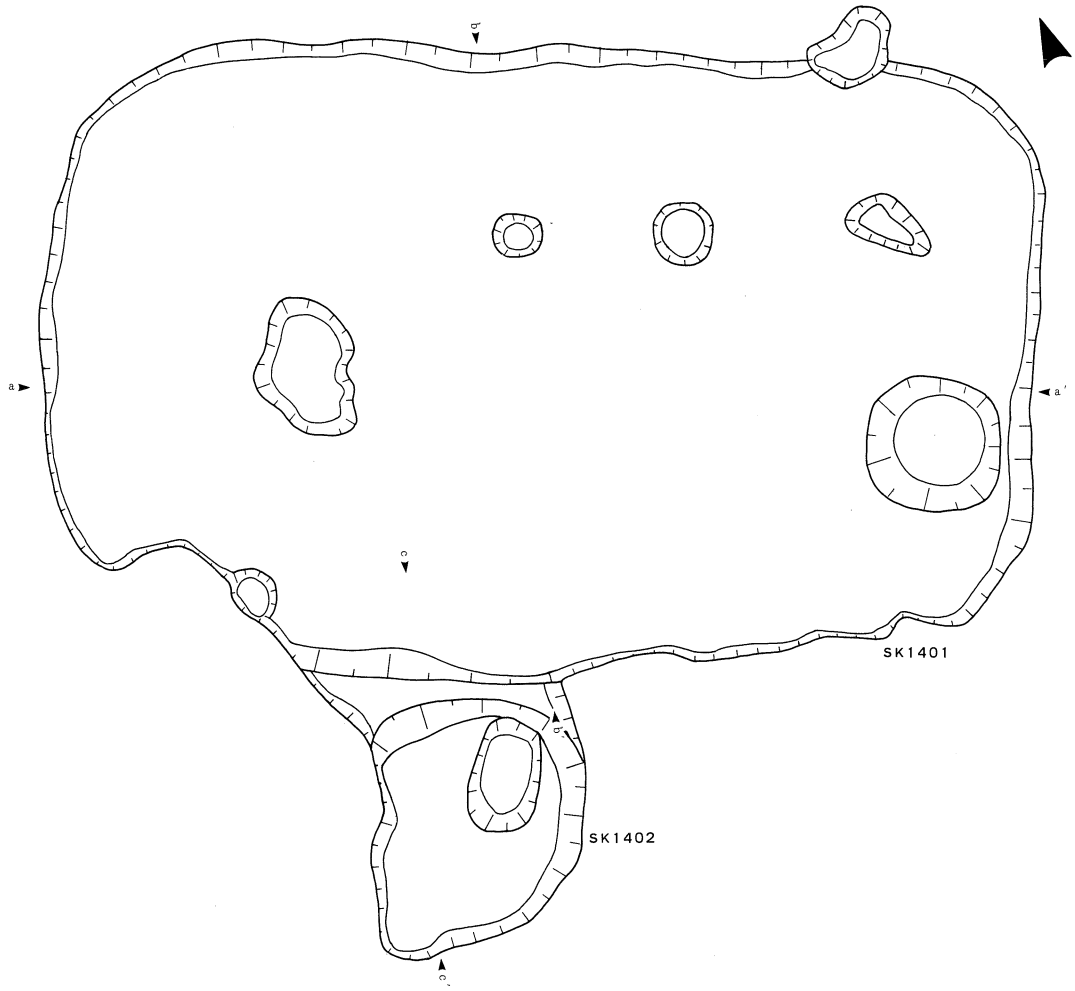




SK1306
1　暗茶褐色粘質土
2　暗灰褐色粘質土(礫混)
3　暗灰褐色粘質土

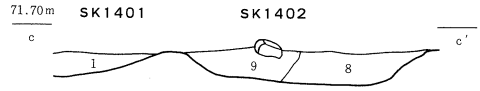


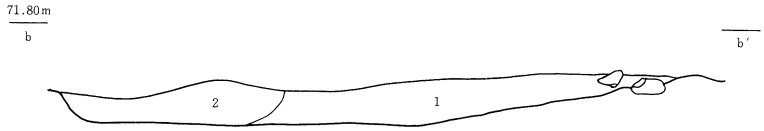
第114図　遺構実測図(中世前期)
1.SK1307　2.SK1306

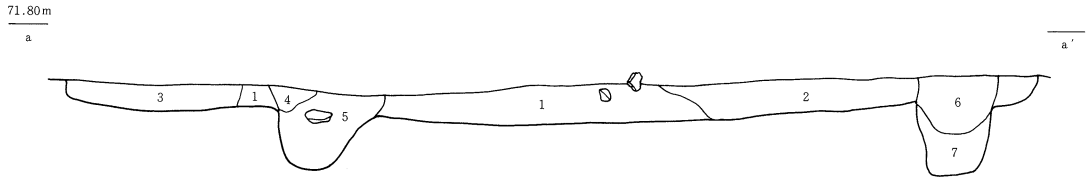


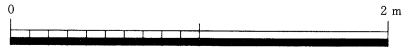
SK1401
1　黒褐色土(暗茶褐色土霜降り)
2　暗茶褐色土(暗茶褐色土・黒褐色土・黒褐色土霜降り)
3　黒褐色土(黄褐色土ブロック混)
4　暗茶褐色土
5　暗茶褐色土(しまり悪)
6　暗茶褐色土(茶褐色土霜降り、しまり悪)
7　黒褐色土(しまり悪)

SK1402
8　黒褐色土
9　黒褐色土(暗茶灰色土ブロック混)

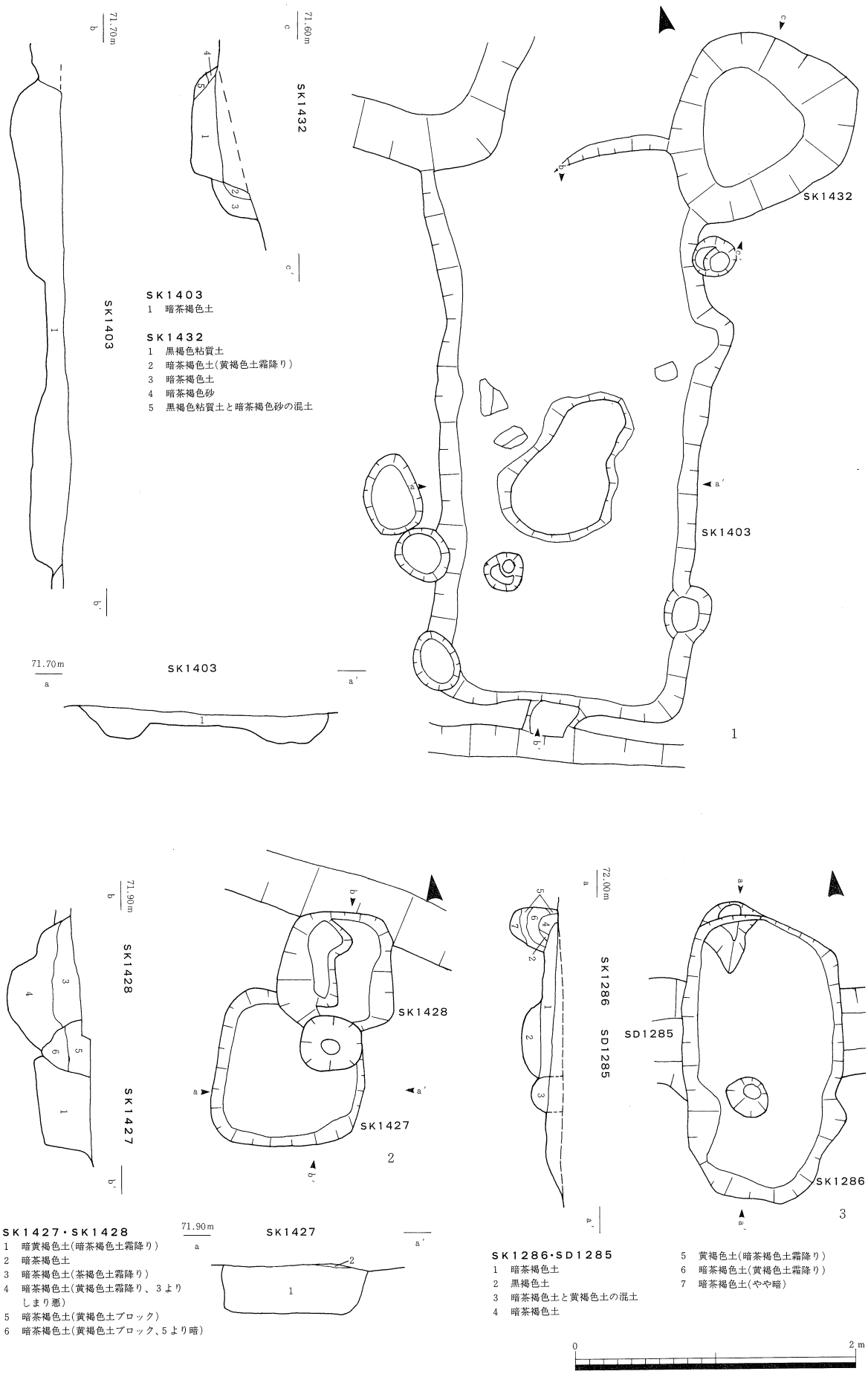




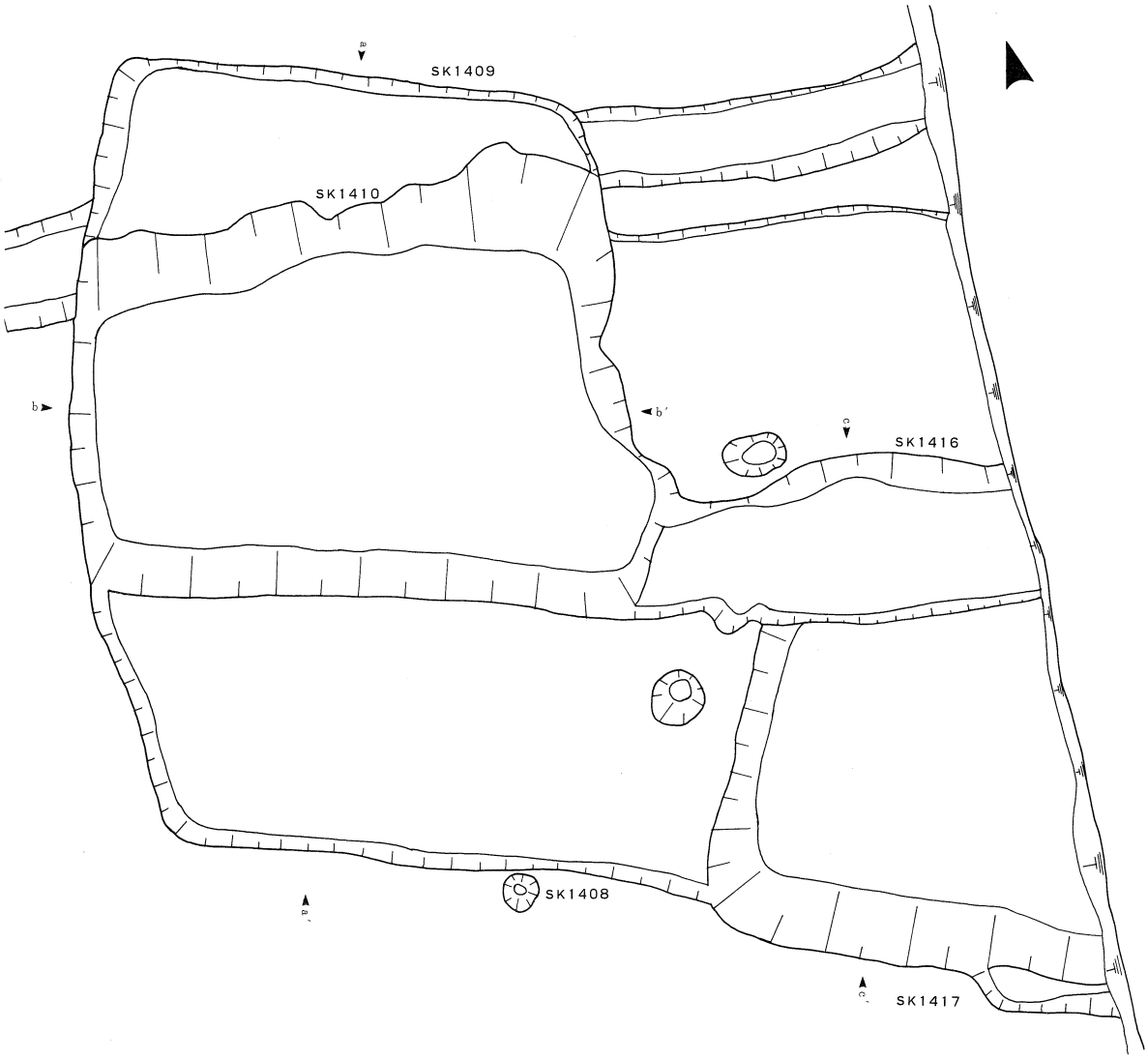


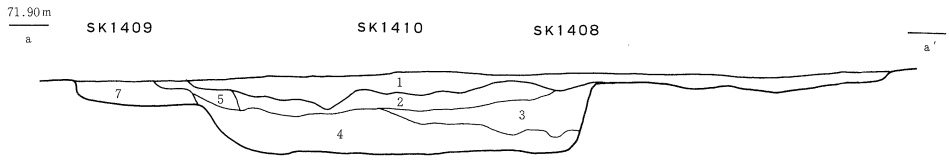


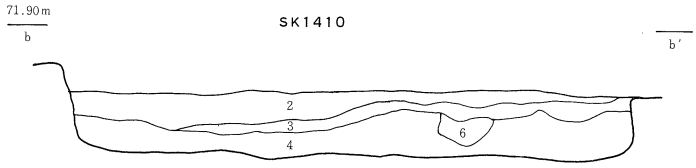
第115図　遺構実測図(中世前期)
SK1401・SK1402

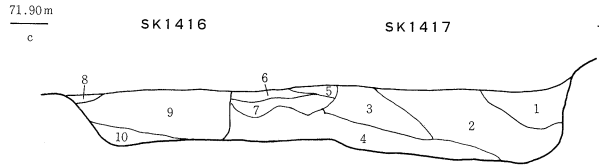


第116図　遺構実測図(中世前期)
1.SK1403・SK1432　2.SK1427・SK1428　3.SK1286









SK1408
1　暗茶灰色粘質土(酸化鉄含)

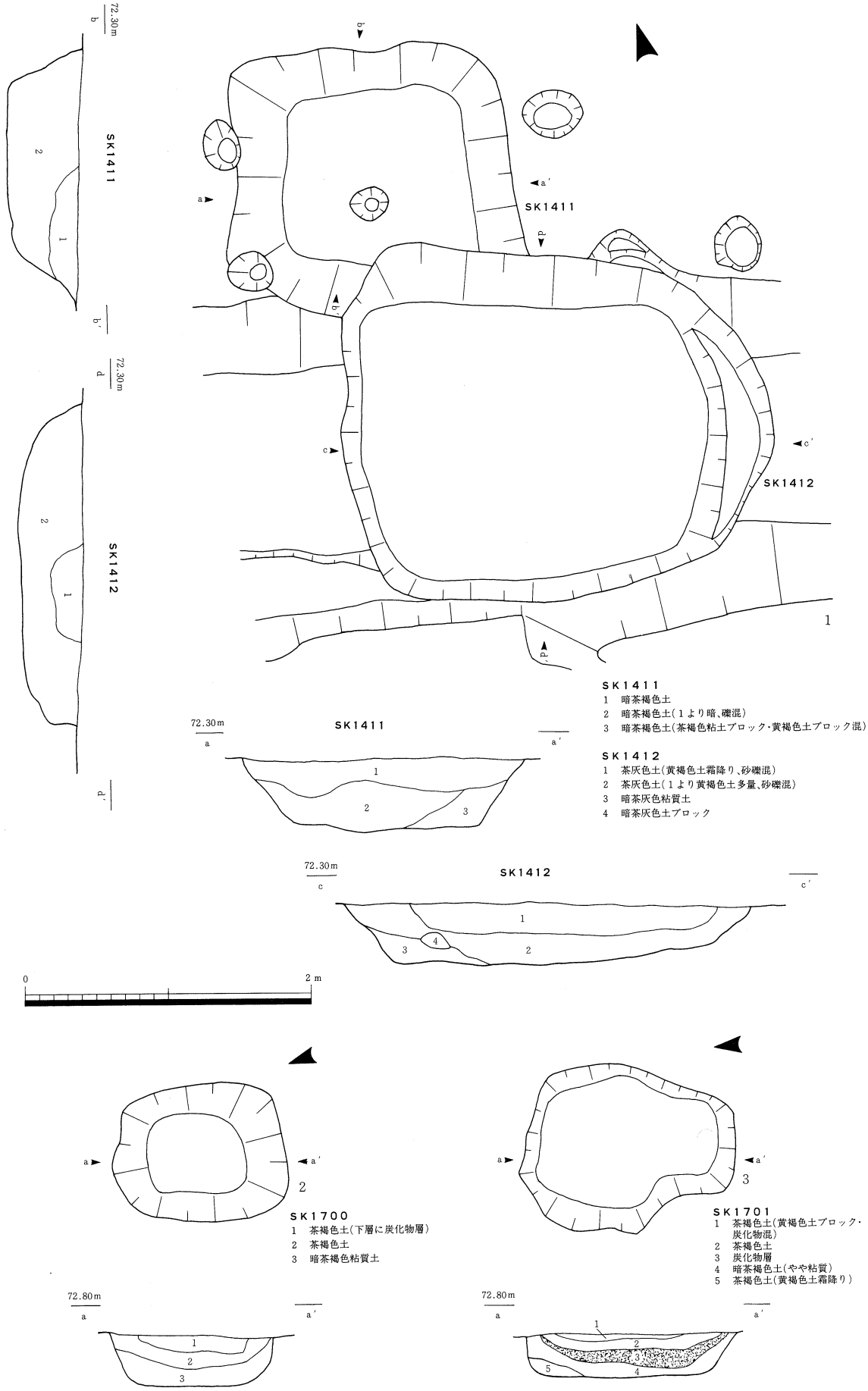
SK1410
2　暗茶灰色粘質土(黄褐色土霜降り)
3　暗茶灰色粘質土
4　暗茶灰色粘質土(黒褐色土・黄褐色土ブロック霜降り)
5　暗茶灰色粘質土
6　暗茶灰色粘質土ブロック

SK1409
7　暗茶褐色土(黄褐色土・黒褐色土霜降り)

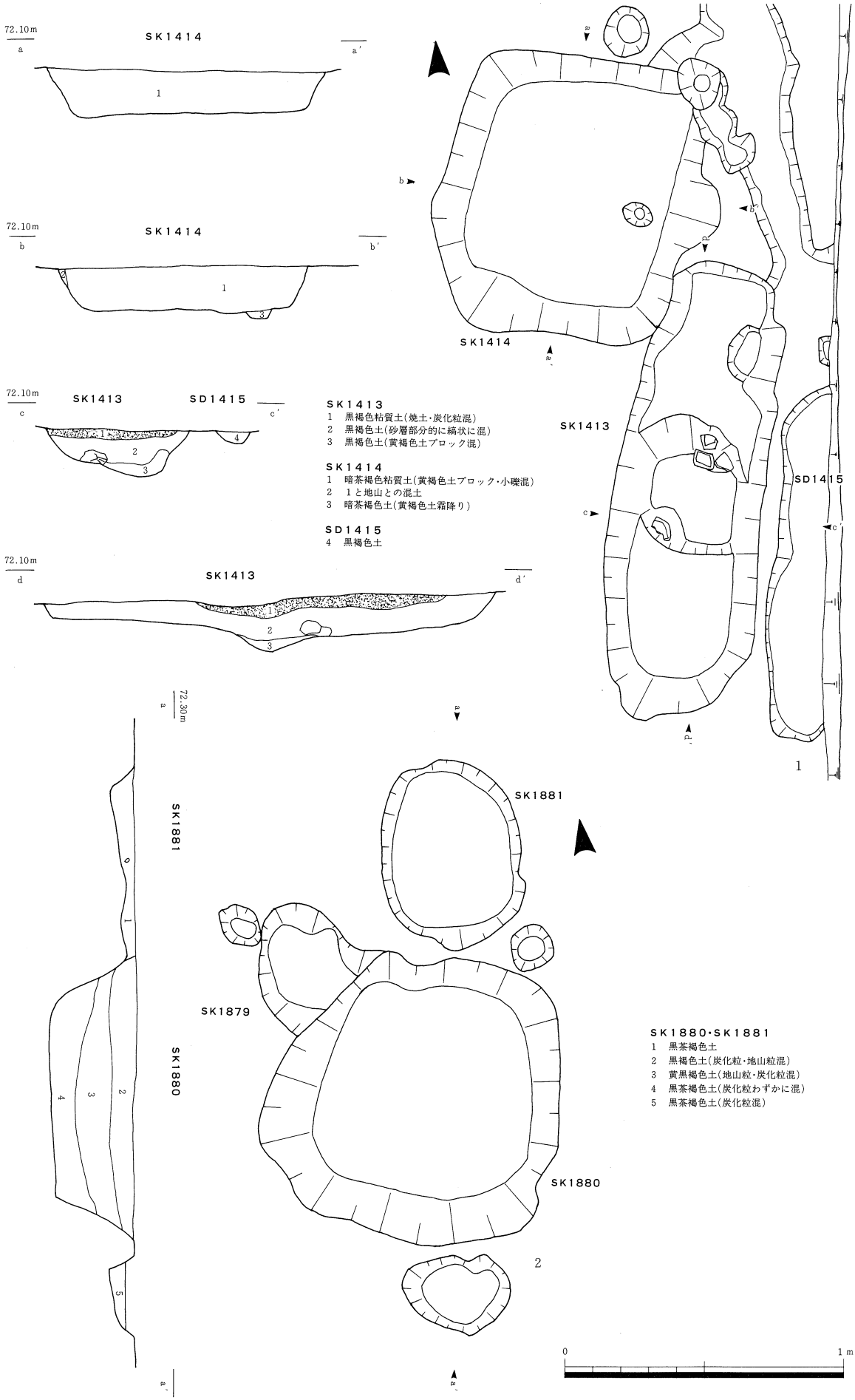
SK1417
1　暗茶褐色土(黄褐色土霜降り)
2　暗黄褐色砂質土(暗茶褐色土霜降り)
3　暗黄褐色砂質土(暗茶褐色土霜降り、2より少量)
4　暗黄褐色砂質土(2より暗茶褐色土多量、粘質)
5　暗茶灰色粘質土
6　暗黄褐色砂
7　暗黄褐色砂質土(暗茶褐色粘質土霜降り)

SK1416
8　暗黄褐色砂
9　暗茶褐色粘質土
10　暗茶褐色粘質土(黄褐色砂混)

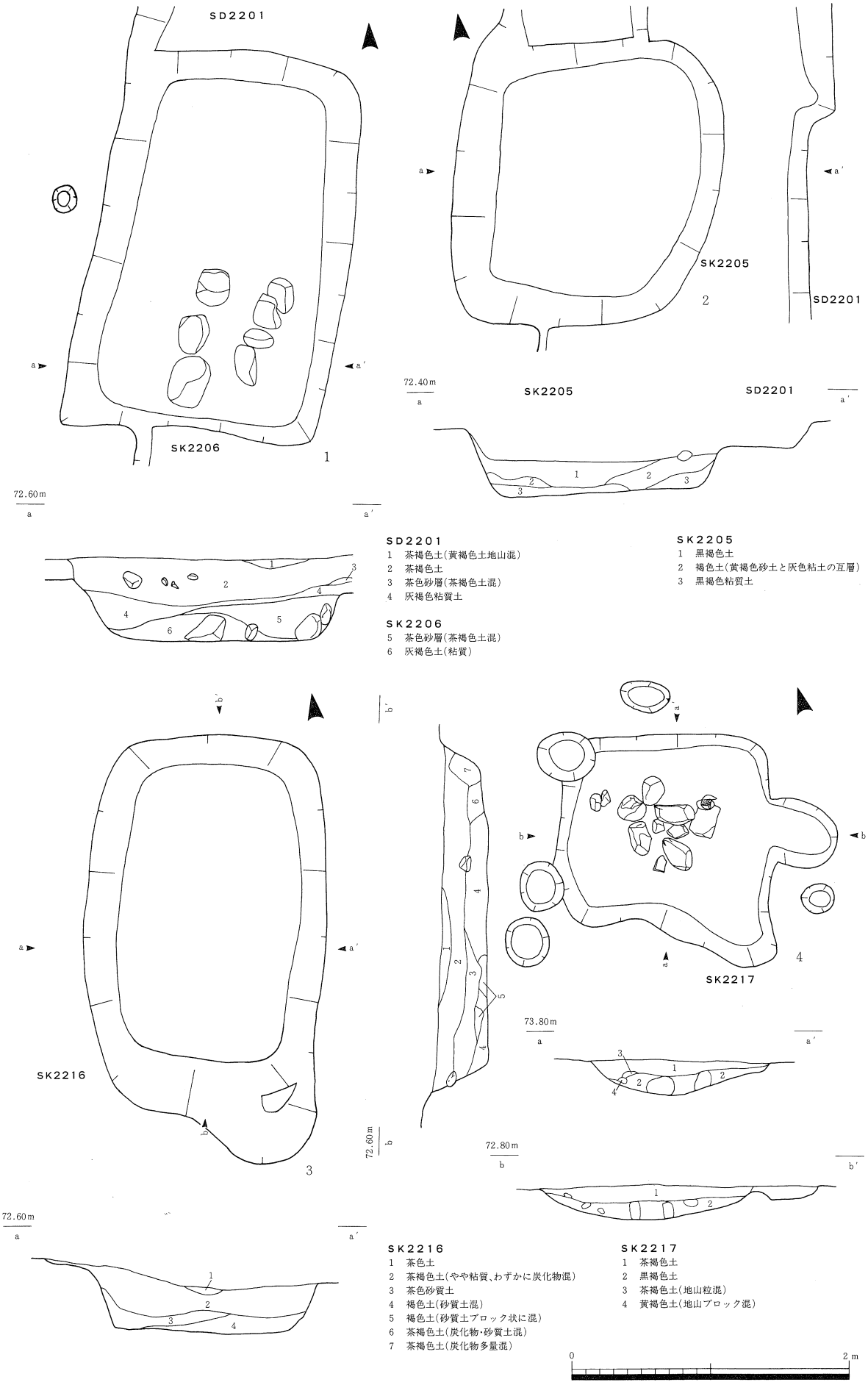
第117図　遺構実測図(中世前期)
SK1408～SK1410・SK1416・SK1417



第118図　遺構実測図(中世前期)
1.SK1411・SK1412　2.SK1700　3.SK1701



第119図　遺構実測図(中世前期)
1.SK1413・SK1414　2.SK1880・SK1881



SD2201
1　茶褐色土(黄褐色土地山混)
2　茶褐色土
3　茶色砂層(茶褐色土混)
4　灰褐色粘質土

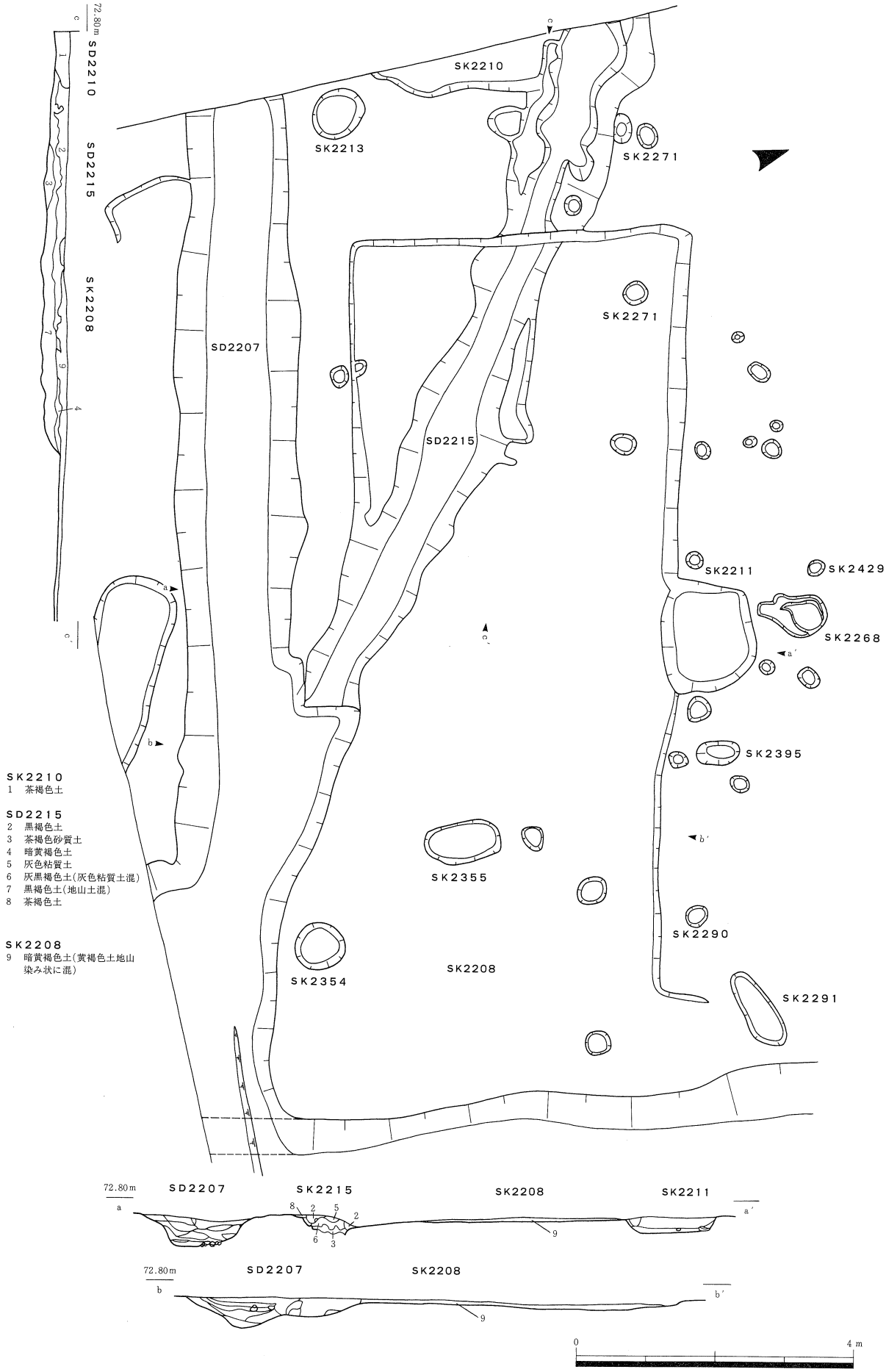
SK2206
5　茶色砂層(茶褐色土混)
6　灰褐色土(粘質)

SK2205
1　黒褐色土
2　褐色土(黄褐色砂土と灰色粘土の互層)
3　黒褐色粘質土

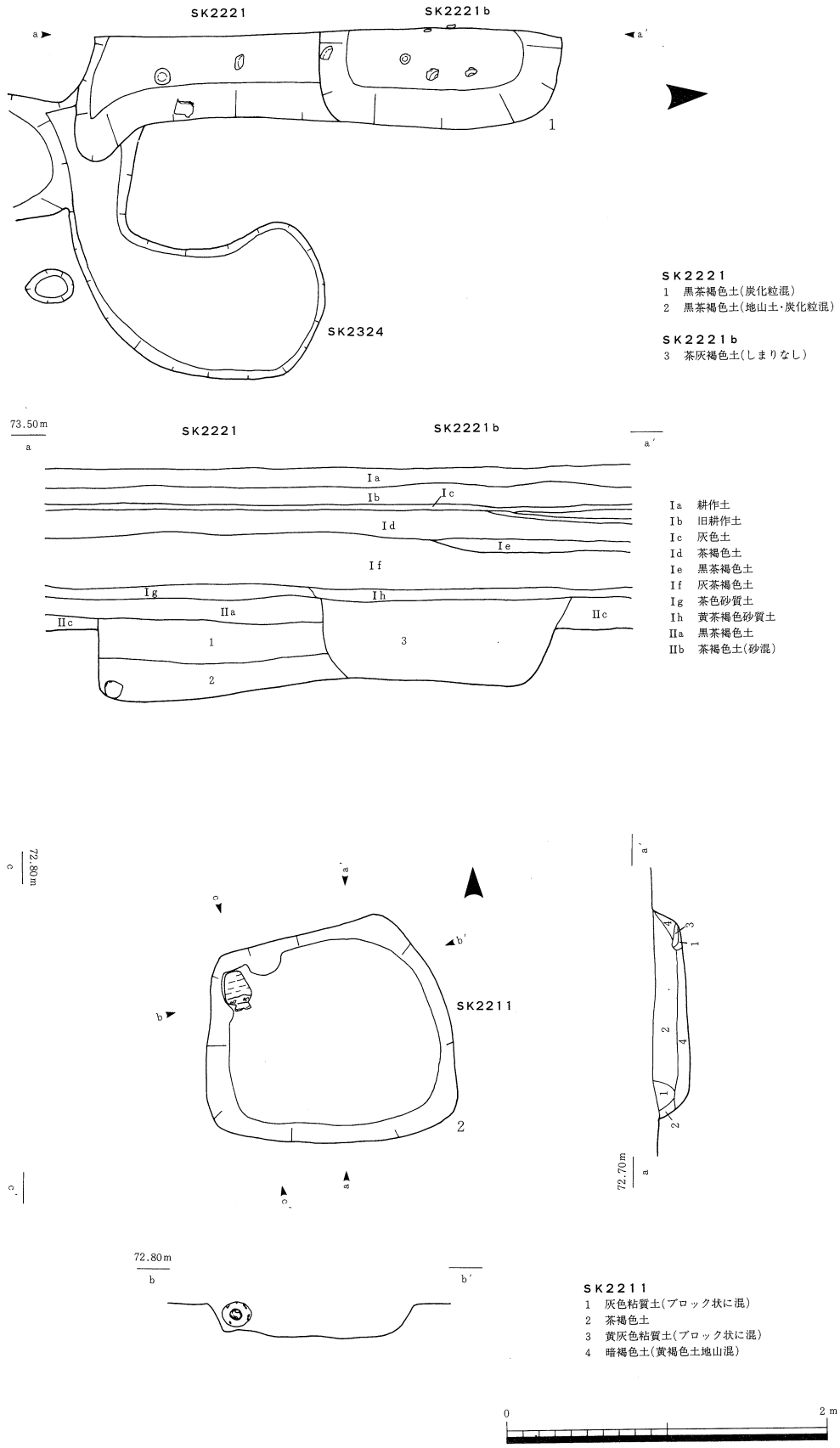
SK2216
1　茶色土
2　茶褐色土(やや粘質、わずかに炭化物混)
3　茶色砂質土
4　褐色土(砂質土混)
5　褐色土(砂質土ブロック状に混)
6　茶褐色土(炭化物・砂質土混)
7　茶褐色土(炭化物多量混)

SK2217
1　茶褐色土
2　黒褐色土
3　茶褐色土(地山粒混)
4　黄褐色土(地山ブロック混)

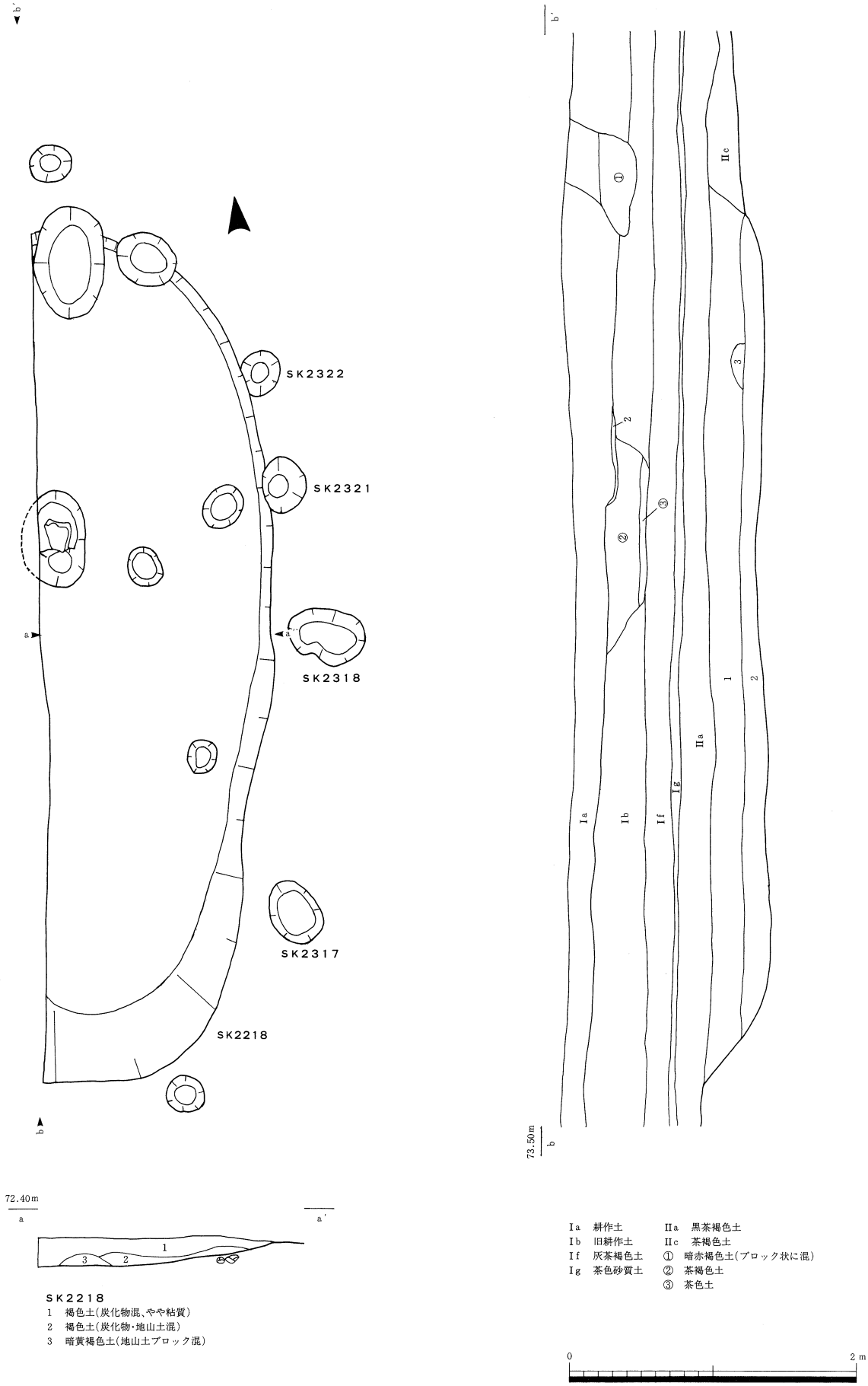
第120図　遺構実測図(中世前期)
1.SK2206　2.SK2205　3.SK2216　4.SK2217



第121図　遺構実測図(中世前期)
SK2208・SK2210

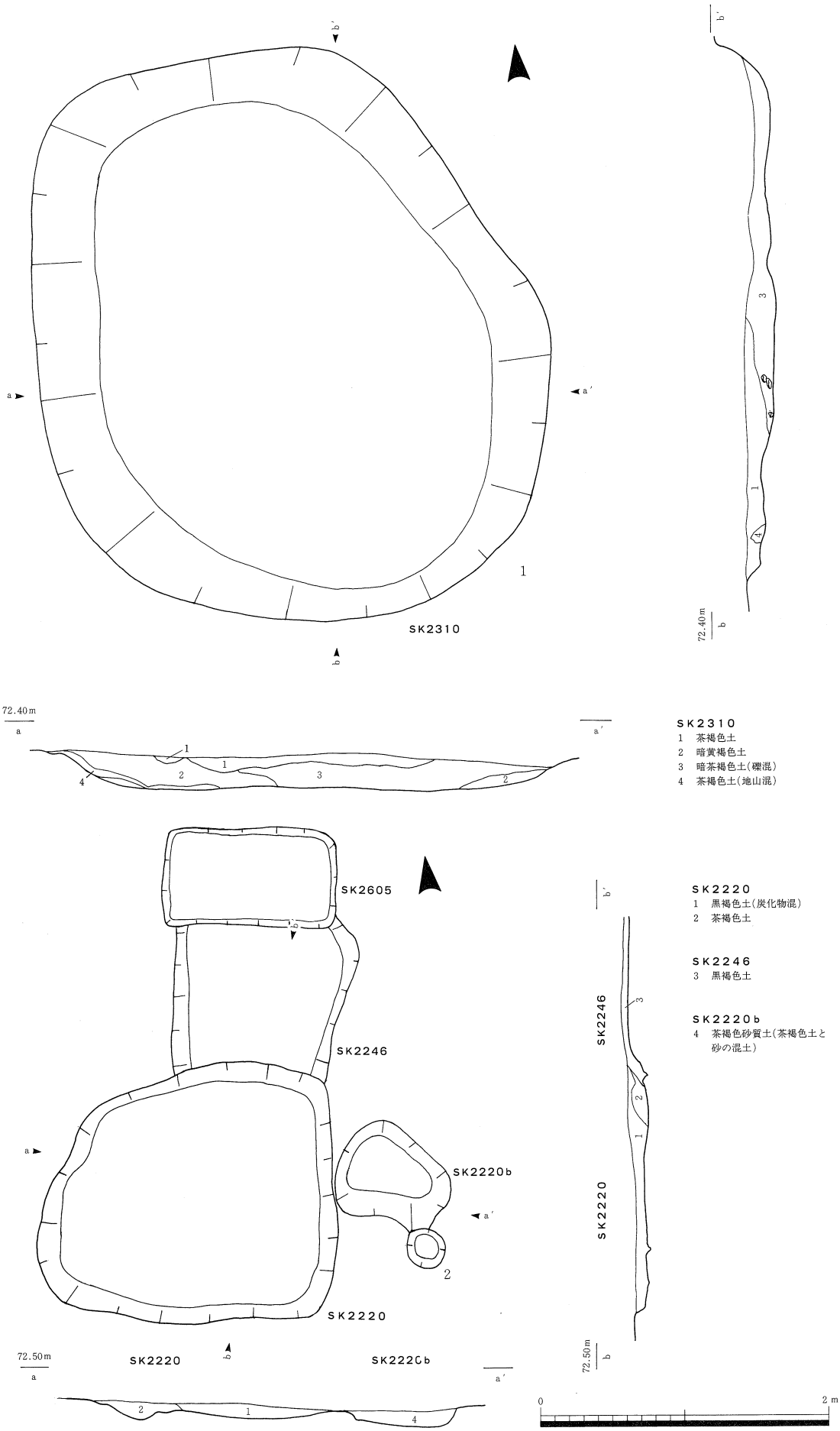


第122図　遺構実測図(中世前期)
1.SK2221・SK2221b　2.SK2211

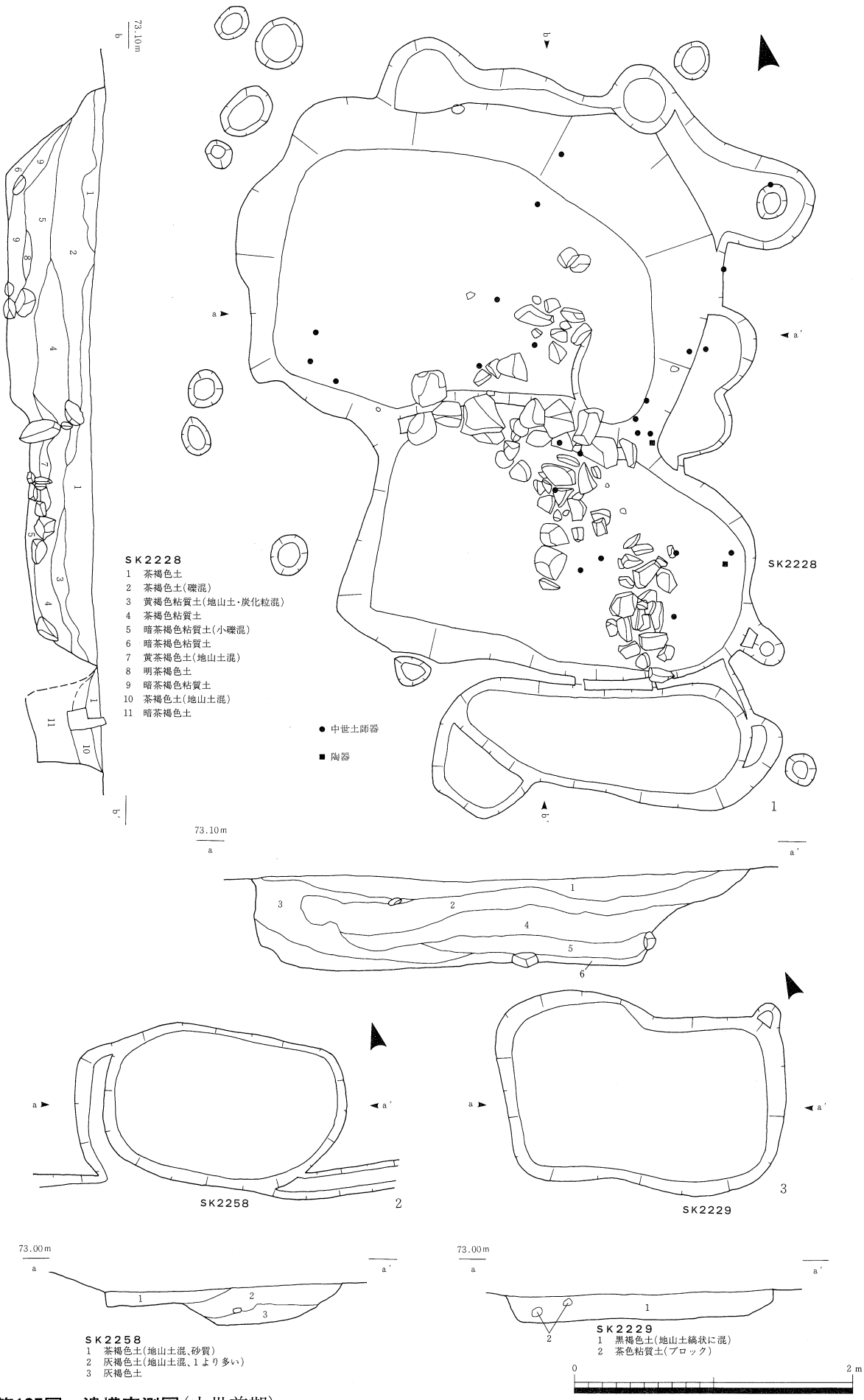


SK2218
1　褐色土(炭化物混、やや粘質)
2　褐色土(炭化物・地山土混)
3　暗黄褐色土(地山土ブロック混)

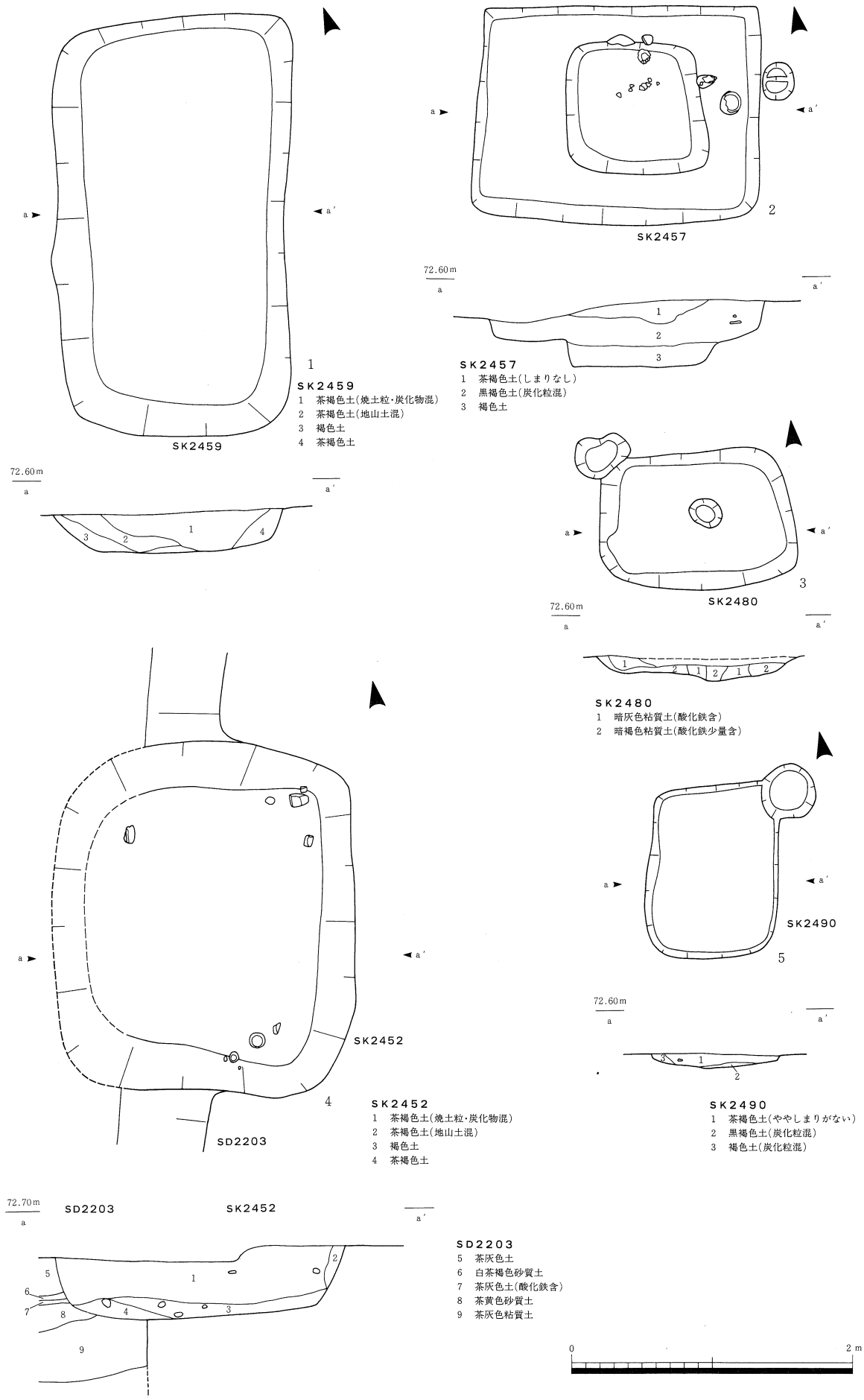
第123図　遺構実測図(中世前期)
SK2218



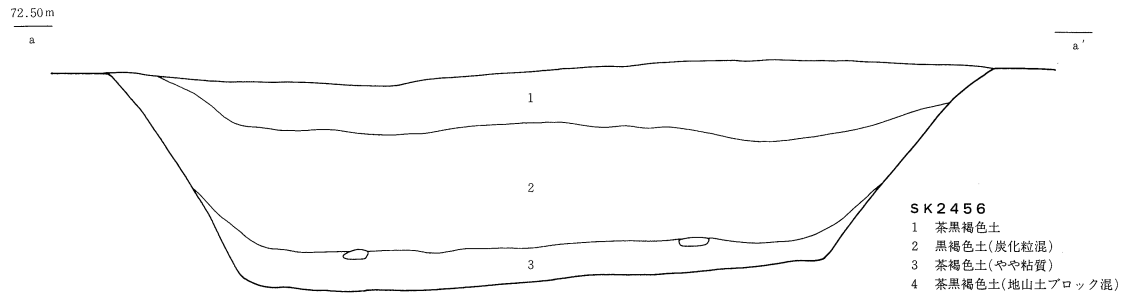
第124図　遺構実測図(中世前期)
1.SK2310　2.SK2220・SK2220b・SK2246

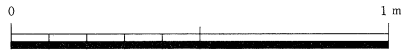


第125図　遺構実測図(中世前期)
1.SK2228　2.SK2258　3.SK2229

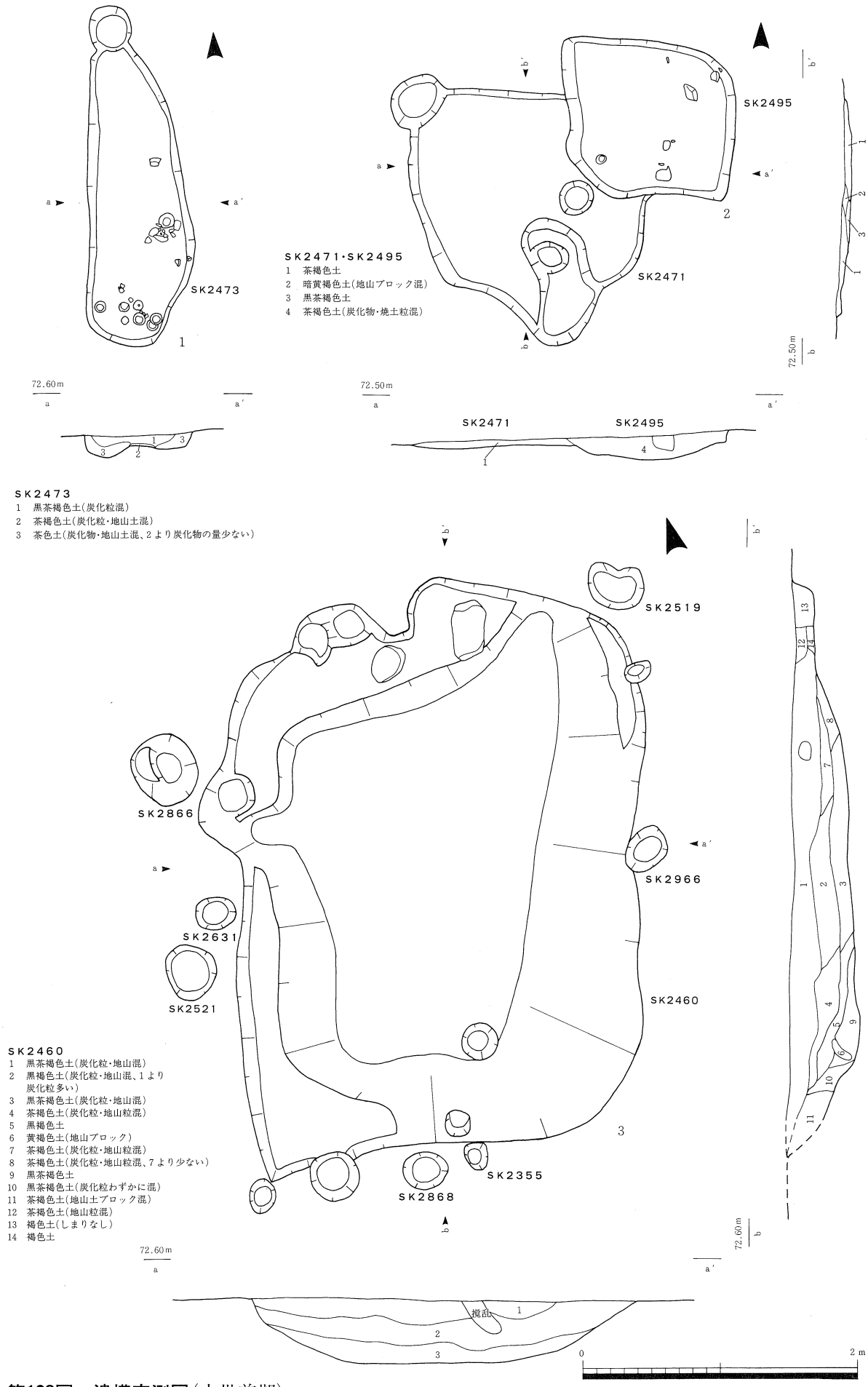


第126図　遺構実測図(中世前期)
1.SK2459　2.SK2457　3.SK2480　4.SK2452　5.SK2490

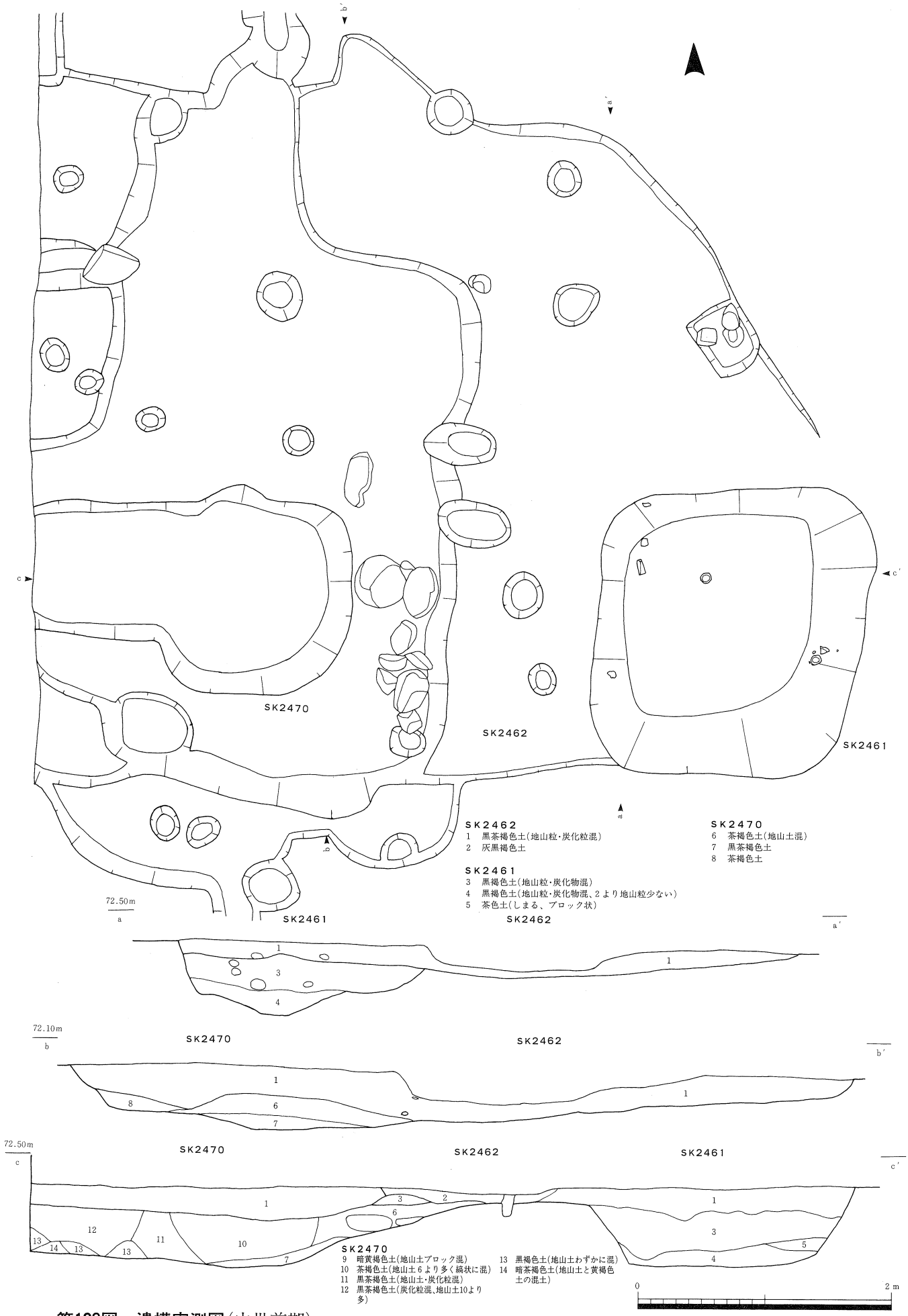




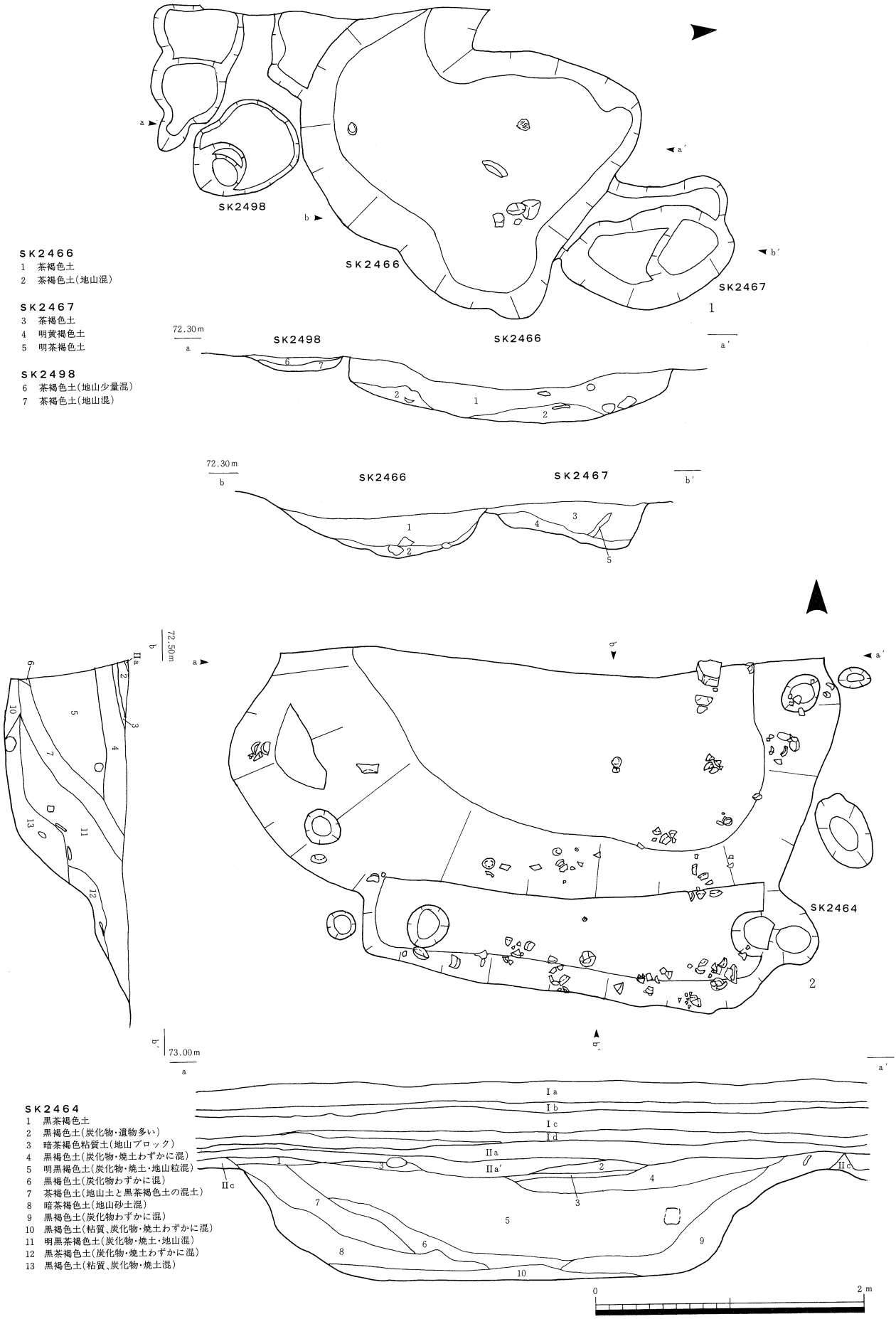
第127図　遺構実測図(中世前期)
SK2456



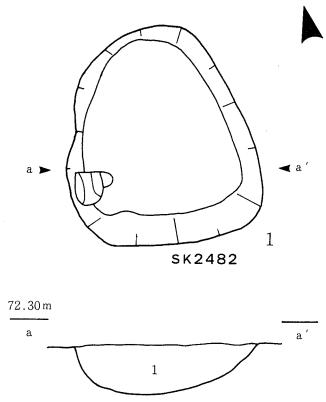
第128図　遺構実測図(中世前期)
1.SK2473　2.SK2471・SK2495　3.SK2460



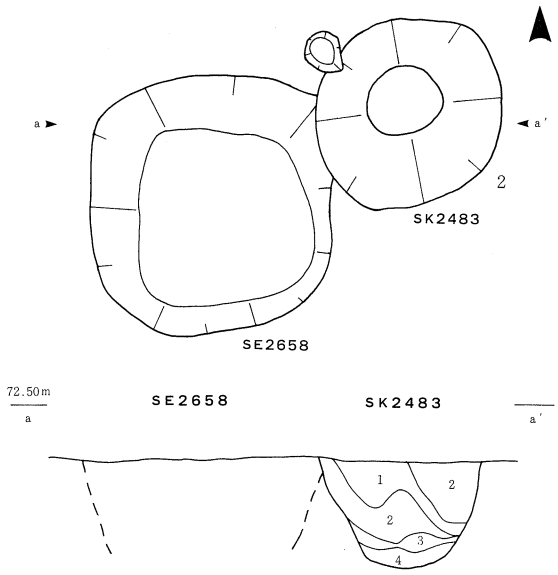
第129図　遺構実測図(中世前期)
SK2461・SK2462・SK2470



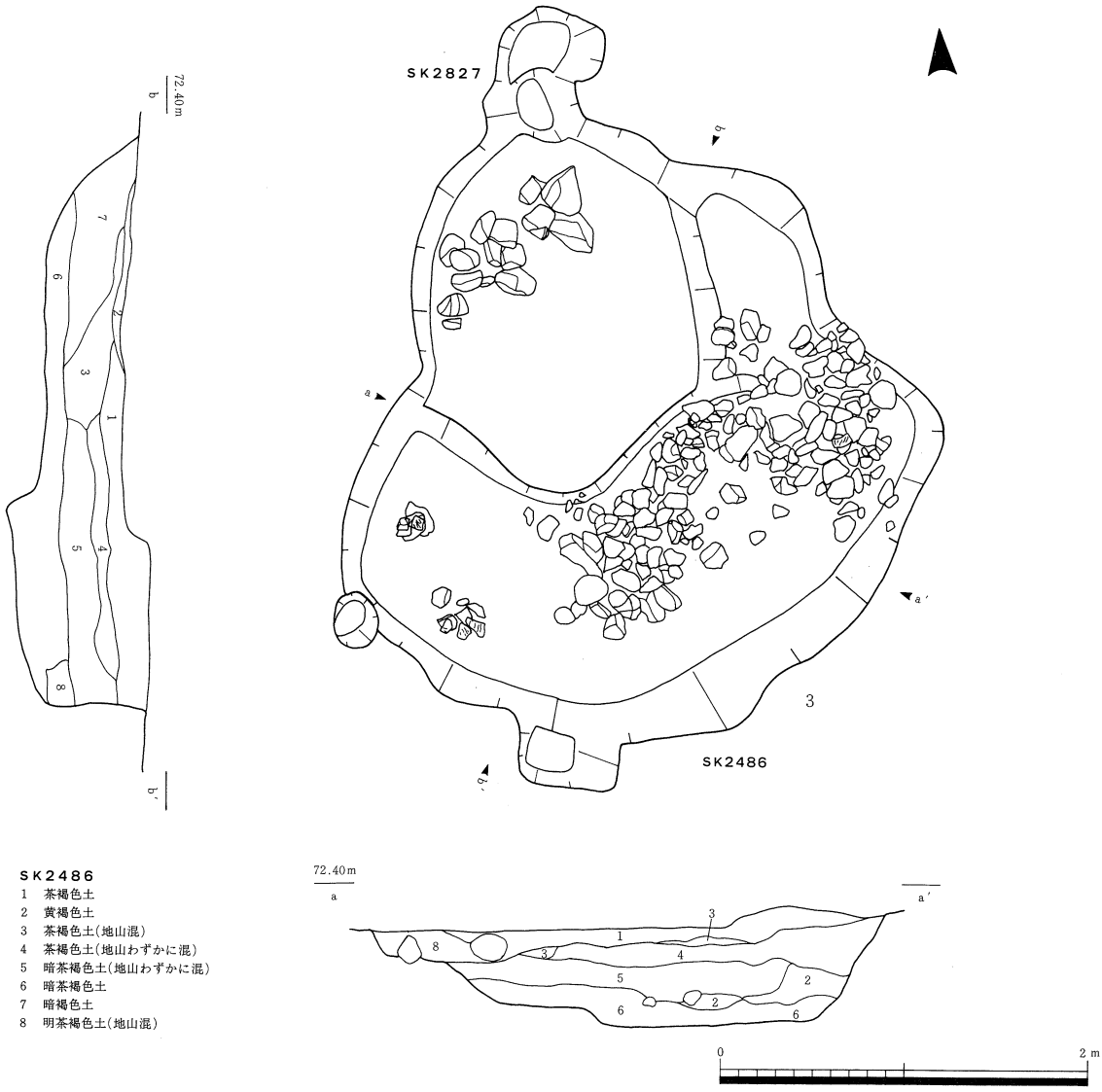
第130図　遺構実測図(中世前期)
1.SK2466・SK2467・SK2498　2.SK2464



SK2482
1　砂礫土

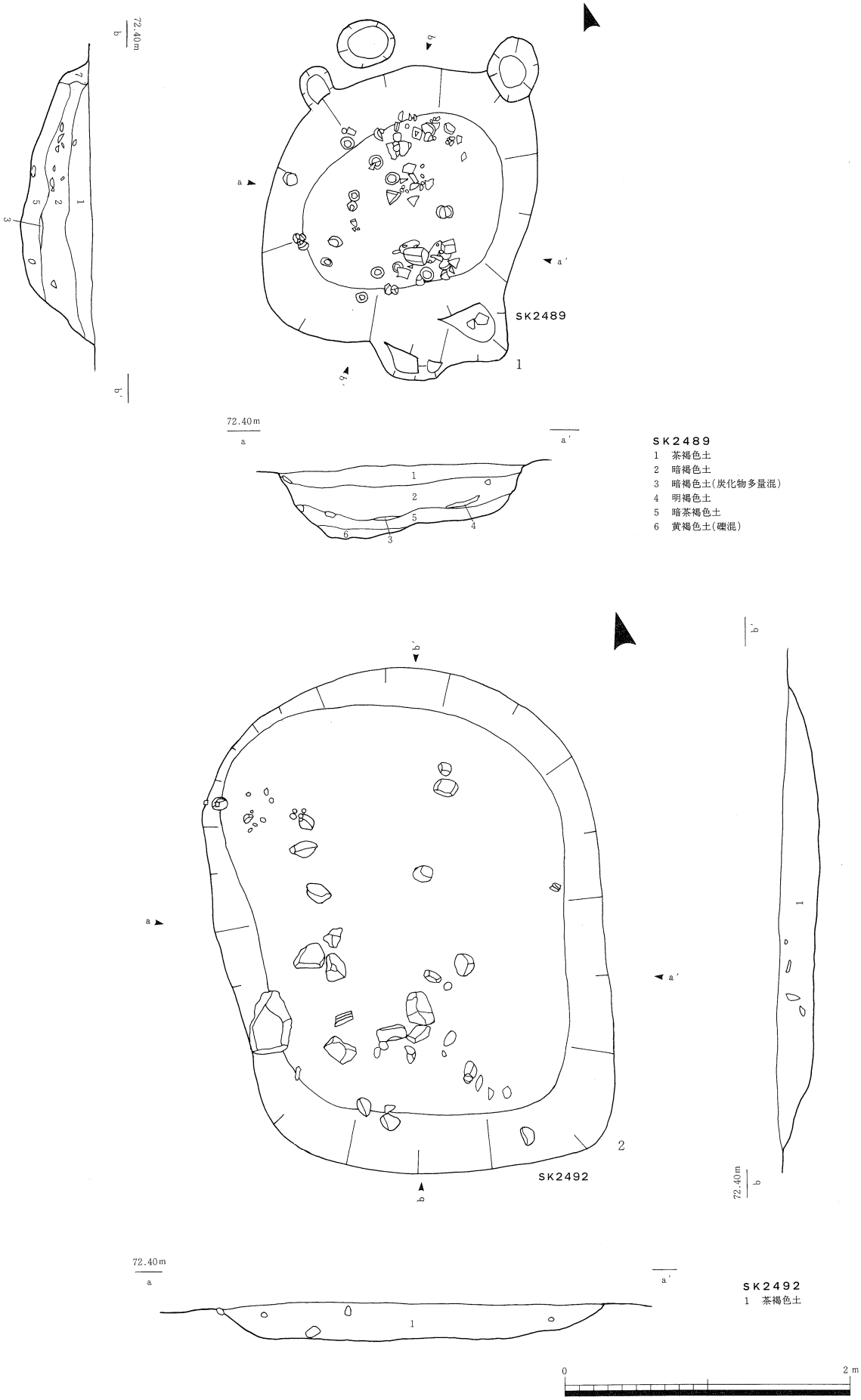


SK2483
1　茶褐色土
2　茶褐色土(地山霜降り)
3　茶褐色土(地山ブロック混)
4　黄褐色土(茶褐色土わずかに混)

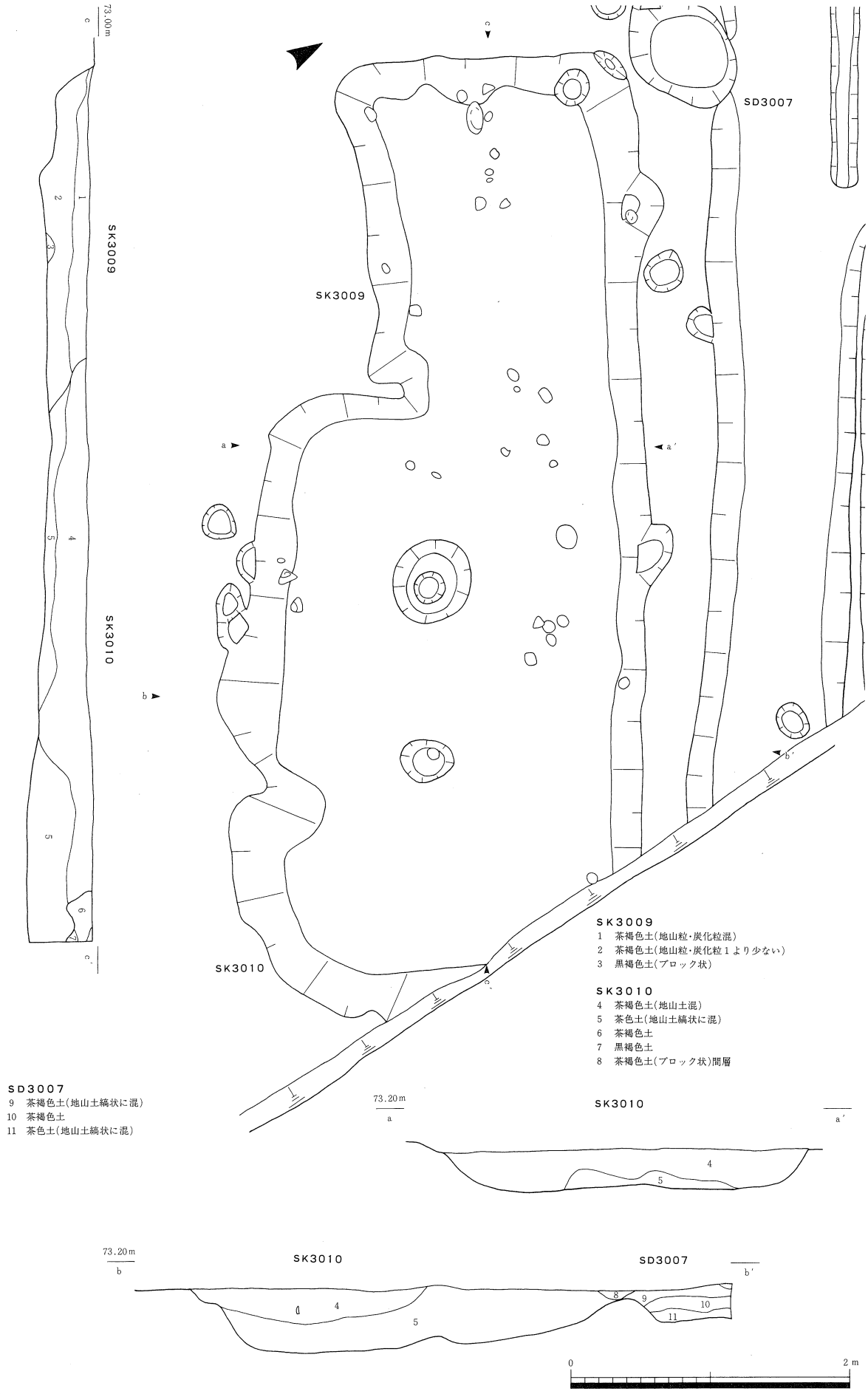


SK2486
1　茶褐色土
2　黄褐色土
3　茶褐色土(地山混)
4　茶褐色土(地山わずかに混)
5　暗茶褐色土(地山わずかに混)
6　暗茶褐色土
7　暗褐色土
8　明茶褐色土(地山混)

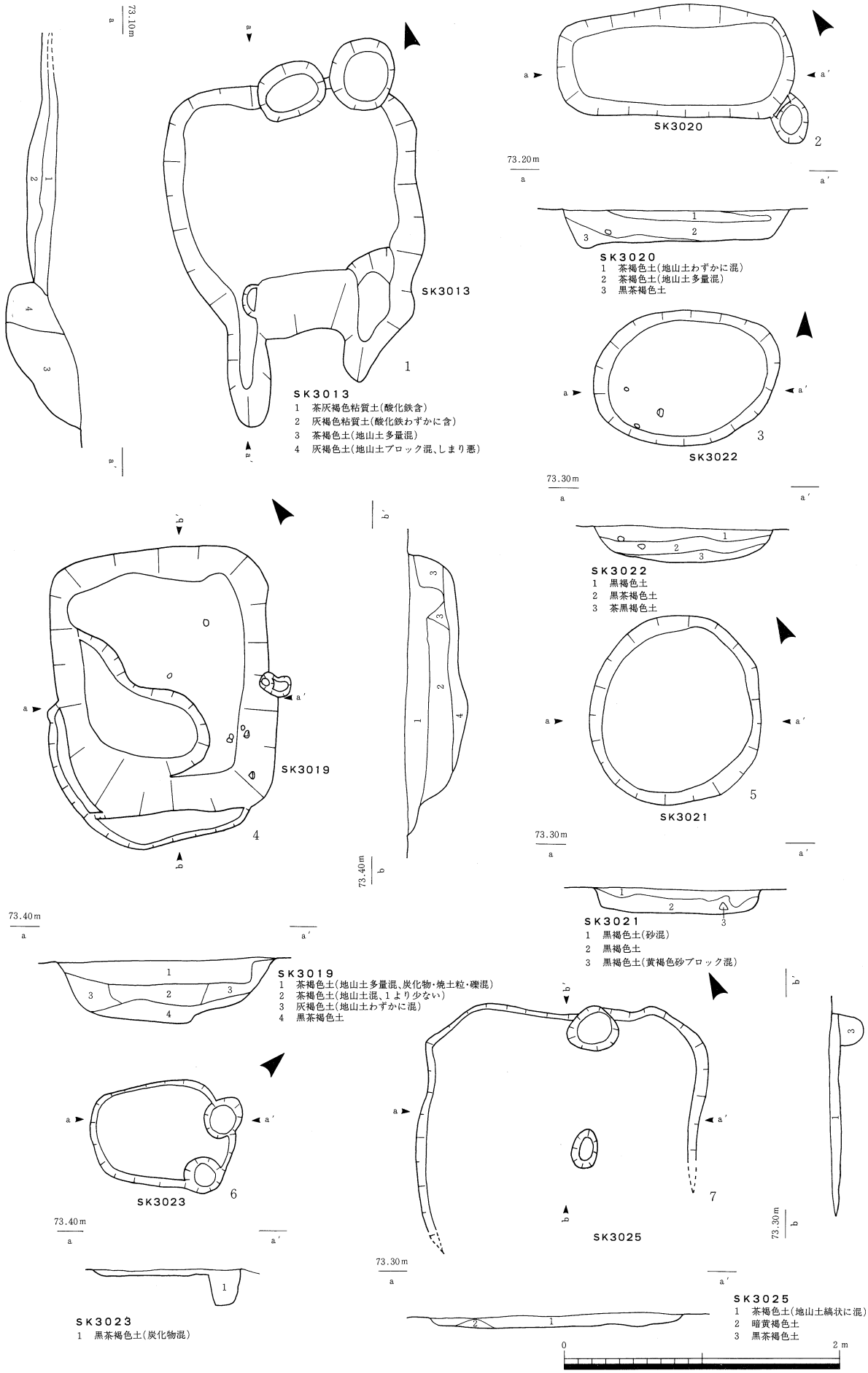
第131図　遺構実測図(中世前期)
1.SK2482　2.SK2483　3.SK2486



第132図　遺構実測図(中世前期)
1.SK2489　2.SK2492

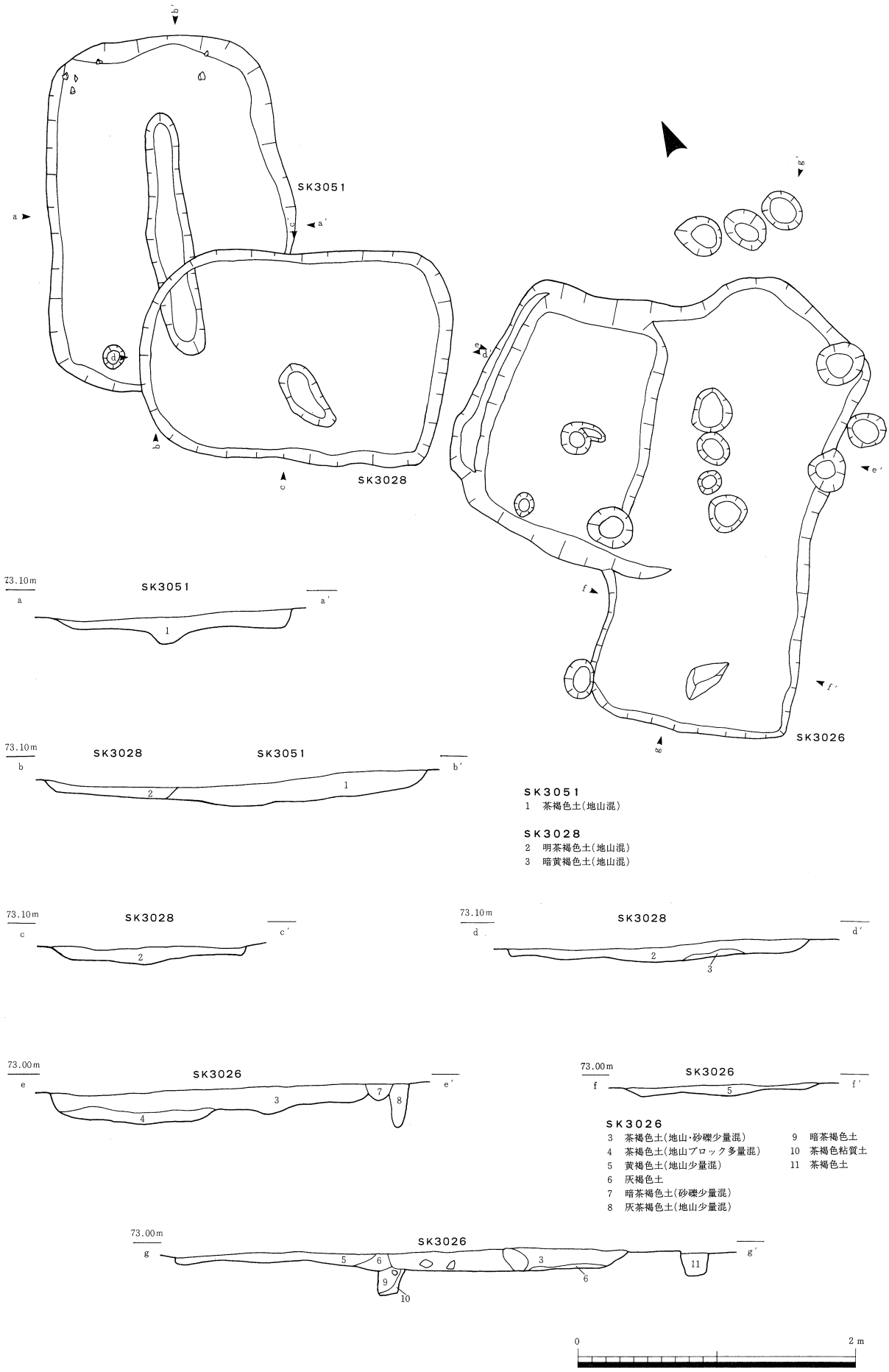


第133図　遺構実測図(中世前期)
SK3009・SK3010

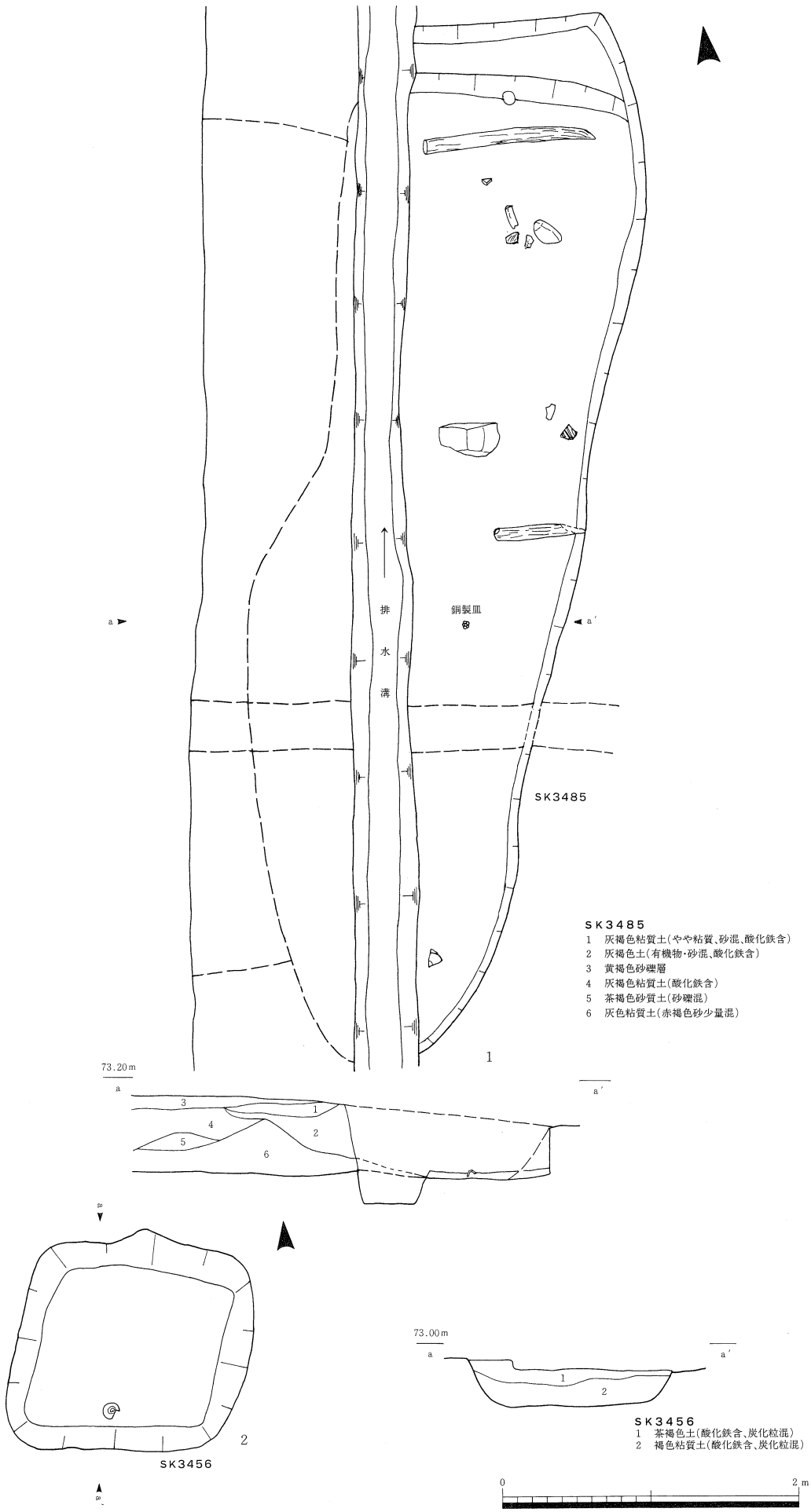


第134図　遺構実測図(中世前期)

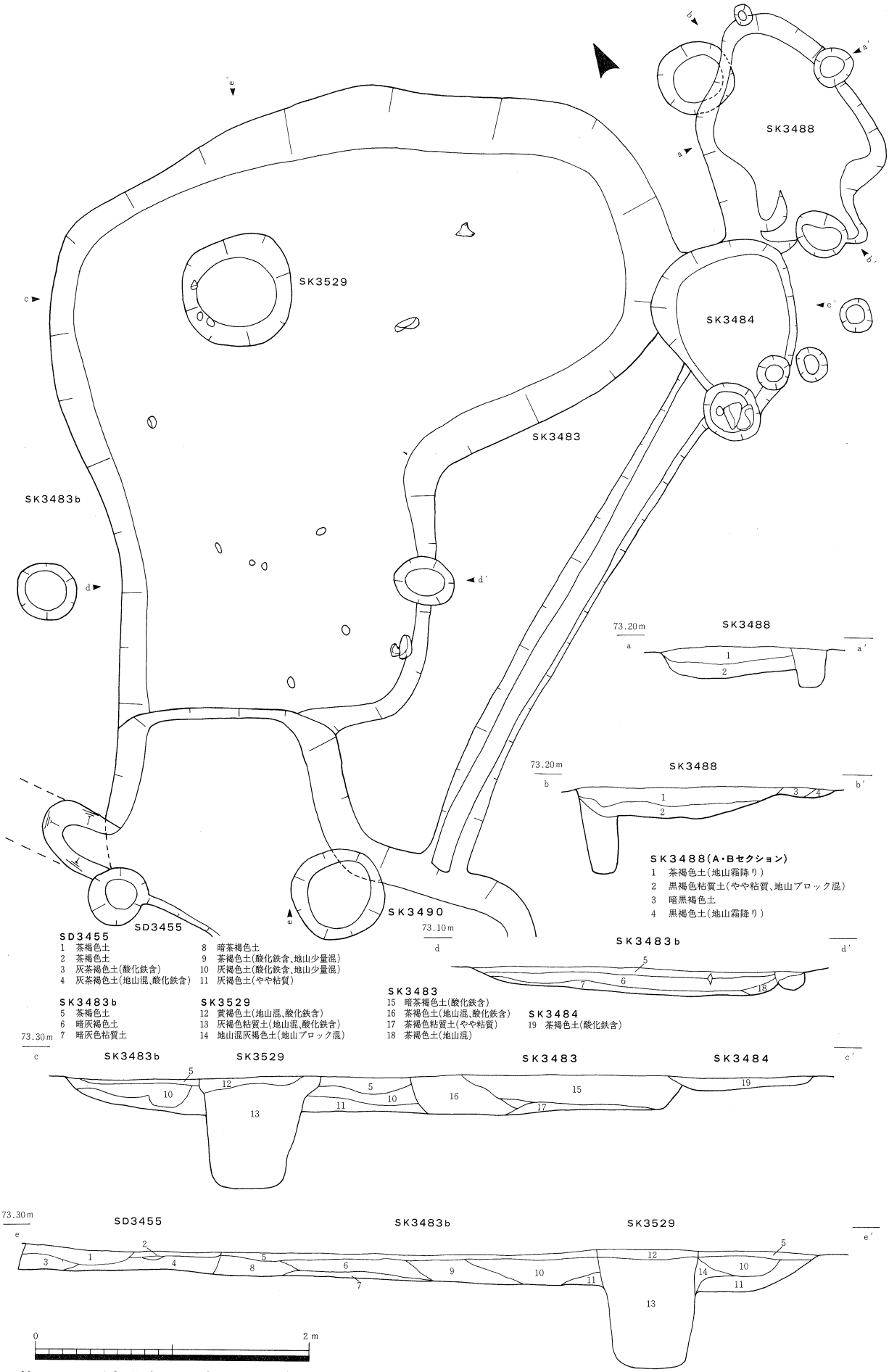
1.SK3013　2.SK3020　3.SK3022　4.SK3019　5.SK3021　6.SK3023　7.SK3025



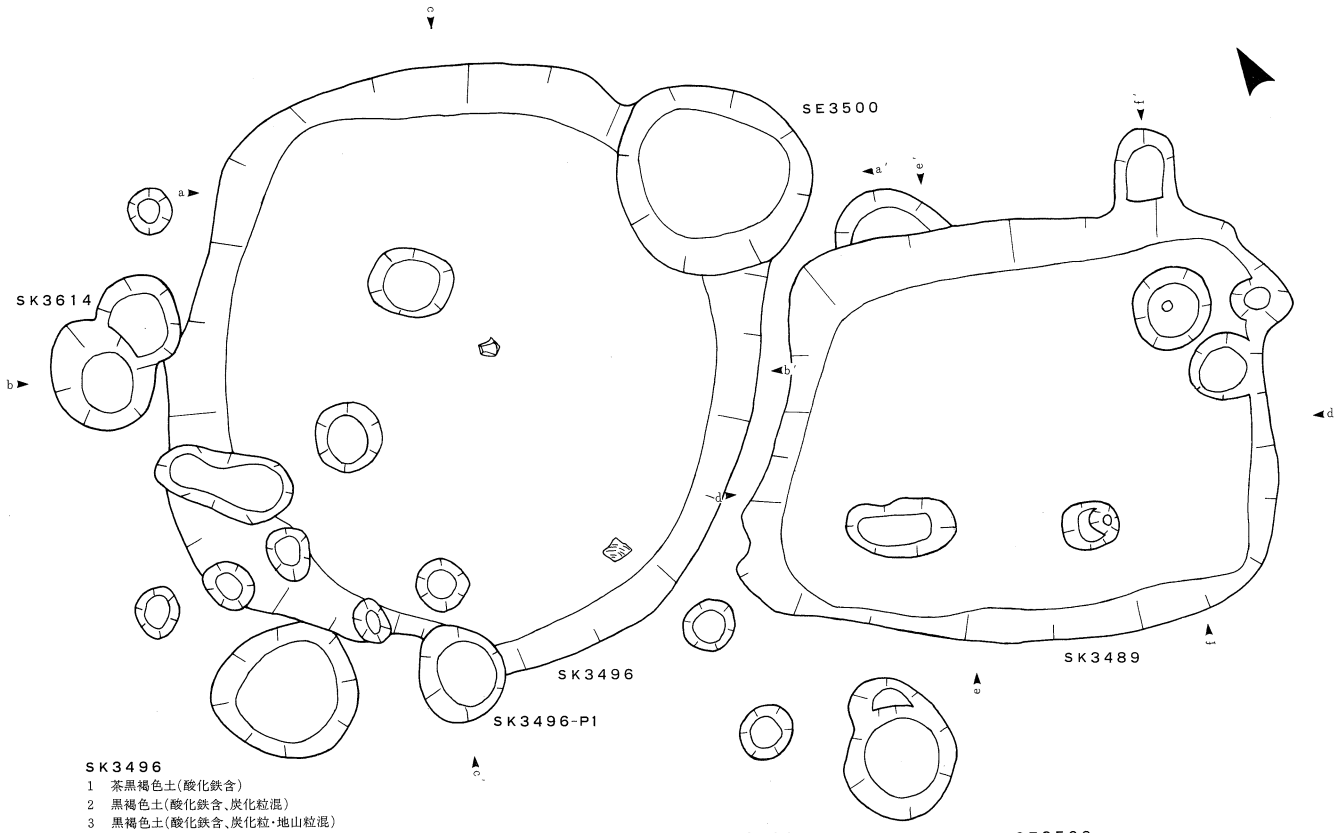
第135図　遺構実測図(中世前期)
SK3026・SK3028・SK3051



第136図　遺構実測図(中世前期)
1.SK3485　2.SK3456

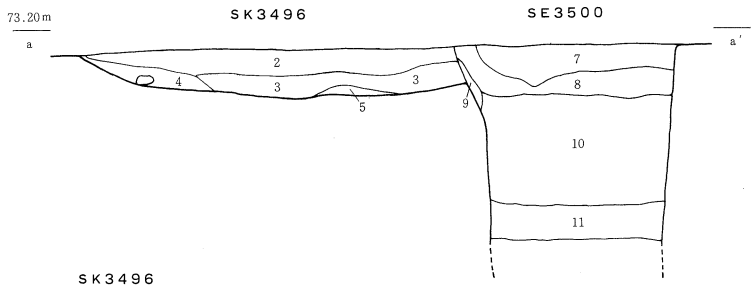


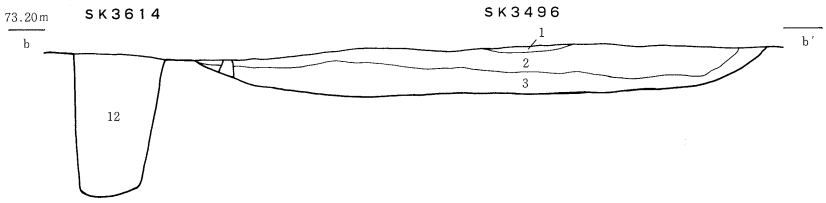
第137図　遺構実測図(中世前期)
SK3483・SK3484・SK3488・SK3529



SK3496
1　茶黒褐色土(酸化鉄含)
2　黒褐色土(酸化鉄含、炭化粒混)
3　黒褐色土(酸化鉄含、炭化粒・地山粒混)
4　黄褐色土(酸化鉄含、炭化粒・地山粒混)
5　黒褐色土(酸化鉄含、炭化粒・地山粒混)
6　黄褐色土(地山ブロック混)
13　褐色土(酸化鉄含、地山土混)

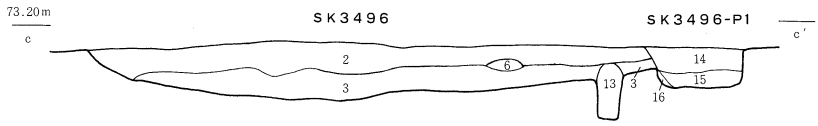
SK3614
12　黒褐色土(酸化鉄含)

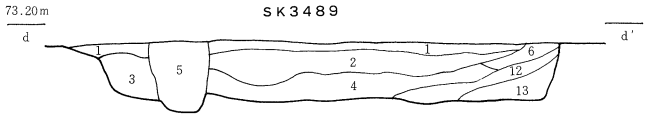


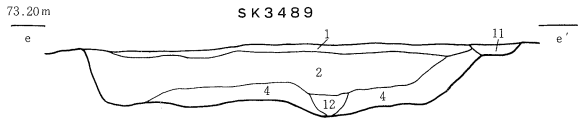


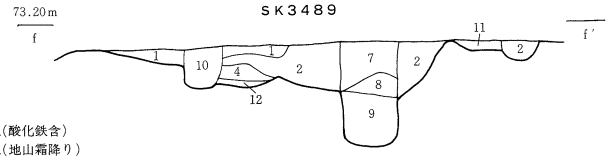
SE3500
7　褐色土(酸化鉄含、炭化粒混)
8　褐色土(酸化鉄含、炭化粒混、1より酸化鉄多量)
9　炭化物層
10　褐色粘質土(酸化鉄含)
11　暗褐色粘質土(酸化鉄含、礫混)

SK3496-P1
14　茶褐色土(酸化鉄含、地山土・炭化粒混)
15　茶褐色土(酸化鉄含、地山粒混)
16　黄茶褐色土(酸化鉄含、地山土ブロック混)





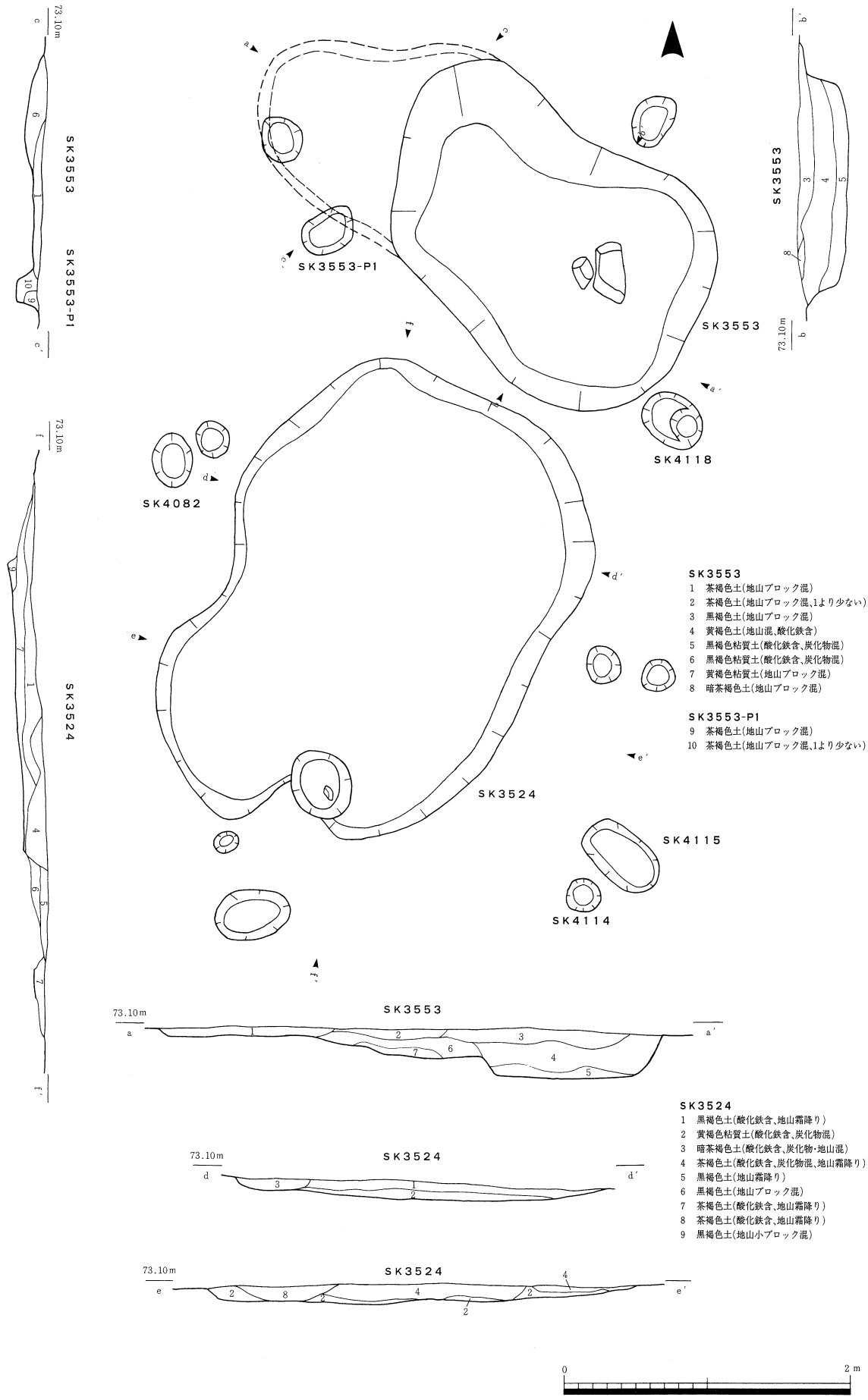




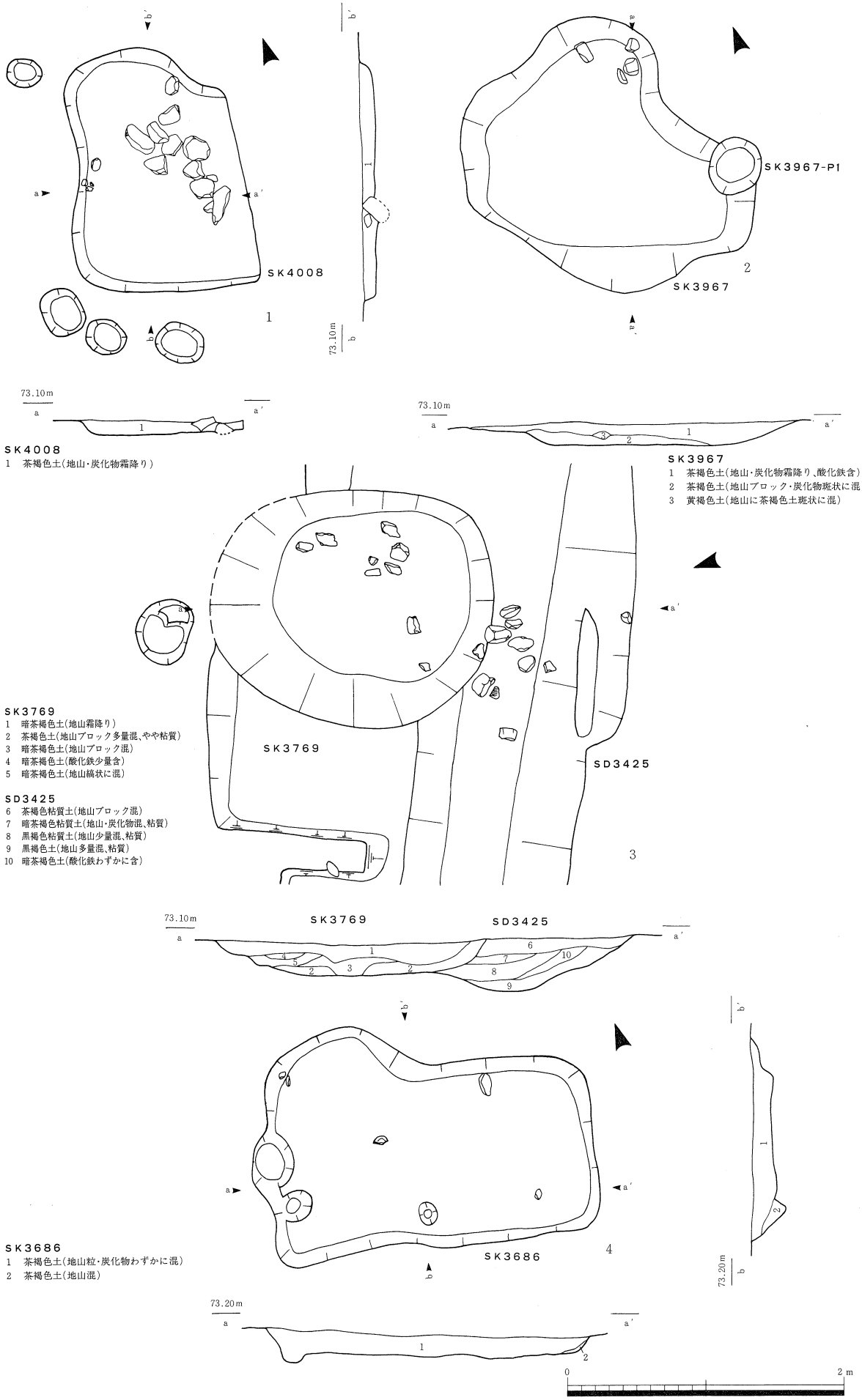
SK3489
1　暗褐色土
2　暗茶褐色土(酸化鉄含)
3　暗褐色粘質土(地山多量混)
4　黒褐色粘質土(地山・炭化物混、酸化鉄含)
5　黒褐色粘質土(炭化物少量混)
6　茶褐色土(地山粒霜降り)
7　茶褐色土(礫混)
8　暗茶褐色粘質土(地山霜降り)
9　暗灰褐色粘質土(酸化鉄含)
10　茶褐色土(酸化鉄含)
11　灰褐色土(地山霜降り)
12　茶褐色土(酸化鉄含、地山霜降り)
13　黒褐色粘質土(地山ブロック混)

0　2 m

第138図　遺構実測図(中世前期)
SK3489・SK3496



第139図　遺構実測図(中世前期)
SK3524・SK3553



SK4008
1　茶褐色土(地山・炭化物霜降り)

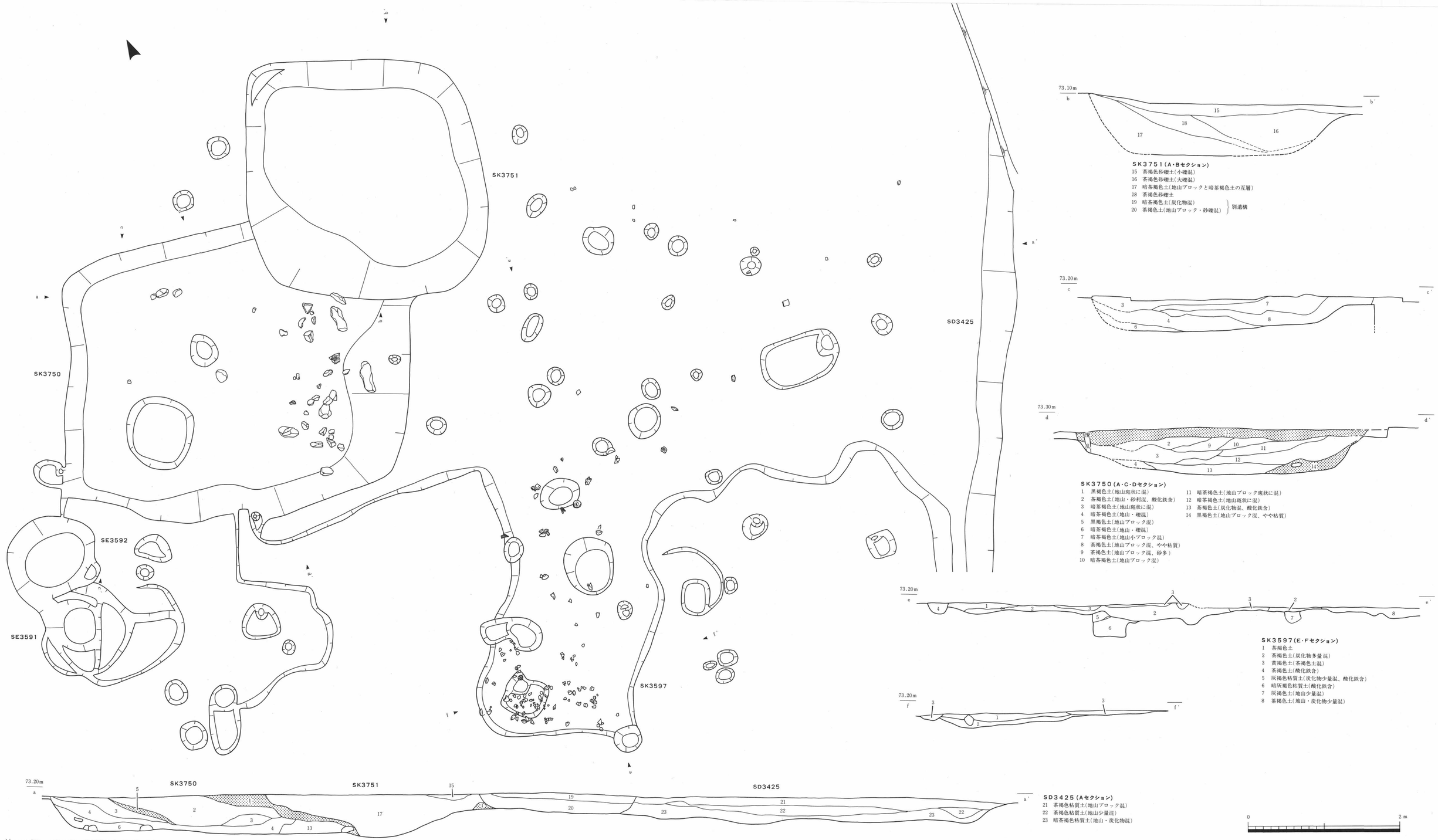
SK3967
1　茶褐色土(地山・炭化物霜降り、酸化鉄含)
2　茶褐色土(地山ブロック・炭化物斑状に混)
3　黄褐色土(地山に茶褐色土斑状に混)

SK3769
1　暗茶褐色土(地山霜降り)
2　茶褐色土(地山ブロック多量混、やや粘質)
3　暗茶褐色土(地山ブロック混)
4　暗茶褐色土(酸化鉄少量含)
5　暗茶褐色土(地山縞状に混)

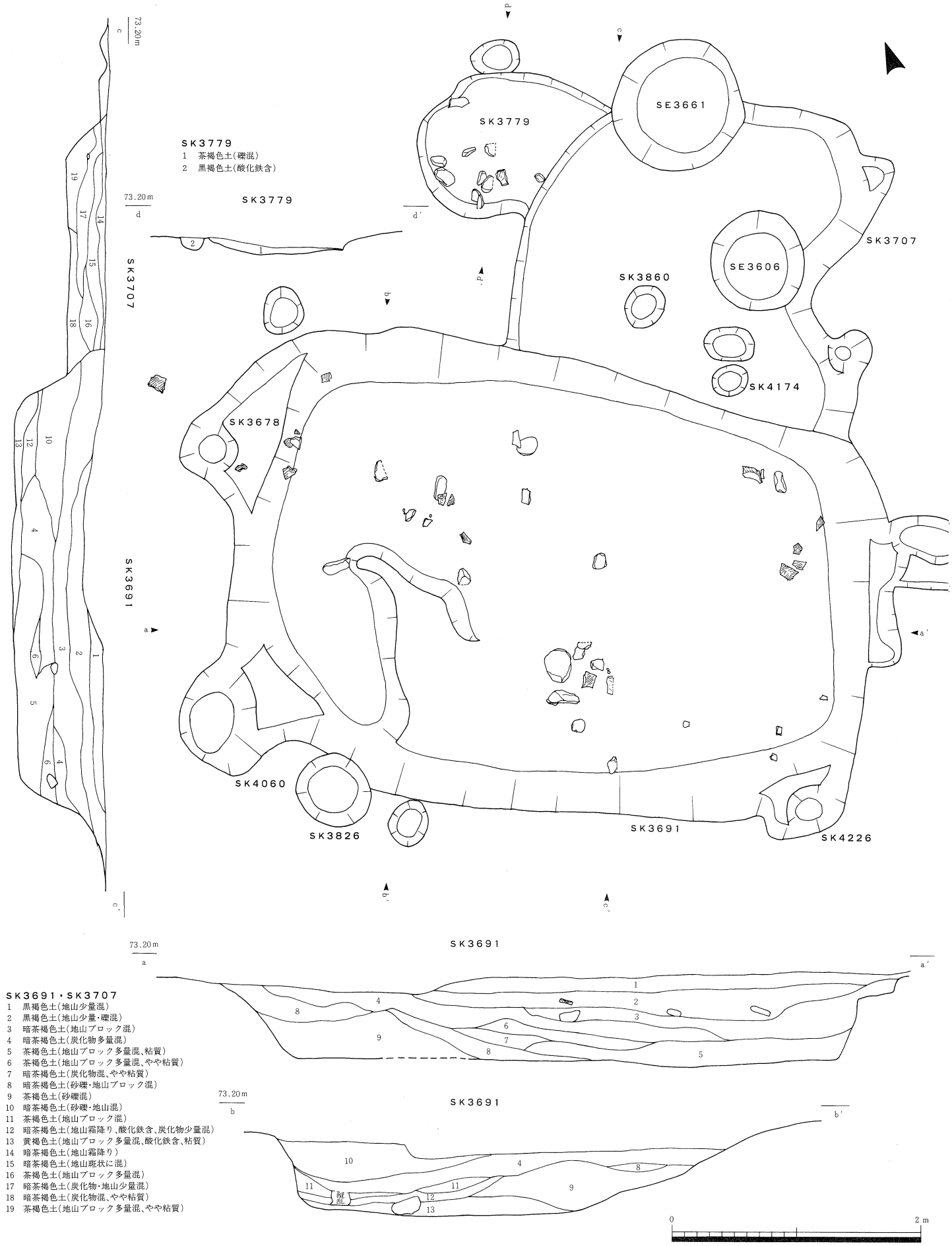
SD3425
6　茶褐色粘質土(地山ブロック混)
7　暗茶褐色粘質土(地山・炭化物混、粘質)
8　黒褐色粘質土(地山少量混、粘質)
9　黒褐色土(地山多量混、粘質)
10　暗茶褐色土(酸化鉄わずかに含)

SK3686
1　茶褐色土(地山粒・炭化物わずかに混)
2　茶褐色土(地山混)

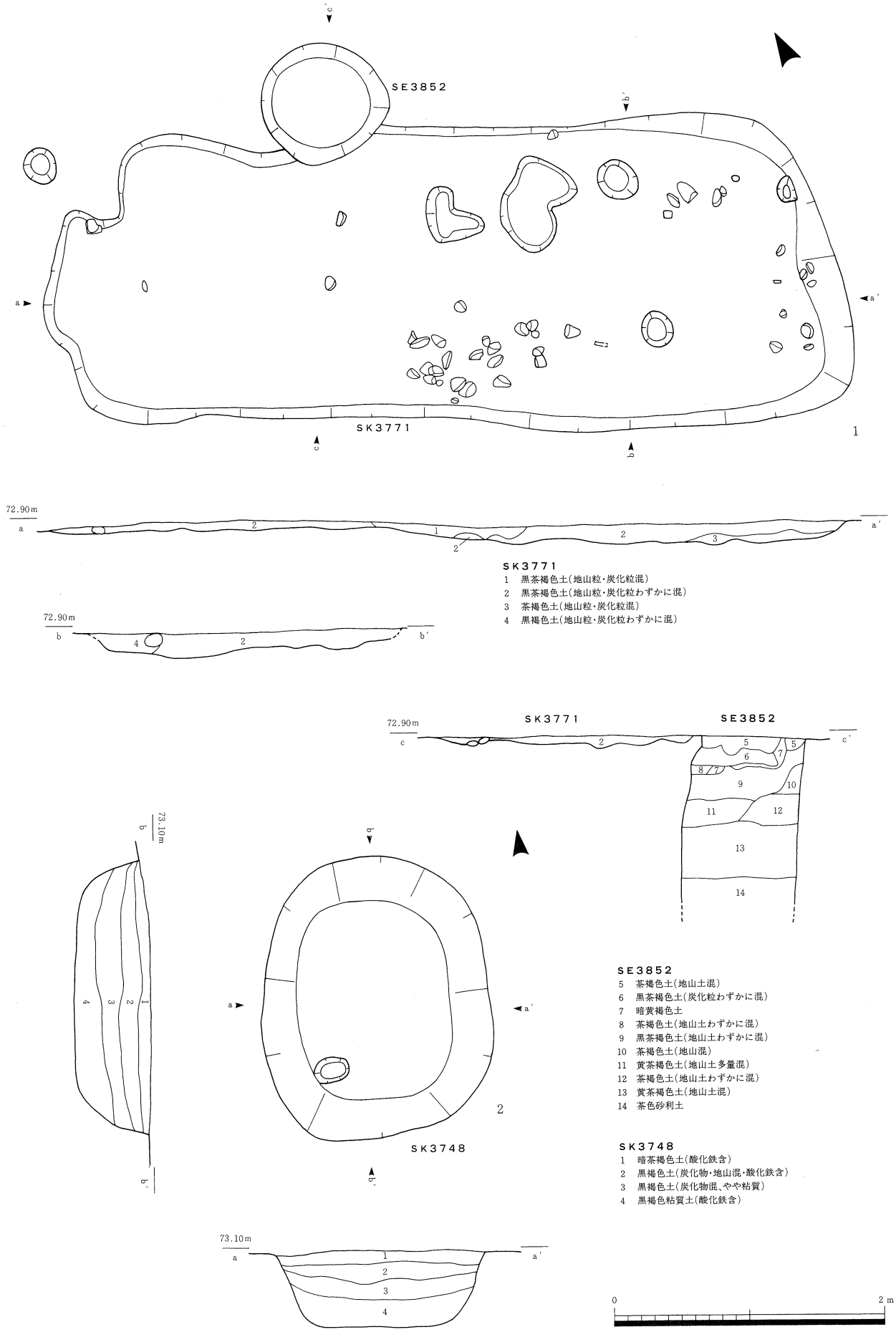
第140図　遺構実測図(中世前期)
1.SK4008　2.SK3967　3.SK3769　4.SK3686



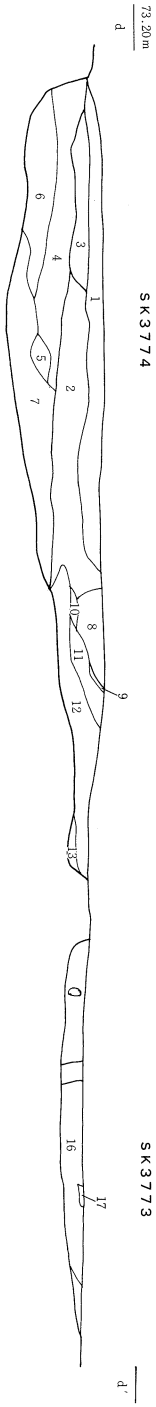
第141図　遺構実測図(中世前期)
SK3597・SK3750・SK3751

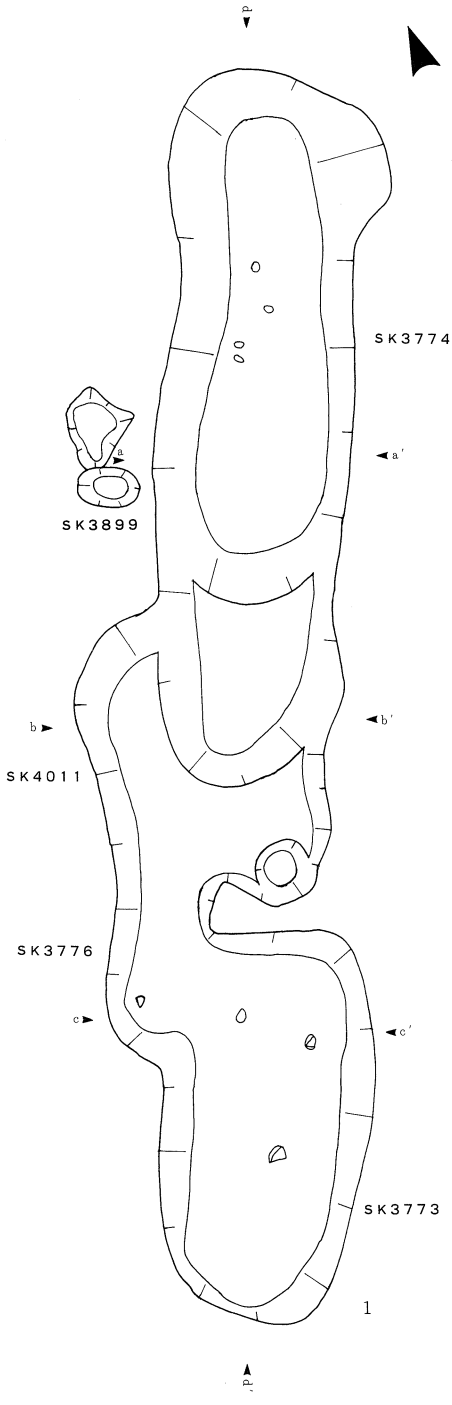


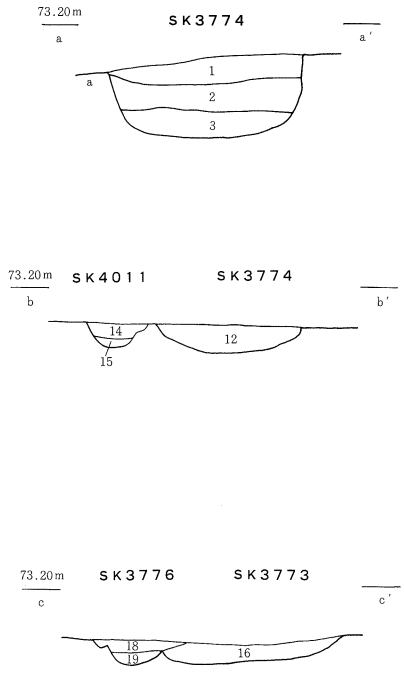
第142図　遺構実測図(中世前期)
SK3691・SK3707・SK3779

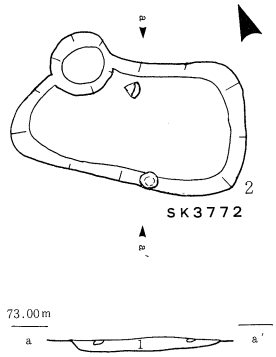


第143図　遺構実測図(中世前期)
1.SK3771　2.SK3748









SK3774
1 褐色土(炭化粒・地山粒混)
2 茶褐色土(炭化粒・地山ブロック混)
3 暗茶褐色土(炭化粒・地山粒混)
4 褐色土(炭化粒・地山土混)
5 黄褐色土
6 茶黒褐色土(地山粒わずかに混、炭化粒混)
7 黒褐色土(炭化粒混)
8 褐色土(地山粒・炭化粒わずかに混)
9 赤黄褐色土
10 茶褐色土(地山粒・炭化粒混)
11 黒褐色土(地山粒・炭化粒わずかに混)
12 黒褐色土(地山粒・炭化粒わずかに混)
13 茶褐色土(地山土多量混)

SK4011
14 黒褐色土(地山土・炭化粒わずかに混)
15 黒褐色土(炭化粒わずかに混)

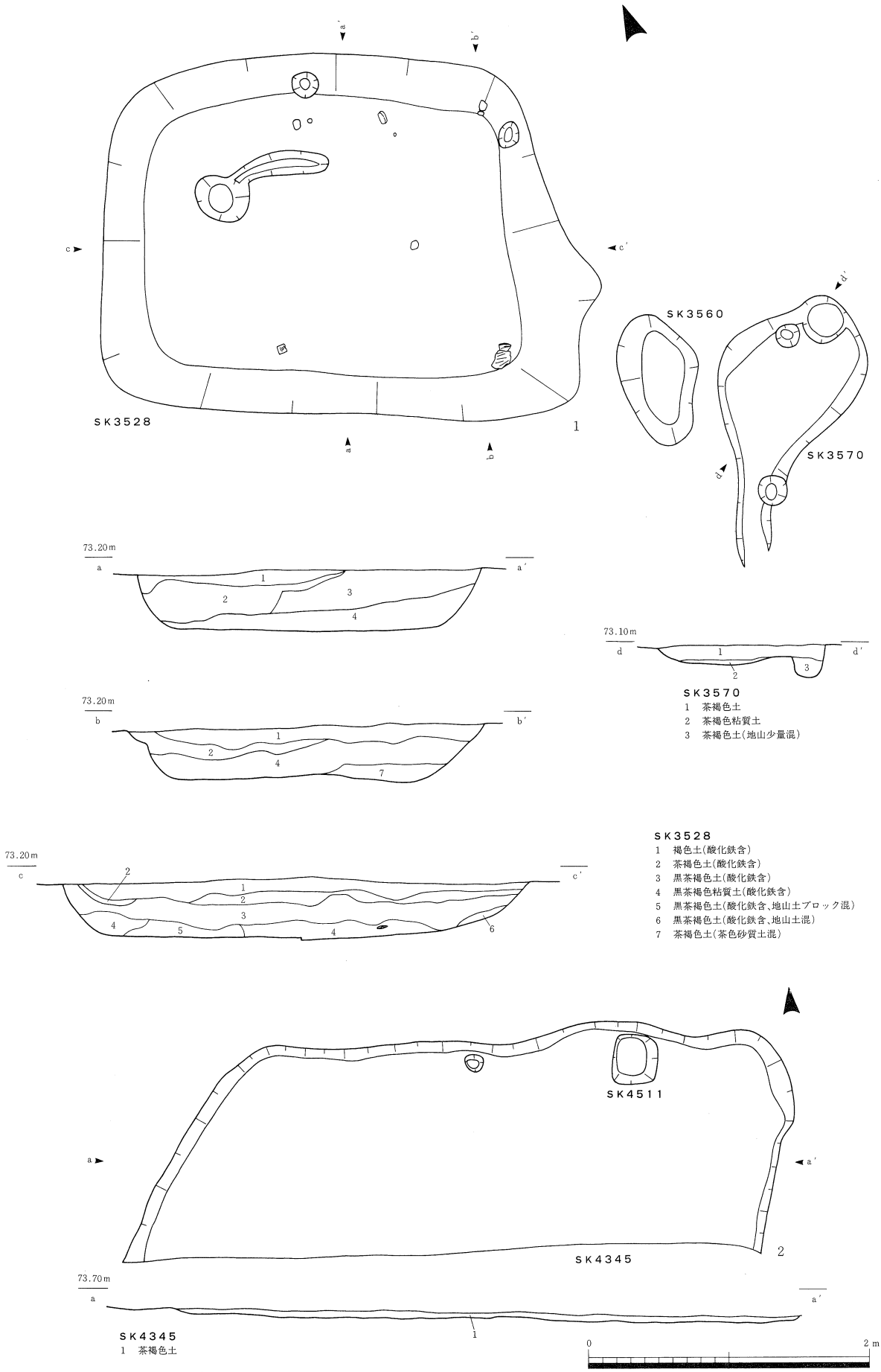
SK3773
16 褐色土(地山土・炭化粒混)
17 黄褐色土

SK3776
18 茶褐色土(地山土・炭化粒混)
19 黄茶褐色土(地山土多量混)

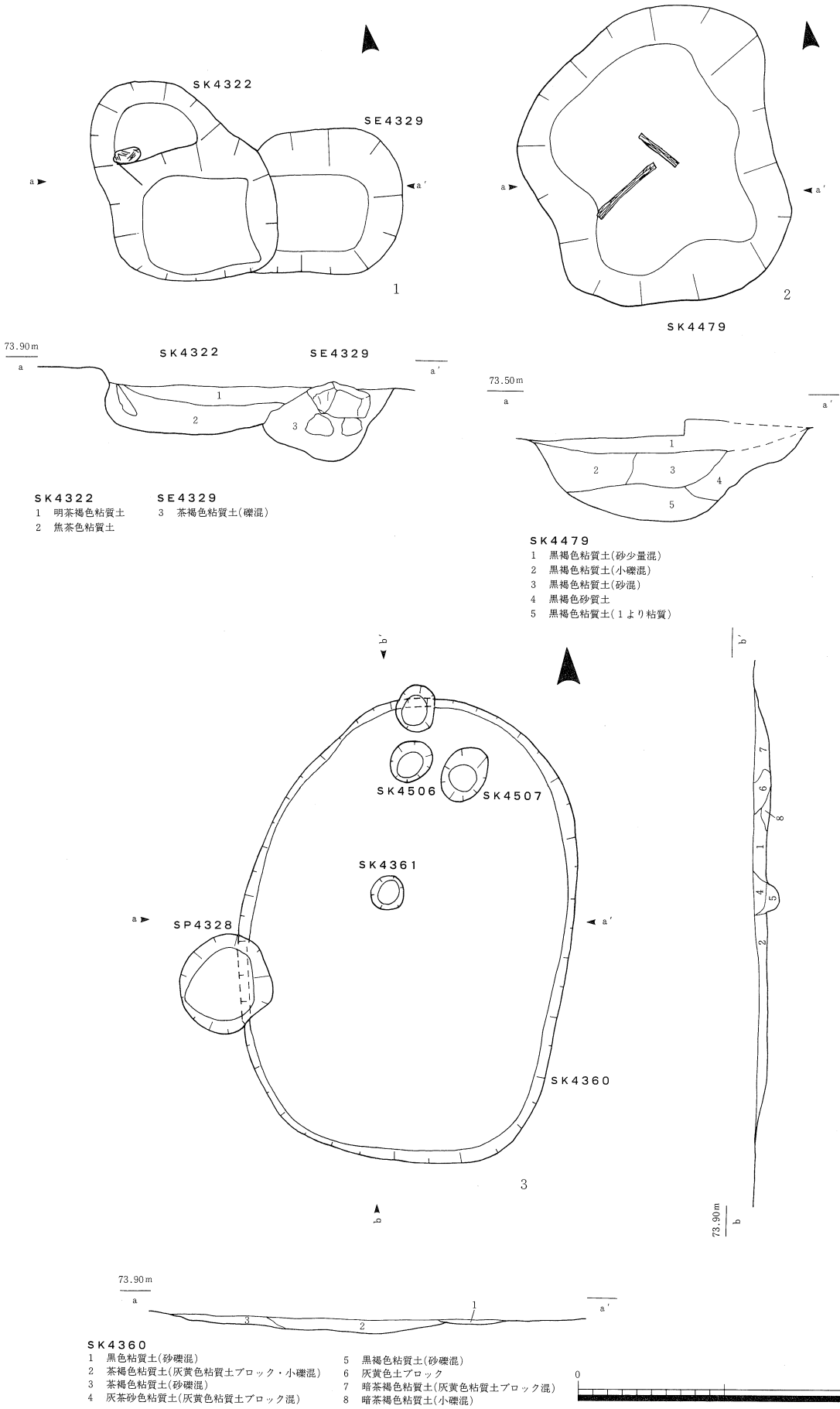
SK3772
1 黒褐色土(地山粒・炭化粒混)

0 2m

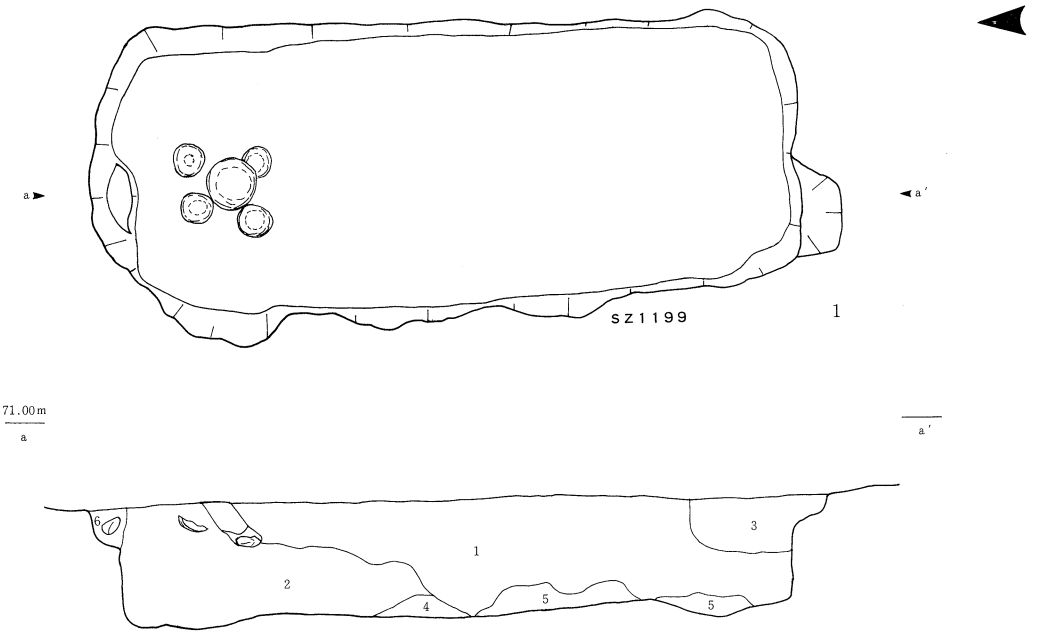
第144図　遺構実測図(中世前期)
1.SK3773・SK3774・SK3776・SK4011　2.SK3772



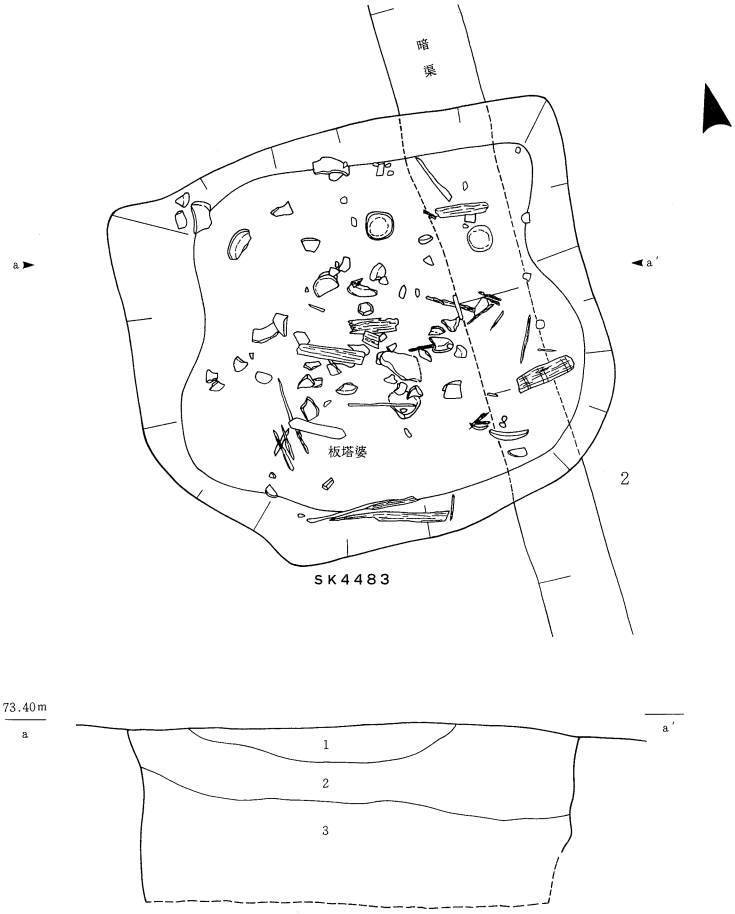
第145図　遺構実測図(中世前期)
1.SK3528・SK3570　2.SK4345



第146図　遺構実測図(中世前期)
1.SK4322　2.SK4479　3.SK4360

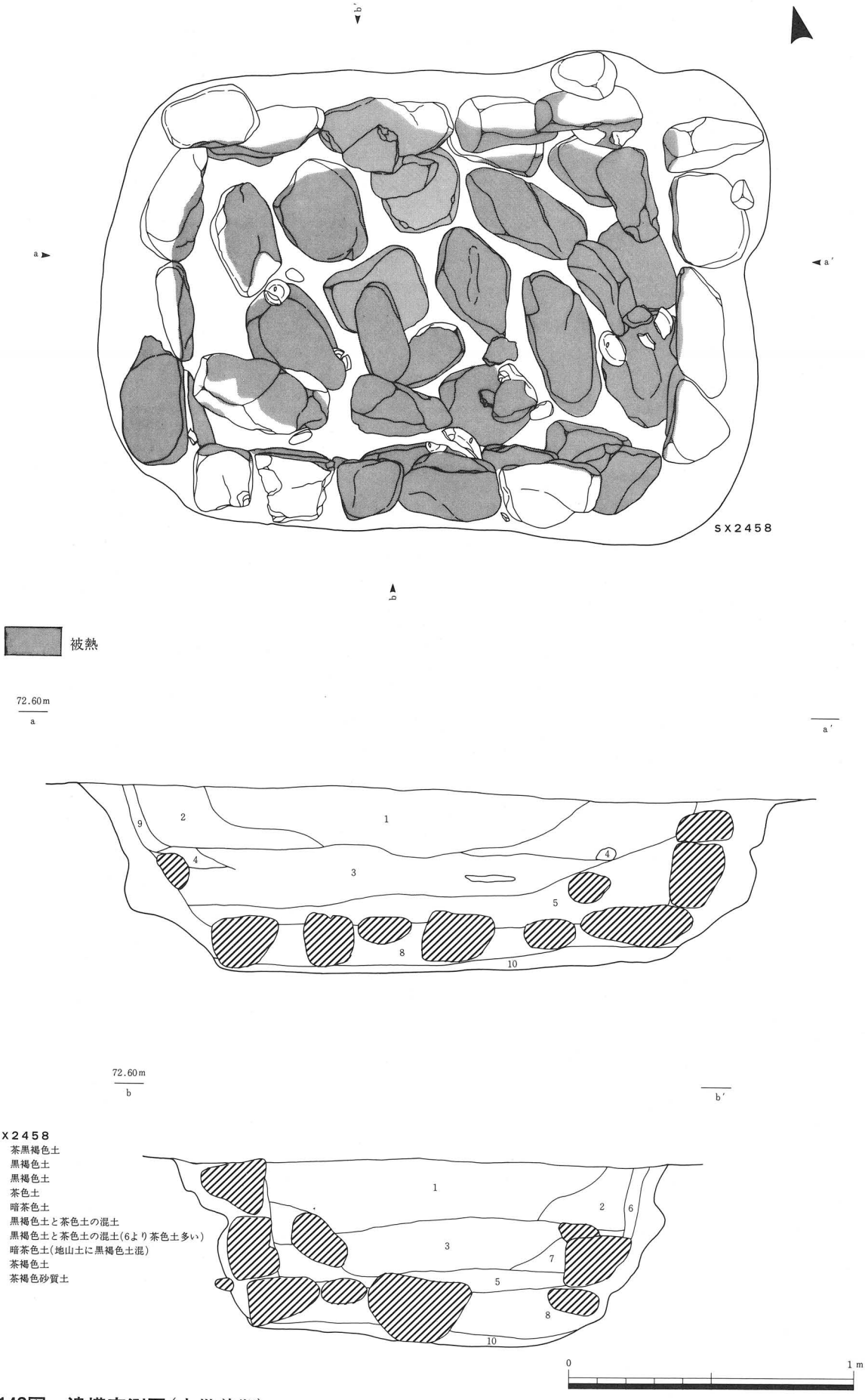


SZ1199
1　暗茶褐色土
2　暗黄茶褐色土
3　暗黄茶褐色土(２より明)
4　暗黄茶褐色土(地山混)
5　暗茶褐色土(黄褐色土霜降り)
6　暗黄茶褐色土(２より明)

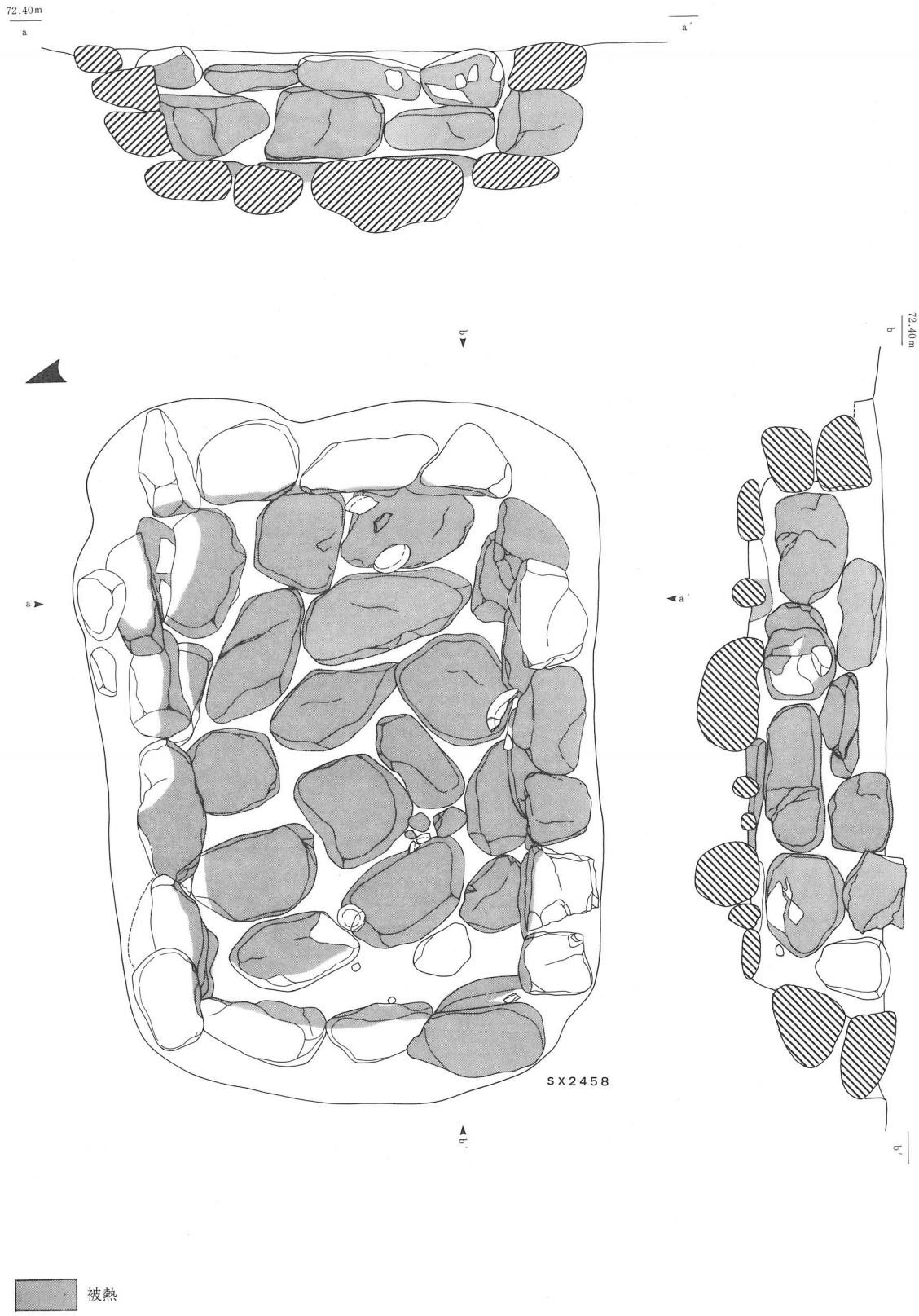


SK4483
1　茶褐色粘質土(砂礫混)
2　暗茶褐色粘質土(小礫混)
3　黒褐色粘質土

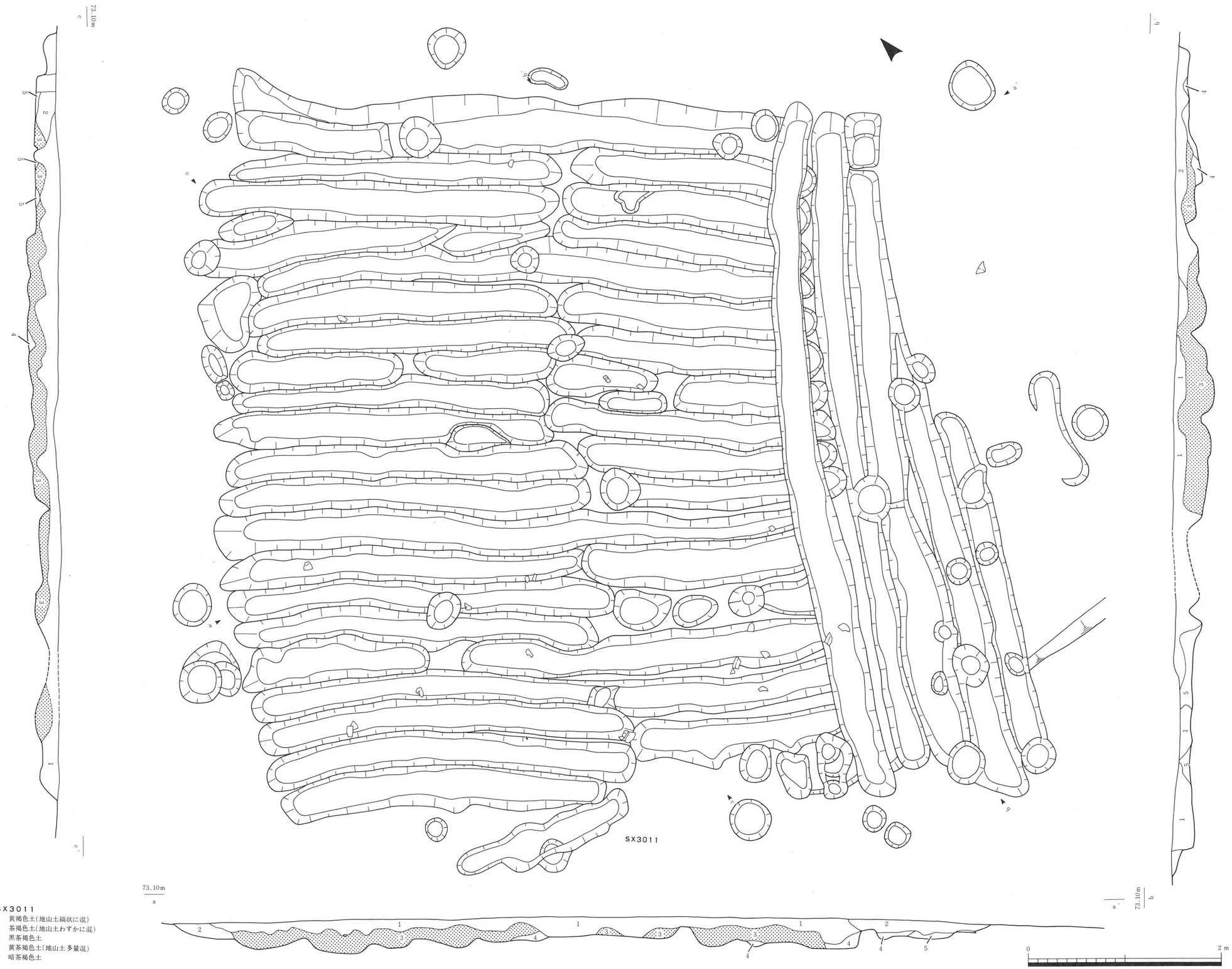
第147図　遺構実測図(中世前期)
1.SZ1199　2.SK4483



第148図　遺構実測図(中世前期)
SX2458

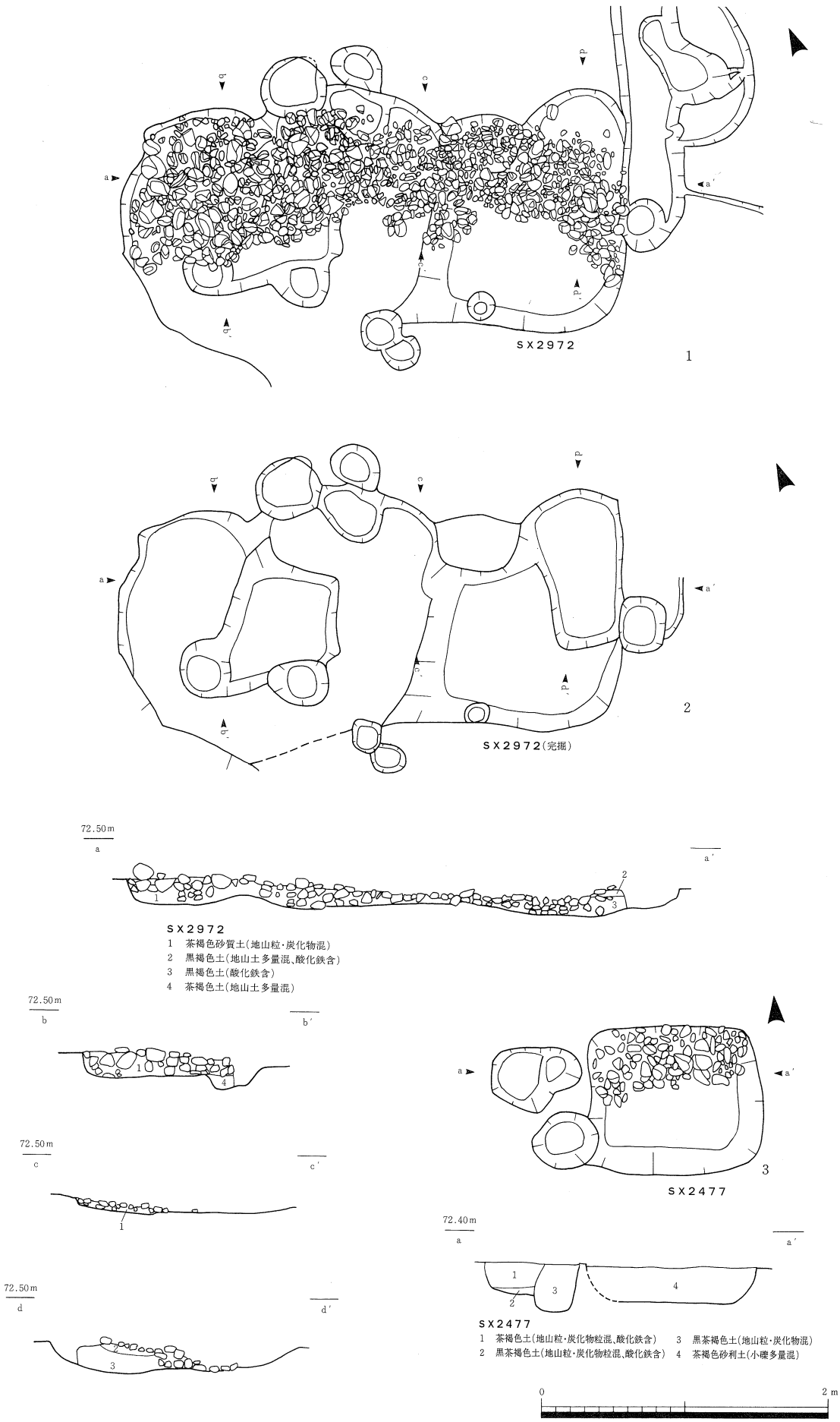


第149図　遺構実測図（中世前期）
SX2458



SX3011
1　黄褐色土(地山土塊状に混)
2　茶褐色土(地山土わずかに混)
3　黒茶褐色土
4　黄茶褐色土(地山土多量混)
5　暗茶褐色土

第150図　遺構実測図(中世前期)
SX3011



第151図　遺構実測図(中世前期)
1・2.SX2972　3.SX2477

D　中世後期

中世後期の遺構には，掘立柱建物・溝・井戸・竪穴状土坑を含む土坑・道路状遺構がある。Ｂ２地区～Ｃ３地区の約600mの範囲に，遺構が集中的に分布する。15世紀の遺構が少なく，15世紀後半～16世紀の遺構が中心である。

1　掘立柱建物

中世後期の掘立柱建物は56棟が復元できた。建物はほとんど側柱である。Ｂ地区～Ｃ地区に分布しているが，Ｂ２・Ｂ３地区の伝安楽寺跡周辺には中世後期の建物が少なく，建物の３分の２以上はＣ地区に集中する。Ａ３地区には14世紀～15世紀にまたがっているものがあるが，ここでは，明らかに15世紀のものを取り上げた。なお，塀・柵は近接する建物の記述の所で述べている。

Ａ地区

126号掘立柱建物（ＳＢ126，第67図，図版48）

Ｘ332～336Ｙ95～99，ＳＤ3425の区画域に位置する。３間（桁行8.10cm）×２間（梁行4.80cm）の側柱建物で平面積39m²である。ロ二柱穴は確認されず，柱が中抜けする形態である。主軸はＮ－10°－Ｅで南北に向く。柱掘形は長軸36cm～48cm×短軸32cm～47cm，平均43cm×39cmの円形である。深さは29cm～42cm，平均37cmである。掘形埋土は地山土混じりの茶褐色土か黒褐色土の単層が多いが，柱痕跡は確認できなかった。イ四柱穴から15世紀の中世土師器が出土したことから，建物の時期は15世紀であろう。建物の西・南側に「Ｌ」字状の塀ＳＡ08がある。南北の長さは360cm，東西の長さは402cm（東から210cm・192cmの間隔）である。

127号掘立柱建物（ＳＢ127，第63図，図版48・49・50）

ＳＤ3425の区画域の西側に位置する，３間×２間の側柱建物である。桁行は南から222cm・210cm・330cmで，３ｍを超える柱間がある。桁行7.62m×梁行4.80m，平面積37m²である。主軸はＮ－11°－Ｅで南北に向く。柱掘形は長軸35cm～53cm×短軸32cm～42cm，平均44cm×39cmの円形である。深さは平均40cmである。ロ一柱穴は12cm，それ以外は30cm～56cmである。柱痕跡は確認できない。イ二～四・ロ一～四柱穴から13世紀～14世紀の中世土師器が出土した。イ一柱穴は15世紀のＳＫ3527を切っていることから，建物の時期は15世紀である。

Ｂ地区

137号掘立柱建物（ＳＢ137，第152図，図版97）

Ｂ１地区の橋本川の南際，Ｘ303～305Ｙ93～95に位置する，１間×２間の側柱建物である。桁行は川のため１間（3.90m）しか確認できない。梁行は171cm・171cmで，２間（3.42m）である。平面積は13m²である。主軸はＮ－83°－Ｗで東西に向く。柱掘形は長軸30cm～40cm×短軸26cm～34cm，平均34cm×27cmの円形である。深さは14cm～24cm，平均18cmである。掘形埋土は砂利混じりの茶褐色粘質土の単層である。柱穴から遺物が出土しなかったが，その他の遺構との関係から，建物は15世紀～16世紀であろう。

138号掘立柱建物（ＳＢ138，第152図，図版97）

ＳＢ137の西側に位置する，１間×１間の側柱建物である。長軸2.70m×短軸2.70m，平面積７m²である。南北を主軸と見れば，Ｎ－４°－Ｅになる。イ一柱穴の柱掘形は長軸96cm×短軸50cmの楕円形，深さ32cmである。ロ一柱穴は38cm×26cmの円形，深さ14cmである。ロ二柱穴は65cm×50cmの楕円形に近く，深さ24cmである。各々柱穴には柱根が残存しており，柱芯心で柱間が270cmになる。イ一柱穴は径16cm，ロ一二柱穴は径10cmの柱根である。ロ一柱穴の柱根は砂混じりの黒茶褐色粘質土

の上に据え付けられている。柱根は柱穴の隅によっている。ロ一柱穴から16世紀の瀬戸美濃が出土している。建物の時期は16世紀であろう。建物の西側・南側に，塀ＳＡ13・ＳＡ14がある。西側のＳＡ13は全長2.70m，南から90cm・180cmの間隔，南側のＳＡ14は全長8.25m，東から132cm・240cm・291cm・162cmの間隔である。それらは建物に伴う塀と考えられる。

139号掘立柱建物（ＳＢ139，第152図）

ＳＢ138の西側に位置する，３間×３間の側柱建物である。長軸5.40m×短軸4.80m，平面積26m²である。柱穴はＳＫ3464・ＳＤ3582・ＳＫ3614で確認できないものが多い。柱掘形は長軸32cm～52cm×短軸26cm～38cm，平均40cm×33cmの円形である。深さは平均21cmである。ロ二・ハ一・ニ一四柱穴の深さは５cm～16cmで浅く，ロ四・ハ三・ニ二柱穴のそれは34cm～39cmで深い。イ四柱穴には径10cmの柱根がある。ニ一柱穴の柱抜き取り痕跡は径10cmの円形で，明黒褐色粘質土が入っている。柱穴から遺物が出土しなかったが，ロ四柱穴が16世紀のＳＤ3582に切られていることから，建物の時期は15世紀であろう。

140号掘立柱建物（ＳＢ140，第153図，図版91）

Ｘ276～278Ｙ80～83に位置し，３間×１間の側柱建物で，桁行・梁行が東・西に少しずれる。桁行5.40m×梁行3.60m，平面積19m²である。主軸はＮ－87°－Ｗで東西に向く。柱掘形は長軸30cm～54cm×短軸24cm～36cm，平均長軸42cm×短軸30cmの楕円形である。深さは平均40cmである。イ・ロ一柱穴は別の柱穴と重複している。掘形埋土は黒褐色粘質土である。浅い土坑（長軸4.50m×短軸3.30m，深さ30cm）が建物に伴う。遺物が出土しなかったが，建物の時期は15世紀～16世紀であろう。

143号掘立柱建物（ＳＢ143，第154図，図版91）

Ｘ276～280Ｙ81～84，ＳＢ142に位置する，３間×２間の側柱建物である。桁行は南から342cm・348cm・204m，梁行は東から300cm・162cmで，柱間が３ｍを超える。平面積は41m²である。主軸はＮ－4°－Ｅ，南北に向く。柱掘形は長軸38cm～58cm×短軸30cm～44cm，平均48cm×35cmの円形である。深さは平均31cmである。ハ二三柱穴の深さは53cm・54cm，それ以外は11cm～35cmである。柱根はハ一二柱穴で確認できた。ハ一柱穴は径10cm，ハ二柱穴は径15cmである。柱穴から遺物が出土しなかったが，建物の時期は15世紀～16世紀であろう。

145号掘立柱建物（ＳＢ145，第154図，図版91）

ＳＢ143の北西側，Ｘ277～280Ｙ81～83に位置する，１間×１間の側柱建物である。桁行・梁行は6.00ｍの正方形，平面積は36m²である。南北を主軸とすれば，Ｎ－3°－Ｅである。柱掘形は平均長軸98cm×短軸98cmの大形円形である。ロ一柱穴は90cm×90cm，それ以外は100cm～110cm×90cm～104cmである。深さは平均82cmである。イ一柱穴は103cm，ロ一柱穴は63cm，それ以外は78cm・85cmである。ロ一柱穴から径18cmの柱根が出土している。イ一柱穴から中世土師器・瀬戸美濃（16世紀）・石臼，ロ一柱穴から中世土師器（16世紀）・青磁，ロ二柱穴から青磁（15世紀）・瀬戸美濃（16世紀）が出土した。建物の時期は16世紀であろう。

147号掘立柱建物（ＳＢ147，第155図，図版92・97）

Ｘ263～265Ｙ85～88に位置し，３間×２間の総柱建物である。桁行は7.20mだが，北・南列の柱間が違う。梁行も4.50mだが，東・西列の柱間は異なる。平面積32m²である。主軸はＮ－84°－Ｗで東西を向く。柱掘形は長軸25cm～40cm×短軸23cm～35cm，平均33cm×27cmの小形円形である。イ三柱穴の７cm・ロ三柱穴の51cm以外，深さは15cm～37cm，平均26cmである。掘形埋土は黒（茶）褐色土で，地山土が霜降り状・ブロック状に混じる。出土遺物がないが，時期は15世紀であろう。

148号掘立柱建物（ＳＢ148，第156図，図版92・98）

ＳＢ147の南側に位置する，４間×１間の側柱建物である。桁行6.90m×梁行2.10m，平面積14m²である。主軸はＮ－７°－Ｅで南北に向く。四隅の柱掘形は長軸80cm～90cm×短軸70cm～82cm，平均85cm×77cmの大形円形である。深さは27cm～70cm，平均44cmである。その他の柱穴は長軸44cm～52cm×短軸38cm～44cm，平均47cm×41cmの小形円形である。深さは15cm～56cmで，平均37cmである。柱穴埋土は地山土が霜降り状に混じる黒褐色土である。ロ一柱穴から柱根，イ一柱穴から珠洲，ロ一柱穴から中世土師器が出土した。建物の時期は16世紀である。

150号掘立柱建物（ＳＢ150，第155図，図版99）

Ｂ２地区のＳＤ5105の北側，Ｘ255～257Ｙ85～87に位置する。１間（3.78m）×１間（3.00m）の建物で，平面積11m²である。主軸はＮ－６°－Ｅで南北に向く。柱掘形は長軸48cm～56cm×短軸34cm～54cm，平均55cm×46cmの円形である。深さは平均41cmである。イ一柱穴の深さは26cm，それ以外は34cm～55cmである。ロ一柱穴は暗渠で切られている。イ二柱穴から珠洲・信楽（16世紀）が出土したことから，建物の時期は16世紀であろう。

156号掘立柱建物（ＳＢ156，第157図）

ＳＢ6390の南側，Ｘ239～241Ｙ86～89に位置する，２間×１間の側柱建物である。桁行4.80m×梁行4.50m，平面積22m²である。主軸はＮ－80°－Ｗで東西に向く。柱穴は南列と西列だけで，北列と東列は確認できない。柱掘形は平均桁行98cm×梁行89cmの方形である。ロ三柱穴は80cm×78cm，その他は110cm～100cm×80cm～100cmである。深さは平均70cmである。イ一柱穴の深さは54cm，それ以外は71cm～77cmである。イ二柱穴には，幅10cm（角材か）の柱根が出土しており，その周に石を据えている。イ三・ロ一柱穴の底には石を据えられている。掘形埋土は地山土が霜降り状に混じる黒褐色粘質土である。ロ三柱穴には柱痕跡がある。イ一三柱穴は楕円柱穴ＳＫ6296・ＳＫ6328に切られていることから，建物の時期は16世紀～17世紀初めであろう。なお，建物の西側にＳＫ6292あるいはＳＫ6282があり，それらの土坑を含んだ建物規模を想定できる。

169号掘立柱建物（ＳＢ169，第156図，図版97）

Ｘ218～221Ｙ81～85に位置する，２間×１間の側柱建物である。桁行7.50m×梁行4.80m，平面積36m²である。南北方向に少し歪む。主軸はＮ－88°－Ｗで東西に向く。柱堀形は平均長軸42cm×短軸39cmの円形である。ロ一柱穴の掘形は90cm×68cmの不整円形で，深さ16cmである。その他の柱穴は34cm～52cm×28cm～45cmである。深さは13cm～49cm，平均26cmである。掘形埋土は黒褐色土で，黄褐色粘質土をわずかに混じる。ロ二柱穴には柱痕跡がある。出土遺物がないが，時期は15世紀～16世紀であろう。

185号掘立柱建物（ＳＢ185，第157図）

県道金沢・井波線の北側，Ｘ163～167Ｙ81～84に位置する，３間×２間の側柱建物である。桁行7.20m×梁行4.80m，平面積35m²である。主軸はＮ－10°－Ｅで南北に向く。柱掘形は，平均長軸71cm×短軸55cmで，楕円形に近い。ロ一・ハ二柱穴は66cm・63cm×42cm・49cm，その他は70cm～80cm×42cm～68cmである。深さは平均51cmである。ロ一・ハ二柱穴は20cm・39cm，ハ一・三柱穴は68cm・71cm，その他は44cm～58cmである。柱穴の長軸は建物の主軸方向に向く。柱痕跡は確認できなかった。ハ一柱穴から石臼が出土している。ＳＫ8921（15世紀～16世紀）は建物に伴うと考えられるから，建物の時期は16世紀～17世紀初めであろう。

Ｃ地区

189号掘立柱建物（ＳＢ189，第158図）

Ｃ１地区の北東側，Ｘ144～147Ｙ75～77に位置する，２間×１間の側柱建物である。桁行5.52m×梁行3.72m，平面積21m²である。主軸はＮ－9°－Ｅで南北に向く。イ二柱穴は長軸65cm×短軸58cmの円形，その他は長軸93cm～118cm×短軸80cm～100cmの不整円形である。四隅の柱穴は大きい。ロ二柱穴は規模不明である。平均長軸97cm×短軸83cmである。イ二・ロ一二柱穴の深さは38cm～47cm，その他は64cm～73cmである。深さの平均は56cmである。ロ一柱穴から柱根・瀬戸美濃（16世紀）が出土した。柱根は直径21cm，長さ60cmである。建物の時期は16世紀～17世紀初めと考える。なお，建物の西側に，大形柱穴が3.30mの間隔で２基並んでいる（ＳＡ15）。ＳＫ9205（長軸169cm×短軸150で深さ55cm）とＳＫ9208（長軸190cm×短軸144cmで深さ60cm）である。内に，径35cm前後の大形柱根が残存しており，その根元に抉りが入っている（図版97）。建物・門などの一部と考えられる。また，建物の６ｍ東にＬ字状の柵ＳＡ16がある。東西方向は全長6.78m（南から210cm・180cm・288cmの間隔），南北方向は全長6.48m（東から180cm・150cm・150cm・168cmの間隔）である（図面28）。

191号掘立柱建物（ＳＢ191）

Ｘ147～150Ｙ61～65に位置する，２間×２間の側柱建物である。長軸6.60m×短軸4.80m，平面積32m²である。主軸はＮ－71°－Ｗで東西に向く。ハ四柱穴は長軸83cm×短軸68cmの長円形，深さ47cmである。その他は，長軸49cm～70cm×短軸37cm～59cmの円形，深さ53cm～60cmである。平均は60cm×51cm，深さ56cmである。出土遺物はないが，建物の配置から，時期は16世紀～17世紀初である。

195号掘立柱建物（ＳＢ195，第158図）

Ｘ130～133Ｙ76～78，ＳＫ9850に掛かる，２間×１間の側柱建物である。桁行4.92m×梁行3.00mで，平面積15m²である。北側の梁行の柱間は，東から240cm・270cm，南側は309cm・270cmである。建物の平面形が台形になる。主軸はＮ－12°－Ｅで南北に向く。イ二柱穴の掘形は長軸110cm×短軸58cmの楕円形，その他は長軸46cm～64cm×短軸36cm～52cmである。イ三柱穴は円形に近く，その他は楕円形に近い。柱掘形の平均は67cm×43cmである。深さは平均は50cmである。ロ三柱穴が71cm，それ以外は40cm～55cmである。イ二柱穴には柱痕跡の周辺に黒褐色粘質土（地山土が霜降り状に混じる）が混じる。出土遺物がないが，ＳＫ9850（17世紀前半）の下から柱穴が確認できたため，建物の時期は16世紀後半～17世紀初めであろう。

196号掘立柱建物（ＳＢ196）

Ｘ125～130Ｙ71～75に位置する，２間×２間の側柱建物である。桁行8.10m×梁行6.00m，平面積49m²である。各々の柱間は3.00mを超えている。主軸はＮ－14°－Ｅで南北に向く。ハ三柱穴の掘形は長軸70cm×短軸60cmの円形，ロ三柱穴は長軸48cm×短軸30cmの小形隅丸方形，それ以外は70cm～96cm×46cm～70cmの隅丸方形である。イ三柱穴は確認できなかったが，ロ三柱穴以外の柱穴は建物の主軸方向に並行する。平均73cm×55cmである。深さは，イ一柱穴の50cm，ロ三柱穴の10cm，それ以外の24cm×31cmである。ロ三柱穴は小形隅丸方形で浅いため，床持ち柱であろう。イ二柱穴の堀形埋土は地山土が霜降り状に混ざる茶褐色粘質土であり，柱痕跡（12cmの隅丸方形か）が確認できた。イ三柱穴とＳＫ9787（16世紀）との切り合い関係は不明だが，ＳＤ9775などの遺構配置から，建物の時期は16世紀～17世紀初めであろう。

202号掘立柱建物（ＳＢ202，図面30）

ＳＤ9305の東側，Ｘ104～107Ｙ61～65に位置する，３間×２間の総柱建物である。桁行6.69m×梁行5.58m，平面積37m²である。東桁行の柱間は南から252cm・204cm・213cm，西桁行は，210cm・219

cm・240cmであり，柱間は東・西で違う。主軸はN－16°－Eで南北に向く。柱掘形は長軸24cm～43cm×短軸20cm～39cm，平均33cm×29cmの円形である。深さは平均31cmである。イ二・ハ一柱穴は12cm・15cm，それ以外は25cm～49cmである。柱痕跡は確認できなく，遺物は柱穴から出土しなかった。ＳＤ9305の方向とずれることや総柱構造から，建物の時期は15世紀であろうか。

203号掘立柱建物（ＳＢ203，図面30）

ＳＢ202の東側に位置する，２間×２間の側柱建物である。桁行6.66m×梁行4.50m，平面積30m²である。北桁行の柱間は東から312cm・354cm，南桁行は270cm・396cmである。柱間は東西で違い，３mを超える。主軸はN－75°－Wで東西に向く。柱掘形は長軸25cm～55cm×短軸22cm～36cm，平均37cm×29cmである。ロ一柱穴は不整楕円形に近いが，その他は隅丸長方形である。深さは18cm～41cm，平均30cmである。柱痕跡は確認できなく，柱穴から遺物は出土しなかった。ＳＤ9305などの配置から，建物の時期は15世紀後半～16世紀と考える。

204号掘立柱建物（ＳＢ204，第159図）

ＳＤ9305の東側で，ＳＤ10132の北側に位置する，２間×１間の側柱建物である。桁行6.30m×梁行4.26m，平面積27m²である。主軸はN－17°－Eで南北に向く。柱掘形は平均長軸68cm×短軸54cmである。イ二・ロ二柱穴は100cm・84cm×73cm・75cmと大きく，その他は48cm～73cm×44cm～48cmである。平面形は少し偏平な円形である。イ三・ロ三柱穴の深さは60cm・59cm，その他は33cm～45cmである。深さの平均は46cmである。柱痕跡は確認できなかった。柱穴から遺物は出土しなかったが，溝との関係から建物の時期は15世紀後半～16世紀であろう。

206号掘立柱建物（ＳＢ206，第160図）

ＳＤ9301で囲まれた区域，X106～111Y51～55に位置する，１間×１間の側柱建物である。長軸4.38m×短軸2.88m，平面積13m²である。主軸はN－10°－Eで南北に向く。柱掘形は長軸82cm～112cm×短軸60cm～90cm，平均95cm×79cmの大形円形である。深さは38cm～62cm，平均53cmである。柱痕跡は確認できなく，柱穴から遺物は出土しなかった。ＳＤ9301との位置関係から，建物の時期は16世紀～17世紀初めであろう。

207号掘立柱建物（ＳＢ207，第160図）

ＳＤ9301で囲まれた区域，X120～121Y44～46に位置する，１間×１間の側柱建物である。長軸2.16m×短軸2.10m，平面積５m²である。主軸はN－84°－Wで東西に向く。ロ一柱穴の掘形は長軸100cm×短軸70cm，その他は長軸64cm～78cm×短軸53cm～59cmである。平均79cm×44cmの楕円形である。深さは40cm～55cm，平均47cmである。ロ二柱穴の掘形埋土は地山土を多く混じる茶褐色粘質土である。イ二柱穴から珠洲が出土した。ロ二柱穴はＳＤ9391（16世紀後半）に切られ，ＳＤ9310（16世紀前半）を切っていることから，建物の時期は16世紀中頃であろう。

208号掘立柱建物（ＳＢ208，第160図）

ＳＢ207の南側に位置する，１間×１間の側柱建物である。長軸3.00m×短軸1.68m，平面積５m²である。主軸はN－11°－Eで南北に向く。柱掘形は長軸52cm～72cm×短軸45cm～57cm，平均59cm×53cmの円形である。深さは，24cmのロ一柱穴以外が40cm～55cmで，平均43cmである。ロ二柱穴の埋土は黒褐色粘質土・灰白色砂質土と黒褐色粘質土との混土である。イ二柱穴はＳＤ9313と接している。柱痕跡は確認できなかった。出土遺物がないが，ＳＤ9343との配置関係や柱穴の規模が大きいことから，建物の時期は16世紀後半～17世紀初と考える。

210号掘立柱建物（ＳＢ210，第160図）

ＳＤ9301の区画域の南側に位置する，３間×２間の側柱建物である。桁行6.90m×梁行3.78m，平面積26m²である。桁行の柱間は南から300cm・192cm・198cm と不規則である。柱間300cm の広い所は土間状になるのかもしれない。主軸はＮ－10°－Ｅで南北に向く。柱掘形は長軸34cm～55cm×短軸25cm～46cm，平均42cm×35cm の円形である。深さは，ハ四柱穴の48cm，イ四柱穴の73cm，その他の22cm～60cm である。深さの平均は39cm である。掘形埋土は茶（黒）褐色土の単層である。柱痕跡は確認できなかった。二柱列はＳＤ9318より古いと考えられることから，建物の時期は15世紀後半～16世紀初めであろう。

211号掘立柱建物（ＳＢ211，第160・161図）

ＳＤ9301の内側を巡るＳＤ9318の区画域の南側に位置する，２間×２間の側柱建物である。桁行5.40m×梁行3.84m，平面積21m²である。主軸はＮ－83°－Ｗで東西に向く。建物にはＳＫ9311を伴う。柱掘形は長軸33cm～53cm×短軸28cm～33cm，平均42cm×31cm である。ロ一・ハ一柱穴は長方形，その他は円形である。深さは，イ一・ハ二柱穴が16cm・12cm，イ三柱穴が58cm，その他が23cm～36cm である。深さの平均は34cm である。掘形埋土は茶(黒)褐色土の単層である。柱痕跡は確認できない。遺物が出土しなかったが，ＳＤ9318との関係から，建物の時期は16世紀後半であろう。

212号掘立柱建物（ＳＢ212，第161図，図版98）

ＳＤ9301とＳＤ9330との区画域に位置する，３間×２間の側柱建物である。桁行6.96m×梁行4.50m，平面積31m²である。主軸はＮ－12°－Ｅで南北Ｆに向く。柱掘形は平均48cm×41cm である。イ一柱穴が長軸74cm×短軸50cm の不整形，その他が長軸32cm～54cm×短軸32cm～46cm の円形である。深さは平均は37cm である。イ一柱穴が15cm，ハ一柱穴が68cm，その他が25cm～44cm である。柱穴から柱根が出土している。イ三柱穴の柱根は，径14cm でえぐりが入っており，その根元には石が据えてある。ハ一柱穴には径20cm・長さ70cm の柱根が検出し，掘形埋土は黒褐色土の単層である。ハ二柱穴から，茶褐色粘質土の埋土に柱根と考えられる木片が出土している。柱穴から土器が出土しなかったが，溝との関係から，建物の時期は16世紀～17世紀初めであろう。

213号掘立柱建物（ＳＢ213）

ＳＢ212の北側，Ｘ109～111Ｙ52～54に位置する，２間×１間の側柱建物である。桁行4.20m×梁行2.88m，平面積12m²である。北桁行の柱間は東から183cm・237cm で，南桁行のそれは252cm・237cm で，各々の柱間が相違する。建物が梁行方向に歪む。主軸はＮ－81°－Ｗで東西に向く。柱掘形は平均長軸44cm×短軸38cm である。イ二柱穴は26cm・30cm×24cm・28cm と小さく，イ一柱穴は74cm×43cm と大きく，その他は36cm～56cm×34cm～50cm である。深さは，イ二・ロ二柱穴が19cm・20cm と浅く，その他が40cm～50cm である。深さの平均は36cm である。掘形埋土には地山土が混じる黒(茶)褐色粘質土の単層が多い。柱痕跡は確認できなかった。柱穴から遺物が出土しなかったが，溝との配置関係から，建物の時期は15世紀後半～16世紀であろう。

214号掘立柱建物（ＳＢ214，第161図）

ＳＢ212の南側に位置する，２間×１間の側柱建物である。桁行4.20m×梁行2.79m，平面積12m²である。主軸はＮ－72°－Ｗで東西に向く。イ一二柱穴はＳＫ10107のため確認できないが，その他の柱穴掘形は平均長軸37cm×短軸26cm である。ロ二柱穴は60cm×28cm の楕円形，その他は28cm～30cm×22cm～28cm の円形である。深さは，イ三柱穴が24cm，その他が45cm～50cm である。深さの平均は40cm である。柱痕跡は確認できなかった。柱穴から遺物が出土しなかったが，建物の配置から，建物の時期は15世紀後半～16世紀であろう。

215号掘立柱建物（ＳＢ215）

ＳＤ10101の北側，X104･105Ｙ50～53に位置する，２間×１間の側柱建物である。桁行4.29m×梁行3.54m，平面積15m²である。梁行の柱間は３ｍを超える。主軸はＮ－84°－Ｗで東西に向く。柱掘形は長軸30cm～56cm×短軸22cm～37cm，平均41cm×31cmである。イ三柱穴は楕円形，その他は円形である。深さは平均43cmである。柱痕跡は確認できなかった。ＳＫ10105（16世紀後半～17世紀初）は建物に伴う。遺物は出土しなかったが，溝との関係から，建物の時期は16世紀後半であろう。

216号掘立柱建物（ＳＢ216，第162図）

ＳＤ10101の東側，X93～95Ｙ65～68に位置する，２間×１間の側柱建物である。桁行5.10m×梁行3.48m，平面積18m²である。柱掘形は平均52cm×44cmである。ロ三柱穴が長軸86cm×短軸62cmの長方形，その他が長軸39cm～48cm×短軸37cm～42cmの円形である。深さは26cm～41cm，平均31cmである。イ二柱穴は近現代の暗渠によって切られている。ＳＤ10213・ＳＤ10215との関係から，建物の時期は16世紀であろう。なお，建物の北側には，柵ＳＡ17がある。東から330cm･270cm･288cmの間隔で，全長8.88mである。

217号掘立柱建物（ＳＢ217，第162図）

ＳＢ216の南側に位置する，１間×１間の側柱建物である。長軸4.35m×短軸3.78m，平面積16m²である。南北方向を主軸とすれば，Ｎ－16°－Ｅで南北に向く。ロ二柱穴は確認できない。柱掘形は長軸53cm～65cm×短軸46cm～58cm，平均59cm×53cmの大きい円形である。深さは18cm～19cm，平均18cmである。掘形埋土は黒（茶）褐色土の単層である。イ二･ロ二柱穴には径14cm～16cmの柱根がある。柱穴から遺物は出土しなかったが，建物の時期は16世紀であろう。なお，建物の西側と南側に柵ＳＡ17・18がある。ＳＡ18は全長６ｍで，東から300cm・300cmの間隔である。ＳＡ19は「Ｌ」字状になっており，南北方向は全長10.50m（南から240cm・240cm・240cm・330cmの間隔），東西方向は全長６ｍ（東から276cm・324cm）の間隔である。

220号掘立柱建物（ＳＢ220，第163図，図版96･98）

Ｃ３地区の中央部，X25～30Ｙ40～43，ＳＤ10437に接するように位置する，２間×１間の側柱建物である。東桁行の柱間は南から540cm･390cm，西桁行のそれは456cm･312cmで，東西の長さが違う。梁行は492cmである。平面積は42m²である。主軸はＮ－20°－Ｅで南北に向く。柱掘形は長軸79cm～96cm×短軸70cm～88cm，平均89cm×75cmの大形円形である。深さは，イ一柱穴が28cm，イ二柱穴が74cm，その他が45cm～49cmである。深さの平均は48cmである。掘形埋土は地山土が霜降り状に混じる黒褐色粘質土である。ロ一柱穴から径20cm・長さ50cmの柱根，イ一柱穴から越前が出土した。建物の時期は16世紀～17世紀初めであろう。

221号掘立柱建物（ＳＢ221，第163図，図版98）

ＳＢ220の南側に位置する，４間×３間の側柱建物である。桁行7.05m×梁行6.72m，平面積47m²である。柱掘形は長軸30cm～60cm×短軸26cm～44cm，平均43cm×33cmである。イ一～四柱穴は，少し小さい円形，ニ二三五柱穴は楕円形に近い。深さは，イ一二･ニ一柱穴が18cm～23cm，ニ五柱穴が62cm，その他が29cm～45cmである。深さの平均は36cmである。ハ一柱穴から径10cmの柱根，イ二三四・イ一柱穴から柱痕跡が確認できた。二・四柱列には棟持柱がある。柱穴から遺物が出土しなかったが，建物の時期は16世紀～17世紀初めであろう。

222号掘立柱建物（ＳＢ222，図版98）

ＳＢ220･ＳＢ221の西側に位置する，２間×１間の側柱建物である。桁行5.22m×梁行3.69m，平面

積19m²である。主軸はN－25°－Eで，大きく東西に振れる。ロ一二柱穴は近現代の暗渠で切られている。柱掘形は長軸44cm～58cm×短軸36cm～48cm，平均50cm×41cmの円形である。深さは38cm～52cm，平均47cmである。柱痕跡は確認できなかった。柱穴から遺物は出土しなかったが，建物配置から，建物は16世紀～17世紀初めであろう。

223号掘立柱建物（ＳＢ223，第163図，図版96）

ＳＢ222の南側に位置する，３間×１間の側柱建物である。東桁行の柱間は南から219cm・225cm，西桁行のそれは231cm・225cmで，東・西の長さが違う。梁行は2.94mで，平面積は18m²である。主軸はN－24°－Eで南北に向く。柱掘形は平均長軸40cm×短軸32cmである。イ三・ロ三柱穴は64cm・50cm×44cm・38cmの隅丸長方形，その他は19cm～45cm×19cm～30cmの円形である。深さは，イ一四・ロ一二四柱穴は20cm～39cm，その他は57cm～67cmである。イ二柱穴から径10cmの柱根，イ三・ロ三四柱穴から柱痕跡が確認できる。掘形埋土は地山土を多く混じる黒褐色粘質土である。柱穴から遺物が出土しなかったが，建物の時期はＳＢ222との関連から16世紀～17世紀初めであろう。

224号掘立柱建物（ＳＢ224，第164図，図版96・98）

Ｘ22～25Ｙ35～37に位置する，４間×２間の側柱建物である。桁行10.20m，梁行4.80mで，平面積49m²である。主軸はN－20°－Eで，大きく東に振れる。柱掘形は平均長軸61cm×短軸54cm，深さ55cmである。ロ五柱穴は112cm×106cmの円形であるが，形状が少し大きくなっている。その他の柱穴は46cm～70cm×40cm～66cmである。イ四五柱穴は隅丸方形で，その他は円形である。イ四・ロ二四柱穴から径14cm～20cmの柱根が出土した。各柱根の底面は15cm程の高低差がある。イ五柱穴から柱痕跡が出土した。堀形埋土は地山土が混じる黒褐色粘質土である。ロ五柱穴の中世土師器が出土した。建物の時期は16世紀～17世紀初めであろう。

225号掘立柱建物（ＳＢ225，第164図，図版96・98）

ＳＢ224の南側に位置する，３間×２間の側柱建物である。東桁行の柱間は南から156cm・204cm・348cm，西桁行のそれは156cm・204cm・282cmで，東・西の長さが違う。梁行は6.06mで，平面積41m²である。主軸はN－20°－EでＳＢ224と同じ方位である。柱掘形は平均長軸34cm×短軸28cmの円形である。イ二柱穴は20cm×18cm，その他は34cm～42cm×26cm～32cmである。深さは平均45cmである。イ二柱穴は19cm，ハ二三柱穴は80cm・60cm，その他は33cm～47cmである。イ一二・ロ一・ハ一～三柱穴から径約10cmの柱根が出土した。柱根の底の高さは一定でなく，60cmの高低差がある。イ四柱穴から柱痕跡が確認できた。掘形埋土は地山土混じりの黒色粘質土が多い。柱穴から遺物が出土しなかったが，周辺の遺構から，建物の時期は16世紀～17世紀初めであろう。

226号掘立柱建物（ＳＢ226，第164図）

ＳＢ224・ＳＢ225の西側に位置する，２間×２間の側柱建物である。桁行5.58m×梁行3.60m，平面積20m²である。ロ一柱穴が確認されなかったので，建物が南側の未調査区に延びる可能性がある。主軸はN－16°－Eで南北に向く。柱掘形は平均長軸38cm×短軸34cmの円形である。ロ三・ハ二柱穴は24cm・30cm×24cmと小さく，その他は40cm～52cm×38cm～44cmである。深さは平均43cmである。ハ二三柱穴は26cm・31cm，その他は40cm～59cmである。掘形埋土は黒褐色粘質土が多く，柱痕跡は確認できない。出土遺物がないが，周辺の遺構から，建物の時期は16世紀～17世紀初めであろう。

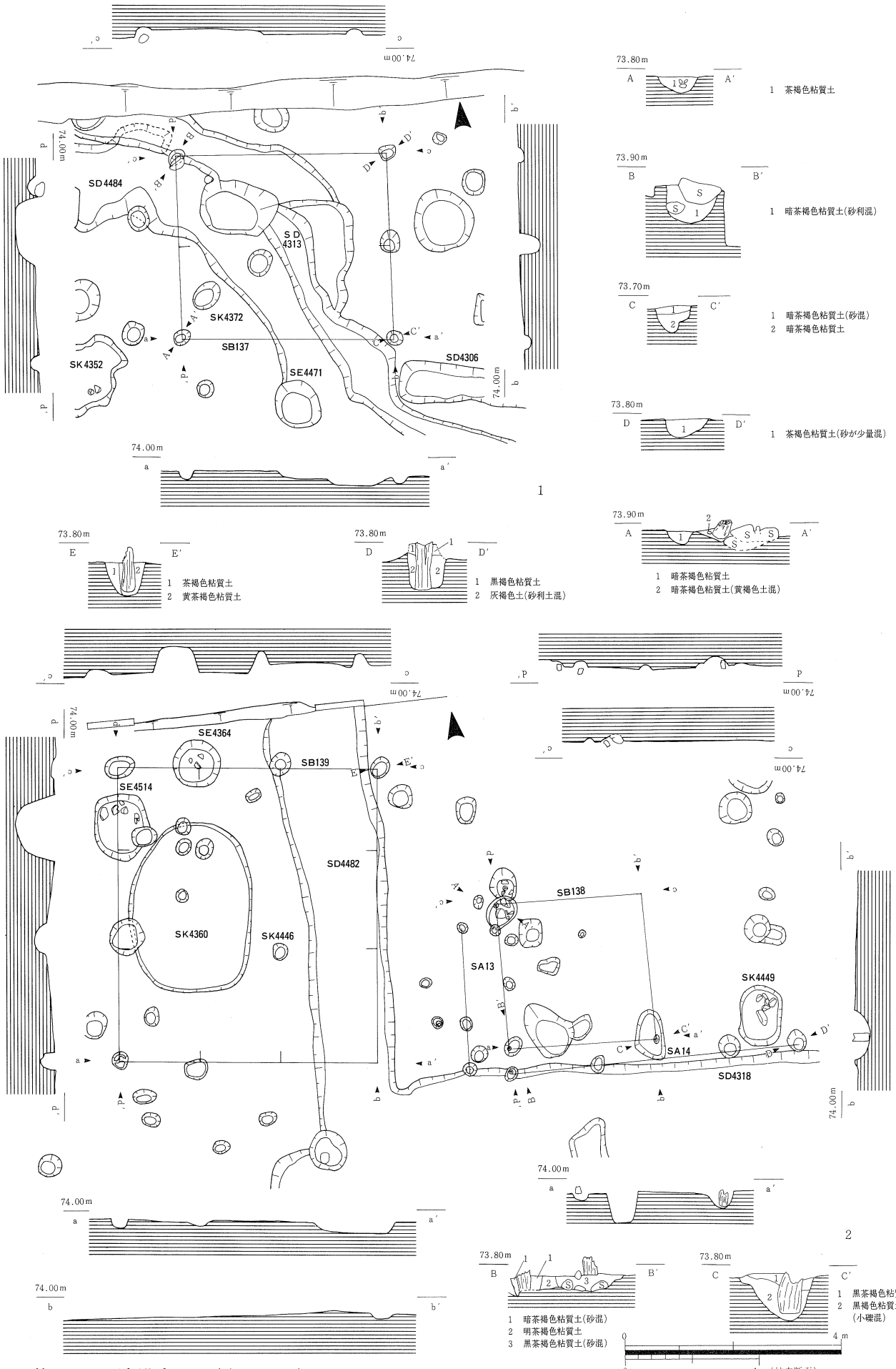
（宮田進一）

遺構番号	地区	桁行柱間	梁行柱間	桁行長 cm	桁行長 尺	桁行長 平均 cm	梁行長 cm	梁行長 尺	梁行長 平均 cm	平面積 (m²)	桁行柱間 cm(尺)	梁行柱間 cm(尺)	棟方向	方位	柱穴 cm 長軸	柱穴 cm 短軸	柱穴 cm 深さ	柱穴 cm 長軸÷短軸	時代	柱形式	備考
118	A 3 S	3	2	780	26	260	420	14	210	33	258(8.6),282(9.4),240(8)	210(7),210(7)	南北棟	N15E	51	37	32	1.38	15世紀	総柱か	西側に延びる可能性有り，柱穴がSD3425(14末-15c初め)を切る
119	A 3 S	3	1	870	29	290	222	7.4	222	19	300(10),300(10),270(9)	222(7.4)	南北棟	N16E	33	30	33	1.10	15世紀	側柱	梁間が西側に延びる，柱穴はSD3025を切る，SB120の建て替えか
120	A 3 S	3	1	810	27	270	222	7.4	222	18	270(9),270(9),270(9)	222(7.4)	南北棟	N17E	42	35	46	1.20	15世紀か	側柱	梁間が西側に延びる
126	A 3 S	3	2	810	27	270	480	16	240	39	270(9),270(9),270(9)	240(8),240(8)	南北棟	N10E	43	39	37	1.10	15世紀	側柱	柱穴から中世土師器(13c—14c)出土
127	A 3 S	3	2	762	25.4	254	480	16	240	37	222(7.4),210(7),330(11)	240(8),240(8)	南北棟	N11E	44	39	40	1.13	15世紀	側柱	SK3527(15c)を切る，柱穴から中世土師器(13c-14c)出土
137	B 1	1	2	390	13	390	342	11.4	171	13	390(13)	171(5.7),171(5.7)	東西棟	N83W	34	27	18	1.26	15～16世紀	側柱	
138	B 1	1	1	270	9	270	270	9	270	7	270(9)	270(9)	南北棟	N 4 E	66	42	23	1.57	16世紀	側柱	桁行・梁行の長さが同じ，大きい柱穴に柱根・中世土師器(15c)ある，西・南にSA12・13がある
139	B 1	3	3	540	18	180	480	16	160	26	210(7),180(6),150(5)	180(6),150(5),150(5)	南北棟	N10E	40	33	21	1.21	15世紀	側柱	SD3582(16c)に切られる
140	B	3	1	540	18	180	360	12	360	19	150(5),180(6),210(7)	360(12)	東西棟	N87W	42	30	40	1.40	15～16世紀	側柱	梁桁変形，内に土坑を伴う
143	B	3	2	894	29.8	298	462	15.4	231	41	342(11.4),348(11.6),204(6.8)	300(10),162(5.4)	南北棟	N 4 E	48	35	31	1.37	15～16世紀か	側柱	柱穴から柱根出土
144	B	4	2	900	30	225	360	12	180	32	165(5.5),240(8),180(6),315(10.5)	210(7),150(5)	東西棟	N88W	43	35	33	1.23	15～16世紀か	側柱	梁間変形，桁行1間広い
145	B	1	1	600	20	600	600	20	600	36	600(20)	600(20)	南北棟	N 3 E	98	98	82	1.00	16世紀	側柱	大形円形柱穴，柱穴から中世土師器(16c)・瀬戸美濃(16c)・青磁(15c)・柱根出土
147	B 2 N	3	2	720	24	240	450	15	225	32	300(10)315(10.5),180(6)195(6.5),240(8)210(7)	240(8)210(7),210(7)240(8)	東西棟	N84W	33	27	26	1.22	15世紀か	総柱	小形柱穴
148	B 2 N	4	1	690	23	172	210	7	210	14	180(6),150(5),210(7),150(5)	210(7)	南北棟	N 7 E	69	63	41	1.10	16世紀	側柱	大形円形柱穴，柱穴から中世土師器・珠洲・柱根出土
150	B 2 N	1	1	378	12.6	378	300	10	300	11	378(12.6)	300(10)	南北棟	N 6 E	55	46	41	1.20	16世紀か	側柱	柱穴から珠洲・信楽(16c)
156	B 2	2	1	480	16	240	450	15	450	22	240(8),240(8)	450(15)	東西棟	N80W	98	89	70	1.10	16～17世紀初	側柱	大形方形柱穴，楕円柱穴に切られる，SK6292あるいはSK6282を伴う
169	B 2	2	1	750	25	375	480	16	480	36	390(13),360(12)	480(16)	東西棟	N88W	42	39	26	1.08	15～16世紀	側柱	小形柱穴と大形柱穴，梁間変形
185	C N	3	2	720	24	240	480	16	240	35	300(10),210(7),210(7)	270(9),210(7)	南北棟	N10E	71	55	51	1.29	16～17世紀初	側柱	柱穴から石臼出土，SK8921(15c-16c)を伴う
186	C N	4	—	1020	34	255	—	—	—	—	180(6),240(8),270(9),330(11)	—	東西？	N75W	61	55	50	1.11	16世紀か	側柱	建物でなく，柵の可能性大
187	C N	4	—	1050	35	262	—	—	—	—	270(9),300(10),240(8),240(8)	—	東西？	N76W	51	46	32	1.11	16世紀か	側柱	建物でなく，柵の可能性大
188	C S	2	1	480	16	240	240	8	240	12	240(8),240(8)	240(8)	南北棟	N11E	43	38	36	1.13	16世紀か	側柱	柱穴から打斧，東側にもう1間(288cm)延びるのか
189	C S	2	1	552	18.4	276	372	12.4	372	21	270(9),282(9.4)	372(12.4)	南北棟	N 9 E	97	83	56	1.17	16～17世紀初	側柱	大形円形柱穴，柱穴から柱根・瀬戸美濃(16c)出土，四隅の柱穴は大きい
190	C S	2	1	510	17	255	270	9	270	14	240(8),270(9)	270(9)	南北棟	N 1 E	56	46	25	1.22	16末～17世紀初	側柱	西一～三柱列は不揃い
191	C S	2	2	660	22	330	480	16	240	32	360(12)390(13),300(10)270(9)	240(8),240(8)	東西棟	N71W	60	51	56	1.18	16～17世紀初	側柱	
195	C 1	2	1	492	16.4	246	300	10	300	15	222(7.4)270(9),270(9)222(7.4)	300(10)	南北棟	N12E	67	43	50	1.56	16末～17世紀初	側柱	SK9850(17c前半)より古い
196	C 1	2	2	810	27	405	600	20	300	49	480(16),330(11)	300(10),300(10)	南北棟	N14E	73	55	28	1.33	16末～17世紀初	側柱	

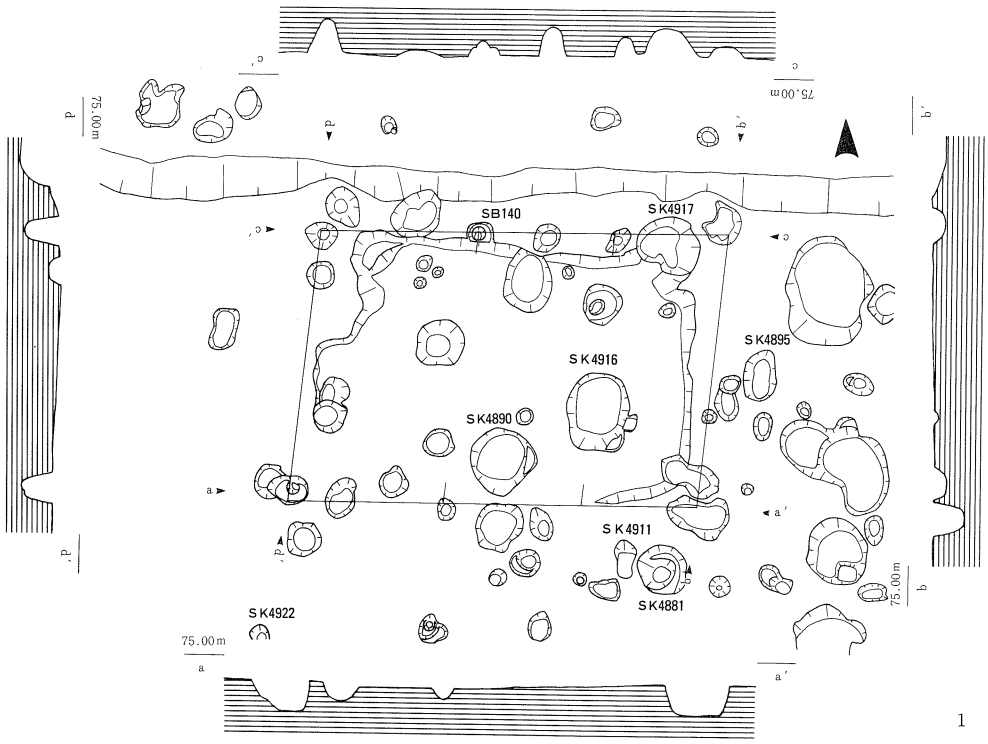
第8表　掘立柱建物(中世後期)一覧(1)

遺構番号	地区	桁行柱間	梁行柱間	桁行長 cm	桁行長 尺	桁行長 平均 cm	梁行長 cm	梁行長 尺	梁行長 平均 cm	平面積 (m²)	桁行柱間 cm(尺)	梁行柱間 cm(尺)	棟方向	方位	柱穴 cm 長軸	柱穴 cm 短軸	柱穴 cm 深さ	柱穴 cm 長軸÷短軸	時代	柱形式	備考
198	C 1	2	2	390(408)	13(13.6)	195(204)	342	11.4	171	14	195(6.5)198(6.6), 195(6.5)210(7)	192(6.4),150(5)	南北棟	N 8 E	31	28	33	1.11		側柱	
199	C 1	2	1	432(402)	14.4(13.4)	216(201)	300	10	300	13	222(7.4)162(5.4), 210(7)240(8)	300(10)	東西棟	N79W	53	41	35	1.29		側柱	SB200より新しい
200	C 1	1	1	450	15	450	390(420)	13(14)	390(420)	18	450(15)	390(13)420(14)	東西棟	N 9 E	61	47	32	1.30		側柱	SB199より古い，柱穴から凹石出土
202	C 1	3	2	669	22.3	223	558	18.6	279	37	252(8.4)210(7), 204(6.8)219(7.3), 213(7.1)240(8)	294(9.8),264(8.8)	南北棟	N16E	33	29	31	1.14	15世紀か	総柱	小形円形柱穴
203	C 1	2	2	666	22.2	333	450	15	225	30	270(9)312(10.4), 396(13.2)354(11.8)	210(7),240(8)	東西棟	N75W	37	29	30	1.28	15後～16世紀	側柱	桁行の柱間大きい，小形円形柱穴
204	C 1	2	1	630	21	315	426	14.2	426	27	252(8.4),378(12.6)	426(14.2)	南北棟	N17E	68	54	46	1.26	15後～16世紀	側柱	柱間広い
205	C 1	1	1	405	13.5	405	180	6	180	7	405(13.5)	180(6)	東西棟	N74W	51	32	22	1.59	16世紀末か	側柱	SD9330(16c前)より新しい
206	C 1	1	1	438	14.6	438	288	9.6	288	13	438(14.6)	288(9.6)	南北棟	N10E	95	79	53	1.20	16末～17世紀初	側柱	大形円形柱穴
207	C 1	1	1	216	7.2	216	210	7	210	5	216(7.2)	210(7)	東西棟	N84W	79	44	47	1.80	16世紀中頃	側柱	楕円柱穴，SD9391(16c後半)に切られ，SD9310(16c前半)を切る
208	C 1	1	1	300	10	300	168	5.6	168	5	300(10)	168(5.6)	南北棟	N11E	59	53	43	1.11	16後～17世紀初	側柱	円形柱穴，柱穴はSD9313と接する
209	C 1	3	1	516	17.2	172	210(198)	7(6.6)	210(198)	11	210(7)186(6.2),150(5), 156(5.2)180(6)	210(7)198(6.6)	東西棟	N80W	29	24	30	1.21	16後～17世紀初	側柱	梁行方向変形する
210	C 1	3	2	690	23	230	378	12.6	189	26	300(10),192(6.4), 198(6.6)	168(5.6),210(7)	南北棟	N10E	42	35	39	1.20	15後～16世紀初	側柱	SD9318より古い
211	C 1	2	2	540	18	270	384	12.8	192	21	240(8),300(10)	210(7),174(5.8)	東西棟	N83W	42	31	34	1.35	16世紀後	側柱	梁行方向に変形，SK9311を伴うのか
212	C 1	3	2	696	23.2	232	450	15	225	31	270(9),246(8.2),180(6)	240(8),210(7)	南北棟	N12E	48	41	37	1.17	16～17世紀初	側柱	柱穴から柱根出土
213	C 1	2	1	420	14	210	288	9.6	288	12	252(8.4)183(6.1), 168(5.6)237(7.9)	288(9.6)	東西棟	N81W	44	38	36	1.16	15後～16世紀	側柱	梁方向に変形
214	C 1	2	1	420	14	210	279	9.3	279	12	210(7),210(7)	279(9.3)	東西棟	N72W	37	26	40	1.42	15後～16世紀	側柱	
215	C 2	2	1	429	14.3	214	354	11.8	354	15	240(8),189(6.3)	354(11.8)	東西棟	N84W	41	31	43	1.32	16世紀後半	側柱	SK10105(16c後－17c初)を伴う
216	C 2	2	1	510	17	255	348	11.6	348	18	255(8.5),255(8.5)	348(11.6)	東西棟	N74W	52	44	31	1.18	16世紀	側柱	北側にSA16がある
217	C 2	1	1	468	15.6	468	378	12.6	378	18	468(15.6)	378(12.6)	東西棟	N71W	38	29	16	1.31	16世紀か	側柱	柱穴から柱根出土，西側・南側にSA17･18がある
218	C 2	1	1	435	14.5	435	378	12.6	378	16	435(14.5)	378(12.6)	南北棟	N16E	59	53	18	1.11	16世紀	側柱	
219	C 3	2	2	582	19.4	291	435	14.5	217	25	264(8.8),318(10.6)	195(6.5),240(8)	南北棟	N20E	28	25	36	1.12	16～17世紀初	側柱	西側の桁行の柱穴が外に少しずれる
220	C 3	2	1	930(768)	31(25.6)	465(384)	492	16.4	492	42	540(18)456(15.2), 390(13)312(10.4)	492(16.4)	南北棟	N20E	89	75	48	1.19	16～17世紀初	側柱	大形円形柱穴(内1つは小さい)，柱穴から越前・柱根出土
221	C 3	4	3	705	23.5	176	672	22.4	224	47	186(6.2)207(6.9), 192(6.4),168(5.6) 144(4.8),159(5.3) 162(5.4)	288(9.6),192(6.4), 192(6.4)	南北棟	N16E	43	33	36	1.30	16～17世紀初	側柱	柱根出土
222	C 3	2	1	522	17.4	261	369	12.3	369	19	264(8.8)282(9.4), 258(8.6)240(8)	369(12.3)	南北棟	N25E	50	41	47	1.22	16～17世紀初	側柱	
223	C 3	3	1	594(606)	19.8(20.2)	198(202)	294	9.8	294	18	219(7.3)231(7.7), 150(5),225(7.5)	294(9.8)	南北棟	N24E	40	32	43	1.25	16～17世紀初	側柱	柱根出土，
224	C 3	4	2	1020	34	255	480	16	240	49	240(8),225(7.5), 225(7.5),330(11)	282(9.4),198(6.6)	南北棟	N20E	61	54	55	1.13	16～17世紀初	側柱	柱穴から中世土師器・柱根出土
225	C 3	3	2	708(642)	23.6(21.4)	236(214)	606	20.2	303	41	156(5.2),204(6.8), 348(11.6)282(9.4)	276(9.2),330(11)	南北棟	N20E	34	28	45	1.21	16～17世紀初	側柱	柱根出土，梁行少し変形
226	C 3	2	2	558	18.6	279	360	12	180	20	279(9.3),279(9.3)	180(6),180(6)	南北棟	N16E	38	34	43	1.12	16～17世紀初	側柱	桁行が南側に延びるのか
227	C 3	2(か)	2	396	13.2	198	390	13	195	15	396(13.2)	201(6.7),189(6.3)	東西棟	N70W	31	26	32	1.19	16～17世紀初	側柱	桁行の間の柱穴は未確認
228	C 3	2	1	306	10.2	153	150	5	150	5	162(5.4),144(4.8)	150(5)	南北棟	N19E	43	35	34	1.23	16～17世紀初	側柱	柱穴から柱根出土

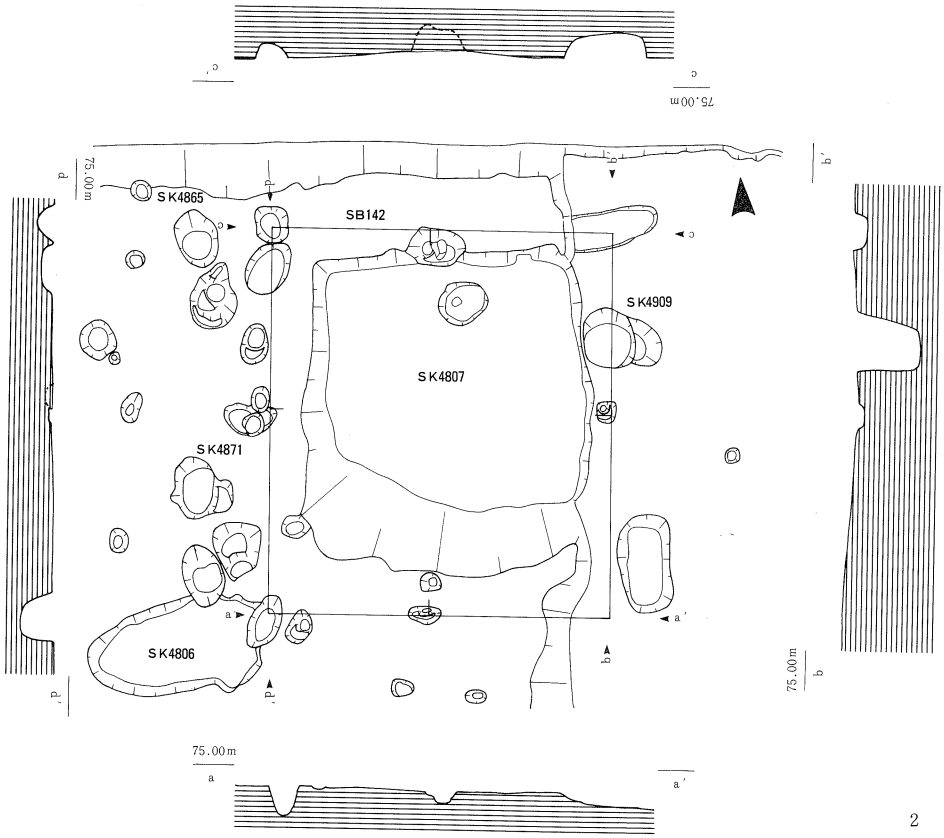
第８表　掘立柱建物(中世後期)一覧(2)



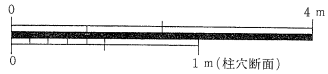
第152図　遺構実測図(中世後期)
1.SB137　2.SB138・SB139



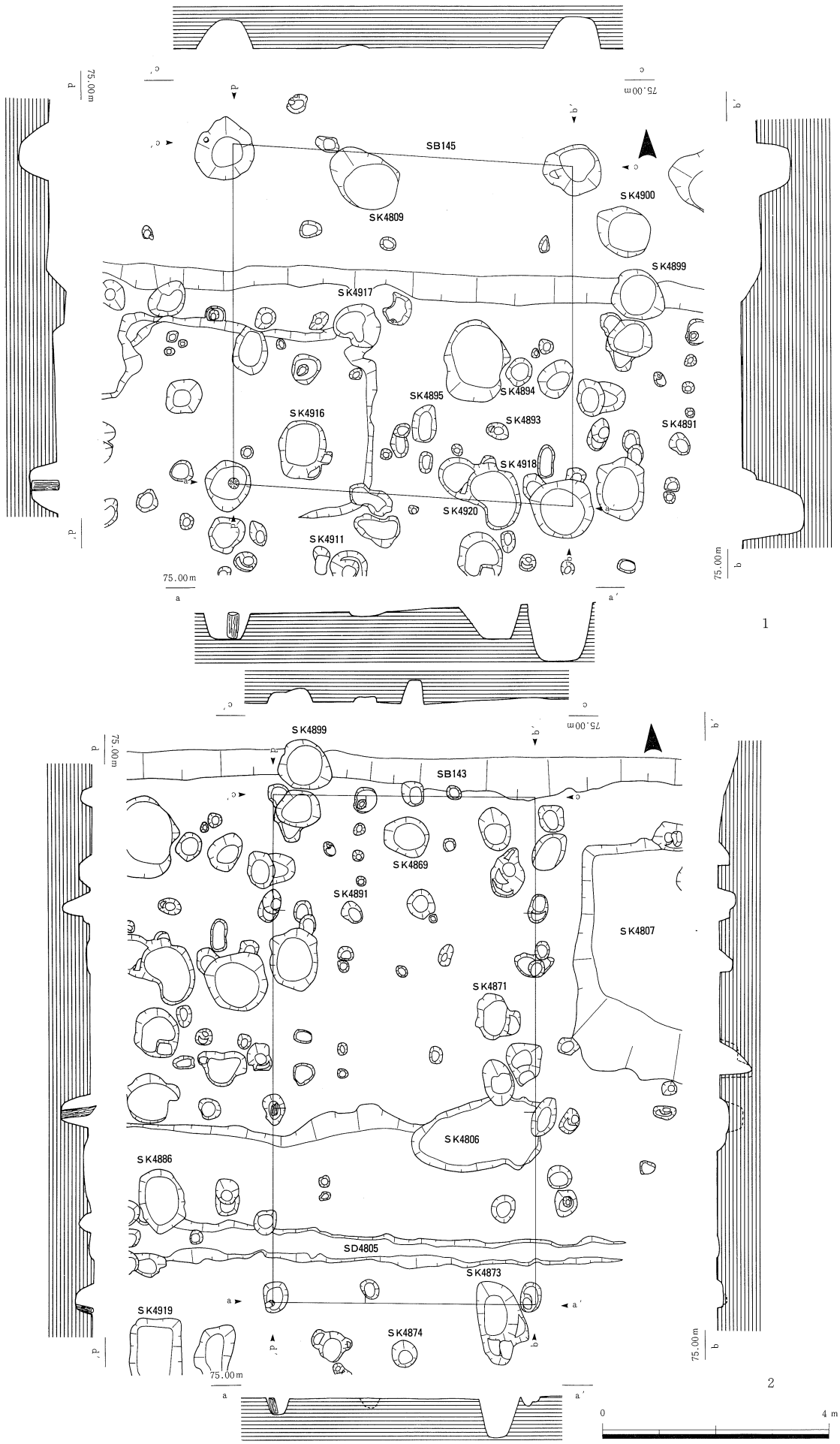
1



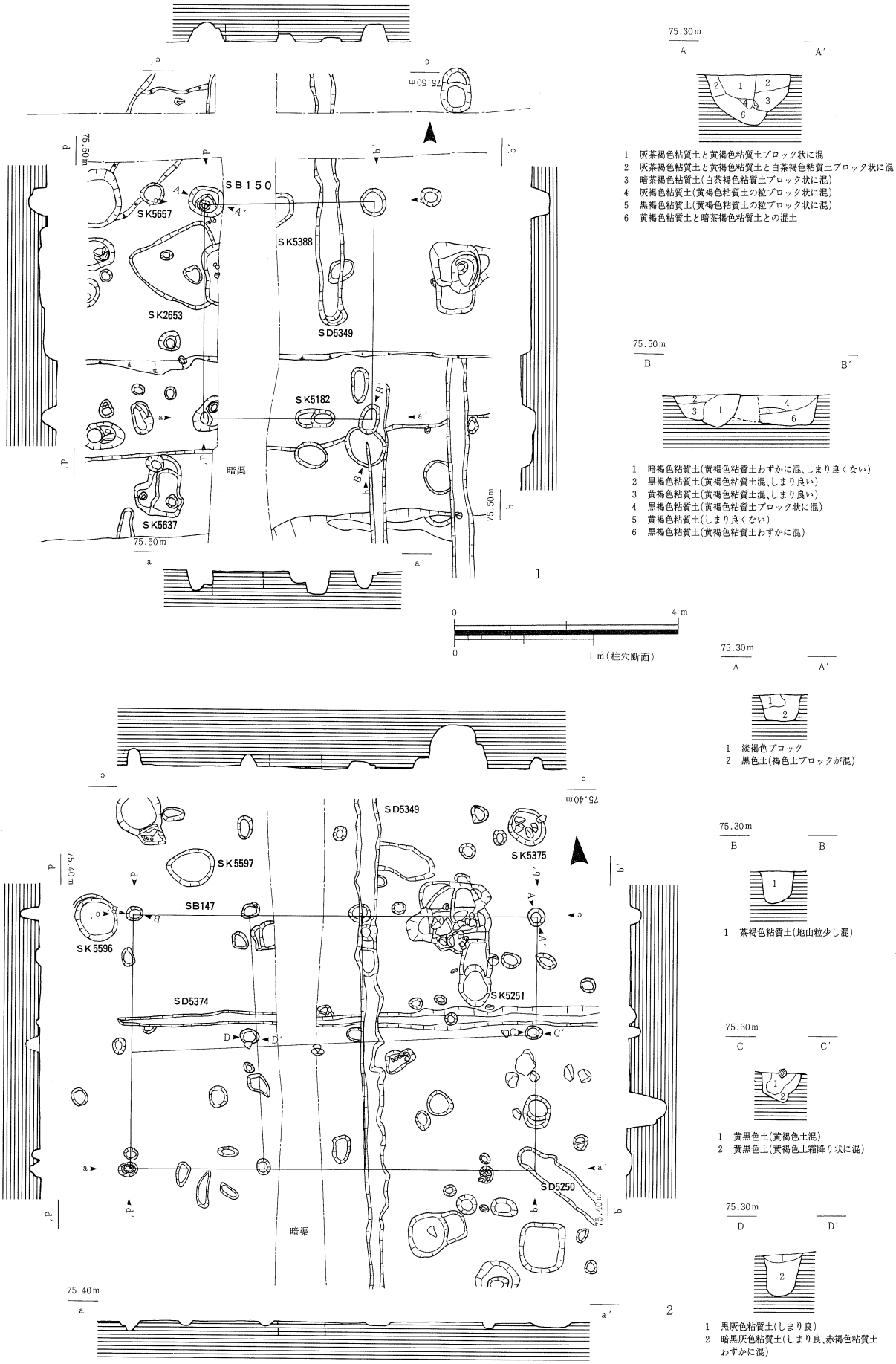
2



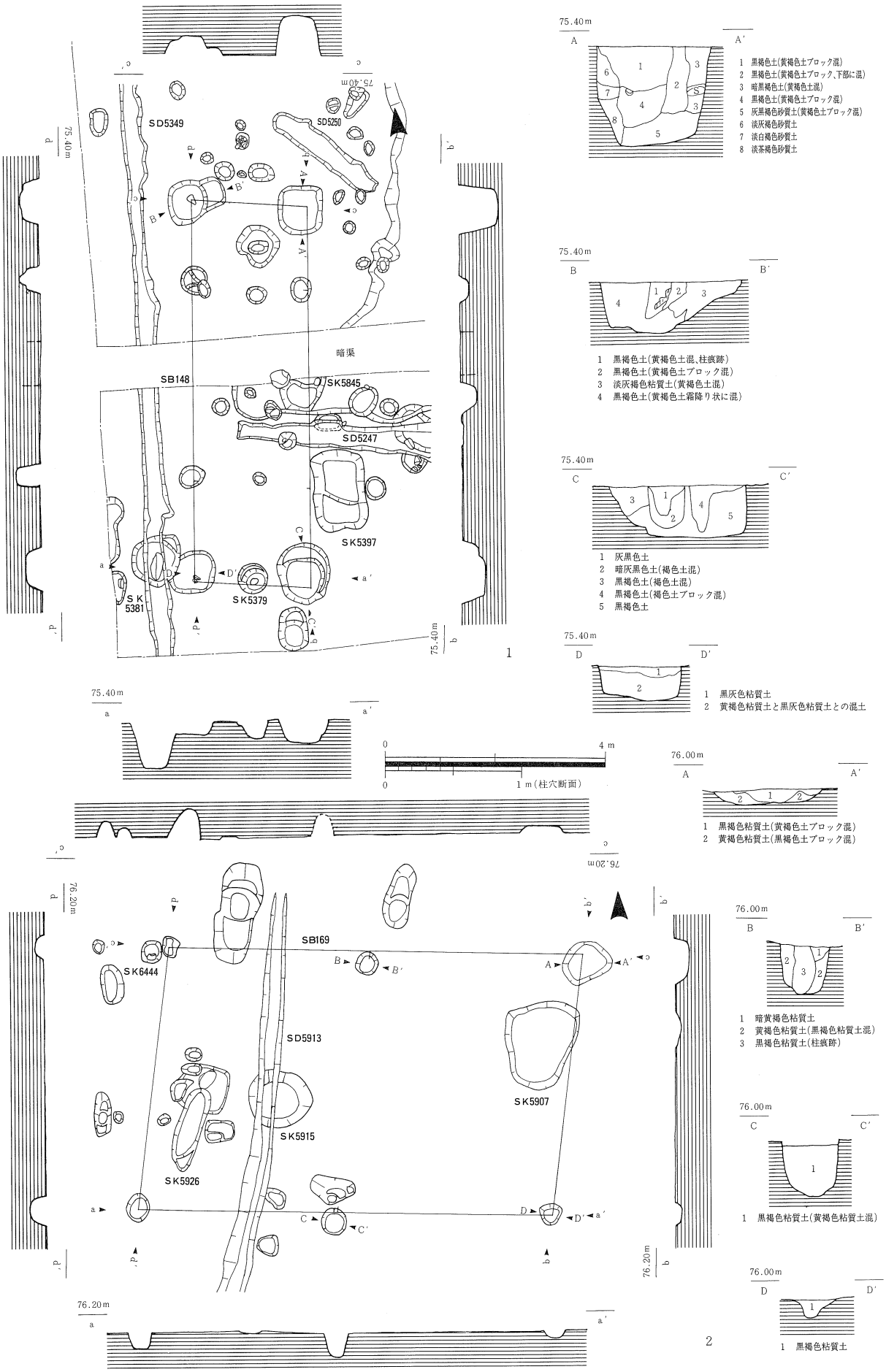
第153図　遺構実測図(中世後期)
1.SB140　2.SB142



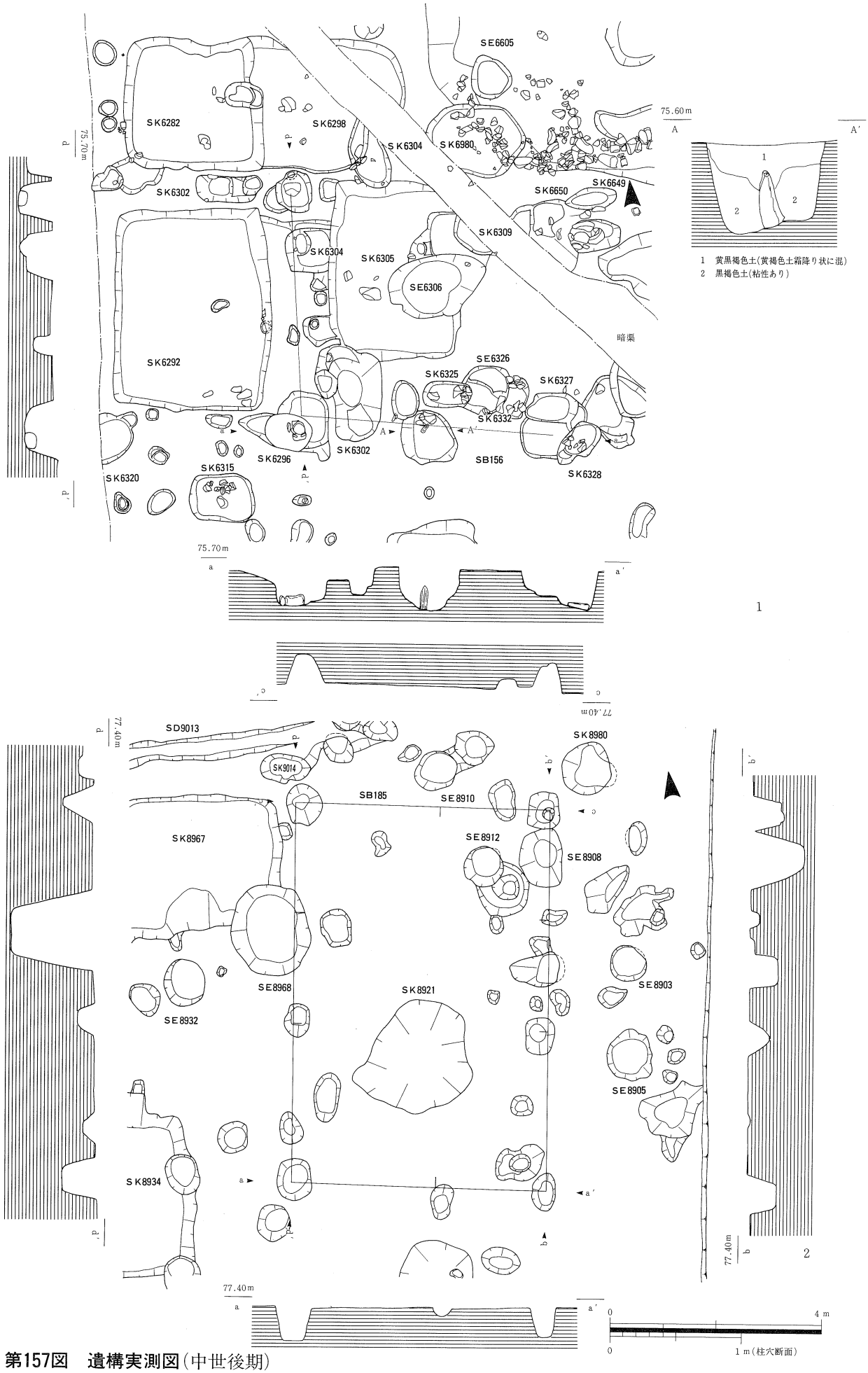
第154図　遺構実測図(中世後期)
1.SB145　2.SB143



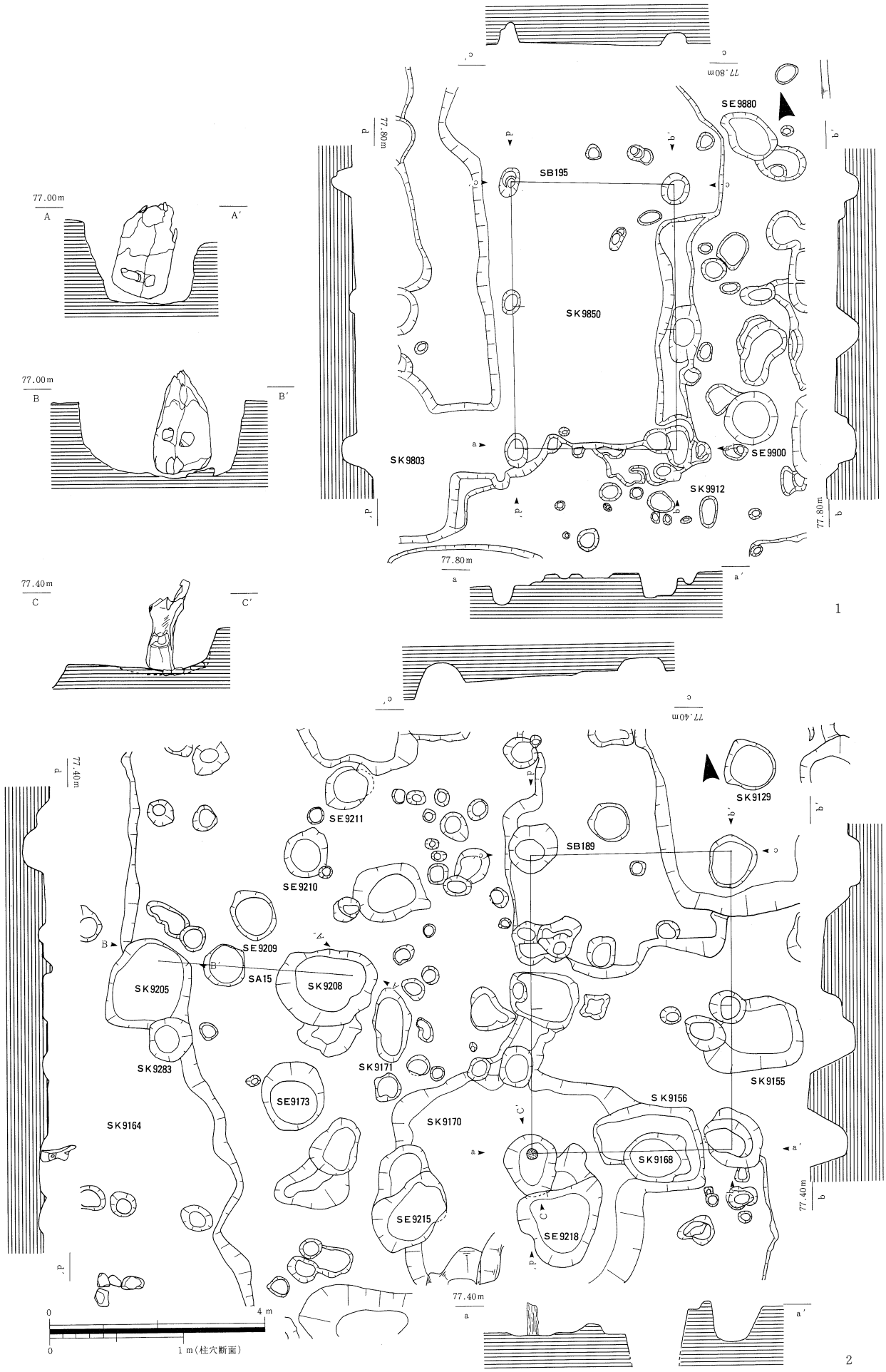
第155図　遺構実測図(中世後期)
1.SB150　2.SB147



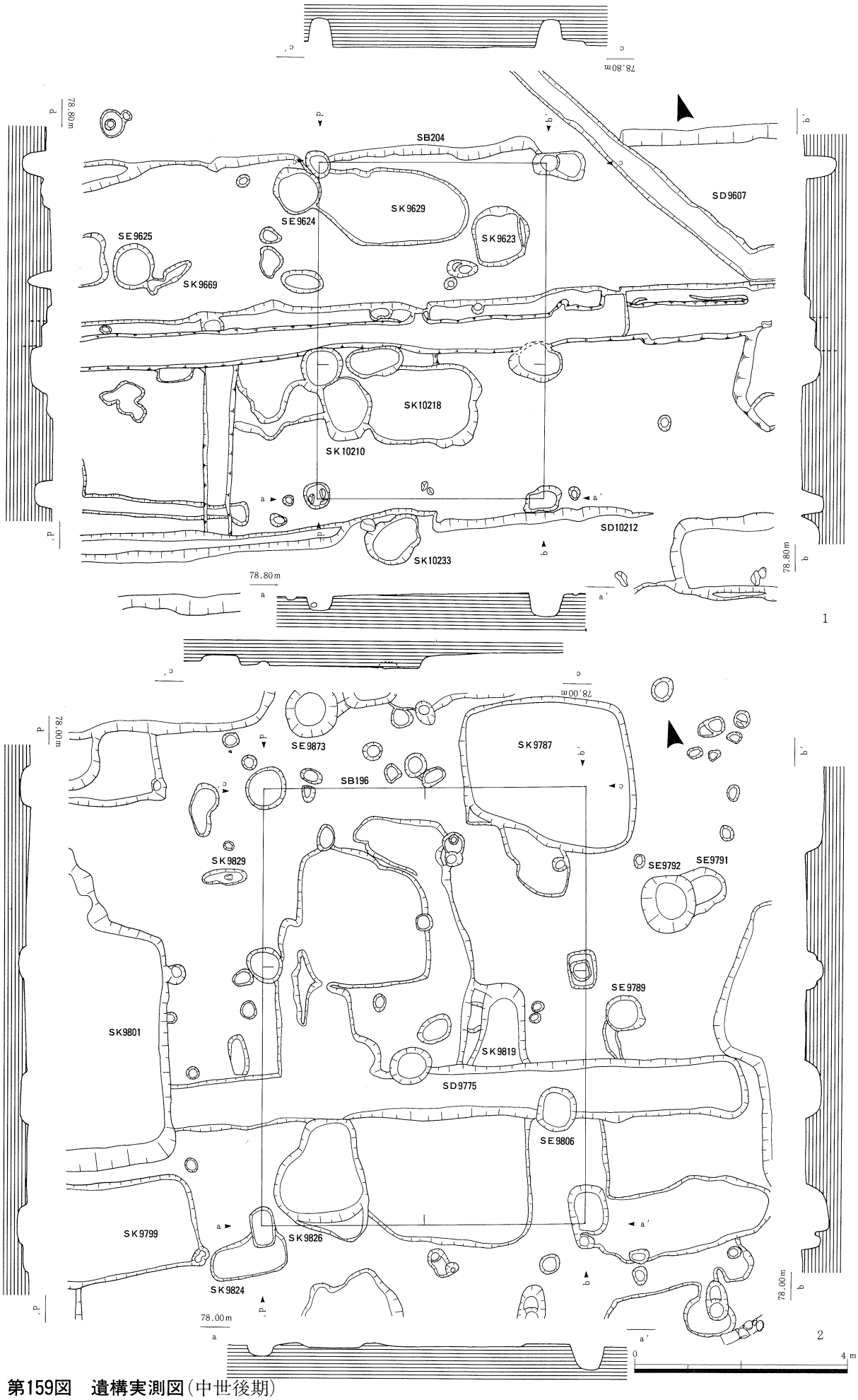
第156図　遺構実測図(中世後期)
1.SB148　2.SB169



第157図　遺構実測図(中世後期)
1.SB156　2.SB185



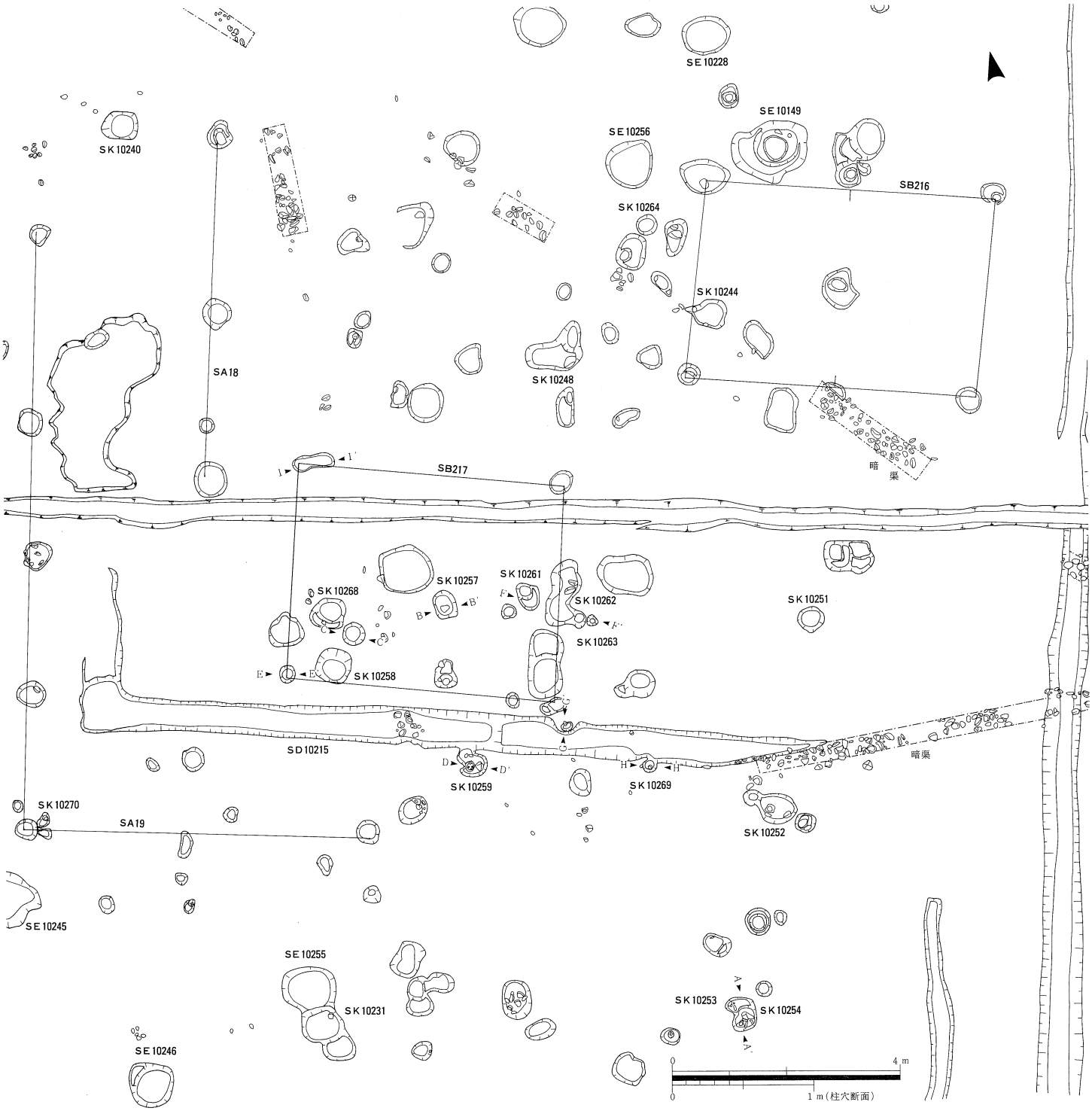
第158図　遺構実測図(中世後期)
1.SB195　2.SB189

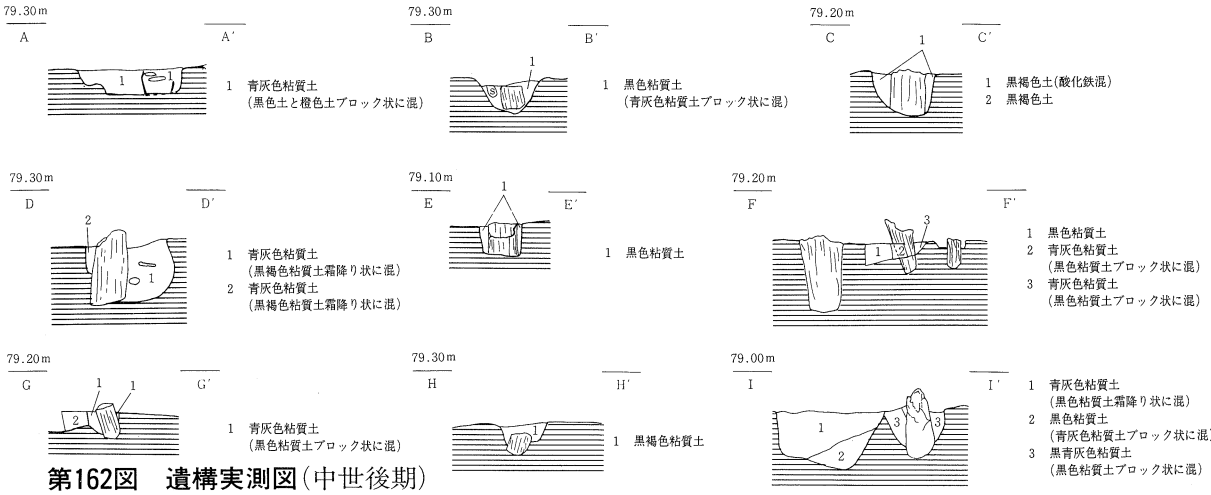


第159図　遺構実測図(中世後期)
1.SB204　2.SB196

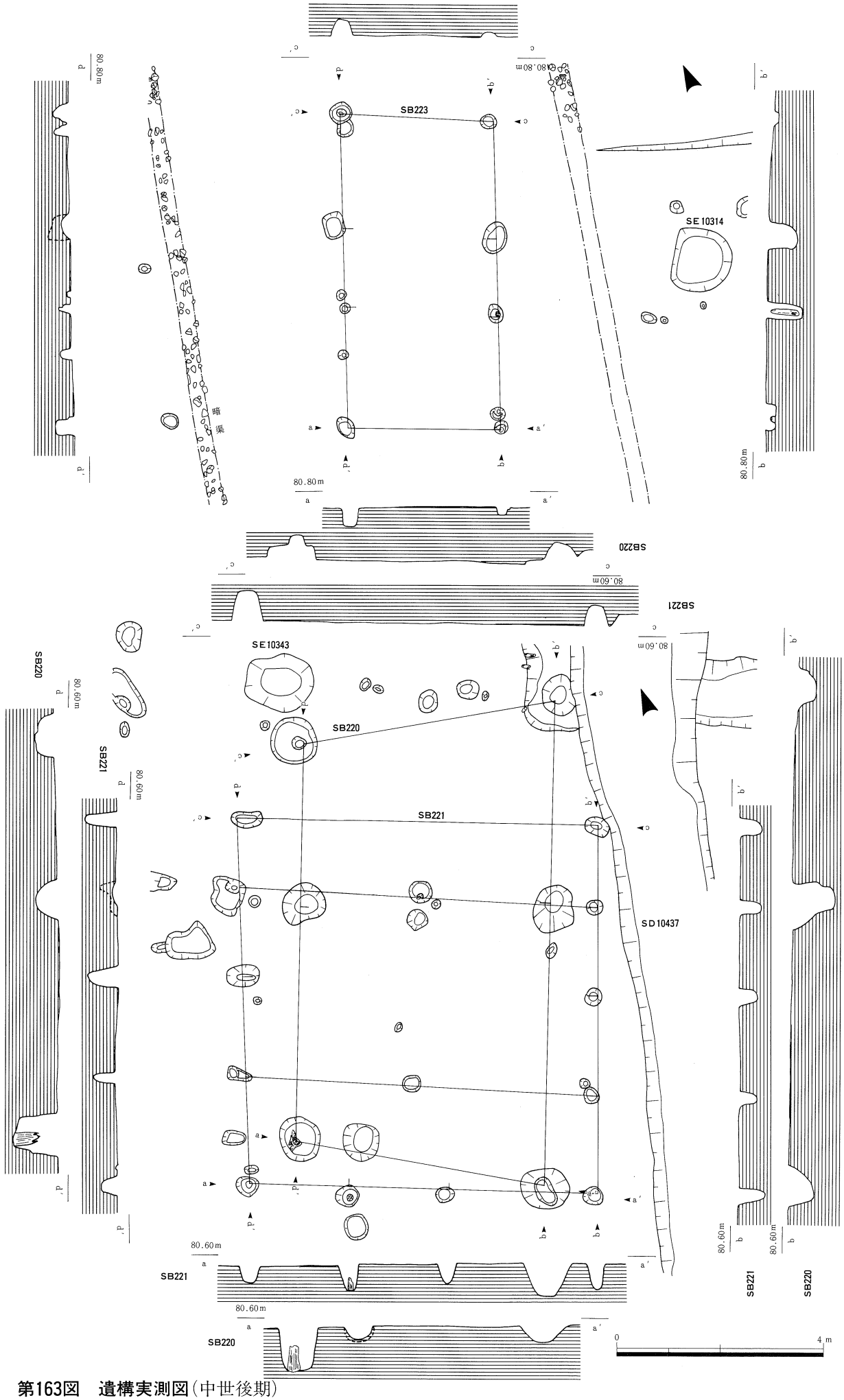
第160図　遺構実測図（中世後期）
ＳＢ２０６～ＳＢ２１１

第161図　遺構実測図(中世後期)
1.SB211　2.SB212・SB214

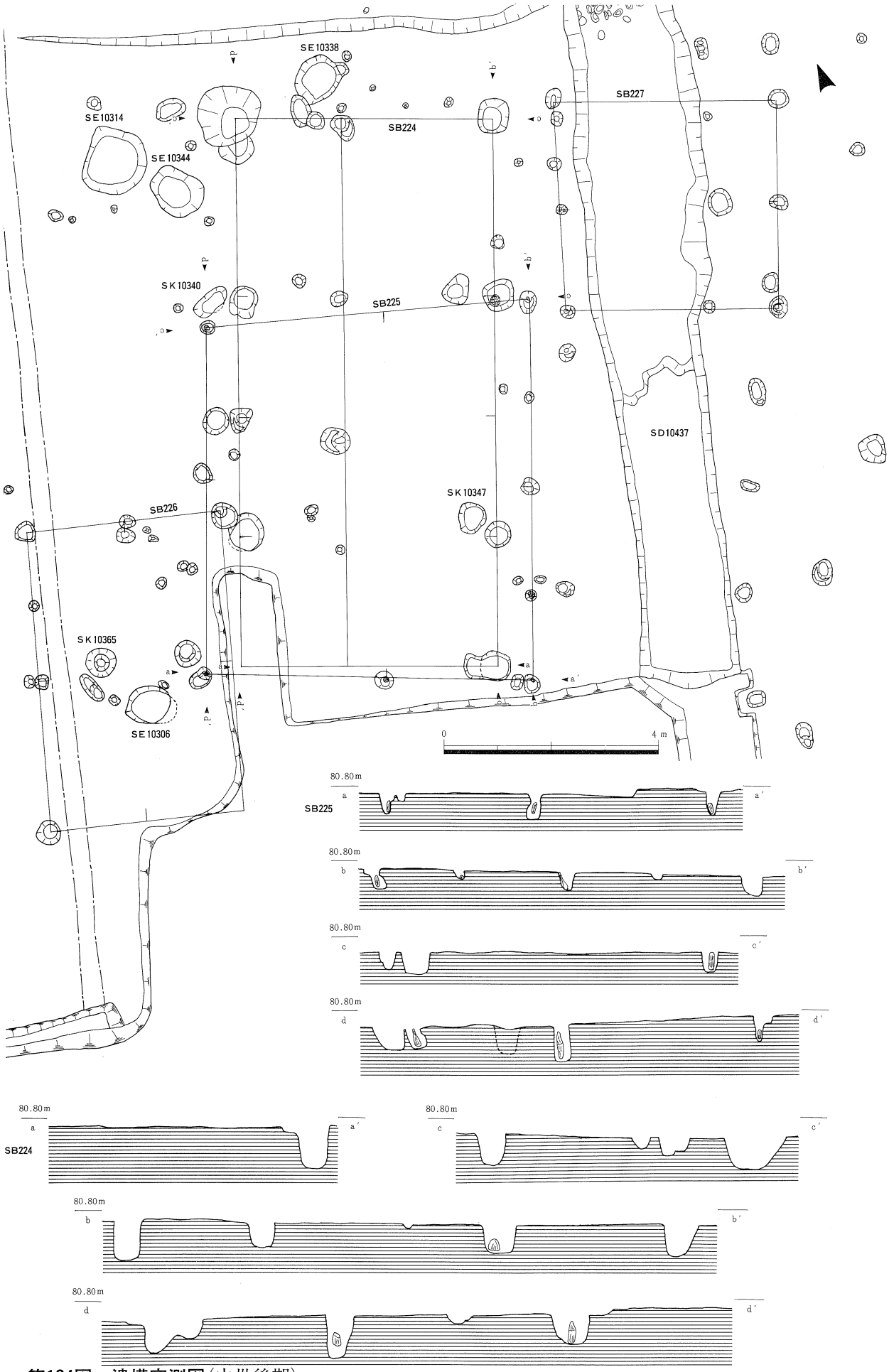




第162図　遺構実測図(中世後期)
SB216・SB217



第163図　遺構実測図(中世後期)
1.SB223　2.SB220・SB221



第164図　遺構実測図（中世後期）
ＳＢ２２４～ＳＢ２２７

2　溝

中世後期の溝は主にＢ地区とＣ地区から検出している。Ａ地区で検出したものは３条のみである。この時期になると，Ｂ地区の南・Ｃ地区で幅が２ｍ以上の大規模な区画溝が掘削されるようになる。方形区画を意識したものが多く，幅の細い溝でもその傾向が強い。

Ａ地区

3005号溝（ＳＤ3005，第80図，図版58）

Ａ３地区の北中央～北東端，Ｘ354～358Ｙ91～109に位置し，ＳＤ2203と並行して，南東から北西に走る。幅120cm（推定）～200cm（推定）で，深さ５cm～30cmである。溝底の高低差は南・北でわずかにあり，水流は緩やかに北へ向かう。溝底は凸凹している。ＳＤ2203との間には溝がもう１～２条入るが，これらはＳＤ2203より新しくなる。覆土は灰褐色粘質土で，所々に小石が混じる。遺物には土師器・須恵器，中世土師器・八尾・珠洲・越前・瀬戸美濃・白磁・青磁・青花がある。時期は15世紀～16世紀である。なお，ＳＤ2203との間の溝は，近世の遺物（越中瀬戸・唐津・伊万里等）が混じることから，ＳＤ2207に接続するのであろう。

3006号溝（ＳＤ3006，第80図）

ＳＤ3005に並行する南北溝で，ＳＤ3005の南側の溝に切られ，西側に接しているＳＤ3007を切る。幅40cm～64cm，深さ15cm～20cmである。溝底の高低差は，東・西でほとんどない。覆土は茶褐色土である。遺物には中世土師器・珠洲があり，時期は14世紀～15世紀である。

3007号溝（ＳＤ3007，第80図，図版58）

Ｘ353～357Ｙ101～109に位置し，ＳＤ3006を切る南北溝で，幅100cm～130cm(推定)，深さ15cm～30cmである。ＳＤ3006と同様に，溝底の高低差はほとんどない。覆土は茶色土・茶褐色土である。遺物には中世土師器・珠洲があり，時期は14世紀～15世紀である。

3770号溝（ＳＤ3770，第165図，図版101）

ＳＤ3425の北側，Ｘ340～344Ｙ96～106に位置する。幅242cm～316cm，深さ20cm～24cmの東西溝で，水流は西に向く。西の方では，溝肩が確認できなくなる。覆土は茶褐色土（上層）・黒褐色土（下層）で，東に行くほど黒褐色土が確認できなくなる。遺物には須恵器，中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・青磁がある。時期は15世紀である。

Ｂ地区

3404号溝（ＳＤ3404，第167図）

Ｘ311～316Ｙ83～86に位置し，幅130cm～180cm，深さ10cm～15cmの南北溝である。水流は北向きで，ＳＤ3407に続く。Ｘ317・318Ｙ84・85付近で，小石混じりの暗渠に切られる。底は平坦である。覆土は茶褐色土で，砂利土が混じる。遺物には中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・白磁・青磁・青花がある。時期は15世紀～16世紀である。

3407号溝（ＳＤ3407，第166・167図，図版101）

Ａ３地区の南端からＢ１地区に延びる溝である。Ｘ313～318Ｙ80～101で東西方向に延びる溝(東溝)は，幅180cm～210cm，深さ30cm～40cmで，水流は西向きである。その溝はＸ315・316Ｙ100・101で南北に折れる。北側へ延びる溝は幅180cm，深さ30cmで，すぐに近世のＳＤ3401に切られる。南側へ延びる溝は，幅260cm～310cm，深さ30cm～35cm，北向きの水流で，東西方向に延びるＳＤ4602につながると考える。また，前述した北溝は，Ｘ318Ｙ84付近で，南北方向に走るＳＤ3401に続くと考える。そうすると，溝は「ロ」状になる。しかし，南のＳＤ3404以外の３方向の溝は浅く，一体のものと考

えるにはやや不自然である。覆土は茶褐色砂利土（上層），暗灰色粘質土（下層）である。遺物には中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・白磁・青磁，石臼，木製品などがある。X303・304Y98・98付近では鉄製鋤先，横杵が出土している。時期は15世紀～16世紀である。

4602号溝・4603号溝（ＳＤ4602・ＳＤ4603，第168図，図版102）

X299～296Y104～79付近で，東西方向に走る溝である。ＳＤ4603は中央やや東寄りから以西で，ＳＤ3401の北側に確認され，部分的にＳＤ4602と合流しながら並走する。ＳＤ4602はＳＤ3407に続く可能性が高いもので，南側の肩からＳＤ4603北側の肩までは幅500cm～850cm，深さはＳＤ4602が40cm～70cm，ＳＤ4603は20cmを測る。断面形は南側に段がある台形で，底面はほぼ平坦である。覆土は黒褐色・灰褐色粘質土を主体とし，ほとんどの層に炭化物が混じる。ＳＤ4602にはＳＤ4604・ＳＤ4605・ＳＤ4606が南から直交するように，またＳＤ4607が南西方向から，ＳＤ4608が南から斜交するように合流している。検出部分の東端は，西流から北流へ方向を変えるＳＤ3401に抉られている。遺物は縄文土器，土師器・須恵器，中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・志野・白磁・青磁・青花，漆器椀・曲物・加工板・加工木，石臼・切石が出土し，時期は15世紀～16世紀と考えられる。

4605号溝（ＳＤ4605，第169図）

X272～295Y93で検出した南北方向の溝で，調査区がＢ地区とＢ１地区にまたがっている。幅は245cm～300cm，肩の立ち上がりは東側が緩やかで深さは28cm～40cmである。覆土は２種類見られ，西側に黒褐色粘質土，東側にはその上面にしまった暗茶褐色粘質土，黒褐色砂礫土がレンズ状に堆積する。覆土や遺物から中世後期と近世の２時期の流れが推定される。中世後期の流れはX272Y93付近で終わっていたものと考えるが，近世の流れは南の延長線上のＢ２地区の近世の溝ＳＤ5002に続いていたと考える。東側の暗茶褐色土が南のセクションでは見られなくなるのは，この溝の東側と西側の標高差が南に行くに従って大きくなっており，段差で遺構確認が遅れたためであろう。遺物には縄文土器，須恵器，中世土師器・八尾・珠洲・越前・瀬戸・瀬戸美濃・白磁・青磁・青花，越中瀬戸・唐津・伊万里がある。時期は15世紀～16世紀と17世紀前半である。

4606号溝（ＳＤ4606，第169図）

東西方向からX281Y91で，北に直角に曲がる溝である。ＳＤ4605と同様，調査区がＢ地区とＢ１地区にまたがる。北に曲がると東側のＳＤ4605にほぼ平行して北流し，ＳＤ4607に切られる。幅は57cm～300cm，東西方向の部分が幅も広く，漆器椀片などの木製品の出土が見られた。壁の立ち上がりは緩やかで，深さも16cm～20cmと浅い。覆土は黒褐色粘質土の単層である。遺物には縄文土器，須恵器，中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・瀬戸美濃・白磁・青磁・青花，漆器，石臼がある。時期は15・16世紀である。

4607号溝（ＳＤ4607，第168図）

X295～296Y91～93付近で，東北東から西南西の方向に走る溝である。幅は130cm～150cm，検出面からの深さは12cm～14cmと浅いが，試掘調査の際上層が削平されているため，本来はもう少し深かったものと考えられる。覆土は上層から黒褐色土，中層が黄青緑色砂層と黒褐色粘質土の互層，下層が灰黒褐色粘質土の３層に分かれる。遺物には須恵器，中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・青磁・青花，越中瀬戸・唐津・伊万里，漆器椀・漆器の柄・下駄，金属製品があり，時期は15世紀～16世紀で，近世の遺物はＳＤ3401からの混入と考えられる。

4608号溝（ＳＤ4608，第168図）

X289～296Y89～85付近で，北西方向に流れる溝。ＳＤ4602の南側肩から約５ｍ離れた辺りから二

股に分岐し，斜めに合流する。幅は80cm～150cm，深さ15cm～30cmを測り，分岐地点が最も深く，その先は浅く，広がりながら合流している。ただし東側の支流については，東側肩がはっきり確認できなかったため，規模については不明である。覆土は黒褐色土を主体とし，底部には小石が堆積している。遺物は縄文土器，須恵器，中世土師器・珠洲，唐津，加工板が出土し，唐津は別遺構からの混入と考えられる。遺構の時期は14世紀～15世紀のものである。

4802号溝（ＳＤ4802，第169図）

調査区西側のＸ271で検出した東西方向の溝である。東端は土坑状の落ち込みに切られる。幅は約130cm，南側のＳＫ4801には切り合いで勝つ。深さは約13cmと浅く，床面は平坦ではない。覆土は主に暗褐色粘質土が堆積する。遺物には中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・白磁がある。時期は14世紀～16世紀である。

4805号溝（ＳＤ4805，第169図）

Ｘ274～275Ｙ77～87で検出した東西方向の溝で，ＳＤ4802と平行する。幅約50cm，深さ約10cmで覆土は黒褐色粘質土の単層である。数基の柱穴，土坑と切り合うが，すべての切り合いで負けている。遺物には中世土師器・珠洲・越前・瀬戸がある。時期は15世紀である。

5001号溝（ＳＤ5001，第170図）

南北に弧を描く細い溝である。北端はＳＫ5051に，南端はＳＤ6095に切られる。ＳＤ6095と交差する所にＳＤ6095側に板状の木製品が渡してあり，同時に機能していた可能性がある。検出した全長は11m，中央で切り合うＳＫ5022よりは新しい。幅は58cm～80cm，深さは15cm～21cmである。覆土は黒褐色粘質土，または暗褐色粘質土である。遺物は縄文土器，須恵器，中世土師器・越前・瀬戸・瀬戸美濃，越中瀬戸，漆器がある。

5003号溝（ＳＤ5003，第171図）

東壁からＳＢ6390までの部分的検出をした東西方向の溝である。幅は壁際で350cm，深さ52cmである。断面形は逆台形状であるが，底面は中央が浅くくぼむ。覆土は上から暗褐色粘質土，黒褐色粘質土，暗褐色粘質土，黒褐色粘質土の順に堆積する。全体に砂礫が混じり，上面から２番目の層には焼土が混じる。遺物には中世土師器・珠洲があり，時期は15世紀である。

5014号溝（ＳＤ5014，第170図）

ＳＢ6390の東で検出した東西方向の溝である。位置的にＳＤ6095の続きと考えられるが，幅の広さと断面形の違いから，ＳＤ5014ｂがその続きと考える。ＳＤ5014の幅は東壁で230cm，深さ45cmである。ＳＤ5014ｂは幅100cm，深さはＳＤ5014の底から22cmである。覆土はともに暗黒灰色粘質土が主体である。遺物はＳＤ5014からは中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃，ＳＢ5014ｂからは中世土師器・珠洲・越前が出土している。時期はともに15・16世紀である。

5018号溝（ＳＤ5018，第170図）

ＳＤ5001の東で検出した蛇行する溝である。北端はＳＫ5051に南端はＳＢ6390に切られる。他の東西方向の溝とはＳＤ5026・ＳＤ5029・ＳＤ5014には切り合いで勝っており，他の切り合う土坑・井戸よりも新しい。検出した全長は20m，断面形はほぼ逆台形状，幅は75cm～140cmで深さは16cm～35cmである。覆土は砂礫の混じる暗褐色粘質土が主体で，中には自然木が多く混じり，特にＸ252Ｙ97付近で顕著である。遺物には須恵器，中世土師器・珠洲・越前・瀬戸がある。他には付け札の形態をした木簡が２枚出土しており，１枚は墨痕が確認できる。時期は15世紀である。

5024号溝（ＳＤ5024，第170図）

ＳＤ5001の西で検出した南北方向の浅い溝状の落ち込みである。ＳＤ5001・ＳＤ5002・ＳＫ5023に切り合いで負ける。検出した全長は８ｍで，幅115cm～210cm，深さ５cm～８cmである。覆土は暗褐色粘質土の単層である。遺物には中世土師器・珠洲・白磁・青磁がある。時期は13世紀～15世紀のものである。

5026号溝（ＳＤ5026，第170図）

ＳＤ5014の北に位置する東西方向の溝である。東は調査区外へ延びる。ＳＤ5018・ＳＫ5115に切り合いで負ける。幅は75cm～90cm，深さは34cm～37cmである。覆土は砂礫の混じる暗灰褐色粘質土で，東壁面では黒褐色粘質土が混じる黄灰色粘質土である。遺物には中世土師器・白磁・青磁がある。時期は15世紀である。

5052号溝（ＳＤ5052，第170図）

Ｘ261～263Ｙ94で検出した全長４ｍの浅い南北方向の溝である。幅30cm～幅72cm，深さ４cmである。覆土は小砂礫の混じる暗茶褐色土で，砂礫の割合は50％以上である。遺物には越前がある。

5056号溝（ＳＤ5056，第170図）

Ｘ260～262Ｙ98で検出した南北方向の溝である。北端はＳＤ5058と切り合って，落ち込み状の遺構にぶつかるが，切り合いは不明である。幅は30cm～72cm，深さは３cm～７cmと浅い。覆土は砂粒混じりの黒灰色土である。Ｘ255の圃場整備による段からＳＤ5312の東は，遺構検出面の地山が暗灰褐色粘質土で，全体にわたって遺構の覆土と識別が難解となっており，色の微妙な明暗，砂粒の混じり方で判断した。遺物には中世土師器がある。

5058号溝（ＳＤ5058，第170図）

調査区東からカーブしてＳＤ5056と切り合う溝である。幅は70cm～120cm，深さは20cm～27cmである。覆土は３層に分かれ，上層が黒灰色粘質土，中層が暗茶灰色粘質土，下層が炭化物が帯状に混じる暗茶灰色粘質土が堆積する。遺物には中世土師器がある。

5059号溝（ＳＤ5059，第170図）

東西方向の溝で西端はＳＤ5312にぶつかる。ＳＫ5071には切り合いで勝っている。幅は35cm～90cm，深さは９cm～12cmである。覆土は上層が砂粒の混じる暗茶褐色土，下層が黒灰色粘質土・炭化物が混じる暗茶灰色粘質土である。遺物は16世紀の中世土師器と上面から石臼が出土している。

5201号溝（ＳＤ5201，第171図）

ＳＤ5002の西で検出した南北方向の溝である。南端は暗渠に切られ，幅広くなり西に屈曲して終わる。北端は隣のＢ地区に延びるが，Ｂ地区では検出されず，境の攪乱部分で終わったものと推測する。他の遺構との切り合いは，交差するＳＤ5374・ＳＫ5845には勝つが，ＳＫ5244・ＳＫ5245・ＳＫ5837には負ける。幅は90cm～120cmであるが，南では550cmとなる。断面形は逆台形で底は平坦，深さは17cm～20cmである。覆土は黒褐色土で，下層には黄褐色土粒が混じる。遺物には土師器，中世土師器・越前・瀬戸美濃・青花がある。時期は16世紀である。

5250号溝（ＳＤ5250，第171図）

ＳＤ5201の東で検出した，北西南東方向の全長３ｍの溝である。幅25cm～46cm，深さ15cmである。断面形は長方形で，覆土は黒色土である。覆土中から珠洲が出土している。

5311号溝（ＳＤ5311，第170図）

ＳＫ5051の東の南北方向の溝である。検出した全長は19mで南端はＳＤ5018に切られ，ＳＤ5065・ＳＫ5261・ＳＫ5324などに切られる。断面形は逆台形で，幅は20cm～50cm，深さは12cm～19cmであ

る。覆土は黒褐色土である。遺物の出土はないが，切り合い関係から当時期と判断した。

5312号溝（ＳＤ5312，第170図）

ＳＤ5311の東で検出した南北方向の溝である。北端はＳＫ5075に切られ，ＳＥ5319には勝つが，他の切り合う土坑はほとんど溝より新しい。幅は85cm～195cm，深さは７cm～27cmである。覆土は黒褐色土，またはこれに黄褐色土が混じる土である。ＳＤ5059がぶつかる地点の北と南ではやや様相が異なっている。北は断面形が丸みを帯びた逆断面形状で，ある程度規格的であるが，南は壁の立ち上がりも緩やかで不定形の断面であり，自然流路的である。また，北では最下層から多数の中世土師器の小破片が出土している。これはＳＤ5059との切り合いと関係があるのであろうが，調査の段階で不明確である。遺物はこの他に土師器・須恵器，瀬戸美濃・青磁が出土している。13世紀から16世紀のものである。

5913号溝（ＳＤ5913，第176図）

Ｂ２地区とＢ３地区にまたがる南北方向の浅い溝である。15・16世紀のＳＥ5914・ＳＥ5915を切る。南端はＳＫ7170に切られる。幅は20cm～70cm，深さは約10cmである。覆土は焦茶色粘質土の単層である。遺物には中世土師器・白磁，唐津があり，切り合いから16・17世紀の遺構と考える。

5935号溝（ＳＤ5935，第173図）

Ｂ２地区とＢ３地区にまたがる南北方向の溝で，北は伝安楽寺跡の下を通り東に屈曲するＳＤ5910に切られ，東に屈曲して調査区外へ延びる。上面には近世のＳＤ5931が走る。南は逆「Ｌ」字形のＳＤ7200と重複するが，やや切り合いが不明確である。遺物からはＳＤ7200のほうが新しい。幅300cm～335cm，深さ45cm～65cmである。底面は平坦であるが，壁の立ち上がりはやや丸みを帯びる。覆土は伝安楽寺跡の北では暗褐色粘質土，黒褐色粘質土が主体であるが，南になると砂礫の混じる暗黄褐色土や茶褐色土が主体となっている。遺物は土師器・須恵器，中世土師器・珠洲・八尾・越前・瀬戸・瀬戸美濃・青磁，越中瀬戸・唐津・伊万里がある。近世の遺物は混入したもので，時期は15・16世紀である。

5936号溝（ＳＤ5936，第172図，図版103）

Ｂ３地区からＢ２地区まで続く南北方向の溝である。ＳＤ5982とは完全に重複し，切り合いに勝っていることから，ＳＤ5982の最終段階の溝であると推定できる。北端はＳＫ5991に，南端はＳＤ7200に切られる。また，17世紀のＳＫ5957にも切られることから，それ以前に機能がなくなったことがわかる。幅は南側では220cmと広く，覆土も礫が多く混じる黒褐色土であるが，北側は80cm前後と狭くなり，覆土も均質な黒褐色粘質土である。遺物には珠洲・瀬戸美濃がある。時期は16世紀である。

5971号溝（ＳＤ5971，第171図）

調査区内にある伝安楽寺跡の東で検出した東西方向の溝である。北には近世のＳＤ5933が平行して走る。幅は70cm～80cmで，深さは45cmである。断面形は逆台形状で，覆土は礫の混じる黒褐色粘質土である。遺物には中世土師器・珠洲・瀬戸・青磁，唐津がある。時期は15世紀後半～17世紀前半である。

5982号溝（ＳＤ5982，第172図）

前述したＳＤ5936の初期の溝で，南北方向に直線的に延びる。ＳＤ5935の南北方向部分とは約32mの間隔をあけてほぼ平行する。断面形は逆台形状を呈し，上面幅75cm～220cm，底面幅150cm～215cmで，深さは15cm～50cmである。覆土はＳＢ7101より南は茶褐色土，黄褐色粘質土に砂礫の混じる土で，ＳＢ7101より北は黄褐色粘質土に黒褐色粘質土・灰褐色粘質土のブロックが混じる土が主体である。遺物には中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・白磁・青磁・青花がある。時期は15世紀～16世紀である。

6004号溝（ＳＤ6004，第171図）

ＳＤ5971から2.5m北に位置する東西方向の溝である。西端はＳＤ6006に合流する。Ｘ218Ｙ99ではＳＫ6003に切られるが，ＳＫ5972には勝つ。断面形は二段掘り形状となっており，北側が一段低くなっている。幅は80cm～95cm，深さは28cmである。覆土は礫の混じる黒褐色粘土の単層である。遺物には15・16世紀の中世土師器がある。

6021号溝（ＳＤ6021，第171図）

Ｂ２地区の中央やや東寄りで東西方向から南北方向に屈曲する「Ｌ」字形状の溝である。北端はＳＢ6390に，東西方向部分はＳＤ5910・ＳＤ5935に切られ，ＳＫ6036・ＳＫ6984などの近世の土坑にも切られる。約18m西に位置する同期の南北方向のＳＤ6096と平行関係にある。幅は160cm～180cm，深さは45cmである。断面形はやや丸みを帯びた逆台形状で，覆土は黄褐色粘質土が混じる黒褐色粘質土が主体である。遺物の出土量は少なく，中世土師器・珠洲がある。時期は15世紀～16世紀である。

6096号溝（ＳＤ6096，第172図）

Ｂ２地区の中央やや西寄りで南北方向から東西方向に屈曲する逆「Ｌ」字形状の溝である。南端は旧田面の段で切れており，段上で検出したＳＫ6048に続く可能性がある。Ｂ２地区では長い範囲にわたりＳＫ6095の東側と重複する。Ｘ250Ｙ83では東西方向に直角に曲がり，ＳＤ5002・ＳＢ6390に切られながら調査区東に延びる。東に行くにつれて幅が狭く，浅くなる傾向がある。幅は85cm～120cm，深さは７cm～35cmである。覆土は上層が所により小砂礫が混じる，黄褐色土粒混じりの暗茶褐色土，下層は黄褐色土粒が混じる黒褐色粘質土である。遺物には中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・加賀，越中瀬戸・唐津・伊万里がある。近世土坑との切り合いが多く近世の遺物も多く混じるが，他の溝との切り合いを考えて，16世紀と考えたい。

7200号溝（ＳＤ7200，第173図，図版103・104）

Ｂ３地区の中央で南北方向から東西方向に屈曲する逆「Ｌ」字形状の溝である。南北方向ではＳＤ5910に接し，切り合いで負ける。ＳＤ5936・ＳＤ5982には切り合いで勝つが，ＳＤ7220・ＳＤ7535とは切り合いがなく，同時期に機能していたものである。東西方向ではＳＫ7199・ＳＫ7201・ＳＫ7355，ＳＥ7268・ＳＥ7351・ＳＥ7352などの近世（18・19世紀）遺構に切られる。断面形は逆台形状で，上面幅約490cm，底面幅が255cm～330cmで，深さは85cm～135cmである。覆土は茶褐色粘質土と黒褐色粘質土が主体の土が堆積し，全体に砂礫が多く混じる。遺物は中世土師器・珠洲・八尾・越前・瀬戸美濃・青磁・青花，越中瀬戸・唐津・伊万里が出土している。近世の遺物も出土しているが，主体の時期は16・17世紀と考えている。

7220号溝（ＳＤ7220，第174図）

ＳＤ7200とＳＤ7600を繋ぐ南北方向の溝である。ＳＤ7200・ＳＤ7600とは同時期で，ＳＤ7600には幅45cm，深さ30cmの細い溝となってつながる。東西方向の溝ＳＤ7620・ＳＤ7680には切り合いで勝っている。断面は逆台形状で，やや西側の底が深くなる傾向がある。上面幅は185cm～255cm，底面幅は130cm～175cm，深さは80cm～100cmである。覆土は黒褐色粘質土が主体で，中層には礫の混じる粘質土や砂質土が見られる。また最下層には砂質土が堆積する。遺物には中世土師器・珠洲・瀬戸・瀬戸美濃・白磁・青磁・青花，越中瀬戸・唐津・伊万里がある。近世の遺物は混入と考え，時期は14世紀～16世紀のものである。

7508号溝（ＳＤ7508）

Ｘ175～182Ｙ87・88で検出した南北方向の溝である。周囲の建物・井戸・土坑のすべてに切られるが，

南で直交するＳＤ7580には切り合いで勝つ。幅は45cm～100cm，深さは７cm～20cmである。覆土は黄褐色粘質土が混じる暗茶褐色粘質土が主体である。遺物の出土はなく，当初はＳＤ7580に勝っていることから近世の溝と考えたが，井戸・土坑などの切り合いやＳＤ7535と平行することから中世後期に属するとしたほうが自然である。挿図では近世で組んでいるが，中世後期の溝とする。

7520号溝（ＳＤ7520，第175図，図版103～106）

ＳＤ7535を起点とする東西方向の溝で，西端は北に屈曲する。ＳＤ7220・ＳＫ7690・ＳＫ8707に切り合いで負ける。断面形は逆台形状で，上面幅は210cm～270cm，底面幅150cm～160cm，深さは70cm～100cmである。覆土は礫の混じる粘質土と混じらない粘質土が交互に堆積している。土色は褐色または黒褐色で，土の堆積の仕方は北から南あるいは東から西に流れ込む形となっている。即ち，「Ｌ」字形で囲った内部から外側に向かって堆積したことになる。遺物には中世土師器・珠洲・瀬戸・瀬戸美濃・加賀・信楽・青磁，越中瀬戸・唐津・伊万里がある。時期は16・17世紀が主体である。

7535号溝（ＳＤ7535，第174図，図版105）

ＳＤ7220の約５ｍ東に位置する溝である。ＳＤ7220に平行し，同様にＳＤ7200とＳＤ7600を繋ぐ南北方向の溝である。東西方向の溝ＳＤ7628・ＳＤ7680との切り合いも同様で，同時期に機能していたものであろう。ＳＤ7600と接続する手前約４ｍからは一段浅くなり，ＳＤ7600の南岸に向かって一直線に石列が検出された。石列の上面は，ほぼ遺構検出面のレベルに揃っている。また，ＳＤ7600は接合部を境に東側の幅が約１ｍ狭くなり，深さも浅くなる。石列は溝の水量調節の役目をしていたのであろうか。上面の幅は225cm～270cm，底面幅は105cm，深さは80cm～85cmである。覆土は黒褐色粘質土と茶褐色粘質土が主体で，層によって礫が混じったり，砂質土となったりする。遺物には中世土師器・珠洲・八尾・瀬戸美濃・加賀・白磁，唐津・伊万里があり，18世紀の遺物も混じる。

7580号溝（ＳＤ7580，第176図）

ＳＤ7220・ＳＤ7508・ＳＤ7535に切られる東西方向の溝である。西端は調査区中央で浅くなって消失する。中世後半の土坑ＳＫ7570・ＳＫ7891にも切られ，Ｂ３地区においては近世の遺物が混入しない唯一の溝である。断面形は逆台形状で，上面幅は約170cm，底面幅は150cmである。深さは25cm～30cmで，他の同規模の溝に比べ浅い。覆土は暗茶褐色粘質土が主体で，最下層には茶褐色または黄褐色の砂礫土が堆積する。遺物は中世土師器と珠洲のみである。

7600号溝（ＳＤ7600，第176図，図版105）

Ｂ３・Ｂ３Ｗ地区の南で検出した，調査区中央でクランクする東西方向の溝である。断面形が逆台形状で，上面幅が300cm～465cm，底面幅が150cm～310cm，深さが80cm～100cmである。覆土は黒褐色粘質土が主体で，礫層及び砂質土の堆積の仕方により２時期の流れが確認できる。遺物には土師器，中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・瀬戸美濃・白磁・青磁・青花，越中瀬戸・唐津がある。時期は15世紀～17世紀のものである。

8100号溝（ＳＤ8100，第176図）

Ｂ３地区の西端で検出し，Ｂ３Ｗ地区に続く東西方向の溝である。断面形はほぼ逆台形状で，上面幅260cm～310cm，底面幅150cm～230cmである。Ｂ３Ｗ地区の西壁手前約２ｍからは幅が広くなり，北肩に段が付く。覆土は茶褐色粘質土・暗茶褐色粘質土・黄褐色粘質土が主体に堆積する。遺物には中世土師器・瀬戸・瀬戸美濃・青磁，金属製品がある。時期は16世紀である。

8709号溝（ＳＤ8709，第175図）

Ｂ３Ｗ地区のみで検出した東西方向の溝である。東の延長方向にはＳＤ7200があり，規模が似てい

ることから，ＳＤ7200が一度途切れて再び始まったと考えることもできる。東側の始まりは町道下にあるものと思われるが，検出した東端とＳＤ7200の西端との距離は約5.5mである。上面幅は480cm，底面幅は200cmで，断面形は逆台形状である。深さは約150cmである。覆土は上層が褐色砂質土で，下層が暗褐色粘質土が主体で，５％～30％の割合で全体に砂礫が混じる。遺物には中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃がある。時期は14世紀～16世紀のものである。

Ｃ地区

9107号溝（ＳＤ9107，第177図）

Ｘ153～150Ｙ66～78で検出した東西方向に走る溝である。検出した全長は26m，西端は中世後半の土坑ＳＫ9133に切られる。幅は40cm～100cm，深さは18cmで，断面形はＶ字形状の溝である。覆土は黒褐色粘質土の単層である。溝の北側は特に遺構の密度が希薄で，このことはＣＳ地区の北の，古くからの主要街道である金沢・井波線の存在に関係があるかもしれない。遺物には中世土師器・越前・瀬戸美濃・青花，唐津がある。時期は15世紀～17世紀前半である。

9301号溝（ＳＤ9301，第177・179図，図版107）

Ｘ111～133Ｙ51～63の調査区西側で検出した北に向かって「コ」の字形状の溝である。東西方向の両辺は西に向かって調査区外へ延びており，全体としては方形に巡る区画溝と推察する。南北方向の辺は外側の肩から肩まで約42mを測り，区画された内部にはこれと並行して「コ」の字形状を呈するＳＤ9313や東西方向の溝ＳＤ9312，ＳＫ9345，建物などが存在する。またこの内部では多くの溝が切り合っており，東西方向のＳＤ9330，南北方向のＳＤ9310はＳＤ9301との切り合いに負ける。溝の規模は幅が225cm～345cm，北辺は南側に浅い段が付くため他の地点より幅が広い。底面幅は150cm～200cm，深さは50cm～70cmで，断面形はおおよそ逆台形状である。覆土は，中・下層に黒褐色粘質土が堆積することもあるが，ほとんどは暗茶褐色粘質土・茶褐色粘質土・灰茶褐色粘質土・暗灰褐色粘質土などの褐色系の土が堆積する。ほとんどの層には植物繊維が多く含まれる。また，Ｘ115～121Ｙ60，Ｘ112～113Ｙ52～55にかけては東肩・南肩からの礫の流れ込みが見られ，中層にその堆積が顕著である。遺物には中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・瀬戸美濃・白磁・青磁・青花，越中瀬戸・唐津，石硯がある。時期は15・16・17世紀前半の遺物である。また，溝の東側は帯状に遺構の希薄な地帯となっており，南北延長線上にはＳＤ9321・ＳＤ9303などがあり，これらに平行してＳＤ9304・ＳＤ9305がある。平行する溝との間隔は約３ｍ，これはＣ２地区のＳＤ10101の東へと続き，南北に走る道であった可能性が高い。

9303号溝（ＳＤ9303，第178図）

ＳＤ9301の東辺の延長線上南約１ｍで検出した南北方向の溝である。位置的にＳＤ9301と関連して区画を目的としたものと考える。全長は12m，幅約160cm，深さ30cm～60cm，断面形は逆台形状である。覆土は浅い北側で茶褐色粘質土・暗茶褐色粘質土の堆積，南側の深い所では暗茶褐色粘質土・黒褐色粘質土の堆積である。また，南側では礫の堆積が見られる。遺物には中世土師器・瀬戸・瀬戸美濃・青磁，越中瀬戸・伊万里があり，時期は16・17世紀のものである。

9304号溝（ＳＤ9304，第178図）

Ｃ１地区とＣ２地区にまたがって，ＳＤ9305の西側に並走する南北方向の溝である。北端はＳＤ9305とほぼ同位置で消失し，南端はＳＤ9305に切られる。幅は70cm～110cm，深さは30cmで，覆土は暗灰茶褐色粘質土である。遺物には中世土師器・珠洲・瀬戸・瀬戸美濃がある。時期は16世紀である。

9305号溝（ＳＤ9305，第178図）

Ｃ１地区・Ｃ２地区にまたがる南北方向の溝である。ＳＤ9303と平行しており，その間隔は約４ｍである。この溝もＳＤ9301と共に区画を目的としたものであろう。断面形は逆台形状で，上面幅170cm～180cm，底面幅は100cm～110cmである。深さは45cm～65cmで，覆土は３層に分かれる。上層が茶褐色粘質土，中層が黒褐色粘質土，下層は暗灰褐色粘質土である。なお上層と中層の間には帯状に地山の黄褐色粘質土が堆積する。遺物には中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃，唐津・伊万里がある。近世の遺物は混入と考えられ，遺構の時期は16世紀である。

9310号溝（ＳＤ9310，第178・179図）

Ｘ113Ｙ52でＳＤ9301と直交する南北方向の溝である。全長19m，底面がＳＤ9301より一段高くなり，時期も古い。北端はＳＫ9358と重複してこれに切られ，この南をＳＤ9312が横断する。南ではＳＤ9318が横断する。幅約215cm，深さ55cmで，壁の立ち上がりは直角に近く，断面形は長方形である。覆土は上から茶褐色粘質土，暗茶褐色粘質土，黒褐色粘質土，灰色粘質土の順に堆積する。黒褐色粘質土には植物繊維が多く含まれる。遺物には中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・瀬戸美濃・信楽，羽口がある。時期は16世紀前半である。

9313号溝（ＳＤ9313，第178・179図，図版107）

ＳＤ9301に囲まれた内部を，同様に「コ」の字状に区画する溝である。南北方向の東辺は約25m，ＳＤ9301の東辺との間隔は約３ｍ，南辺との間隔は約４ｍである。北辺との間隔は約９ｍであるが，東西方向のＳＤ9301に直交するＳＤ9330との間隔は約４ｍである。このことから，当初はＳＤ9330を利用した「コ」の字状の区画溝であったのが，ＳＤ9301の区画に拡大されたと考えられる。他遺構との切り合いは，ＳＫ9309・ＳＫ9319には負けるがＳＫ9314には勝つ。また，北辺，南辺の端部はＳＤ9343，ＳＤ9318のそれぞれに切られる。方向は変わらず規模が大きくなっただけなので，同じ役割の溝であった可能性がある。中央では同規模のＳＤ9312と直交する。幅40cm～60cm，深さ約20cm，覆土は暗茶褐色粘質土の単層である。遺物には中世土師器・瀬戸美濃がある。時期は15・16世紀前半である。

9318号溝（ＳＤ9318，第178・179図，図版108）

ＳＤ9313の南辺に西端を切る東西方向の溝である。ＳＤ9310を横断し，次第に深くなり調査区外の西に延びる。幅は約140cm，深さは30cm～50cmである。覆土は３層に分けられ，上層は暗黄褐色粘質土，中層は灰色粘質土，下層は黒褐色粘質土で，植物繊維を多く含む。ＳＤ9310と交わる地点では加工木と共に中・下層から木臼が出土し，上臼の３分の２と軸棒の一部を検出した。

9321号溝（ＳＤ9321，第177図）

ＳＤ9301の東辺の北の延長上に位置する南北方向の溝である。全長15m，幅230cm～170cm，深さ20cm～30cmで，床面は平坦である。覆土は上から暗茶褐色粘質土，暗灰褐色粘質土が混じる暗茶褐色粘質土，茶褐色粘質土，暗茶褐色粘質土がレンズ状に堆積する。下層の茶褐色粘質土と暗茶褐色粘質土には植物繊維が含まれる。遺物には珠洲・青花，唐津がある。時期は16世紀後半のものである。

9330号溝（ＳＤ9330，第179・180図）

Ｘ129Ｙ61でＳＤ9301と直交する東西方向の溝である。西端は調査区外へ延びる。西壁の手前でＳＤ9339を切っている。ＳＤ9301よりは古く，前述したように古い段階の区画溝であったと推定する。断面形は逆台形状で，上面幅は265cm～350cm，底面幅100cm～180cmである。深さは50cm～70cm，覆土はおおまかに，地山の混じる茶褐色粘質土と暗灰褐色粘質土が堆積し，所により褐色粘質土が黒褐色粘質土になる。南肩は一段浅い段がついてテラス状で，暗赤褐色砂質土が堆積する。ＳＤ9301との交点から約1.5mの地点では，最下層の暗灰褐色粘質土から枘穴をもつ建築材を検出した。東西方向に

横たわり，大きさは長さ約3.5m，一辺約15cmの角材で一辺に5箇所の枘穴をもつ。この他の遺物には八尾・珠洲・越前がある。時期は16世紀のものである。

9332号溝（ＳＤ9332，第177図）

ＳＤ9378の南端で検出した東西方向の溝である。ＳＤ9378とともにＳＫ9335などを囲む。また，南には平行するＳＤ9324が位置する。東端はＳＫ9864に切られる。幅は90cm～155cm，深さは20cm～35cmである。覆土は暗茶褐色粘質土の単層である。遺物には中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・青花，唐津がある。時期は16世紀前半である。

9334号溝（ＳＤ9334，第177図）

ＳＤ9332の北で検出したこれに平行する東西方向の溝である。東端はＳＫ9867に切られ，検出全長は4ｍと短い。幅は150cm，深さは20cmである。切り合いではＳＫ9355に負ける。覆土は暗茶褐色粘質土の単層である。遺物には16世紀前半の珠洲と瀬戸がある。

9337号溝（ＳＤ9337，第177図）

Ｘ134～138Ｙ56～57，調査区西際で検出した南北方向の溝である。壁際に排水溝を掘った関係で全幅を掘ることはできなかった。全長は8ｍ，北約3ｍの延長線上には同様な全長7ｍのＳＤ9353がある。覆土は2層に分かれ，上面に砂礫が多く混じる黄褐色粘質土，下層に茶褐色粘質土が堆積する。遺物には16世紀後半の瀬戸美濃がある。

9339号溝（ＳＤ9339，第179・180図）

調査区西際で検出した南北方向の溝である。ＳＤ9310の延長線上，北約6.5mに位置し，ＳＤ9330・ＳＤ9343に切り合いで負ける。幅は南端部で200cm，底面幅50cmで，深さは50cm～80cm，北に行くにつれて浅くなる。覆土は主に地山混じりの茶褐色粘質土，暗灰褐色粘質土である。下層の暗灰褐色粘質土には植物繊維が多く含まれる。南端の肩から約1ｍの東寄りの地点からは下層から礫と共に馬鍬の歯が5本出土した。この他にも中世土師器・珠洲・瀬戸美濃が出土し，時期は15・16世紀である。

9341号溝（ＳＤ9341，第178図）

調査区中央で検出した「Ｌ」字形状の溝である。北端はＳＫ9322に切られ，ＳＫ9841には切り合いで勝つ。幅は60cm～155cm，南北方向部分が比較的幅が狭い。東西方向には中央より西半には2条の溝が切り合っている。北側の浅い溝のほうが新しく，これは東半では見られなくなる。また，中央でＳＤ9904が合流するが，東西に分けて掘った境目であるために切り合いが不明である。遺物には越前・青磁・青花があり，時期は16世紀末である。

9343号溝（ＳＤ9343，第179・180図）

ＳＤ9313の北辺の西端を切る東西方向の溝である。西端は調査区外へ延びる。規模は幅が300cm，深さ約60cmである。断面形は半円形状で，覆土は上から暗茶褐色粘質土，灰褐色粘質土，茶褐色砂質土，暗灰褐色粘質土が堆積する。遺物の出土がないが，ＳＤ9318と同様にＳＤ9313を切っており，ＳＤ9301・ＳＤ9330と平行することから当時期と考える。

9703号溝（ＳＤ9703，第304図）

Ｘ114・115Ｙ73～76で検出した「Ｌ」字形状の溝である。上面はＳＫ9704に切られる。ＳＫ9690やＳＫ9684などの切り合いが複雑で，南端が不明瞭であるが，クランクしてＳＤ9670に続く可能性がある。遺物は16世紀の青花がある。

9775号溝（ＳＤ9775，第305図）

Ｘ126・127Ｙ71～76で検出した東西方向の溝である。ＳＫ9801・ＳＫ9818・ＳＫ5819・ＳＫ5821など

に切られる。幅100cm～150cm，深さ20cm～30cmで，底面は平坦である。覆土は暗茶褐色粘質土主体の土で，地山ブロックが混じる。遺物には珠洲がある。

10101号溝（ＳＤ10101，第181図，図版109・110）

Ｃ３地区からＣ２地区にまたがる南北方向の溝。南端は調査区外へ延び，北端はＸ102Ｙ57で途切れる。この溝の西側ではＳＤ10102，ＳＤ10103，ＳＤ10113，ＳＤ10116の４条の溝が直交する。これらの溝との切り合いはあまり明確ではないが，ＳＤ10101とほぼ同時期の遺構と考えている。これらの溝によって区画された内部ではわずかの遺構しか検出されず，建物などの本体は西の水田下に存在していると考える。この溝の特徴は，Ｘ63Ｙ43で一度途切れた溝が約1.5mの間隔をあけて再び始まる点，Ｘ80Ｙ50付近で長さ約５ｍにわたり台状に深さが浅くなる点にある。断面形は逆台形状で，幅は310cm～440cm，底面幅は約160cmである。深さは北から南にかけて次第に浅くなり，北で約110cm，南で40cmである。覆土は黒褐色粘質土が主体で下層になると黄褐色粘質土ブロックが混じり，部分的に自然木などの有機物が堆積する。遺物は主に中・下層位から出土し，溝の流れがほとんどなく澱んだ状態であったためか木製品の出土が多い。15・16世紀の中世土師器・八尾・珠洲・越前・瀬戸・瀬戸美濃・青磁，越中瀬戸がある。木製品は漆器椀・曲物・下駄・底板などが，石製品は石臼・石鉢がある。

10102号溝（ＳＤ10102，第182図，図版111）

Ｘ94Ｙ53でＳＤ10101に直交する東西方向の溝で，西端は調査区外へ延びる。ＳＤ10101との境には畔状の高まりがあるが，時期はあまり変わらずに同時存在していたと考える。断面形は逆台形状で，上面幅は215cm～260cm，深さは約85cmである。覆土は黒褐色粘質土が主体の土で，最下層には砂礫が混じる。また，中層位には植物繊維を多く含む。遺物には15・16世紀の珠洲・越前がある。

10103号溝（ＳＤ10103，第182図，図版111）

ＳＤ10103の北端で直角よりやや少ない角度で交わる東西方向の溝である。ＳＤ10101の続きとも考えられるが，調査段階ではとりあえず別遺構として取り扱った。幅は120cm～145cmとやや狭く，深さは40cm～70cm，ＳＤ10101の底面より一段高く，西へ行くに従い次第に深くなる。Ｘ102Ｙ55付近では大礫の列状の堆積が見られ，間には東西方向の杭列の残骸が確認された。付近からは青磁の碗の底部が出土している。覆土は主に３層に分かれ，上から黄褐色粘質土が混じる暗茶褐色土，灰色粘質土が混じる黒褐色粘質土，植物繊維・礫が混じる黒色粘質土である。遺物は青磁の他に珠洲があり，時期は15・16世紀である。

10117号溝（ＳＤ10117，第182図，図版111）

Ｃ２地区からＣ３地区にまたがる南北方向の溝。北端は風倒木痕に切られる。ＳＤ10101と平行関係にあり，北の延長線上のＳＤ10122と同一遺構の可能性がある。全長25m，幅約１ｍ，深さ約20cm，覆土は酸化鉄を含む黒褐色土の単層である。遺物には15・16世紀の珠洲・越前・瀬戸美濃，五輪塔がある。

10122号溝（ＳＤ10122，第182図）

ＳＤ10101に平行する南北方向の溝である。ＳＤ10101との間隔は約６ｍ，確認した全長のうち４分の３が工場跡地，及び暗渠による攪乱を受けており，全体像はつかみにくい。しかし，ＳＤ10101との間には明確な遺構はなく，道であった可能性が高い。従って，ＳＤ10122は道の側溝的役割を果たしていたのではないか。規模は攪乱を受けていない部分で，幅約100cm，深さ15cm～25cmで，覆土は酸化鉄を含む黒褐色粘質土である。南の延長線上にＳＤ10117があり，同一遺構の可能性がある。遺物には珠洲・越前・瀬戸美濃・青磁，越中瀬戸がある。時期は15・16世紀である。

10212号溝（ＳＤ10212，第182図）

X99～102で検出した東西方向の溝。西端はやや屈曲しながらＳＤ9305に切られる。東と西では幅，深さが大きく異なっており，途中から別の溝が切り合っている可能性もある。ＳＫ10233・ＳＫ10234は切り合いで溝に負けている。規模は東半で幅165cm～250cm，中央部では両側が浅くテラス状となる。深さは東壁から約3.5mの範囲が一番深く60cm，他は45cm～50cmである。西半になると幅は80cm～100cm，深さは30cm～40cmである。覆土は黒褐色粘質土が主体で，部分的に上層が暗茶褐色粘質土となる。X100Y68以東では下層の南側に礫の混じる黒褐色粘質土が堆積する。遺物は中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・瀬戸美濃・白磁・青磁・青花があり，東半からの出土が多い。時期は15・16世紀である。

10213号溝（ＳＤ10213，第182図）

Ｃ２地区調査区の東側で検出した，東西方向からX75Y65で南北方向に屈曲する「Ｌ」字形状の溝である。X84Y67でＳＤ10214と直交し，切り合いで勝っている。規模は幅60cm，深さ約13cm，断面形は半円形である。覆土は黒色粘質土である。X87Y68付近では珠洲・青磁・銅銭などがまとまって出土している。他にも中世土師器・越前・信楽・白磁が出土している。時期は15・16世紀である。

10214号溝（ＳＤ10214，第182図）

東西方向からX89Y69で南に屈曲し，再びX84Y68西に屈曲して東西方向となる溝である。西端は調査区中央の旧農道の畦畔ブロックにぶつかり，先は不明となる。ＳＫ10222・ＳＫ10216・ＳＫ10226・ＳＫ10229と切り合うがすべてに勝っている。ＳＤ10213には切り合いで負けるが，南北方向部分がＳＤ10213と平行関係にあり，共に機能していた時期もあったと考える。規模は幅が70cm～130cm，深さ18cm～13cmで，覆土は黒色粘質土である。遺物には中世土師器・珠洲・瀬戸美濃がある。時期は15・16世紀のものである。

10215号溝（ＳＤ10215，第182図）

ＳＤ10214の東西方向部分と平行し，約10m北で検出した東西方向の溝である。東西の端は暗渠に切られて不明である。規模は幅約65cm，深さ７cmと浅いが，中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・青磁が出土しており，木製品には下駄もある。時期は15・16世紀である。

10302号溝（ＳＤ10302，第183図，図版111）

Ｃ３地区の東側で検出した南北方向の溝である。東のＳＤ10438と平行する。幅は95cm～115cm，深さは8cm～33cm，北に向かって浅くなる。覆土は黒褐色粘質土の単層で，遺物には珠洲・瀬戸美濃がある。

10331号溝（ＳＤ10331，第183図）

X40Y50でＳＤ10101に交わる東西方向の溝である。交点の東肩部には礫が集めて置かれており，同時期に存在していたことが推察できる。断面観察から北のＳＤ10332もＳＤ10331と共存していたと考えられ，ともに覆土は黒褐色粘質土が主体である。規模は交点から約７ｍまでは幅220cm～265cmと広いが，それより東は幅85cmと狭くなる。深さは15cm～25cmである。遺物には珠洲・瀬戸美濃・青磁があり，時期は15・16世紀である。

10438号溝（ＳＤ10438，第183図，図版111）

ＳＤ10302の約３ｍ東で平行する南北方向の溝である。両先端は削平を受けて消失する。規模は幅80cm～115cm，深さ約30cmを測る。断面形は半円形状であるが，底面は一定ではなく凸凹している。遺物には越前・瀬戸・瀬戸美濃があり，時期は15・16世紀である。なお，ＳＤ10438はＳＤ10302と共に道の側溝であったと考えられ，ＳＤ10101の東側の道が東にクランクして両溝の間に続いている可能性がある。

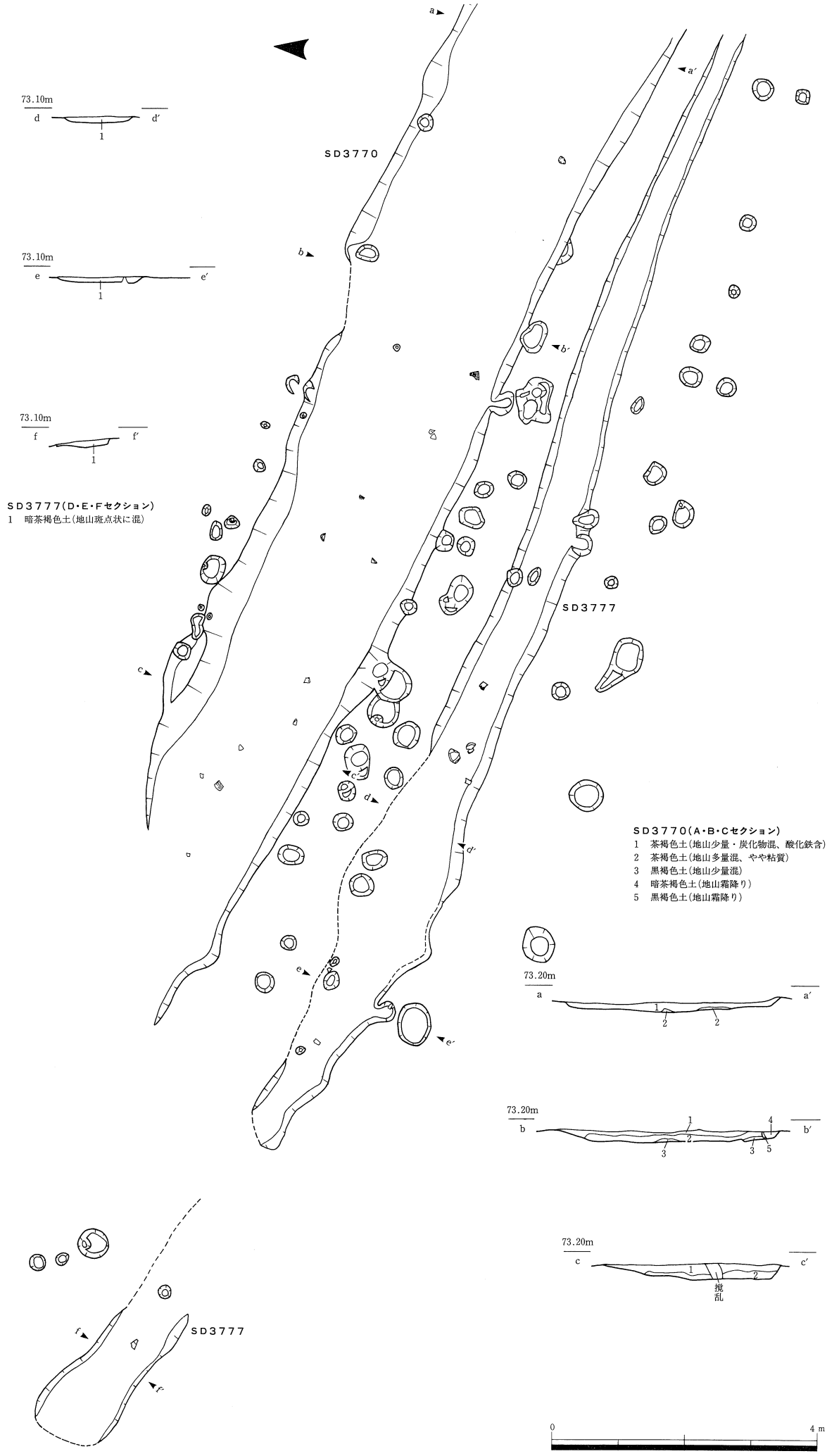
（宮田進一　島田美佐子　田中道子）

遺構番号	整理番号	地　区	流　路	規模；幅	規模；深さ	覆　土	出　土　遺　物	備　　考	時　期
SD3005	SD05	A3N	南→北	120～200	5～30	砂利層・褐色粘質土	土師器・須恵器・中世土師器・八尾・珠洲・越前・瀬戸・瀬戸美濃・白磁・青磁・青花・越中瀬戸・唐津・伊万里		13～16C
SD3006	SD06	A3N	－	40～64	15～20	褐色土	須恵器・中世土師器・珠洲・青磁	SD3006＞SD3007	13・15C
SD3007	SD07	A3N	－	100～130	15～30	褐色土	中世土師器・珠洲		13・14C
SD3404	SD04	A3S	南→北	130～180	10～15	灰褐色土	縄文土器・須恵器・中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・白磁・青磁・青花	SD3404＝SD3482	13・15・16C
SD3406	SD06	A3S	東→西	13～47	12～24	褐色土	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・青磁・越中瀬戸・唐津		13C前半・14～16C
SD3407	SD07	A3S	東→西	180～210	30～40	褐色砂利層・暗灰色粘質土	須恵器・中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・瀬戸美濃・白磁・青磁・鋤先・横杵	SD3407＝SD4307、SD3407＞SD4305	15～16C
SD3770	SD370	A3S	東→西	242～316	20～24	茶褐色土	須恵器・中世土師器・八尾・珠洲・越前・瀬戸・青磁・青花		15C
SD4318	SD18	B1	西→東	－	6～34	黒褐色粘質土	須恵器・中世土師器・珠洲・越前・白磁・青磁		14・15C
SD4602	SD02	B1－3	－	500～850	40～70	灰黒褐色粘質土	縄文土器・土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・志野・白磁・青磁・青花・加工木		15・16C
SD4603	SD03	B1－3	－	480	20	黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃		
SD4605	SD05	B1－3	南→北	245～300	28～40	黒褐色土・暗茶褐色土	縄文土器・須恵器・中世土師器・八尾・珠洲・越前・瀬戸・瀬戸美濃・白磁・青磁・青花・越中瀬戸・伊万里・下駄・漆器・石臼	SD4605＝SD4831	15～17C
SD4606	SD06	B1－3	南→北	57～107	16～20	灰褐色粘質土・黒褐色粘質土	縄文土器・須恵器・中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・瀬戸美濃・白磁・青磁・青花・唐津	SD4606＝SD4808	13・15～17C
SD4607	SD07	B1－3	東→西	130～155	12～14	黒褐色土	須恵器・中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・青磁・青花・越中瀬戸・唐津・伊万里		14・15・18C～
SD4608	SD08	B1－3	南→北	80～150	15～30	黒褐色土	縄文土器・須恵器・中世土師器・珠洲・唐津		14・15C
SD4624	SD24	B1－3	東→西	21～74	7～14	茶褐色粘質土	中世土師器・青磁・瀬戸美濃		14・15C
SD4802	SD02	B	西→東	40～110	12	暗褐色粘質土	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・白磁		14～16C
SD4805	SD05	B	西→東	50	10	黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・伊万里		15C
SD4828	SD28	B	西→東	20～30	5～14	－	中世土師器・珠洲・越前		14・15C
SD5001	SD2001	B2N	南→北	58～80	15～21	暗褐色粘質土	縄文・須恵器・中世土師器・越前・瀬戸・瀬戸美濃・越中瀬戸・漆器		
SD5003	SD2003	B2N	西～東	250～350	52	暗褐色粘質土	中世土師器・珠洲		15C
SD5006	SD2006	B2N	南→北	30～33	18	黒褐色土	中世土師器・下駄		16C
SD5014	SD2014	B2N	西→東	230	45	暗黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・石臼		15・16C
SD5014b	SD2014b	B2N	西→東	100	22	暗黒灰色粘質土	中世土師器・珠洲・越前・伊万里		
SD5018	SD2018	B2N	南→北	75～140	16～35	暗褐色粘質土	須恵器・中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・石臼・付け札・加工木	SD5018＝SD5036	15C
SD5024	SD2024	B2N	－	115～210	8	暗褐色粘質土	中世土師器・珠洲・白磁・青磁		13・14・15C
SD5026	SD2026	B2N	－	75～90	34～37	暗灰褐色粘質土	中世土師器・白磁・青磁・底板・加工板		13～15C
SD5052	SD2052	B2N	南→北	30～72	4	暗褐色砂礫	越前		
SD5056	SD2056	B2N	北→南	20～40	3～7	暗灰褐色粘質土	中世土師器		
SD5058	SD2058	B2N	東→北	70～120	20～27	黒灰色粘質土	縄文・中世土師器		
SD5059	SD2059	B2N	東→西	35～90	9～12	暗茶褐色土	中世土師器・石臼		16C
SD5113	SD2113	B2N	南→北	40～90	27	暗黒褐色粘質土	中世土師器		
SD5192	SD2192	B2N	－	－	－	－	中世土師器		
SD5201	SD2201	B2N	北→南	90～550	17～20	黒褐色土	土師器・中世土師器・越前・瀬戸美濃・青花・銅銭		16C
SD5202	SD2202	B2N	西→東	27～40	4～32	－	白磁		15C
SD5247	SD2247	B2N	西→東	29～94	3～22	黒色土	－		
SD5250	SD2250	B2N	－	25～46	15	黒色土	珠洲		
SD5311	SD2311	B2N	南→北	20～50	12～19	黒褐色土	－		
SD5312	SD2312	B2N	南→北	85～158	7～27	黒褐色土	土師器・須恵器・中世土師器・瀬戸美濃・青磁		13～16C
SD5374	SD2374	B2N	西→東	12～50	23	黒色土	－		
SD5714	SD2714	B2N	西→東	45～65	8	黒灰色粘質土	瀬戸美濃・青花		
SD5809	SD2809	B2N	南→北	34～64	6～17	暗茶褐色粘質土	中世土師器		
SD5913	SD13	B2	－	20～70	10	暗褐色粘質土	中世土師器・白磁・唐津	SD5913＝SD7113	
SD5935	SD35	B2	－	300～335	45～65	黒褐色粘質土	中世土師器・八尾・珠洲・青磁・越中瀬戸・唐津・伊万里・砥石		13～15C
SD5936	SD36	B2	南→北	215～225	30～70	黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲・青磁	SD5936＞SD5932、SD5936＝SD7136	
SD5971	SD71	B2	西→東	70～80	45	黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲・瀬戸・加賀・青磁・唐津・伊万里	SD5971＝SD7319	15C後半～16C
SD5982	SD82	B2	南→北	75～220	15～50	黄褐色粘質土	珠洲・瀬戸美濃	SD5982＝SD7191	16C
SD6004	SD104	B2	西→東	80～95	28	黒褐色粘質土	中世土師器		15・16C
SD6021	SD121	B2	南→北	160～180	45	黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越前・越中瀬戸・砥石		15・16C
SD6096	SD196	B2	南→東	85～120	7～35	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・加賀・白磁・青花・越中瀬戸・唐津・伊万里・砥石・石硯・石鉢		14・17・18C
SD7200	SD100	B3	西→北	490	85～135	黒褐色粘質土	中世土師器・八尾・珠洲・越前・瀬戸美濃・青磁・青花・越中瀬戸・唐津・伊万里・石臼・銅銭		15・16C、18C～20C

第9表　溝（中世後期）一覧（1）

遺構番号	整理番号	地　区	流　路	規模；幅	規模；深さ	覆　土	出　土　遺　物	備　考	時　期
SD7220	SD120	B3	－	185～255	80～100	黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲・瀬戸・瀬戸美濃・白磁・青磁・青花・越中瀬戸・唐津・伊万里・石臼・石鉢		14・15・16C
SD7508	SD408	B3	－	45～100	7～20	暗茶褐色土	－		
SD7520	SD420	B3	－	210～270	70～100	茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・加賀・青磁・越中瀬戸・唐津・伊万里・骨	SD7528＝SD8700	15・16・17C
SD7535	SD435	B3	－	225～270	80～85	黒褐色粘質土	中世土師器・八尾・珠洲・瀬戸美濃・加賀・白磁・唐津・伊万里		15・18C
SD7580	SD480	B3	西→東	150～170	25～30	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲		
SD7600	SD500	B3	西→東	300～465	80～100	黒褐色粘質土	土師器・中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・瀬戸美濃・白磁・青磁・青花・越中瀬戸・唐津・底板		15・16・17・18C
SD7723	SD623	B4	東→南	45	11	灰茶褐色粘質土	志野		
SD7910	SD810	B3	西→東	120	24	灰茶褐色粘質土	中世土師器・瀬戸		
SD8100	SD1000	B3	東→西	260～310	75～90	茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・瀬戸・瀬戸美濃・青磁・伊万里	SD8100＝SD8540	15C
SD8291	SD91	B3W	南→北	27～35	14	茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲		15C
SD8709	SD509	B3W	西→東	480	150	褐色砂質土	中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃		14・15・16C
SD9107	SD07	CS	－	40～100	18	黒褐色粘質土	中世土師器・越前・瀬戸美濃・青花・唐津		15・16C
SD9301	SD01	C1	－	225～345	50～70	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・瀬戸美濃・白磁・青磁・青花・越中瀬戸・唐津・石硯・石臼・五輪塔・下駄・曲物・漆器・底板		15・16・17C前半
SD9303	SD03	C1	南→北	160	30～60	茶褐色粘質土	中世土師器・瀬戸・瀬戸美濃・青磁・越中瀬戸・伊万里		16・17C～
SD9304	SD04	C1	－	70～110	30	暗灰褐色粘質土	中世土師器・珠洲・瀬戸・瀬戸美濃・石臼・磨製石斧	C2に続く	16C
SD9305	SD05	C1	南→北	170～180	46～65	黒茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・唐津・伊万里	C2に続く	16C
SD9310	SD10	C1	南→北	215	55	茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・瀬戸美濃・信楽・羽口・下駄		15・16C
SD9313	SD13	C1	－	40～60	20	暗茶褐色粘質土	中世土師器・瀬戸美濃		15・16C前半
SD9318	SD18	C1	－	140	30～50	暗黄褐色粘質土	木臼		
SD9321	SD21	C1	南→北	170～230	20～30	暗茶褐色粘質土	珠洲・青花・唐津		16C後半・17C前半
SD9330	SD30	C1	東→西	265～350	50～70	茶褐色粘質土	八尾・珠洲・越前		16C
SD9332	SD32	C1	－	90～155	20～35	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・青花・唐津		16C前半
SD9334	SD34	C1	－	150	20	暗茶褐色粘質土	珠洲・瀬戸		16C前半
SD9337	SD37	C1	南→北	－	28	黄褐色粘質土	瀬戸美濃		16C後半
SD9339	SD39	C1	南→北	200	50～80	茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・馬鍬の歯		15・16C
SD9341	SD41	C1	東→西	60～155	40	暗茶褐色粘質土	越前・青磁・青花・伊万里？	SD9341＝SD9839	13・16C末
SD9343	SD43	C1	東→西	300	60	暗茶褐色粘質土	－		
SD9376	SD76	C1	南→北	85～203	4～41	暗茶褐色粘質土	珠洲・五輪塔		
SD9378	SD78	C1	－	47～62	42	－	中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・石臼		16C
SD9379	SD79	C1	南→北	60～110	24	暗灰褐色粘質土	瀬戸美濃		16C
SD9387	SD87	C1	南→北	55	2	－	珠洲		
SD9661	SD361	C1	東→西	62～275	11	暗茶褐色粘質土	瀬戸美濃・越中瀬戸		16C後半
SD9703	SD403	C1	西→東	170	4～41	黒褐色粘質土	青花		16C
SD9775	SD475	C1	東→西	100～150	20～30	暗茶褐色粘質土	珠洲		15C
SD10101	SD01	C2	南→比	310～440	40～110	黒褐色粘質土	中世土師器・八尾・珠洲・越前・瀬戸・瀬戸美濃・青磁・越中瀬戸・打製石斧・石鉢・石臼・茶臼・下駄・曲物・箸・漆器・しゃもじ・底板・加工木・五輪塔		15・16C
SD10102	SD02	C2	－	215～260	85	黒褐色粘質土	珠洲・越前・瀬戸美濃・漆器		15・16C
SD10103	SD03	C2	東→西	120～145	40～70	暗茶褐色土	珠洲・青磁・加工石		15C末～16C
SD10113	SD13	C2	東→西	50～95	10～27	黒褐色土	中世土師器・瀬戸美濃		15・16C
SD10117	SD17	C2	南→北	100	20	黒褐色土	珠洲・越前・瀬戸美濃・五輪塔		15・16C
SD10122	SD22	C2	南→北	100	15～25	黒褐色粘質土	珠洲・越前・瀬戸美濃・青磁・越中瀬戸		15・16C
SD10212	SD112	C2	東→西	80～250	30～60	黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・瀬戸美濃・白磁・青磁・青花・加工木・箸	SD10212＝SD10132	15・16C
SD10213	SD113	C2	東→北	60	13	黒色粘質土	中世土師器・珠洲・越前・信楽・白磁・青磁・打製石斧		13・15・16C
SD10214	SD114	C2	西→北	70～130	13～18	黒色粘質土	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃		15・16C
SD10215	SD115	C2	東→西	65	7	黒色粘質土	中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・青磁・下駄		15・16C
SD10302	SD02	C3	南→北	95～115	8～33	黒褐色粘質土	珠洲・瀬戸美濃		
SD10323	SD23	C3	東→西	57～70	11	黒色粘質土	中世土師器		16C
SD10331	SD31	C3	西→東	85～265	15～25	黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・青磁・石臼	SD10331＝SD10447	15・16C
SD10332	SD32	C3	東→西	106～130	25	黒褐色粘質土	－		
SD10438	SD138	C3	南→北	80～115	30	黒褐色粘質土	越前・瀬戸・瀬戸美濃・唐津		15C末・16C
SD10446	SD146	C3	東→西	153	15	黒褐色粘質土	珠洲・瀬戸美濃		
SD10448	SD148	C3	－	117	16	黒褐色粘質土	珠洲		

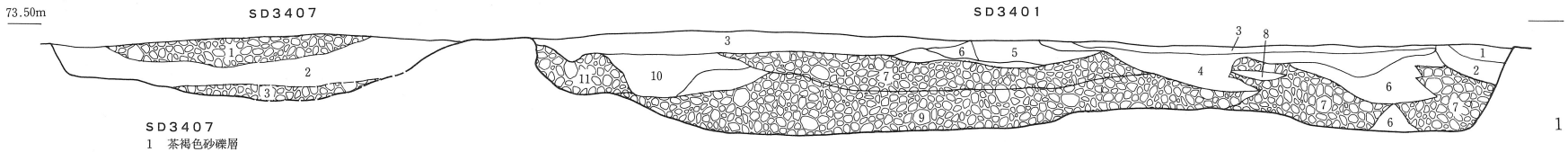
第９表　溝（中世後期）一覧（2）



第165図　遺構実測図(中世後期)
SD3770・SD3777

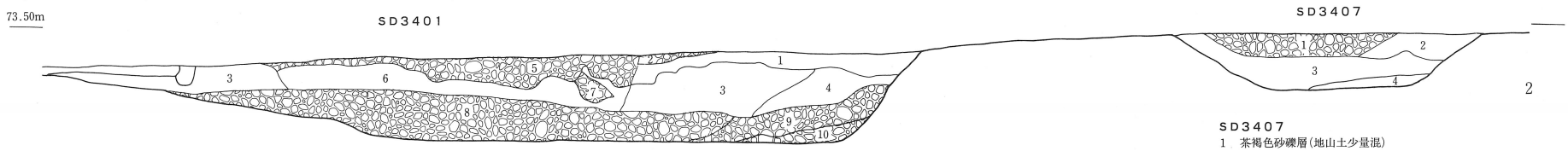
第166図　遺構実測図(中世後期)

1~3.SD3401・SD3407　4.SD3407



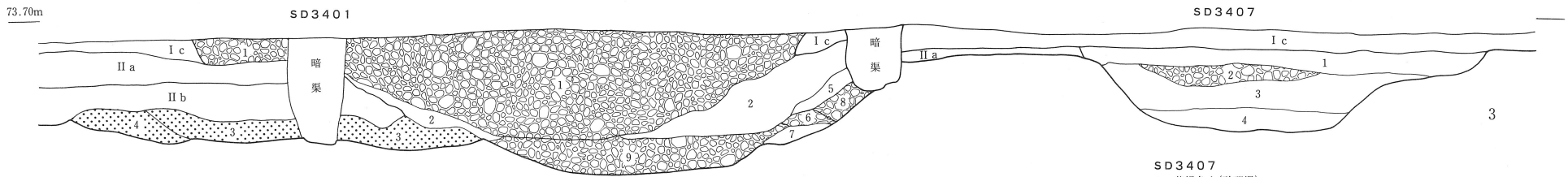
SD3407
1　茶褐色砂礫層
2　灰褐色土(砂質土混)
3　灰褐色砂礫層

SD3401
1　灰茶褐色粘質土(地山混)
2　茶褐色粘質土
3　茶褐色土(砂礫少量混)
4　茶褐色土(酸化鉄含)
5　灰褐色砂質土(砂礫少量混)
6　暗灰褐色砂質土(粘質と砂質の互層)
7　淡黄褐色砂利層(砂礫混)
8　褐色砂質土
9　灰褐色砂礫層
10　灰褐色土(砂質土少量混)
11　灰褐色砂礫層



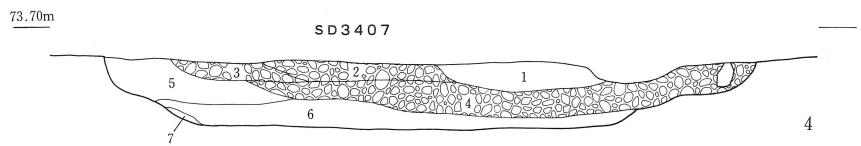
SD3401
1　茶褐色土(酸化鉄含、砂礫混)
2　暗茶褐色砂礫層
3　茶褐色粘質土
4　灰褐色粘質土(小礫多量混)
5　赤褐色砂礫層(酸化鉄含)
6　暗灰色粘質土
7　暗茶褐色砂礫層
8　灰白色砂礫層
9　灰色砂礫層(砂質土混)
10　灰褐色砂礫層

SD3407
1　茶褐色砂礫層(地山土少量混)
2　暗茶褐色土(砂礫混)
3　暗灰色粘質土(砂礫少量混)
4　灰色粘質土(地山土ブロック少量混)

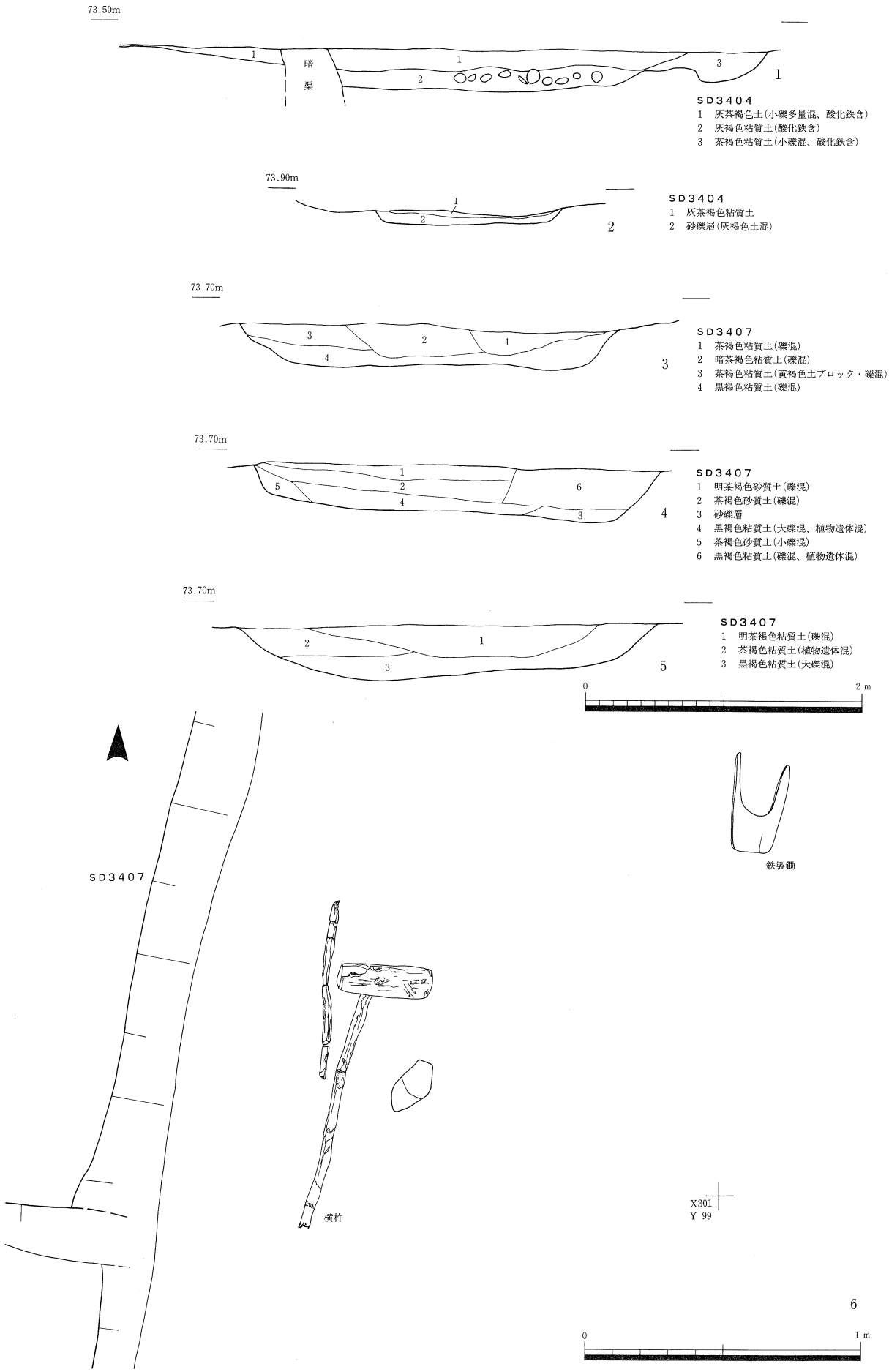


SD3401
1　灰黄褐色砂礫層
2　灰褐色土
3　灰白色砂層(灰色砂・白灰色砂の互層)(別遺構)
4　灰茶褐色砂質土(別遺構)
5　暗灰褐色土
6　赤褐色礫
7　灰色粘質土
8　灰褐色砂礫層
9　赤黄褐色砂礫層

SD3407
1　茶褐色土(砂礫混)
2　茶褐色砂礫層
3　暗灰色粘質土(砂礫混)
4　灰色粘質土



SD3407
1　茶灰色土(礫混)
2　灰白色砂礫層
3　茶褐色砂礫層
4　茶褐色砂礫層
5　褐色粘質土(小礫混)
6　褐色粘質土(植物遺体混)
7　茶褐色粘質土

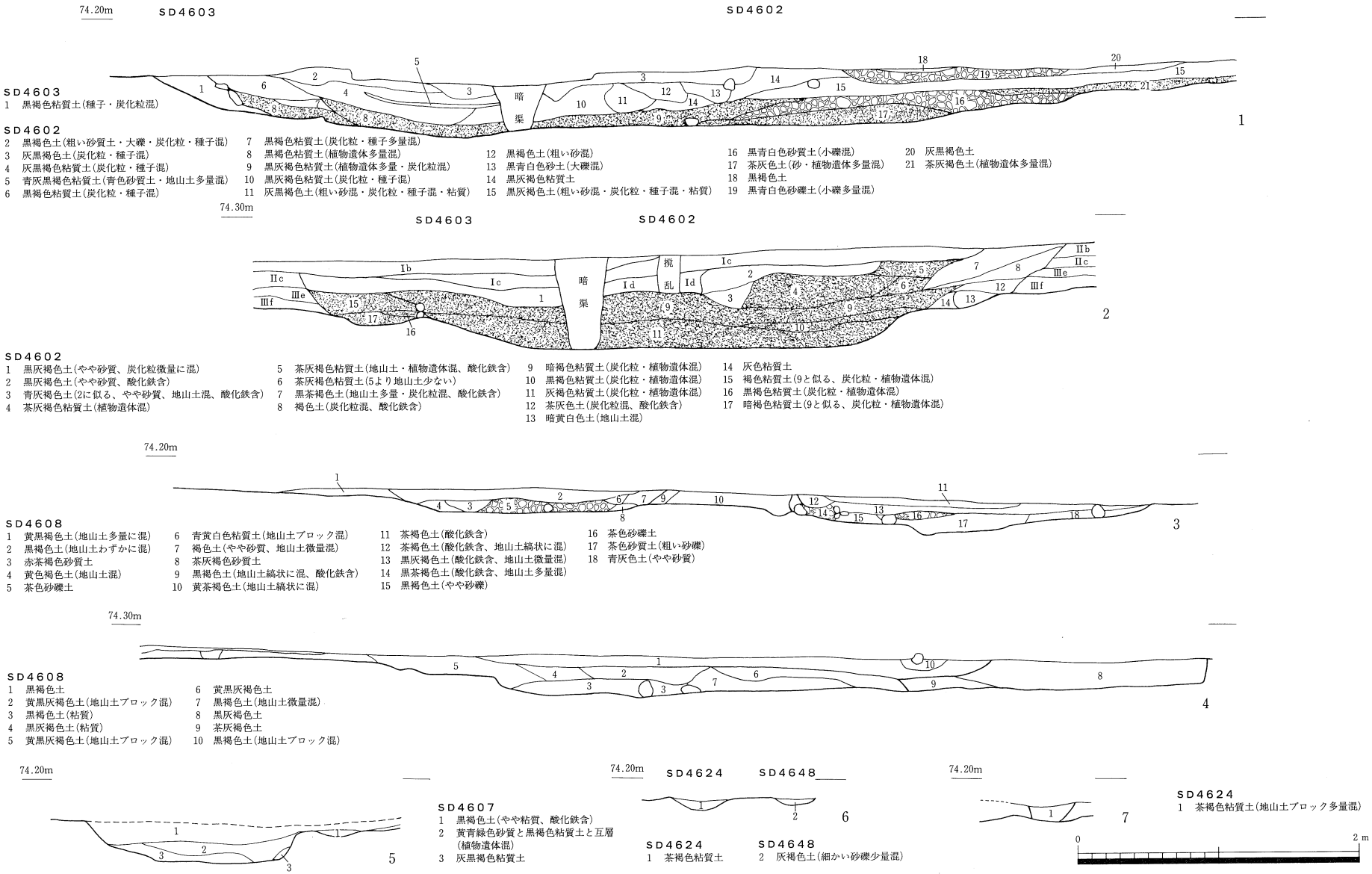


第167図　遺構実測図(中世後期)

1･2.ＳＤ３４０４　3~5.ＳＤ３４０７　6.ＳＤ３４０７遺物出土状況

第168図　遺構実測図(中世後期)

1・2.SD4602・SD4603　3・4.SD4608　5.SD4607　6.SD4624・SD4648　7.SD4624



SD4603

1　黒褐色粘質土(種子・炭化粒混)

SD4602

2　黒褐色土(粗い砂質土・大礫・炭化粒・種子混)
3　灰黒褐色土(炭化粒・種子混)
4　灰黒褐色粘質土(炭化粒・種子混)
5　青灰黒褐色粘質土(青色砂質土・地山土多量混)
6　黒褐色粘質土(炭化粒・種子混)
7　黒褐色粘質土(炭化粒・種子多量混)
8　黒褐色粘質土(植物遺体多量混)
9　黒灰褐色粘質土(植物遺体多量・炭化粒混)
10　黒灰褐色粘質土(炭化粒・種子混)
11　灰黒褐色土(粗い砂混・炭化粒・種子混・粘質)
12　黒褐色土(粗い砂混)
13　黒青白色砂土(大礫混)
14　黒灰褐色粘質土
15　黒灰褐色土(粗い砂混・炭化粒・種子混・粘質)
16　黒青白色砂質土(小礫混)
17　茶灰色土(砂・植物遺体多量混)
18　黒褐色土
19　黒青白色砂礫土(小礫多量混)
20　灰黒褐色土
21　茶灰褐色土(植物遺体多量混)

SD4602

1　黒灰褐色土(やや砂質、炭化粒微量に混)
2　黒灰褐色土(やや砂質、酸化鉄含)
3　青灰褐色土(2に似る、やや砂質、地山土混、酸化鉄含)
4　茶灰褐色粘質土(植物遺体混)
5　茶灰褐色粘質土(地山土・植物遺体混、酸化鉄含)
6　茶灰褐色粘質土(5より地山土少ない)
7　黒茶褐色土(地山土多量・炭化粒混、酸化鉄含)
8　褐色土(炭化粒混、酸化鉄含)
9　暗褐色粘質土(炭化粒・植物遺体混)
10　黒褐色粘質土(炭化粒・植物遺体混)
11　灰褐色粘質土(炭化粒・植物遺体混)
12　茶灰色土(炭化粒混、酸化鉄含)
13　暗黄白色土(地山土混)
14　灰色粘質土
15　褐色粘質土(9と似る、炭化粒・植物遺体混)
16　黒褐色粘質土(炭化粒・植物遺体混)
17　暗褐色粘質土(9と似る、炭化粒・植物遺体混)

SD4608

1　黄黒褐色土(地山土多量に混)
2　黒褐色土(地山土わずかに混)
3　赤茶褐色砂質土
4　黄色褐色土(地山土混)
5　茶色砂礫土
6　青黄白色粘質土(地山土ブロック混)
7　褐色土(やや砂質、地山土微量混)
8　茶灰褐色砂質土
9　黒褐色土(地山土縞状に混、酸化鉄含)
10　黄茶褐色土(地山土縞状に混)
11　茶褐色土(酸化鉄含)
12　茶褐色土(酸化鉄含、地山土縞状に混)
13　黒灰褐色土(酸化鉄含、地山土微量混)
14　黒茶褐色土(酸化鉄含、地山土多量混)
15　黒褐色土(やや砂礫)
16　茶色砂礫土
17　茶色砂質土(粗い砂礫)
18　青灰色土(やや砂質)

SD4608

1　黒褐色土
2　黄黒灰褐色土(地山土ブロック混)
3　黒褐色土(粘質)
4　黒灰褐色土(粘質)
5　黄黒灰褐色土(地山土ブロック混)
6　黄黒灰褐色土
7　黒褐色土(地山土微量混)
8　黒灰褐色土
9　茶灰褐色土
10　黒褐色土(地山土ブロック混)

SD4607

1　黒褐色土(やや粘質、酸化鉄含)
2　黄青緑色砂質と黒褐色粘質土と互層(植物遺体混)
3　灰黒褐色粘質土

SD4624

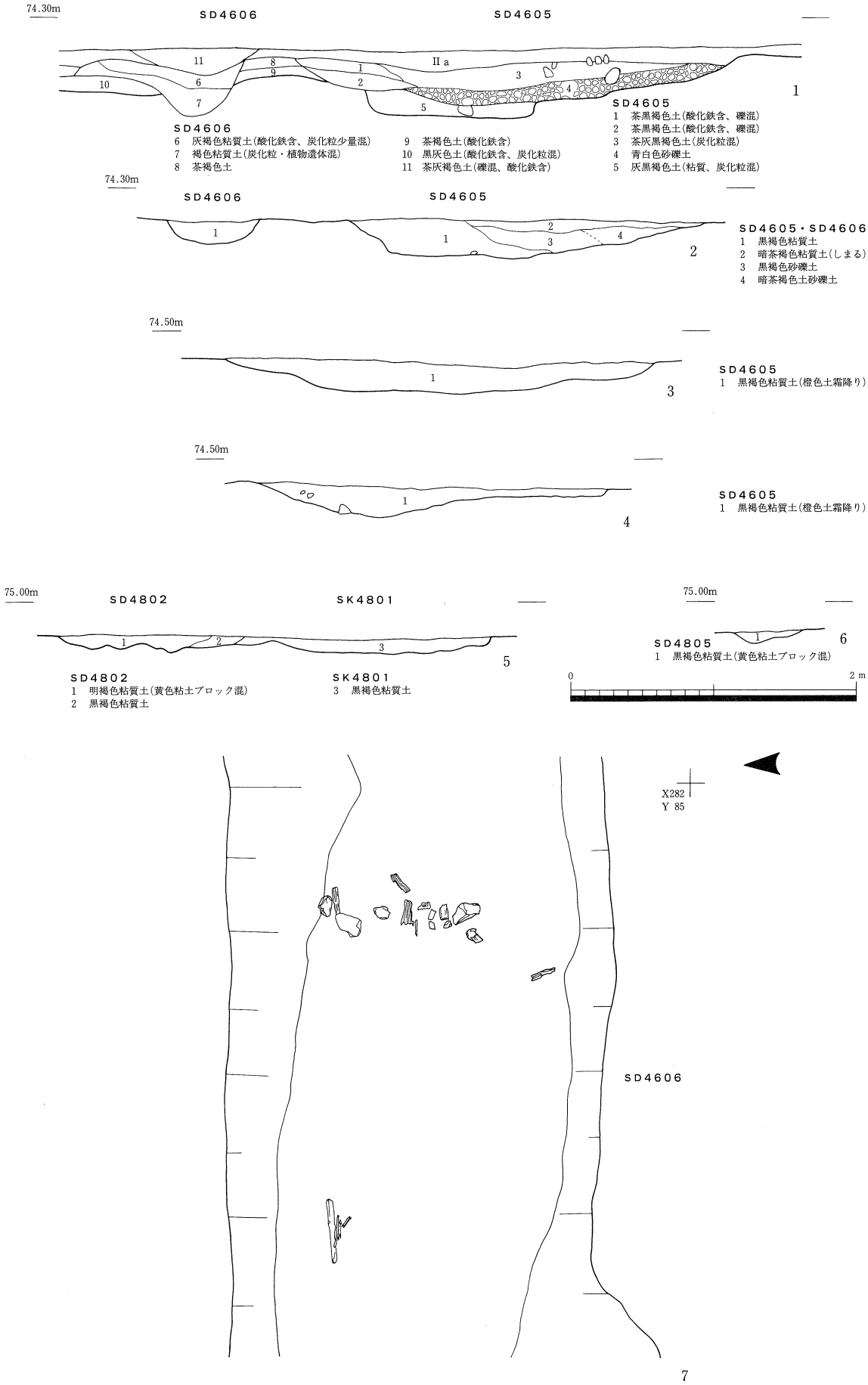
1　茶褐色粘質土

SD4648

2　灰褐色土(細かい砂礫少量混)

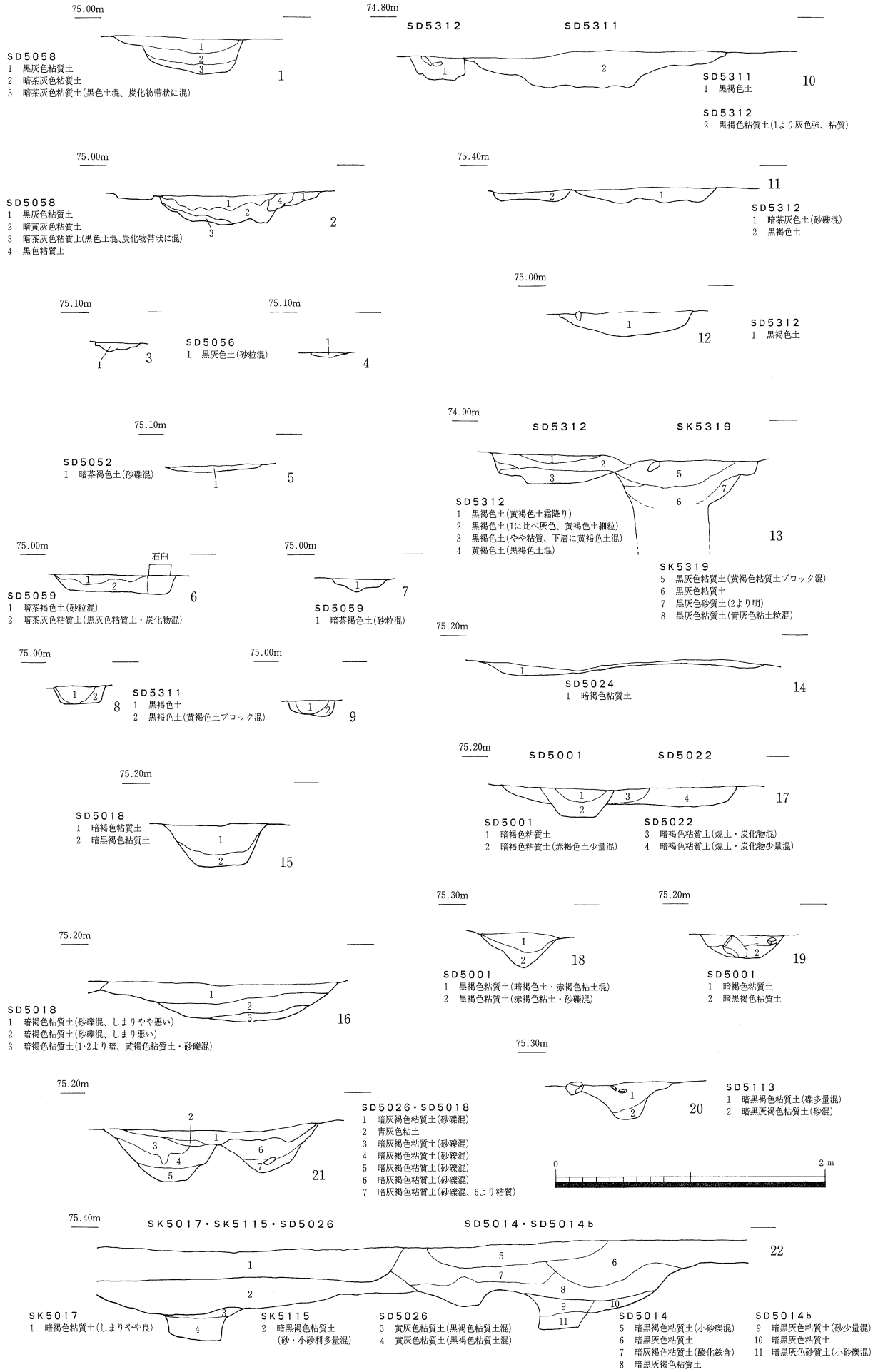
SD4624

1　茶褐色粘質土(地山土ブロック多量混)



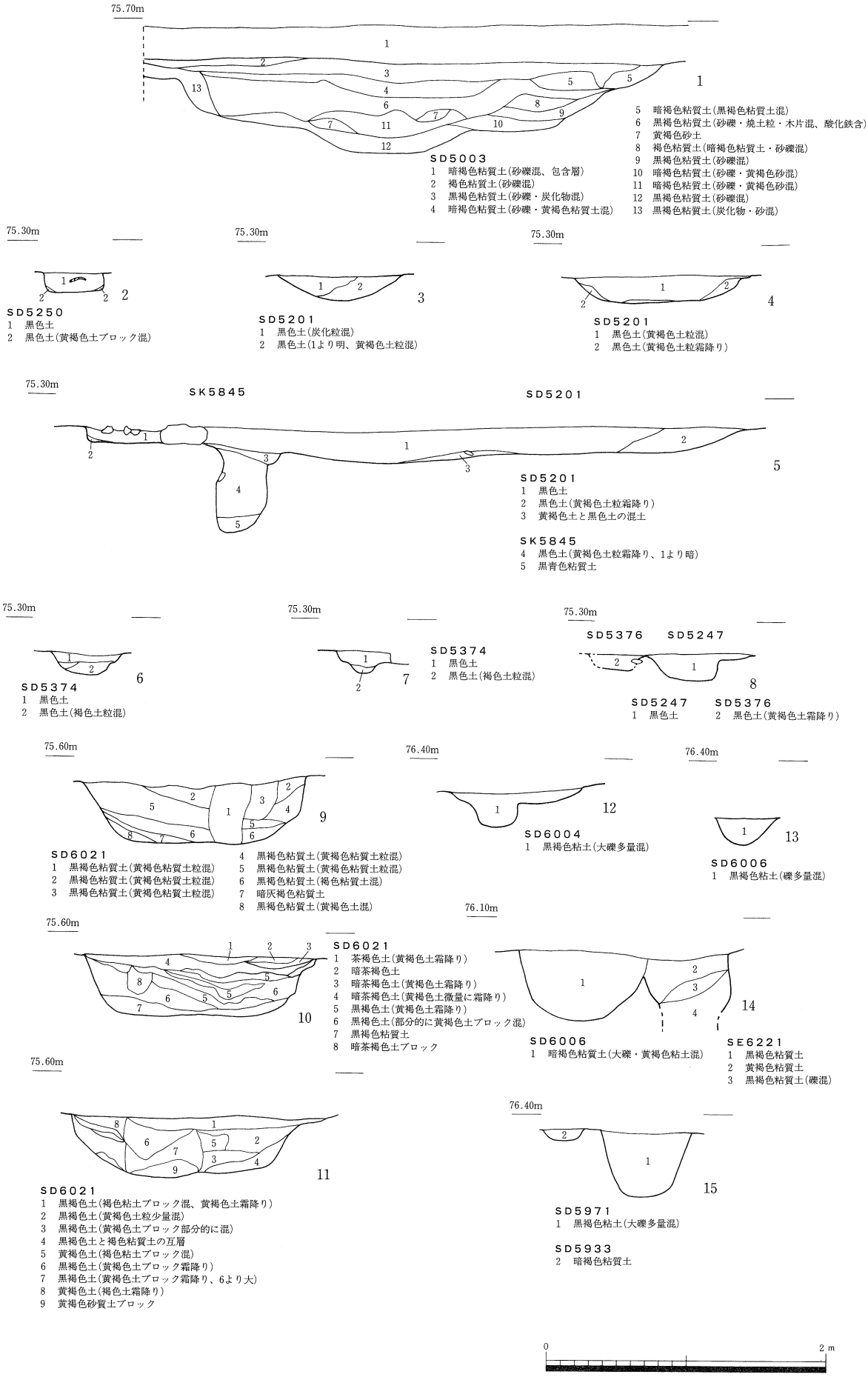
第169図　遺構実測図(中世後期)

1･2.SD4605・SD4606　3･4.SD4605　5.SD4802　6.SD4805　7.SD4606遺物出土状況



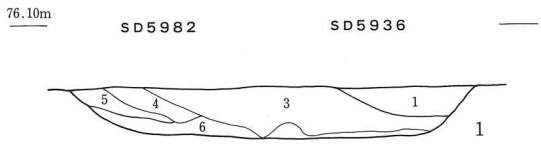
第170図　遺構実測図(中世後期)

1・2.SD5058　3・4.SD5056　5.SD5052　6・7.SD5059　8～10.SD5311　11～13.SD5312
14.SD5024　15・16.SD5018　17.SD5001・SD5022　18・19.SD5001　20.SD5113
21.SD5018・SD5026　22.SD5014・SD5014b・SD5026



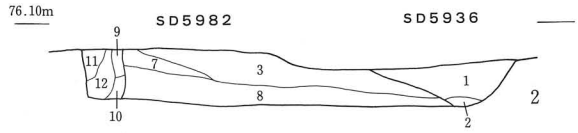
第171図　遺構実測図(中世後期)

1.SD5003　2.SD5250　3~5.SD5201　6·7.SD5374　8.SD5247·SD5376
9~11.SD6021　12.SD6004　13·14.SD6006　15.SD5971·SD5933

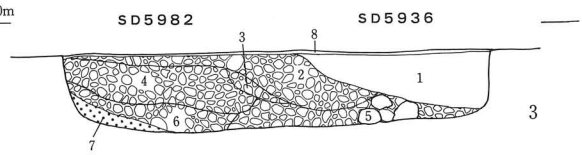


SD5936
1 黒褐色粘土(やや粘質)
2 褐色粘土

SD5982
3 黄褐色粘質土(黒褐色土・明褐色土・黒褐色粘質土混)
4 黒褐色粘土(黄褐色粘質土・褐色粘質土混)
5 黒褐色粘土(黄褐色粘質土・褐色粘質土混)

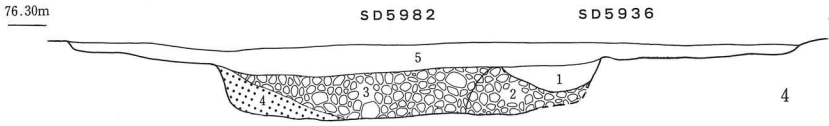


6 暗褐色粘土(やや粘質)
7 黄褐色粘質土(黒褐色土・灰褐色土混)
8 黄褐色粘質土(黒褐色土・灰褐色土ブロック混)
9 黄褐色粘質土
10 黒褐色粘土
11 黒褐色粘質土
12 黒褐色粘質土(黄褐色土混)
別遺構



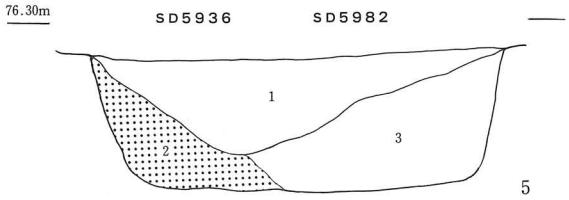
SD5936
1 茶褐色粘質土

SD5982
2 小礫層(黄褐色粘質土混)
3 黄褐色粘質土(小礫混)
4 赤褐色砂質土(砂礫混)
5 茶褐色粘質土(砂礫)
6 暗茶褐色土(砂礫混)
7 茶色砂
8 明黄白色粘質土(植物繊維混)



SD5936
1 黒褐色粘質土(礫混)

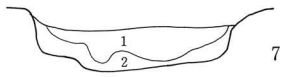
SD5982
2 暗黄褐色土(砂礫混)
3 明茶褐色土(砂礫混)
4 茶褐色粘質土
5 茶褐色粘質土(黄褐色土混、別遺構)



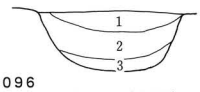
SD5936
1 黒褐色粘質土(小礫混)

SD5982
2 茶褐色砂質土
3 黒褐色粘質土

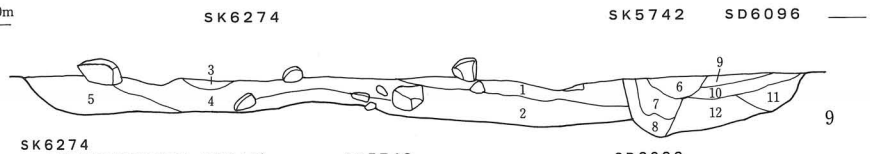
SD6096
1 暗黒灰褐色粘質土(黄灰色粘質土混)



SD6096
1 暗黒褐色粘質土
2 暗黒灰褐色粘質土(黄灰褐色粘質土混)



SD6096
1 暗茶褐色粘質土(小礫混、酸化鉄含)
2 暗茶褐色粘質土(1より粘質、黄褐色粘質土粒・小礫混)
3 暗茶褐色粘質土と灰黒色粘質土と黄褐色粘質土の混土

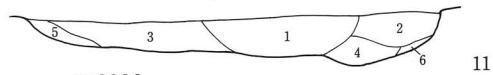


SK6274
1 暗褐色粘質土(黄褐色粘質土・黒褐色土混)
2 暗褐色粘質土
3 黄褐色粘質土(暗褐色粘質土混)
4 暗褐色粘質土(黄褐色粘質土・砂礫混)
5 褐色粘質土

SK5742
6 暗褐色粘質土(黄褐色粘質土混)
7 暗褐色粘質土(黄褐色粘質土混)
8 暗褐色粘質土(黄褐色粘質土混)

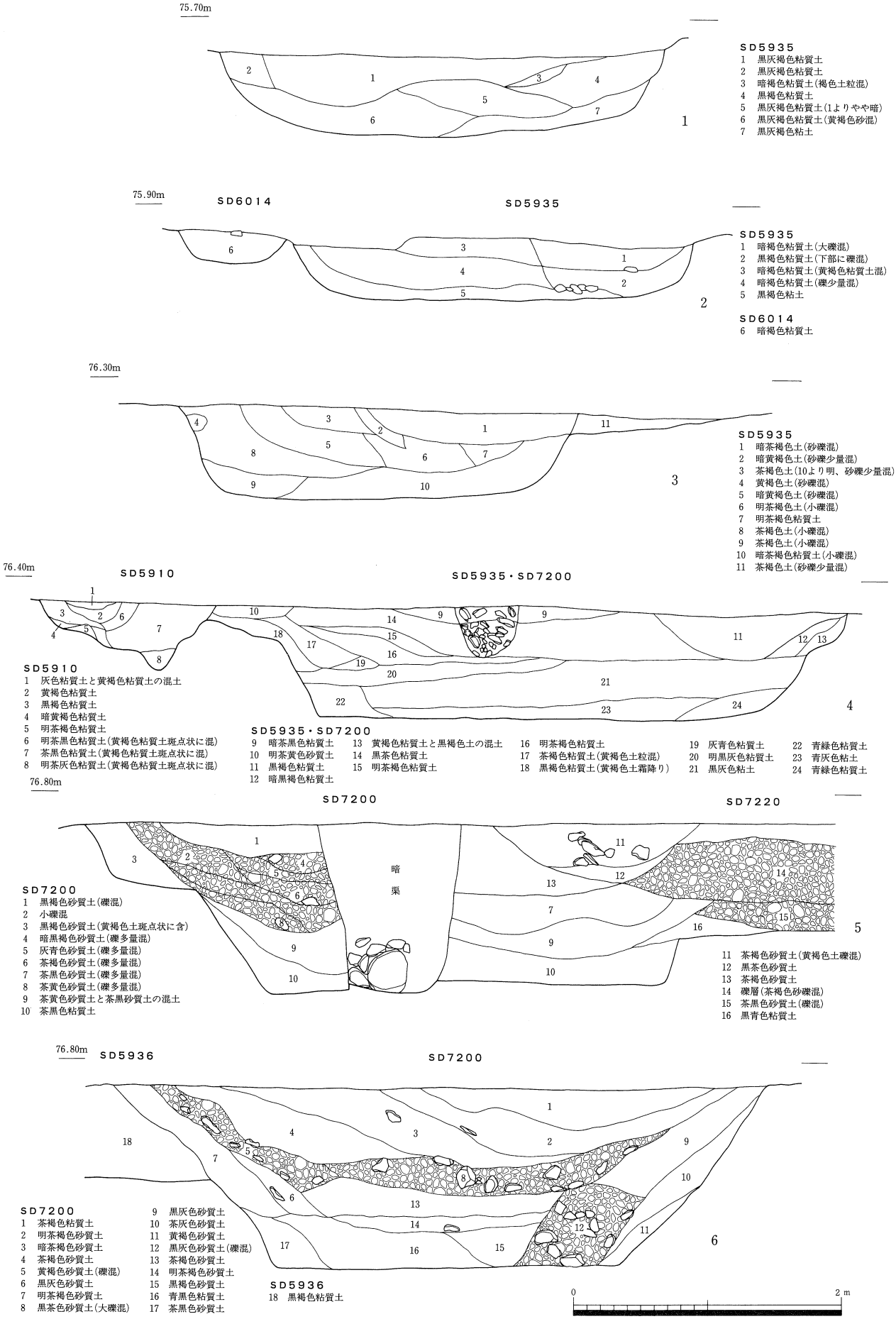
SD6096
9 暗褐色粘質土(橙色土粒混)
10 暗褐色粘質土
11 暗褐色粘質土(砂・黄褐色粘質土混)
12 暗褐色粘質土(黄褐色粘質土・炭化物混)

SD6096
1 暗茶褐色土(小砂礫混)
2 黒褐色土(黄褐色土霜降り)
3 暗茶褐色土(黄褐色土霜降り)
4 暗茶褐色土(3より暗、やや粘質)
5 茶褐色土(黄褐色土霜降り)



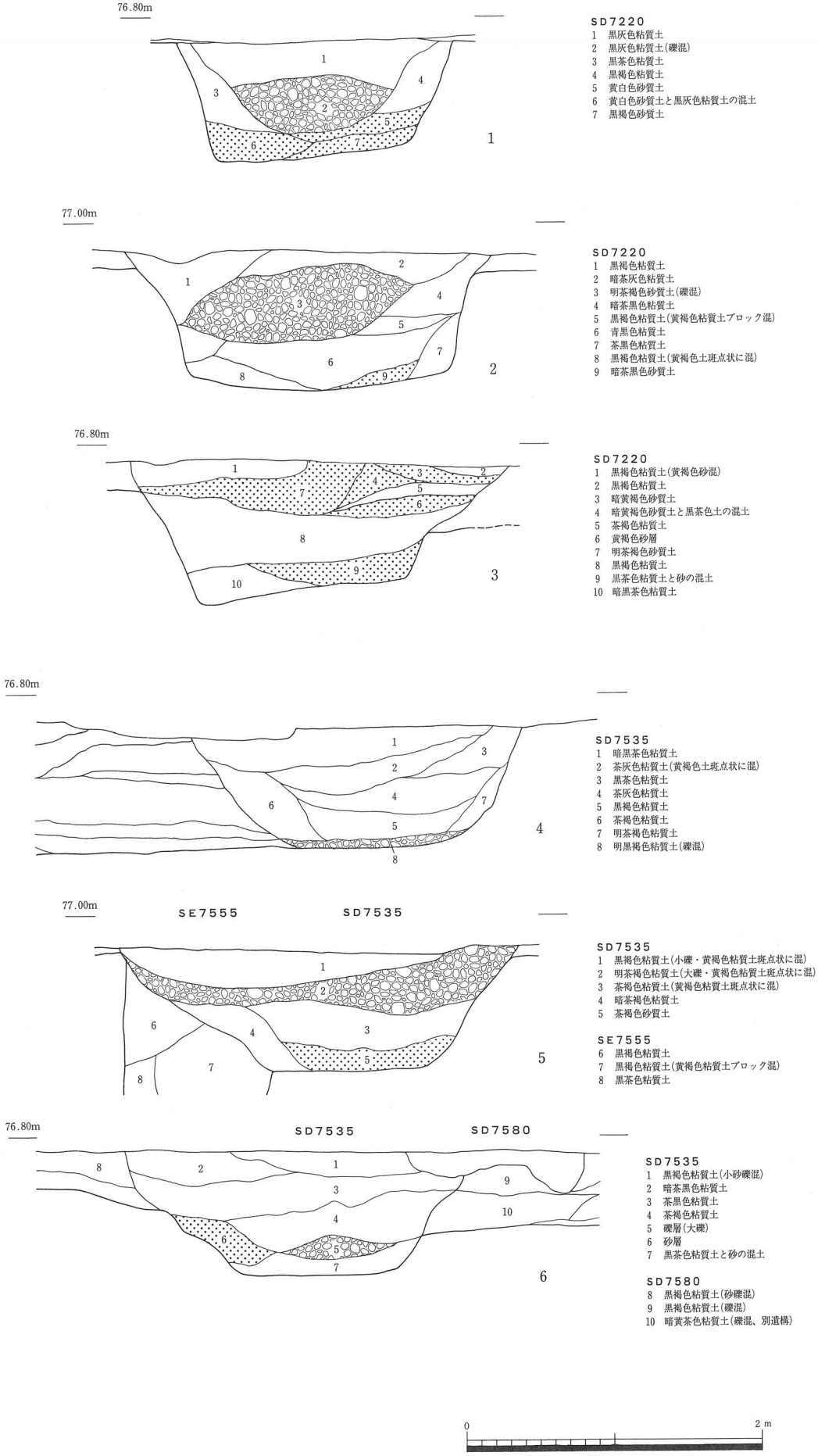
SD6096
1 暗褐色粘質土(黄褐色粘質土・炭化物混)
2 黒褐色粘質土(黄褐色粘質土混)
3 暗褐色粘質土(黄褐色粘質土・炭化物少量混)
4 黒褐色粘質土
5 褐色粘質土(黄褐色土混)
6 暗褐色粘質土(黄褐色粘質土混)

第172図　遺構実測図(中世後期)
1~5.SD5936・SD5982　6~11.SD6096



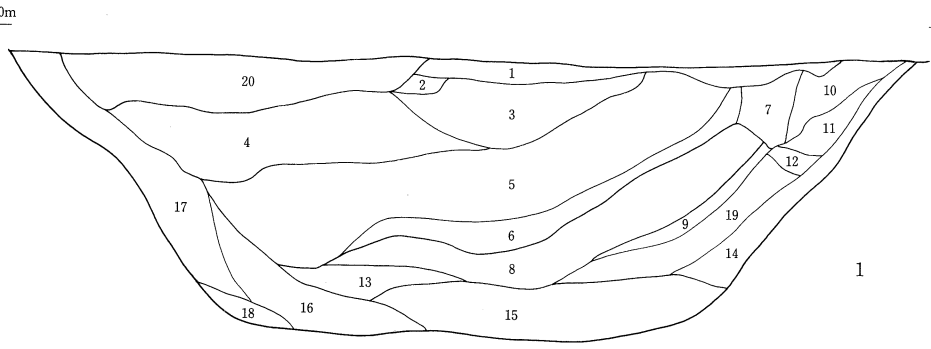
第173図　遺構実測図(中世後期)

1.SD5935　2.SD5935・SD6014　3.SD5935　4.SD5910・SD5935・SD7200
5.SD7200・SD7220　6.SD5936・SD7200

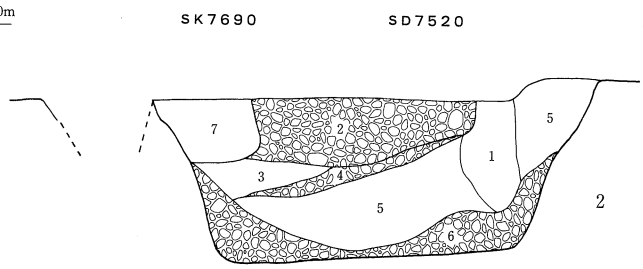


第174図　遺構実測図(中世後期)

1~3.SD7220　4·5.SD7535　6.SD7535・SD7580

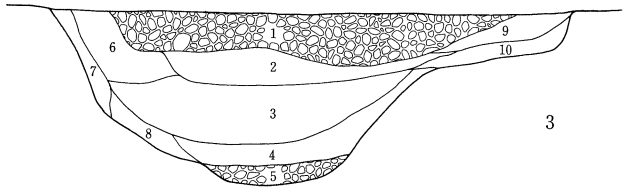


SD8709
1 暗褐色粘質土(砂礫混)
2 暗褐色粘質土(砂礫・黄橙色粘質土混)
3 褐色砂質土(砂礫・黄橙色粘質土粒混)
4 褐色砂質土(砂礫・黄橙色粘質土粒混)
5 褐色砂質土(砂礫・黄橙色粘質土粒混)
6 褐色砂質土(砂礫・黄橙色粘質土粒・黒褐色粘質土粒混)
7 褐色砂質土(砂礫混、酸化鉄含)
8 褐色粘質土(砂礫・黄橙色粘質土混)
9 褐色粘質土(砂礫・黄褐色砂混)
10 褐色粘質土(砂礫・黄橙色粘質土粒混)
11 暗黄褐色粘質土(砂礫・炭化物混)
12 暗褐色粘質土(炭化物混)
13 褐色粘質土(砂礫・黄橙色粘質土・黄褐色砂土混、酸化鉄含)
14 暗褐色粘質土(砂礫・黄橙色粘質土混)
15 暗灰褐色粘質土(砂礫混、酸化鉄含)
16 褐色粘質土(暗灰褐色粘質土・砂礫混)
17 明褐色粘質土(砂礫・黄橙色粘質土混)
18 黄褐色粘質土(砂礫混)
19 褐色粘質土(砂礫・黄橙色粘質土混)
20 暗褐色粘質土(砂礫混、やや粘質)

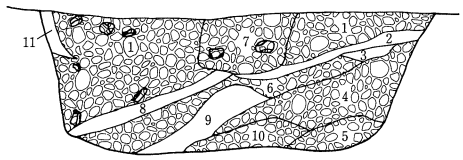


SD7520
1 茶褐色粘質土
2 茶褐色粘質土(砂利混)
3 黒灰色粘質土(黄白色土混)
4 茶褐色土(砂礫混、1・2より明るい)
5 黒灰色粘質土(黄白色粘質土ブロック混)
6 茶褐色砂質土(砂礫混)

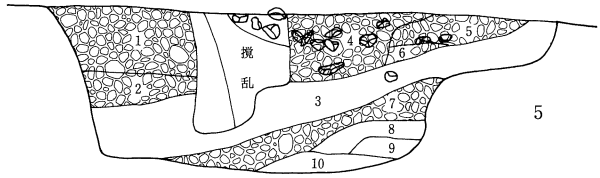
SK7690
7 明茶褐色粘質土(小礫混)



SD7520
1 茶褐色粘質土(礫混)
2 茶灰色粘質土(黄褐色土斑点状に混)
3 茶褐色粘質土(黄褐色土ブロック多量混)
4 黒褐色粘質土
5 黒茶色粘質土と礫の混土
6 茶褐色粘質土(黄褐色土斑点状に混)
7 茶灰色粘質土
8 暗茶灰色粘質土
9 茶褐色粘質土
10 茶褐色粘質土(黄褐色土ブロック混)

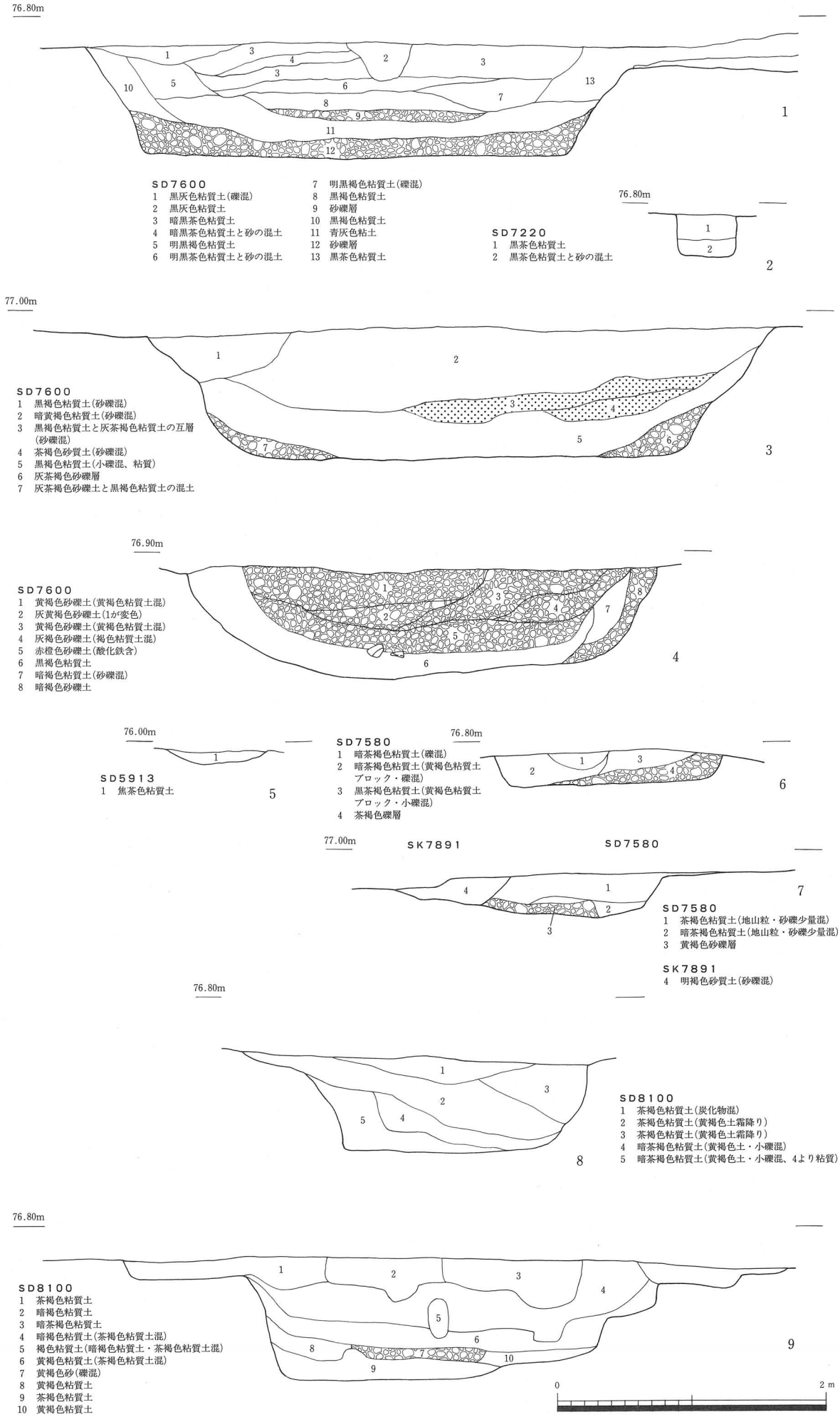


SD7520
1 明茶褐色粘質土(礫混)
2 黒褐色粘質土(礫・明茶褐色粘質土混)
3 黒褐色粘質土(明茶褐色粘質土混)
4 暗褐色粘質土(しまり悪い)
5 褐色粘質土(礫混)
6 明茶褐色粘質土
7 暗褐色粘質土(礫混)
8 暗黒褐色粘質土(礫混)
9 茶褐色粘質土(礫混)
10 明茶褐色粘質土(礫混)
11 茶褐色粘質土



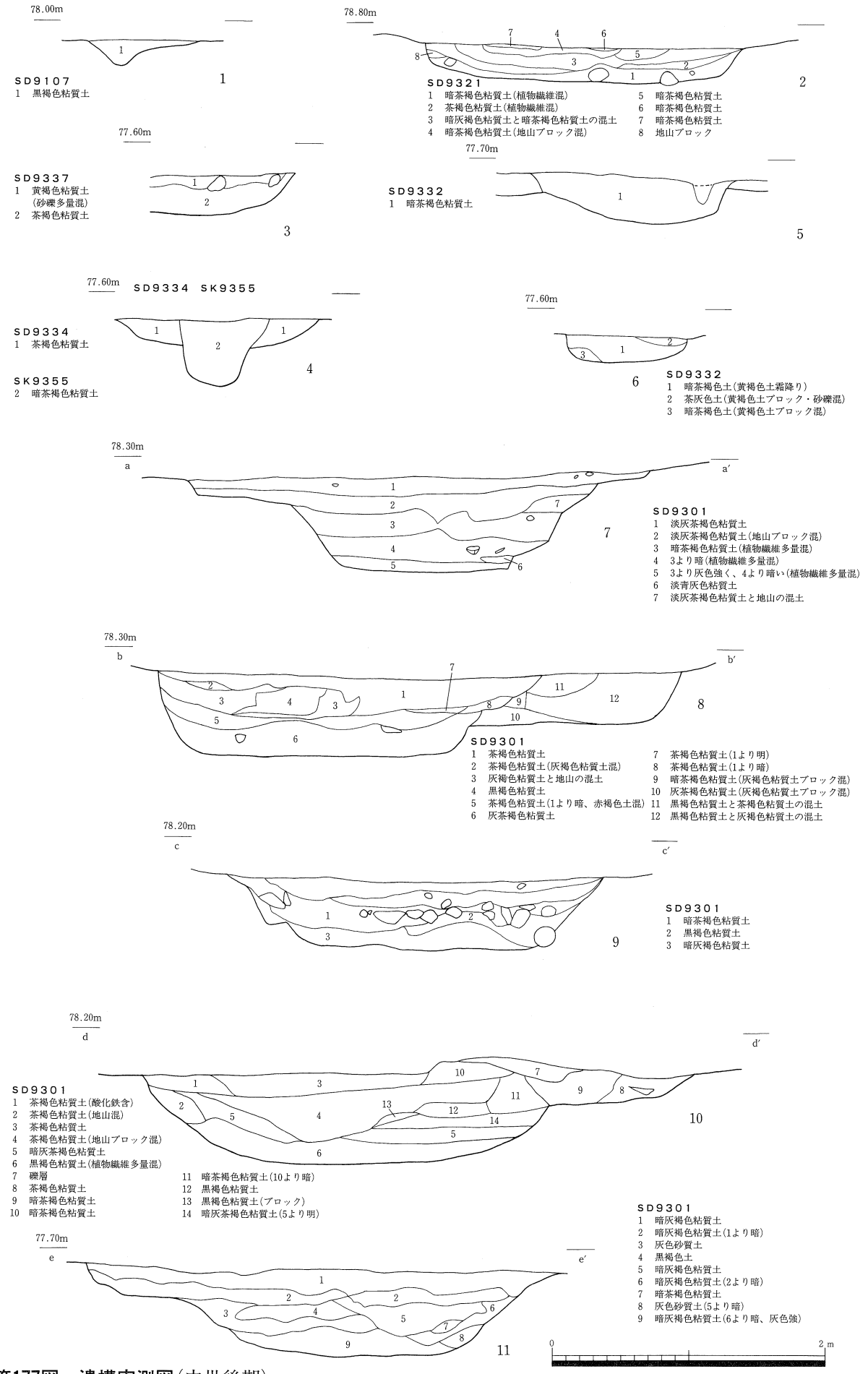
SD7520
1 茶褐色粘質土(礫混)
2 黒褐色粘質土
3 黄褐色粘質土
4 暗褐色粘質土(礫混)
5 暗褐色粘質土(褐色粘質土・砂混)
6 茶褐色粘質土(黒褐色粘質土・黄褐色粘質土混)
7 褐色粘質土(礫混)
8 黒褐色粘質土
9 明茶褐色粘質土
10 茶褐色粘質土

第175図　遺構実測図(中世後期)
1.SD8709　2~5.SD7520



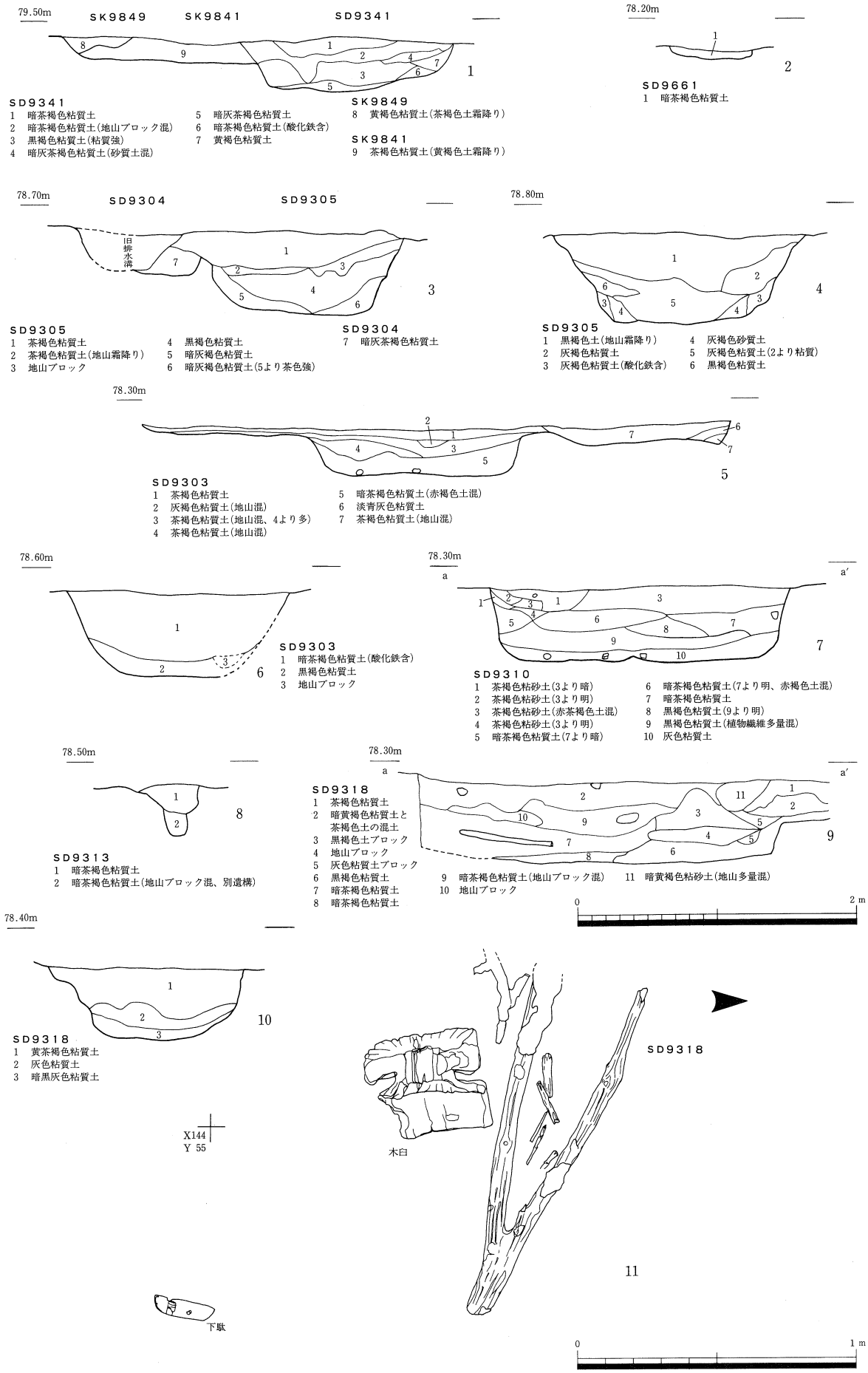
第176図　遺構実測図(中世後期)

1.SD7600　2.SD7220　3･4.SD7600　5.SD5913　6･7.SD7580　8･9.SD8100



第177図　遺構実測図(中世後期)

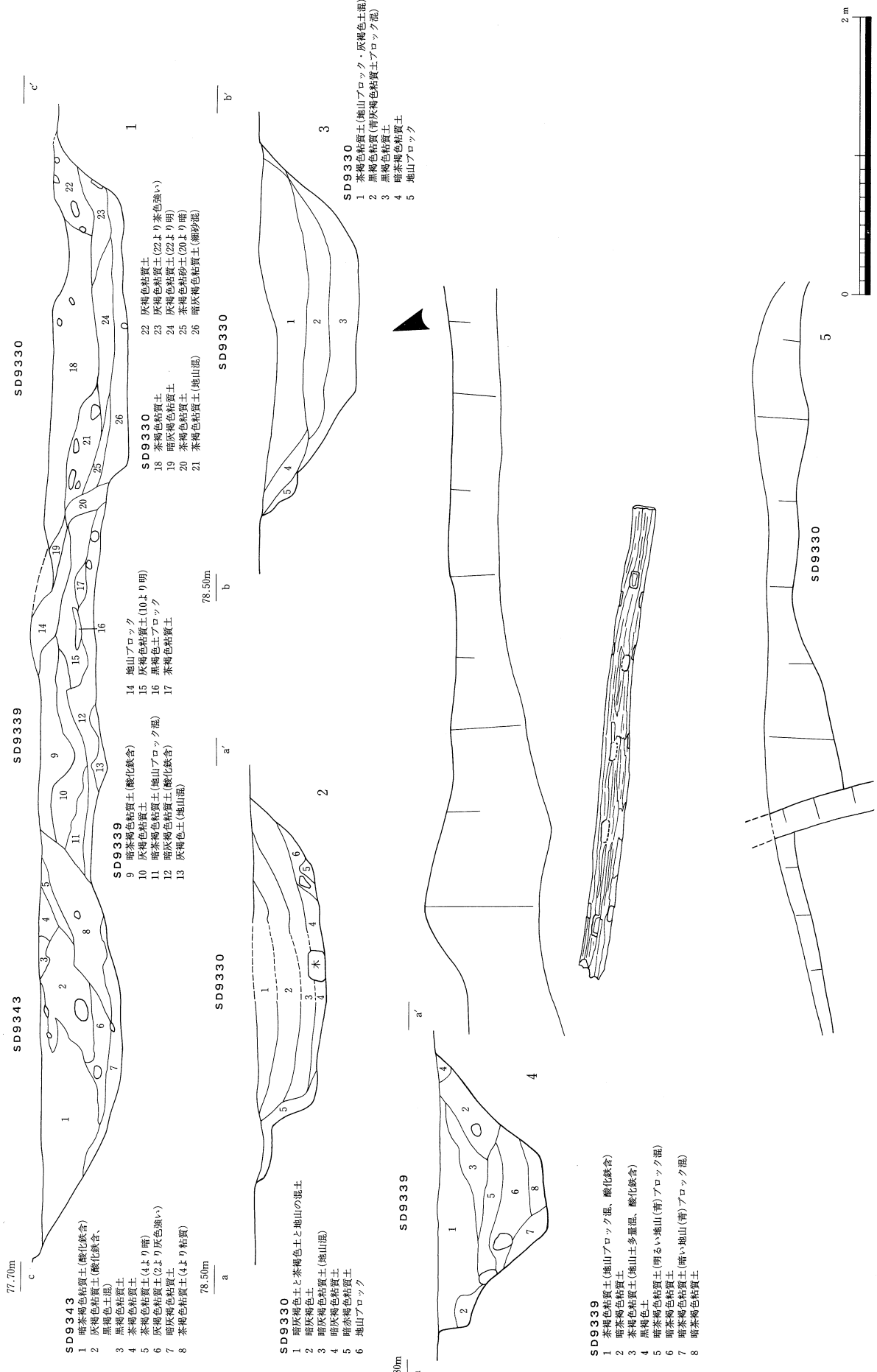
1.SD9107　2.SD9321　3.SD9337　4.SD9334　5･6.SD9332　7~11.SD9301



第178図　遺構実測図(中世後期)

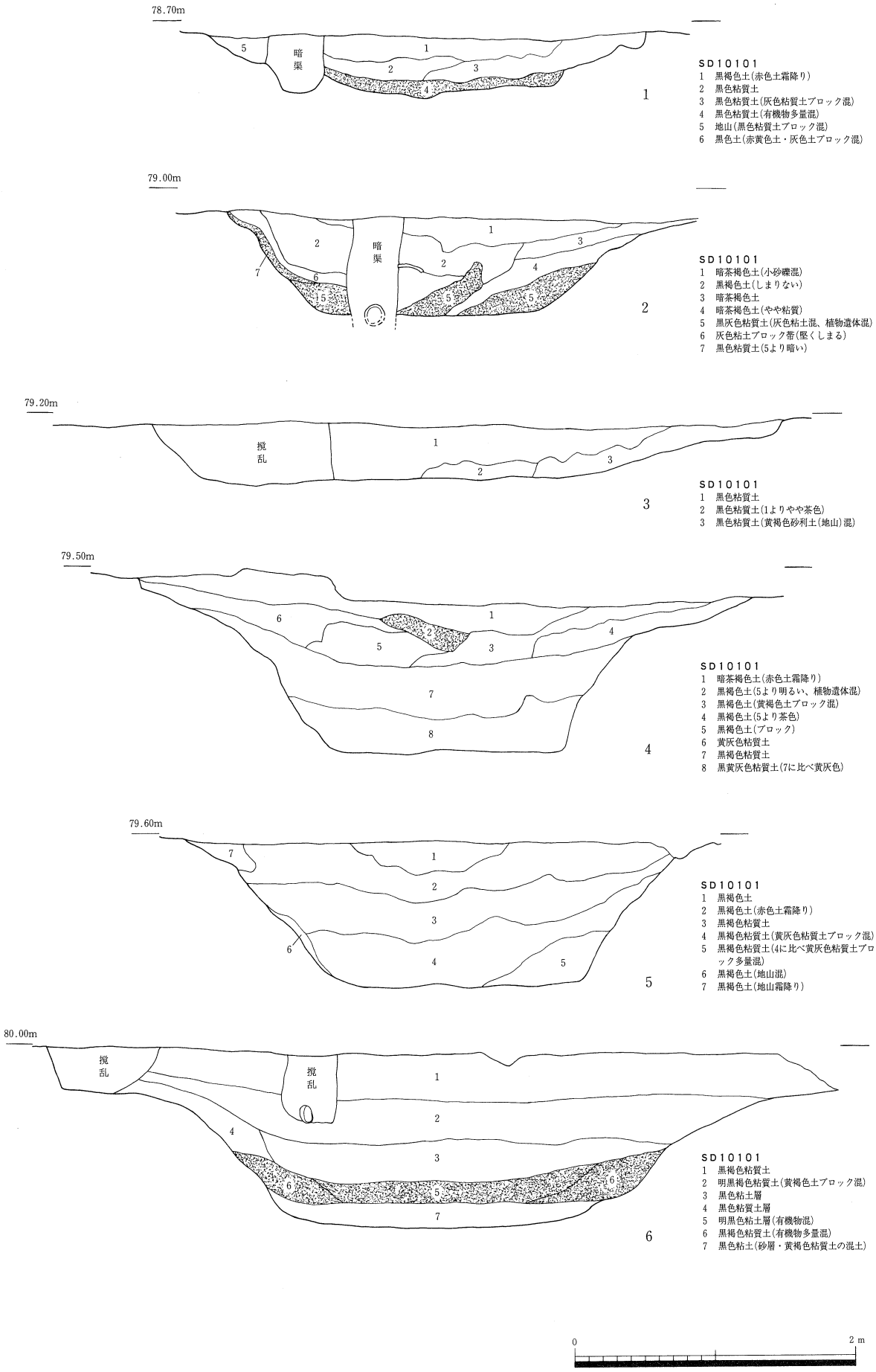
1.SD9341　2.SD9661　3.SD9304・SD9305　4.SD9305　5・6.SD9303　7.SD9310
8.SD9313　9・10.SD9318　11.SD9318遺物出土状況

第179図　遺構実測図（中世後期）
SD9301・SD9310・SD9312・SD9313・SD9318・SD9330・SD9339・SD9343

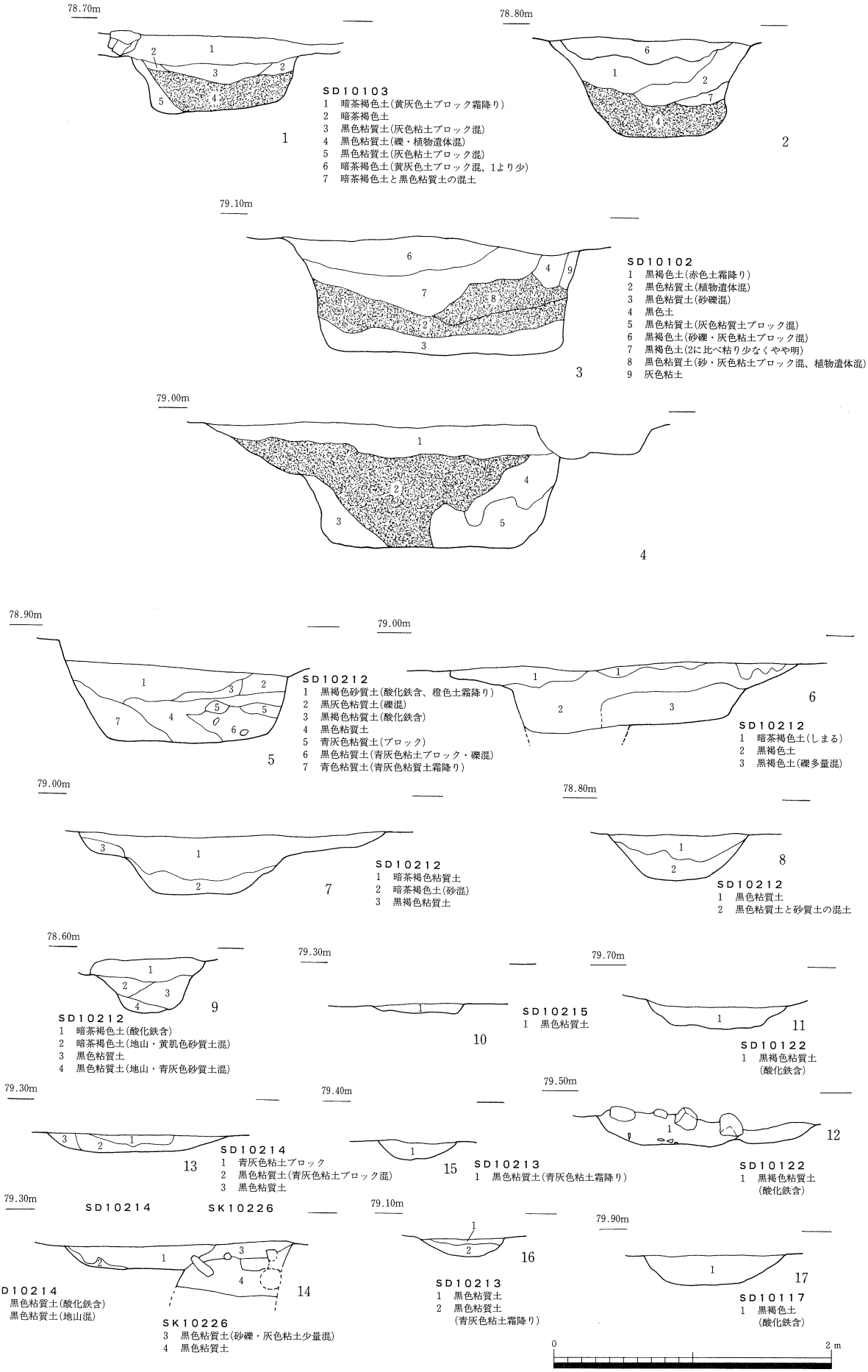


第180図　遺構実測図(中世後期)

1.SD9330・SD9339・SD9343　2·3.SD9330　4.SD9339　5.SD9330遺物出土状況

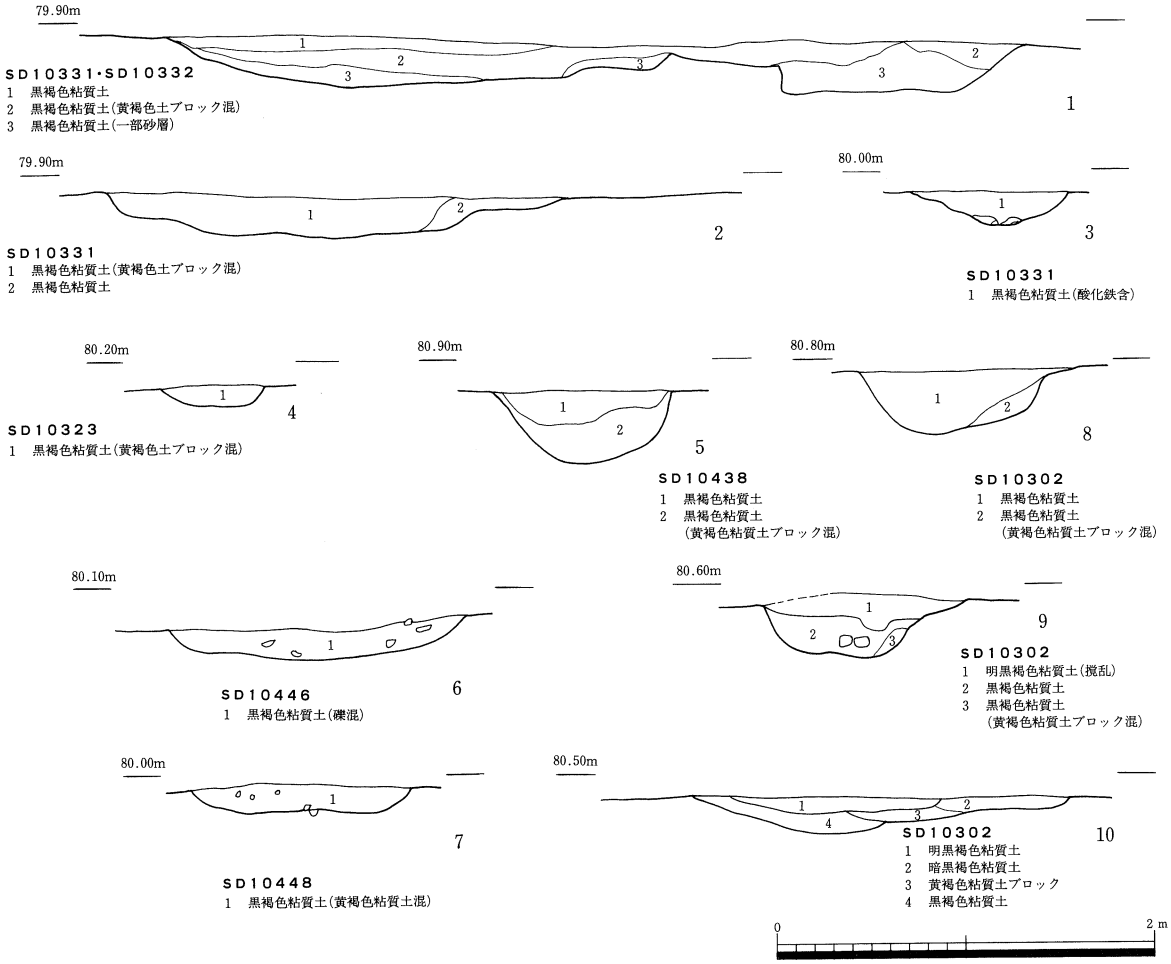


第181図　遺構実測図(中世後期)
1~6.SD10101



第182図　遺構実測図(中世後期)

1･2.SD10103　3･4.SD10102　5～9.SD10212　10.SD10215　11･12.SD10122
13･14.SD10214　15･16.SD10213　17.SD10117



第183図　遺構実測図(中世後期)
1.SD10331・SD10332　2･3.SD10331　4.SD10323　5.SD10438　6.SD10446
7.SD10448　8~10.SD10302

3　井　　戸

この時期は井戸の検出量が急激に増加する時期である。遺物が出土した遺構だけでも240基確認している。特にＢ地区とＣ地区北側に多い。ほとんどが素掘井戸で，井戸側の痕跡を残すものは少ない。素掘井戸は特に円形の土坑と判別するのが難しく，掲載したもののなかには土坑も含まれるであろう。遺物の出土量は総体的に少なく，遺物の出土はないが当期と推定される井戸もこの他にあると考える。

Ａ地区

3018号井戸（ＳＥ3018，第184図，図版112）

調査区の西端に位置する素掘井戸で，東接するＳＫ3016より古い。肩部が崩落したため楕円形となっているが，本来は直径50cm の円形の井戸であったと考える。覆土は茶褐色土，掘形は円筒形で，深さは189cm である。湧水は見られず，現在の湧水点は井戸底から約40cm 下であった。遺物の出土はないが，切り合うＳＫ3016から16世紀の遺物が出土しているので，時期は16世紀以前と考える。

3410号井戸（ＳＥ3410，第186図，図版113）

Ｘ314Ｙ90で検出した，楕円形の素掘井戸である。長軸175cm，短軸65cm，深さ115cm，掘形は擂鉢形である。覆土は黒褐色土で，上層からは石臼，石硯が出土し，下層の砂礫層の上面から，斜め上方を向いた完形の柄杓が出土している。これらの他の遺物には，13・15世紀の中世土師器・珠洲がある。

3413号井戸（ＳＥ3413，第186図，図版114）

ＳＥ3410の南東に位置する井戸である。直径140cm の円形で，掘形は擂鉢形，深さ60cm である。覆土は茶褐色土，断面観察で板状のものが立ち上がっており，木組の井戸側の残欠であろうか。遺物には15世紀の中世土師器・13世紀の白磁がある。

3417号井戸（ＳＥ3417，第186図，図版113）

ＳＥ3410の西に位置する，直径155cm の方形に近い円形を呈する素掘井戸である。掘形は漏斗形，深さは95cm である。覆土は茶黒褐色土である。中層から15世紀の中世土師器・珠洲，石臼・茶臼，16世紀の漆器椀が出土している。

3500号井戸（ＳＥ3500，第185図，図版112）

ＳＫ3496の北東隅上面で検出した素掘井戸である。直径100cm の円形で，掘形は円筒形，覆土は炭化物の混じる褐色土，下層は礫が混じる。遺物には15世紀の中世土師器がある。

3503号井戸（ＳＥ3503，第185図，図版114）

ＳＥ3500の北，ＳＫ3527の内部で検出した素掘井戸である。ＳＫ3527よりは新しい。長軸100cm，短軸86cm の楕円形で，深さは161cm である。掘形は上端が受け皿状となっており，受け皿状の底面にあたる層には厚さ約10cm の炭化物の層が見られた。この下層は茶褐色の砂礫層が堆積している。遺物には中世土師器がある。

3599号井戸（ＳＥ3599，第184図，図版112）

Ｘ336Ｙ96で検出した。東のＳＫ3598よりは新しい。長軸85cm，短軸78cm の楕円形で，掘形は円筒形，深さは198cm である。覆土は茶褐色土で，下層になるとこれに礫が混じる。遺物には中世土師器・15世紀の珠洲，14世紀の漆器椀がある。

3636号井戸（ＳＥ3636，第185図，図版114）

長軸135cm，短軸115cm の不整楕円形の素掘井戸である。ＳＥ3742とともにＳＫ3691の南西隅に位置する。掘形は円筒形であったが，井壁の崩落のため形を変えている。深さは240cm と深く，検出面から120cm 掘ると，湧水が見られる。覆土は上層が茶褐色土，下層が黒茶褐色土である。遺物には14

世紀の中世土師器・珠洲，15世紀の漆器椀がある。

3661号井戸（ＳＥ3661，第185図）

ＳＫ3707の北辺上面で検出した素掘井戸である。ＳＫより新しい。直径100cm，深さ175cmで，掘形は円筒形である。覆土は上層が黄茶褐色土，下層が黒青灰色粘質土で，深さ約130cmで湧水が見られる。遺物には13・14世紀の中世土師器・珠洲・15世紀の白磁・16世紀の漆器椀がある。

3677号井戸（ＳＥ3677，第184図，図版112）

ＳＫ4268の中央上面で検出した素掘井戸である。直径115cmの円形で，深さ198cmである。覆土は上面が茶褐色土，この下層が黒褐色粘質土である。掘形は円筒形，遺物には中世土師器・珠洲，14・15世紀の漆器椀がある。

3688号井戸（ＳＥ3688，第184図）

Ｘ339Ｙ93で検出した，長軸90cm，短軸70cmの楕円形の素掘井戸で，深さ207cmを測る。掘形は円筒形，覆土は茶褐色土である。遺物には中世土師器・珠洲，砥石，箸・加工木がある。

3706号井戸（ＳＥ3706，第185図）

ＳＫ3707の東辺中央で検出した素掘井戸である。直径80cmの円形で，深さはＳＫ3707の床面から130cmである。掘形は円筒形，覆土は上層が茶褐色土，下層が黒茶褐色土である。床面から70cmのところでは，湧水が見られた。遺物には15世紀の中世土師器・珠洲がある。

Ｂ地区

4327号井戸（ＳＥ4327，第186図，図版114）

調査区の西端近くで検出した，直径80cmの円形の素掘井戸である。掘形は円筒形，深さは52cmである。覆土は明茶褐色粘質土が主体で，木の根などを多く含む。遺物には，15世紀後半～16世紀の中世土師器，底板・舟形木製品が出土している。

4335号井戸（ＳＥ4335，第186図，図版114）

Ｘ311Ｙ90で検出した直径93cmの円形の素掘井戸である。上層から礫とともに，珠洲の甕胴部片が出土した。他に中世土師器，漆器椀があり，時期は15世紀である。

4336号井戸（ＳＥ4336，第186図）

Ｘ309Ｙ88で検出した，直径74cmの円形の素掘井戸である。掘形は浅い擂鉢形，覆土は上層が茶褐色粘質土，下層が黒褐色粘質土である。遺物には中世土師器・珠洲がある。時期は16世紀である。

4615号井戸（ＳＥ4615，第188図）

Ｘ292Ｙ102，ＳＤ4602とＳＤ4604に囲まれた東側のブロックで単独で検出した。ブロック内には他に遺構はない。直径55cmの円形の素掘井戸で，掘形は円筒形，覆土は黒褐色土，深さは61cmである。壁面に張り付くように，漆器椀が出土した。

4628号井戸（ＳＥ4628，第187図，図版115）

長軸138cm，短軸90cmの不整楕円形の素掘井戸である。東にあるＳＤ4606よりは新しい。掘形は円筒形，覆土は暗茶褐色粘質土，深さは86cmである。遺物には15世紀の中世土師器，箸がある。

4656号井戸（ＳＥ4656，第187図）

ＳＥ4628の北に位置する，直径80cmの円形の素掘井戸である。南端は暗渠に切られる。深さは49cmと浅い。掘形は中太りの円筒形，覆土は礫の混じった黒褐色土である。遺物には中世土師器・越前，底板・漆器椀がある。

4658号井戸（ＳＥ4658，第187図，図版115）

X294Y87に位置する楕円形の井戸である。長軸は115cm，南端は暗渠に切られる。深さは53cmと浅いが，底は砂礫層まで達している。覆土は第1～第3層までは水平堆積するが，その周縁には第4層の黒褐色土が堆積することから，曲物等の井戸側があったと推測される。覆土中からは中世土師器の他に箸・曲物片・下駄などの木製品が出土している。時期は15世紀である。

4665号井戸（ＳＥ4665，第188図）

X293Y91，ＳＥ4758の北に位置する素掘井戸である。直径90cmの円形で，深さ47cmである。覆土は黒褐色粘質土で，大小の礫，中には長さ約50cmの特大の礫も混じっていた。遺物には石鉢がある。

4666号井戸（ＳＥ4666，第187図）

ＳＤ4602の北岸下層から検出した不整円形の井戸である。長軸107cm，短軸95cmを測り，深さはＳＤ4602の肩から56cmである。覆土は黒褐色粘質土，底面中央からは完形の中世土師器が出土している。この他に珠洲，箸・曲物片が出土しており，時期は15世紀である。

4669号井戸（ＳＫ4669，第187図）

直径53cmの小さい円形の素掘井戸で，ＳＫ4640の北側にあり，土坑より新しい。深さは65cm。この地区の井戸は地山が砂礫層で湧水面が高いためか浅く，平面形から見ても土坑と判別しにくい。遺物には中世土師器・越前がある。時期は16世紀である。

4680号井戸（ＳＥ4680，第187図）

東側，南側を暗渠に切られる不整形の素掘井戸である。長軸約70cm，短軸約60cm，深さ60cmを測る。覆土は茶褐色土が主体で，下層には礫が混じる。底は砂礫層にまでは達していない。遺物には15世紀の中世土師器がある。

4697号井戸（ＳＥ4697，第187図）

X291Y80に位置する楕円形の素掘井戸である。長軸82cm，短軸64cm，深さは67cmである。覆土は上層が暗茶褐色粘質土，下層が灰褐色粘質土である。遺物には中世土師器・越前がある。

4712号井戸（ＳＥ4712，第188図）

調査区の西端近くで検出した不整楕円形の素掘井戸である。長軸102cm，短軸85cm，深さは48cmと浅い。覆土は上層が灰褐色粘質土，下層が灰色粘質土である。遺物には中世土師器・珠洲がある。

4721号井戸（ＳＥ4721，第188図）

X290Y88で検出した，直径90cmの円形の素掘井戸である。深さは84cm，覆土は上層が茶褐色土，下層が暗茶褐色粘質土で，ともに礫が混じる。遺物の出土はないが，当期と判断する。

4723号井戸（ＳＥ4723，第188図）

ＳＤ4608とＳＤ4624の交点で検出した井戸である。ＳＤ4608・ＳＫ4722よりは新しいが，ＳＤ4624・ＳＫ4728よりは古い。覆土は暗灰色粘質土の単層で，深さは60cmである。遺物には板材がある。

4727号井戸（ＳＥ4727，第188図，図版115）

ＳＥ4723の西に位置する，直径67cmの円形の井戸と考える土坑である。深さは28cmと浅い。覆土は黒褐色粘質土が主体で，遺物には中世土師器，曲物片がある。

4750号井戸（ＳＥ4750，第188図，図版115）

ＳＥ4723の東に位置する素掘井戸である。長軸95cm，短軸80cmの楕円形を呈し，深さは81cmである。上面は意識的と考える大小の礫で埋められ，覆土は上層が褐色土，下層が焼土・炭化物・一部炭化した木が混じる赤茶褐色土である。覆土に特徴が見られ，井戸でない可能性がある。遺物には中世土師器・珠洲がある。

4758号井戸（ＳＥ4758，第187図）

ＳＥ4665の南に位置する楕円形の素掘井戸である。南半分弱が暗渠に切られる。長軸約86cm，短軸60cm深さ41cmである。覆土は上層が茶褐色土，下層が黒褐色粘質土である。遺物には15世紀の中世土師器がある。

4771号井戸（ＳＥ4771，第188図）

Ｘ290Ｙ83，ＳＤ4624の下層から検出した直径73cmの円形の素掘井戸である。深さは62cm，覆土は黒褐色土の単層である。深さ約30cm付近から，漆器・加工木などとともに茶臼が出土している。

5028号井戸（ＳＥ5028，第189図）

ＳＸ6390に切られる楕円形の素掘井戸である。長軸100cm，短軸60cm，深さ88cmを測り，覆土は砂礫の混じった黒褐色粘質土が主体である。遺物には中世土師器・瀬戸美濃，加工木がある。

5060号井戸（ＳＥ5060，第189図）

長軸90cm，短軸75cm，深さ134cmを測る楕円形の井戸である。覆土は暗茶褐色粘質土が主体で，遺物には中世土師器・白磁があり，中層からは板材を検出した。時期は遺物から15世紀である。

5072号井戸（ＳＥ5072，第189図）

Ｘ256Ｙ96でＳＤ5312内に位置する素掘井戸で，ＳＤより新しい。平面形は楕円形で，長軸110cm，短軸90cm，深さ90cmを測る。覆土には砂粒・小礫が混じる。遺物には中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・青花，下駄がある。

5120号井戸（ＳＥ5120，第190図）

ＳＤ5047の下層より検出した。直径73cmの円形で，深さは96cm，円筒形の掘形をもつ。覆土は，小礫を多く含む黒褐色粘質土である。遺物には珠洲，加工木がある。

5134号井戸（ＳＥ5134）

ＳＤ5018内で検出した，ＳＤより古い井戸である。平面形は一辺70cmの正方形を呈し，深さは60cmと浅い。遺物は中世土師器のみである。時期は15世紀である。

5152号井戸（ＳＥ5152，第190図）

ＳＤ5105に南接する比較的大型の素掘井戸である。平面形は長軸190cm，短軸155cmの楕円形で，深さは150cmである。掘形は，底径が75cmで擂鉢状の形態となる。覆土は黒灰色粘質土が主体である。時期については，ＳＤ5105との接地面の断面観察では井戸のほうが新しいが，溝には近世の遺物が含まれるのに対し，井戸からは中世後半の遺物しか出土していない。従ってこの時期にあててはいるが，若干検討を要すると考える。遺物は中世土師器・15世紀の珠洲・瀬戸，16世紀の漆器・加工木がある。

5261ｂ号井戸（ＳＥ5261ｂ，第189図）

ＳＫ5324・ＳＫ5260より古く，ＳＤ5312より新しい。ＳＫ5261との関係は不明瞭である。この周辺の井戸では大型のもので，平面形は楕円形，長軸160cm，短軸115cmを測る。覆土は上層が暗茶褐色粘質土，下層が黒灰色粘質土となる。遺物は珠洲，加工木のみである。

5309号井戸（ＳＥ5309，第189図）

ＳＫ5308内下層より検出した。直径72cmの円形で，深さ63cm，底からは湧水が見られる。覆土は黒灰色粘質土，遺物は中世土師器・信楽がある。

5381号井戸（ＳＥ5381，第189図）

Ｘ259Ｙ87でＳＤ5349下層より検出，ＳＫ5382より新しい。直径88cmの円形で，深さ99cm，底近くには径約25cmの石が埋まっていた。覆土は黒灰色粘質土である。遺物は15世紀の中世土師器・青磁が

ある。

5407号井戸（ＳＥ5407，第190図）

ＳＫ6390の西側，北半分を暗渠に切られる。残存最大幅が64cm，深さ132cmである。掘形は下半分が膨らむ円筒形，覆土は暗黒灰色粘質土である。遺物は越前が出土している。

5433号井戸（ＳＥ5433，第190図）

直径55cmの円形の素掘井戸である。覆土は黒灰色粘質土で，深さ138cmを測る。遺物には15世紀の中世土師器，加工木がある。

5434号井戸（ＳＥ5434，第190図）

ＳＥ5434とＳＥ5434ｂがあるが，ＳＥ5434のほうが新しい。ＳＥ5434ｂは井戸というより土坑の可能性が強い。覆土は共に暗黒灰色粘質土が主体である。規模はＳＥ5434が楕円形を呈し，長軸150cm，短軸110cm，深さ154cmで，ＳＥ5434ｂは深さ77cmを測る。ＳＥ5434の遺物は中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・白磁，漆器・箸・加工木，鉄滓があり，時期は15世紀末と考える。ＳＥ5434ｂからは中世土師器・15世紀の珠洲が出土している。

5459号井戸（ＳＥ5459，第190図）

Ｘ251Ｙ84で，浅いＳＤ5110の下層から検出した。直径87cmの円形で，深さは118cmである。覆土は黒褐色粘質土で，上層には大礫が混じる。遺物は越前，石臼，箸・加工木である。

5521号井戸（ＳＥ5521，第191図）

やや大きめの円筒形の素掘井戸である。平面形は長軸130cm，短軸113cmの楕円形で，深さは146cmである。覆土は礫混じりの黒灰色粘質土だが，第3層には乳白色粘質土が混じる。遺物には箸・底板・加工木などの木製品がある。

5532号井戸（ＳＥ5532，第191図）

ＳＫ5331の南辺に位置し，ＳＫ5331に切られる。平面形は楕円形で，長軸80cm，短軸65cm，深さ98cmを測る。遺構面精査の段階より珠洲が一括して出土しており，他に中世土師器・越前，底板もある。覆土は暗茶褐色粘質土である。

5536号井戸（ＳＥ5536，第191図）

ＳＫ5331のほぼ中央に位置する楕円形の素掘井戸である。土坑との関係は同時期，あるいはそれより古いと考える。規模は長軸75cm，短軸66cm，深さ92cmである。覆土は灰茶褐色土・黒色土で，中層より内面朱漆の漆器や底板・柄・加工木が検出され，他に羽口も出土している。

5543号井戸（ＳＥ5543，第191図）

同じくＳＫ5331内に位置する楕円形の素掘井戸で，土坑との関係はＳＥ5536と同様である。規模は長軸112cm，短軸90cmを測り，覆土は黒色粘質土である。遺物には中世土師器・越前がある。

5549号井戸（ＳＥ5549，第191図）

ＳＫ5331の北東辺に近接する素掘井戸である。北接するＳＫ5548よりは新しい。平面形は楕円形で，長軸108cm，短軸95cm，深さ105cmを測る。覆土は黒褐色粘質土で，中央下層からは井戸の息抜きに使用したと考える竹筒の残片が検出された。竹筒の直径は約5cmである。遺物には越前，箸がある。

5591号・5592号井戸（ＳＥ5591・ＳＥ5592，第189図）

この２基の井戸は検出面では切り合いが認められたが，断面観察ではプランこそ異なるが，廃棄されたのは同時期と考える。共に，ＳＫ5590よりは新しい。ＳＥ5591は長軸145cm，短軸95cmの楕円形で，掘形は二段掘りとなっており，底径は45cmである。遺物は越前，漆器・柄がある。ＳＥ5592は直

径90cmの円形で，深さ84cm，遺物には中世土師器・珠洲・八尾がある。覆土は共に上層が暗茶褐色粘質土，下層は黒褐色粘質土である。

5597号井戸（ＳＥ5597，第191図）

Ｘ265Ｙ86に位置する楕円形の素掘井戸である。長軸84cm，短軸65cm，深さ97cmを測る。覆土は茶褐色粘質土で，遺物には中世土師器・珠洲がある。

5661号井戸（ＳＥ5661，第191図）

長軸78cm，短軸64cmの楕円形の素掘井戸で，北側を暗渠に切られる。覆土は黒灰色粘質土が主体である。遺物には瀬戸美濃の鉄釉のひだ皿がある。

5665号井戸（ＳＥ5665，第191図）

Ｘ256Ｙ83，ＳＫ5667より古い，直径80cmの円形の素掘井戸である。覆土は上層が茶褐色粘質土，下層が黒褐色粘土である。遺物には瀬戸美濃の椀がある。

5682号井戸（ＳＥ5682，第190図）

ＳＫ5482内，中央下層より検出した，やや大きめの楕円形の素掘井戸である。断面観察から，井戸が廃棄された後に土坑が造られたと判断する。長軸140cm，短軸105cm，深さ115cmを測り，底径が上面径に比べて小さくなる。覆土は黒灰色粘質土が主体で，各層から底板，加工木が出土しており，石製品には石鉢がある。

5777号井戸（ＳＥ5777，第191図）

ＳＥ5661の西側に位置する素掘井戸である。北側約３分の１を暗渠に切られる。覆土は暗黒灰色粘質土で，深さは131cmを測る。覆土中より完形の銅製皿が出土した。

5806号井戸（ＳＥ5806）

Ｘ267Ｙ83で検出したが，上面は攪乱を受けている。平面形は楕円形，長軸100cm，短軸85cm，深さ93cmを測る。覆土は上層が暗茶褐色粘質土，下層が黒褐色粘土である。遺物には底板・加工木がある。時期のわかる遺物の出土はないが，覆土・形態よりこの時期に入れた。

5914号井戸（ＳＥ5914，第192図）

Ｘ216Ｙ82，ＳＤ5913下層より検出した。直径102cmの円形で，深さ122cmを測る。覆土は上層がしまった暗褐色粘土，下層が黒褐色粘土である。遺物には珠洲がある。

5915号井戸（ＳＥ5915，第192図）

ＳＥ5914の北側，同じくＳＤ5913の下層より検出した。平面形は長軸117cm，短軸100cmの楕円形，深さは102cmである。覆土は黒褐色粘土で，第３層から15・16世紀の中世土師器が出土している。

5996号井戸（ＳＥ5996，第192図）

Ｘ225Ｙ80に位置し，ＳＫ6545・ＳＫ6547より古い。平面形は長軸180cm，短軸167cmの楕円形を呈しているが，壁が崩落したため規模が大きくなっており，本来の平面形はより小さな楕円形を呈していた模様である。掘形も擂鉢状になっているが，やや裾すぼまりの円筒形であったと考える。覆土は黒褐色粘質土であった。遺物には14世紀の中世土師器・珠洲・青磁，箸・加工木があるが，時期は他遺構との関連から当時期とした。

6040号井戸（ＳＥ6040，第192図）

Ｘ220Ｙ100，ＳＥ5974の南西側に位置する素掘井戸である。直径70cmの円形であり，掘形は円筒形，覆土は上層が暗褐色粘質土，下層が黒褐色粘質土である。深さは172cmとやや深めである。遺物には須恵器，15世紀の中世土師器・珠洲がある。

6056号井戸（ＳＥ6056，第192図）

ＳＥ5996の北東に位置する素掘井戸である。長軸90cm，短軸85cmの楕円形の井戸で，深さ163cmを測る。覆土は上層がしまった暗茶褐色土，下層が黒褐色土である。遺物には打製石斧，砥石，底板・加工木がある。

6057号井戸（ＳＥ6057，第192図）

ＳＥ6056の西側に位置する素掘井戸である。長軸90cm，短軸70cmの楕円形で，深さ150cmを測る。覆土は上層が暗茶褐色土，下層が黒褐色粘質土である。遺物には15世紀の中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・16世紀の白磁があり，時期は15・16世紀である。

6275号井戸（ＳＥ6275，第193図）

長軸128cm，短軸95cmの楕円形の素掘井戸である。覆土は上層が暗褐色粘質土，下層がしまりの悪い礫の混じる黒褐色粘質土で，深さは130cmである。上層からは珠洲が出土しており，この他に中世土師器，加工木がある。

6321号井戸（ＳＥ6321，第193図）

直径77cmの井戸と考えた土坑である。深さが53cmと，他に比べ非常に浅いので井戸ではない可能性がある。覆土は礫の混じる暗褐色粘質土と褐灰色粘質土の混土である。底面直上からは３分の２個体の中世土師器が出土している。他に珠洲がある。時期は15世紀である。

6381号井戸（ＳＥ6381，第193図）

ＳＤ6385より新しい，長軸94cm，短軸83cmの楕円形の井戸である。覆土は暗茶褐色土に黄褐色土が霜降り状に混じる土で，深さは132cmである。遺物には越前，加工木がある。

6623号井戸（ＳＥ6623，第193図）

ＳＫ6621内中央に位置し，断面観察ではこれより新しい。しかし，ＳＫ6621も井戸に付属する施設と考えたい。平面形は長軸153cm，短軸80cmの楕円形，深さは68cmと浅い。井戸の覆土は砂礫の混じった暗褐色土で，土坑の覆土はややしまった暗褐色粘質土である。井戸の遺物には越前，石臼があり，土坑からは中世土師器・越前・瀬戸美濃が出土している。

6626号井戸（ＳＥ6626，第193図）

ＳＫ6850より新しい井戸である。直径92cmの円形で，深さ142cmを測る。覆土は上層が礫の混じった暗茶褐色土で，下層は大礫を意識的に投棄した礫層となっていた。遺物には越前，加工木がある。

6849号井戸（ＳＥ6849，第193図）

ＳＥ6626と同様，ＳＫ6850より新しい井戸である。平面形は楕円形で，長軸97cm，短軸85cm，深さ168cmを測る。覆土は上層が黄褐色土の混じった暗茶褐色土で，下層はこれに礫が混じる。遺物には瓷器系甕片と底板・加工木がある。

7500号井戸（ＳＥ7500，第194図）

ＳＤ7535とＳＤ7580の交点の北東で検出した，大型の素掘井戸である。掘形は緩い擂鉢形，深さは180cmである。遺物には中世土師器・15世紀の珠洲・加賀・15世紀の青磁が出土している。加賀は押印をもつ甕片で，同じ押印をもつ甕片がＳＤ7535からも出土している。

7555号井戸（ＳＥ7555，第194図，図版116）

ＳＤ4535の西側の肩にかかって検出した素掘井戸である。溝よりは古い。直径120cmの不整円形で，掘形は円筒形，覆土は黒褐色粘質土が主体である。検出面より約40cm掘り下げたところで，珠洲の擂鉢が一括して出土している。時期は15世紀である。

7724号井戸（ＳＥ7724，第194図）

路線敷とは別に，関連工事で調査したＢ４地区で検出した井戸である。直径88cmの不整円形で，東接するＳＫ7725よりは新しい。覆土は黒褐色粘質土が主体で，遺物には珠洲・15世紀の瀬戸がある。

7896号井戸（ＳＥ7896，第194図）

Ｘ183Ｙ76，調査区のほぼ中央で検出した楕円形の素掘井戸である。長軸84cm，短軸78cm，掘形は円筒形，深さは197cmである。覆土は茶褐色粘質土が主体である。遺物には14世紀の珠洲・青磁があるが，中世前期の遺構が周辺から検出されないことから，当期と判断する。

8252号井戸（ＳＥ8252，第194図）

ＳＫ8251の下層から検出した井戸である。直径56cmの円形の素掘井戸で，掘形は円筒形と考える。覆土は砂礫の混じる黒褐色粘質土で，マンガンが付着して黒色化している。上層のＳＫ8251の覆土からは，砂礫に混じって炭化物・鉄滓・焼けた石が多く出土した。時期がわかる遺物は出土していないが，ＳＫ8252の関連遺構とも考えられ，特徴的なものとしてここで掲載した。

8274ｂ号井戸（ＳＥ8274ｂ）

ＳＫ8274の中央，一段深くなる肩の下層から検出した素掘井戸である。直径90cmの不整円形で，深さはＳＫ8274の床面から147cmである。覆土は礫の混じった褐色粘質土で，底近くから風呂鍬の風呂部分が出土している。

8314号井戸（ＳＥ8314，第195図）

Ｘ165Ｙ59で検出した不整楕円形の素掘井戸である。東側で重なるＳＫ8315よりは古い。長軸は100cm，短軸は82cm，掘形は円筒形である。覆土は礫の混じる黒褐色粘質土で，深さは180cmである。遺物には15世紀の中世土師器，底板，土師質の暖房具がある。

8526号井戸（ＳＥ8526，第195図）

調査区の西端で検出した楕円形の素掘井戸である。長軸75cm，短軸47cm，深さは171cmである。掘形は円筒形，覆土は上層が褐色粘質土，下層が礫の混じる黒褐色粘質土である。遺物には中世土師器と石臼がある。

8542号・8543号・8547号井戸（ＳＥ8542・ＳＥ8543・ＳＥ8547，第195図）

Ｘ189Ｙ63では５基の井戸が集中して検出された。ＳＥ8542，ＳＥ8543，ＳＥ8547の切り合い関係は，ＳＥ8543が一番古い。ＳＥ8542からは中世土師器の擂鉢が出土しているが，ＳＥ8547からは何も出土していないので２基の新旧関係は不明である。これらの南には16世紀の越前・青花が出土するＳＥ8522がある。ＳＥ8543の規模は長軸約100cm，短軸65cmの楕円形で，深さは201cmである。覆土は黒褐色粘質土・赤褐色土・茶褐色砂などが堆積する。

8638号井戸（ＳＥ8638，第195図）

Ｘ202Ｙ65で検出した直径70cmの円形の素掘井戸である。掘形は円筒形，覆土は礫の混じった暗褐色粘質土である。深さは155cmで，底から湧水が見られた。遺物には14世紀の珠洲があるが，他の遺構との関連から当期と考えた。

8905号井戸（ＳＥ8905，第196図）

直径98cmの円形の素掘井戸である。覆土は黒褐色粘質土で，深さは172cmを測る。遺物には中世土師器・珠洲・越前がある。時期は15世紀である。

8943号井戸（ＳＥ8943，第196図）

直径100cmの円形の素掘井戸である。覆土は黒褐色土で，深さは182cmを測る。遺物には珠洲甕片

１点のみである。

8955号井戸（ＳＥ8955，第196図）

長軸140cm，短軸130cmの楕円形の素掘井戸である。掘形がやや擂鉢状となり，深さは180cmである。遺物には15世紀後半の中世土師器・珠洲・16世紀の瀬戸美濃がある。時期は16世紀である。

8966ｂ号井戸（ＳＥ8966ｂ，第196図）

ＳＸ8966内西側下層より検出した。直径71cmの円形の素掘井戸で，深さ177cmを測る。遺物には珠洲がある。

8968号井戸（ＳＥ8968，第196図）

ＳＫ8967の南東隅に位置する楕円形の素掘井戸である。ＳＫ8967とはほとんど同時期であり，その付属施設と考える。規模は，長軸172cm，短軸145cm，深さ163cmを測り，掘形は擂鉢状となる。遺物には八尾，15世紀の珠洲，16世紀の越前がある。時期は16世紀である。

8969号井戸（ＳＥ8969，第196図）

長軸84cm，短軸79cmの楕円形の井戸である。掘形は円筒形の素掘井戸で，北側にもぐっており，深さは174cmである。遺物には15世紀の中世土師器・珠洲，16世紀末の越中瀬戸がある。時期は16世紀末と考える。

8972号井戸（ＳＥ8972，第197図）

ＳＫ8952南西方形区中央に位置する。ＳＫ8952の下層より検出したが，時期差はないと考える。平面形はだるま形を呈し，直径113cmと直径70cmの円形の井戸がくっついた形状で，深さも218cm，160cmと二段になっている。断面観察ができなかったので，実際は１基か，２基の井戸が切り合っているのかは不明である。遺物には15世紀の中世土師器・珠洲，越前・瀬戸美濃・16世紀の青花，17世紀前半の唐津がある。近世の遺物の出土があるが，土坑と同時期と考えここで扱った。

Ｃ地区

9342号井戸（ＳＥ9342，第197図）

Ｘ134Ｙ66，ＳＤ9341の東肩下層から検出した，直径75cmの円形の素掘井戸である。掘形は円筒形，覆土は暗茶褐色粘質土である。遺物には珠洲がある。

9352号井戸（ＳＥ9352，第197図）

ＳＫ9356の北東隅下層から検出した井戸である。北東のＳＫ9466よりも古い。直径80cmの円形で，掘形は円筒形，覆土は黒褐色粘質土である。遺物には縄文土器がある。

9388号井戸（ＳＥ9388，第197図，図版116）

Ｘ140Ｙ59で検出した，長軸75cm，短軸67cmの楕円形の素掘井戸である。掘形は円筒形で，覆土は黒灰褐色粘質土である。検出面から約30cmの深さから，礫とともに石臼が出土している。

9412号井戸（ＳＥ9412，第197図）

ＳＤ9321の西肩下層から検出した素掘井戸である。直径95cmの円形で，掘形は円筒形，覆土は礫の混じった黒褐色粘質土である。遺物には珠洲がある。時期は15・16世紀である。

9428号井戸（ＳＥ9428，第197図）

ＳＥ9412の北で検出した楕円形の素掘井戸である。長軸78cm，短軸67cmで，掘形は円筒形である。覆土は灰色粘質土，遺物には珠洲がある。

9429号井戸（ＳＥ9429，第197図）

ＳＥ9388の西で検出した，円形の素掘井戸である。直径は78cm，掘形は上層しか確認していないが，

中太りの円筒形と推察する。覆土は礫の混じる黒褐色粘質土である。遺物には珠洲がある。

9791号・9792号井戸（ＳＥ9791・ＳＥ9792）

ＳＥ9792はＸ127Ｙ75でＳＥ9791と共に検出した，直径110cmの円形の素掘井戸である。ＳＥ9791より新しい。重機による下層確認のみのため，ここで概略を述べる。ＳＥ9792の覆土は暗茶褐色粘質土，下層は約40cmの厚さで大礫が堆積する。深さは210cmである。ＳＥ9791の覆土は黒褐色粘質土に青灰色粘質土が混じる土で，深さは154cmである。この最下層からは底にくっついた状態で竹製の編物が出土している。ＳＥ9792からは15世紀末～16世紀の珠洲，下駄・底板が出土している。

9905号井戸（ＳＥ9905）

ＳＤ9904の東肩で検出した直径83cmの円形の素掘井戸である。この井戸も重機による下層確認のみである。覆土は第１層が茶褐色砂礫土，第２層が青灰色粘質土，第３層が黒褐色粘質土である。掘形は円筒形，深さは253cm，底は砂層まで達している。第２層から16世紀の中世土師器が第３層から珠洲，曲物，手桶が出土している。

9915号井戸（ＳＥ9915）

Ｘ145Ｙ73で検出した直径73cmの円形の素掘井戸である。重機による下層確認では，掘形は裾すぼまりの円筒形，深さは181cmである。覆土は第１層が砂礫の混じる灰色粘質土，第２層が黒色粘質土，第３層が茶褐色砂礫土，第４層が灰褐色粘質土，第５層が植物繊維を多く含む黒褐色粘質土である。遺物には珠洲，漆器椀がある。

10109号井戸（ＳＥ10109，第198図）

直径78cmの円形の素掘井戸である。覆土は上層が暗茶褐色土，下層が黒灰色粘質土である。遺物には中世土師器片と加工木がある。

10128号井戸（ＳＥ10128，第198図）

直径58cmの円形の素掘井戸である。掘形は細い円筒形，人間がやっと入れるくらいで，深さは112cmである。覆土は黒色粘質土で，中から中世土師器の細片が出土した。底面は砂礫層となる。

10141号井戸（ＳＥ10141，第198図）

重機による攪乱下層より検出した。長軸73cm，短軸62cmの楕円形を呈する。中層より板状の木製品が多数出土した。時期を決定する遺物の出土はないが，周辺の遺構の関係から当時期にあてた。

10170号井戸（ＳＥ10170，第198図）

長軸125cm，短軸103cmの楕円形の素掘井戸である。覆土は黒色粘質土，遺物には珠洲の甕口縁部・胴部片がある。

10225号井戸（ＳＥ10225，第198図）

直径76cmの円形素掘井戸である。深さは123cm，底は青灰色粘質土層で止まっている。遺物には珠洲・越前があり，時期は16世紀である。

10227号井戸（ＳＥ10227，第198図）

長軸126cm，短軸99cmの楕円形の素掘井戸である。覆土は黒色粘質土が主体で，第２層には薄い有機物層が入る。底は礫層にまで達し，深さは108cmである。遺物には16世紀の瀬戸美濃があり，第４層の礫混じりの黒色粘質土中からは，柄杓が出土した。。

10228号井戸（ＳＥ10228，第198図）

長軸82cm，短軸60cmの楕円形の井戸と考えた土坑である。深さは73cmであるが二段掘りとなっている。検出面より55cmのところで，直径38cmと底面が小さくなり，そこから東側に寄った状態で瀬

戸美濃の擂鉢２分の１個体が出土した。覆土は黒色粘質土で，底は青色粘質土で止まる。他に15世紀の中世土師器・瀬戸が出土している。

10242号井戸（ＳＥ10242，第197図）

ＳＫ10241下層から検出した。土坑よりは古い。長軸67cm，短軸52cmのやや小さい楕円形で，深さは228cmと深く，重機による断ち割りにより確認した。遺物には16世紀の土師質の擂鉢・珠洲がある。

10256号井戸（ＳＥ10256，第198図）

一辺75cmの方形に近い不整円形を呈する井戸である。断ち割りの結果，上層が素掘り，下層がやや中心をずれて石組となる二重構造となっている。深さは130cm，底は青灰色粘質土で止まる。遺物には中世土師器・珠洲・瀬戸美濃がある。時期は16世紀である。

10303号井戸（ＳＥ10303，第199図）

遺跡南端に位置する井戸である。長軸106cm，短軸95cmの楕円形を呈する。覆土は礫の混じる黒色粘質土で，深さは174cmを測る。遺物には中世土師器の擂鉢，木製品（擂粉木・曲物）がある。

10306号井戸（ＳＥ10306，第199図，図版117）

Ｘ17Ｙ37，長軸92cm，短軸65cmの楕円形の素掘井戸である。覆土には礫が多く混じり，深さは117cmを測る。上層より石臼が出土している。

10314号井戸（ＳＥ10314，第199図，図版117）

長軸120cm，短軸110cmのやや大きめの不整円の素掘井戸である。覆土は黒褐色粘質土黄褐色粘質土が混じる土で，深さは196cmである。遺物には木製品がある。

10343号井戸（ＳＥ10343，第199図）

Ｘ30Ｙ41，長軸127cm，短軸112cmの楕円形の素掘井戸である。覆土は黒褐色粘質土に黄褐色粘質土が混じる土で，掘形は裾すぼまりの円筒形，深さは191cmである。遺物には木製品の箸・木製容器・底板・加工木がある。

10344号井戸（ＳＥ10344，第199図，図版117）

ＳＥ10314の南東にある井戸で，長軸103cm，短軸85cmの楕円形を呈する。覆土は黒褐色粘質土で，深さは250cmを測り，周辺の井戸の中では一番深い。

10419号井戸（ＳＥ10419，第199図，図版117）

一辺96cmの方形状の井戸である。掘形は円筒形，覆土は特徴的な礫混じりの黄褐色粘質土で，深さは136cmである。遺物には漆器・加工木がある。

10452号井戸（ＳＥ10452，第199図）

遺跡南東端に位置する，直径52cmの小さな円形の素掘井戸である。覆土は黒褐色粘質土に黄褐色粘質土が混じる土で，深さは110cmを測る。遺物には15世紀末の青磁，漆器椀・底板がある。

10453号井戸（ＳＥ10453，第199）

ＳＥ10452の南に位置する素掘井戸である。長軸65cm，短軸58cmで，ＳＥ10452より一回り大きめの楕円形を呈し，深さは185cmである。覆土は黒褐色粘質土に黄褐色土が混じる土である。

（島田美佐子）

遺構番号	整理番号	地区	平面形	規模；長	規模；短	規模；深	覆土	出土遺物	備考	時期	最終レベル	湧水レベル
ＳＥ3018	ＳＥ18	Ａ３Ｎ	楕円形	137	83	189	茶褐色土	中世土師器		～16C	70.81	
ＳＥ3410	ＳＥ10	Ａ３Ｓ	楕円形	175	65	115	黒褐色土	中世土師器・珠洲・石硯・石斧・柄杓		13･15C	72.26	
ＳＥ3413	ＳＥ13	Ａ３Ｓ	円形	140	－	60	褐色土・暗灰褐色粘質土	中世土師器・白磁・板材		13･15C	72.96	
ＳＥ3417	ＳＥ17	Ａ３Ｓ	円形	155	－	95	茶黒褐色土	中世土師器・珠洲・石臼・漆器		15･16C	72.52	
ＳＥ3424	ＳＥ24	Ａ３Ｓ	楕円形	100	－	－	暗灰色粘質土・褐色礫層	中世土師器		15C		
ＳＥ3500	ＳＥ100	Ａ３Ｓ	円形	100	－	197	褐色土	中世土師器		15C	71.16	
ＳＥ3503	ＳＥ103	Ａ３Ｓ	楕円形	100	86	161	暗茶褐色土	中世土師器・加工板			71.45	
ＳＥ3546	ＳＥ146	Ａ３Ｓ	円形	95	－	－	黒褐色粘質土	中世土師器				
ＳＥ3599	ＳＥ199	Ａ３Ｓ	楕円形	85	78	198	茶褐色土	中世土師器・珠洲・加工板・漆器		14･15C	71.07	
ＳＥ3636	ＳＥ236	Ａ３Ｓ	楕円形	135	115	240	茶褐色土・黒茶褐色土	須恵器・中世土師器・珠洲・漆器・底板		14･15C	70.70	
ＳＥ3661	ＳＥ261	Ａ３Ｓ	円形	100	－	175	黄茶褐色土・黒青灰色粘質土	中世土師器・珠洲・白磁・漆器		13～16C	71.20	
ＳＥ3677	ＳＥ277	Ａ３Ｓ	円形	115	－	198	茶褐色土・黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲・漆器		14～15C	71.04	
ＳＥ3688	ＳＥ288	Ａ３Ｓ	楕円形	90	70	207	茶褐色土	中世土師器・珠洲・砥石・箸・加工木		12C後半～13C	71.00	
ＳＥ3706	ＳＥ306	Ａ３Ｓ	円形	80	－	130	茶褐色土	中世土師器・珠洲		15C	71.22	
ＳＥ4327	ＳＥ27	Ｂ１	円形	80	－	52	明茶褐色粘質土他	中世土師器・底板・舟形	木多数	15C後半	73.25	
ＳＥ4335	ＳＥ35	Ｂ１	円形	93	－	45		中世土師器・珠洲・漆器		15C		
ＳＥ4336	ＳＥ36	Ｂ１	円形	74	－	54	茶褐色粘質土他	中世土師器・珠洲		16C	73.00	
ＳＥ4615	ＳＥ15	Ｂ１－３	円形	55	－	61	黒褐色土	漆器			73.46	
ＳＥ4618	ＳＥ18	Ｂ１－３	不整円形	82	70	30	黒褐色土	中世土師器		14･15C	73.22	
ＳＥ4628	ＳＥ28	Ｂ１－３	不整円形	138	90	86	暗茶褐色粘質土	中世土師器・箸・板材		15C	73.15	
ＳＥ4656	ＳＥ56	Ｂ１－３	円形	80	－	49	黒褐色土	中世土師器・越前・底板・漆器			73.55	
ＳＥ4658	ＳＥ58	Ｂ１－３	楕円形	115	97	53	黄黒褐色土・青黒褐色土	中世土師器・箸・曲物・下駄		15C	73.58	
ＳＥ4665	ＳＥ65	Ｂ１－３	円形	90	－	47	黒褐色粘質土	石鉢			73.43	
ＳＥ4666	ＳＥ66	Ｂ１－３	不整円形	107	95	56	黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲・箸・曲物		15C	73.20	
ＳＥ4669	ＳＥ69	Ｂ１－３	円形	53	－	65	黒褐色土	中世土師器・越前		16C	73.42	
ＳＥ4680	ＳＥ80	Ｂ１－３	不整円形	70	60	60	茶褐色土	中世土師器		15C	73.44	
ＳＥ4697	ＳＥ97	Ｂ１－３	楕円形	82	64	67	暗茶褐色粘質土・灰褐色粘質土	中世土師器・越前・板材			73.42	
ＳＥ4712	ＳＥ112	Ｂ１－３	楕円形	102	85	48	灰褐色粘質土・灰色粘質土	中世土師器・珠洲			73.35	
ＳＥ4721	ＳＥ121	Ｂ１－３	円形	90	－	84	茶褐色土・暗茶褐色粘質土	－			73.19	
ＳＥ4723	ＳＥ123	Ｂ１－３	楕円形	90	80	60	暗灰色粘質土	板材			73.40	
ＳＥ4727	ＳＥ127	Ｂ１－３	円形	67	－	28	黒褐色粘質土	中世土師器・底板			73.73	
ＳＥ4750	ＳＥ150	Ｂ１－３	円形	95	80	81	褐色土	中世土師器・珠洲・板材			73.13	
ＳＥ4758	ＳＥ158	Ｂ１－３	楕円形	86	60	41	茶褐色土	中世土師器		15C	73.50	
ＳＥ4771	ＳＥ171	Ｂ１－３	円形	73		62	黒褐色土	茶臼・漆器・柄			73.42	
ＳＥ4919	ＳＥ119	Ｂ	方形	128	89	50	－	越前		16C	74.26	
ＳＥ4932	ＳＥ132	Ｂ	方形	95	90	48	－	中世土師器・越前		15C後半	73.49	
ＳＥ5028	ＳＥ2028	Ｂ２Ｎ	楕円形	100	60	88	黒褐色粘質土	中世土師器・瀬戸美濃・加工木			74.23	
ＳＥ5060	ＳＥ2060	Ｂ２Ｎ	楕円形	90	75	134	暗茶褐色粘質土	中世土師器・白磁・加工木		15C	73.52	
ＳＥ5072	ＳＥ2072	Ｂ２Ｎ	楕円形	110	90	90	暗茶褐色土・黒灰色粘質土	中世土師器・珠洲・越前・瀬戸・青花・下駄			73.88	
ＳＥ5120	ＳＥ2120	Ｂ２Ｎ	円形	73	－	96	黒褐色粘質土	珠洲・加工木・曲物			74.10	
ＳＥ5134	ＳＥ2134	Ｂ２Ｎ	方形	70	－	60	暗黒灰色粘質土	中世土師器		15C		
ＳＥ5152	ＳＥ2152	Ｂ２Ｎ	楕円形	190	155	150	黒灰色粘質土	中世土師器・珠洲・瀬戸・漆器・加工木・曲物	ＳＤ5018＞ＳＥ5152	15･16C	73.70	
ＳＥ5261ｂ	ＳＥ2261ｂ	Ｂ２Ｎ	楕円形	160	115	－	暗茶褐色粘質土・黒灰色粘質土	珠洲・加工木				
ＳＥ5309	ＳＥ2309	Ｂ２Ｎ	円形	72		63	黒灰色粘質土	中世土師器・信楽			74.87	
ＳＥ5381	ＳＥ2381	Ｂ２Ｎ	円形	88		99	黒灰色粘質土	中世土師器・青磁・曲物		15C	74.03	
ＳＥ5407	ＳＥ2407	Ｂ２Ｎ	不整形	64	－	132	暗黒灰色粘質土	越前			73.90	
ＳＥ5433	ＳＥ2433	Ｂ２Ｎ	円形	55	－	138	黒灰色粘質土	中世土師器・加工木		15C	73.85	
ＳＥ5434	ＳＥ2434	Ｂ２Ｎ	楕円形	150	110	154	黒色粘質土	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・白磁・漆器・曲物・箸・加工木・鉄滓		15C末	73.62	
ＳＥ5434b	ＳＥ2434b	Ｂ２Ｎ	楕円形	72	70	77	暗黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲		15C	74.4	
ＳＥ5459	ＳＥ2459	Ｂ２Ｎ	円形	87	－	118	黒褐色粘質土	越前・石臼・箸・加工木			73.93	
ＳＥ5521	ＳＥ2521	Ｂ２Ｎ	楕円形	130	113	146	黒灰色粘質土	箸・加工木・底板			73.61	
ＳＥ5532	ＳＥ2532	Ｂ２Ｎ	楕円形	80	65	98	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越前・底板	ＳＫ5331＞ＳＥ5532		74.09	
ＳＥ5536	ＳＥ2536	Ｂ２Ｎ	楕円形	75	66	92	灰黒褐色土	羽口・漆器・加工木・底板・柄・曲物			73.87	
ＳＥ5543	ＳＥ2543	Ｂ２Ｎ	楕円形	112	90	55	黒色粘質土	中世土師器・越前			74.30	
ＳＥ5549	ＳＥ2549	Ｂ２Ｎ	楕円形	108	95	105	黒褐色粘質土	越前・箸	竹筒あり		73.99	
ＳＥ5591	ＳＥ2591	Ｂ２Ｎ	楕円形	145	95	116	暗茶褐色粘質土・黒褐色粘土	越前・漆器・柄			73.88	
ＳＥ5592	ＳＥ2592	Ｂ２Ｎ	円形	90	－	84	暗茶褐色粘質土・黒褐色粘土	中世土師器・八尾・珠洲			74.13	
ＳＥ5597	ＳＥ2597	Ｂ２Ｎ	楕円形	84	65	97	茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲			74.04	
ＳＥ5661	ＳＥ2661	Ｂ２Ｎ	楕円形	78	64	127	黒灰色粘質土	瀬戸美濃			73.77	
ＳＥ5665	ＳＥ2665	Ｂ２Ｎ	円形	80	－	176	茶褐色粘質土・黒褐色粘土	瀬戸美濃			73.5	
ＳＥ5682	ＳＥ2682	Ｂ２Ｎ	楕円形	140	105	115	黒灰色粘質土	石鉢・加工木・曲物・底板			73.68	
ＳＥ5777	ＳＥ2777	Ｂ２Ｎ	不整形	101	－	131	暗黒灰色粘質土	銅製品			73.7	
ＳＥ5779	ＳＥ2779	Ｂ２Ｎ	円形	60	－	－	暗褐色粘質土	瀬戸美濃				
ＳＥ5806	ＳＥ2806	Ｂ２Ｎ	楕円形	100	85	93	暗茶褐色粘質土・黒褐色粘土	加工木・底板			71.9	
ＳＥ5914	ＳＥ14	Ｂ２	円形	102	－	122	暗褐色粘土・黒褐色粘土	珠洲			74.72	
ＳＥ5915	ＳＥ15	Ｂ２	円形	117	100	102	黒褐色粘土	中世土師器		15･16C	74.83	
ＳＥ5975	ＳＥ75	Ｂ２	不整形	－	130	－	黒褐色粘土	珠洲				
ＳＥ5996	ＳＥ96	Ｂ２	円形	180	167	146	黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲・青磁・箸・加工木			74.33	
ＳＥ6026	ＳＥ126	Ｂ２	円形	74	－	88		中世土師器			75.06	
ＳＥ6038	ＳＥ138	Ｂ２	不整円形	92	54	139	黒褐色粘質土	珠洲			74.58	
ＳＥ6040	ＳＥ140	Ｂ２	円形	70		172	暗褐色粘質土・黒褐色粘質土	須恵器・中世土師器・珠洲		15C	74.15	
ＳＥ6056	ＳＥ156	Ｂ２	楕円形	90	85	163	暗茶褐色土・黒褐色粘質土	打製石斧・砥石・底板・加工木			74.15	
ＳＥ6057	ＳＥ157	Ｂ２	楕円形	90	70	150	暗茶褐色土・黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・白磁・漆器・箸・おたま・柄杓・加工木		15･16C	74.23	
ＳＥ6105	ＳＥ205	Ｂ２	円形	115	86	82	灰褐色粘質土	珠洲	ＳＫ6095＞ＳＫ6105		74.46	
ＳＥ6106	ＳＥ206	Ｂ２	円形	87	85	63	黒褐色粘質土	中世土師器・越前			74.63	
ＳＥ6122	ＳＥ222	Ｂ２	円形	98	55	154	黒褐色粘質土	中世土師器	ＳＫ6111＞ＳＥ6122		73.88	

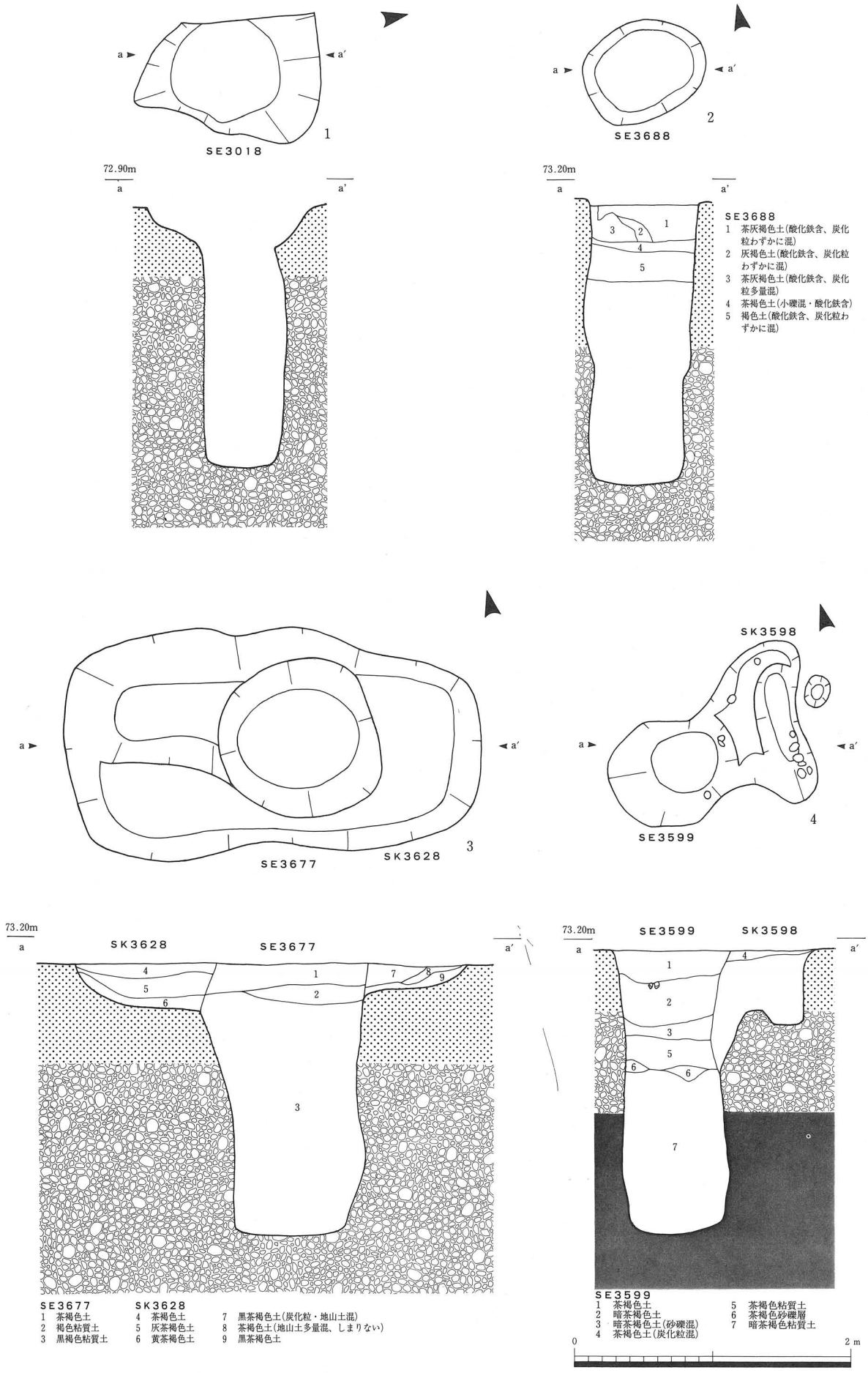
第10表　井戸（中世後期）一覧（1）

遺構番号	整理番号	地区	平面形	規模；長	規模；短	規模；深	覆土	出土遺物	備考	時期	最終レベル	湧水レベル
SE6160	SE260	B2	方形	80	－	96	暗茶褐色土	中世土師器			75.40	
SE6194	SE294	B2	円形	85	－	126	黒褐色粘質土	珠洲	SD6006＞SE6194		74.41	
SE6255	SE355	B2	楕円形	130	－	130	黒褐色土	中世土師器・越前・石鉢・底板・加工木			74.00	
SE6275	SE375	B2	楕円形	128	95	130	暗茶褐色土・黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲・加工木			74.06	
SE6285	SE385	B2	不整円形	92	70	－	褐色粘質土	中世土師器				
SE6295	SE395	B2	不整円形	95	－	123	褐色粘質土	珠洲	SK6294・SD6236＞SE6295		74.20	
SE6321	SE421	B2	円形	77	－	53	暗褐色粘質土・褐灰色粘質土の混土	中世土師器・珠洲		15C	74.95	
SE6333	SE433	B2	楕円形	102	－	118	黒褐色土	中世土師器	SK6334＞SE6333		74.28	
SE6381	SE481	B2	楕円形	94	83	132	暗茶褐色土	越前・加工木			74.10	
SE6614	SE714	B2	円形	99		－	茶灰色粘質土	中世土師器・底板	SX6390＞SE6614			
SE6623	SE723	B2	楕円形	153	80	68	暗褐色砂礫土	越前・石臼	SE6623＞SK6622		74.80	
SE6626	SE726	B2	円形	92	－	142	暗茶褐色土	越前・加工木			73.88	
SE6636	SE736	B2	円形	80	－	－	暗茶褐色土	中世土師器				
SE6670	SE770	B2	円形	110	－	114	茶灰色土	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・漆器・底板			74.00	
SE6679	SE779	B2	楕円形	108	93	56	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・青花			74.60	
SE6849	SE949	B2	楕円形	97	85	168	暗茶褐色土	瓷器系・底板・加工木			73.72	
SE6980	SE1080	B2	不整円形	158	135	130	明褐色粘質土	越前・瀬戸美濃・おたま			74.00	
SE7019	SE1119	B2	楕円形	135	90	128	黒褐色砂土	中世土師器・底板			73.83	
SE7108	SE08	B3	楕円形	120	75	130	－	土師器・中世土師器・珠洲			74.63	
SE7160	SE60	B3	円形	85	－	189	－	青磁・青花		15C	74.06	
SE7207	SE107	B3	円形	82	－	228	－	中世土師器・珠洲			74.19	
SE7353	SE253	B3	楕円形	100	85	162	－	瀬戸美濃	SE7353＞SD7200		75.06	
SE7400	SE300	B3	円形	95	－	－	－	中世土師器・珠洲・瀬戸・加賀				
SE7459	SE359	B3	円形	82	－	－	－	珠洲				
SE7467	SE367	B3	楕円形	90	67	－	－	珠洲・青磁		15C		
SE7500	SE400	B3	楕円形	220	189	180	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・加賀・青磁・磨製石斧		15C	74.95	
SE7526	SE426	B3	方形	126	60	187	黄褐色土	珠洲			74.65	
SE7555	SE455	B3	円形	120	－	－	黒褐色粘質土	珠洲	SD7535＞SE7555	15C		
SE7613	SE513	B3	円形	81	－	97	茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・明治～			75.67	
SE7616	SE516	B3	円形	85	－	135	黒褐色土	中世土師器・石臼・石鉢			75.34	
SE7617	SE517	B3	方形	90	75	－	暗褐色土	珠洲	SE7617＞SP7618			
SE7619	SE519	B3	楕円形	110	95	138	暗褐色粘質土	珠洲		15C	75.23	
SE7621	SE521	B3	方形	102	88	120	黒褐色土	珠洲			75.44	
SE7628	SE528	B3	方形	60	50	130	茶褐色粘質土	珠洲	SE7628＞SK7510	15C	74.78	
SE7636	SE536	B3	方形	117	98	198	茶褐色粘質土	珠洲			75.65	
SE7661	SE561	B3	方形	76	30	－	－	珠洲・越前・瀬戸美濃	SE7661＞SK7510・SK7660	15・16C		
SE7702	SE602	B4	円形	105	－	－	暗黄灰色粘質土	中世土師器・漆器・曲物・箸・柄・板材・鋤先		15C後半		
SE7724	SE624	B4	円形	88	－	－	黒褐色粘質土	瀬戸・珠洲		15C		
SE7737	SE637	B4	方形	102	86	－	－	珠洲・加工木				
SE7896	SE796	B3	円形	84	78	197	茶褐色粘質土	珠洲・青磁		14C	74.85	
SE8110	SE1010	B3	方形	95	87	187	茶褐色粘質土	珠洲			74.73	
SE8132	SE1032	B3	円形	110	－	42	－	珠洲			76.35	
SE8133	SE1033	B3	円形	95	－	170	－	珠洲			74.98	
SE8134	SE1034	B3	楕円形	92	80	154	－	八尾・珠洲			74.89	
SE8147	SE1047	B3	円形	90	－	61	－	越前			75.97	
SE8149	SE1049	B3	円形	75	－	－	－	珠洲	SE8149＞SK1048			
SE8252	SE52	B3W	円形	150	90	－	黒褐色土	－				
SE8274b	SE74b	B3W	不整円	90	－	147	褐色粘質土	木製品（鍬）			74.85	
SE8307	SE107	B3W	方形	72	58	42	暗茶褐色粘質土	曲物			76.38	
SE8314	SE114	B3W	円形	100	82	180	黒褐色粘質土	中世土師器・底板・土師質暖房具		15C	74.98	
SE8503	SE303	B3W	楕円形	85	64	192	暗茶褐色粘質土	暖房具			74.60	
SE8522	SE322	B3W	楕円形	105	58	－	暗茶褐色粘質土	越前・青花		16C		
SE8526	SE326	B3W	楕円形	75	47	171	褐色粘質土	中世土師器・石臼			75.00	
SE8529b	SE329b	B3W	方形	－	90	－	－	切石				
SE8542	SE342	B3W	円形	65	－	128	－	中世土師器（摺鉢）			75.22	
SE8543	SE343	B3W	楕円形	100	65	201	黒茶褐色粘質土	－			74.49	
SE8547	SE347	B3W	楕円形	118	87	97	－	－			75.57	
SE8638	SE438	B3W	円形	70	－	155	暗褐色粘質土	珠洲・石硯・焼け材			74.87	
SE8905	SE05	CN	円形	98	－	172	黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲・越前		14・15・16C	75.45	
SE8908	SE08	CN	楕円形	110	84	－	－	青磁		15C		
SE8910	SE10	CN	楕円形	82	73	188	－	漆器				
SE8912	SE12	CN	円形	76	－	190	－	中世土師器		15C	75.60	
SE8932	SE32	CN	円形	87	－	－	暗茶褐色土	珠洲				
SE8936	SE36	CN	円形	68	－	160	－	珠洲・石臼			75.63	
SE8943	SE43	CN	円形	100	－	182	黒褐色土	珠洲			75.39	
SE8944	SE44	CN	円形	88	－	179	－	瀬戸美濃			75.40	
SE8950	SE50	CN	楕円形	125	95	182	－	珠洲・瀬戸		14・15C	75.32	
SE8953	SE53	CN	円形	82	68	－	－	中世土師器・珠洲		16C？		
SE8955	SE55	CN	楕円形	140	130	180	－	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃		15・16C	75.36	
SE8956	SE56	CN	円形	46	26	－	－	珠洲		14・15C		
SE8957	SE57	CN	円形	85	－	－	－	珠洲・越前				
SE8966b	SE66b	CN	円形	71	－	177	－	珠洲			75.18	
SE8968	SE68	CN	円形	172	145	163	－	八尾・珠洲・越前		15・16C	75.51	
SE8969	SE69	CN	楕円形	84	79	174	－	中世土師器・珠洲・越中瀬戸		15・16C末	75.45	
SE8970	SE70	CN	円形	75	－	－	－	珠洲・志野・石鉢				
SE8971	SE71	CN	円形	130	110	186	－	珠洲・越前		15・16C	75.14	
SE8972	SE72	CN	楕円形	175	113	218	－	中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・青花・唐津		15・16・17C	74.63	
SE8973	SE73	CN	楕円形	118	85	190	－	珠洲・加工木			75.16	
SE8976	SE76	CN	円形	82		171	－	珠洲		15C	75.41	
SE8977	SE77	CN	円形	115	105	－	－	須恵器・珠洲				
SE8981	SE81	CN	円形	79		159	－	中世土師器		15C後半	75.53	

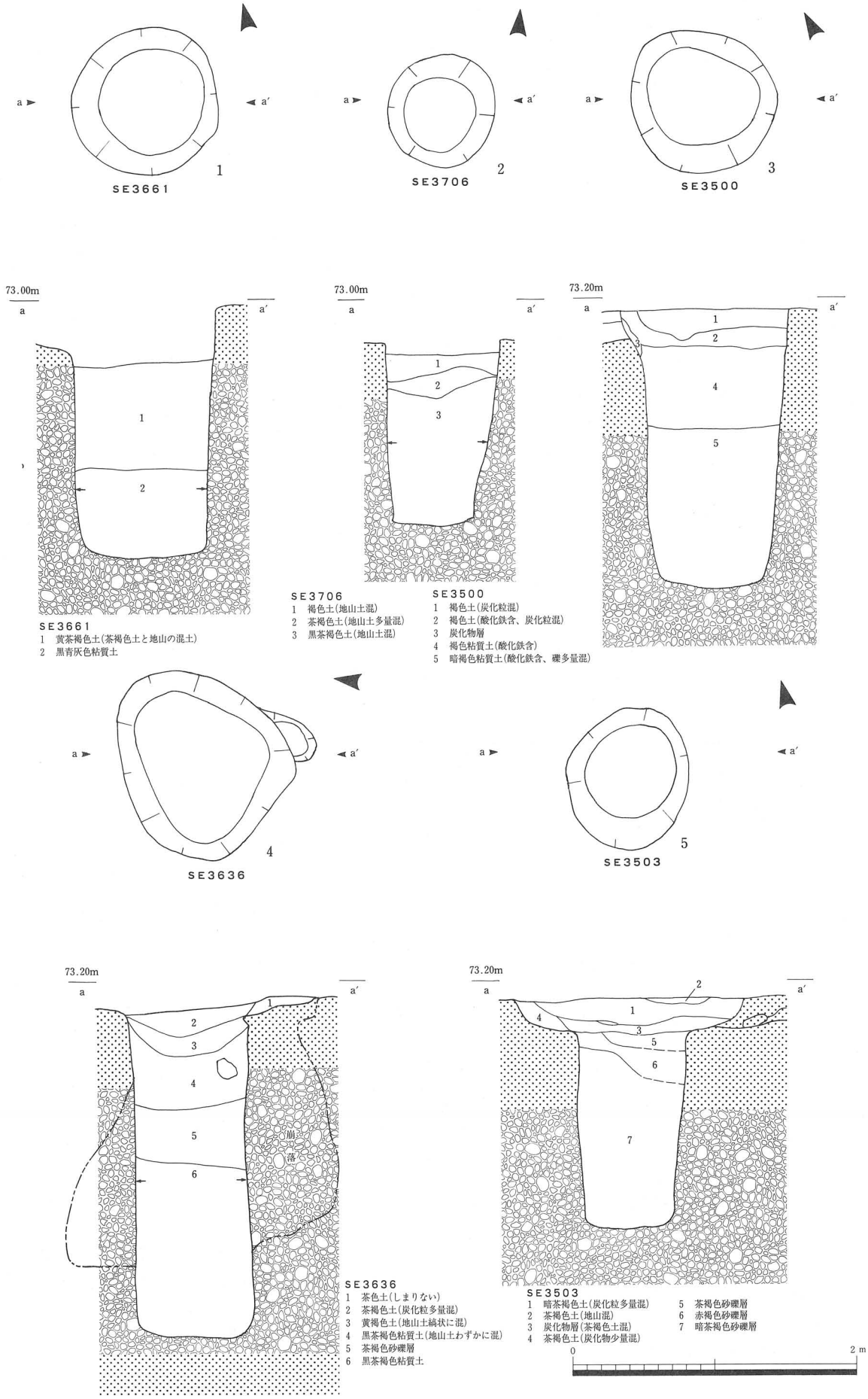
第10表　井戸（中世後期）一覧（2）

遺構番号	整理番号	地区	平面形	規模；長	規模；短	規模；深	覆土	出土遺物	備考	時期	最終レベル	湧水レベル
SE8982	SE82	CN	円形	70	－	－	－	中世土師器・八尾・珠洲・瀬戸美濃		15・16C		
SE8987	SE87	CN	楕円形	100	75	－	－	珠洲・瀬戸美濃		16C		
SE8990	SE90	CN	円形	93	73	205	－	越前・石臼		16C	75.20	
SE8991	SE91	CN	楕円形	－	115	－	－	珠洲		15C後半		
SE8993	SE93	CN	円形	102	84	－	－	珠洲				
SE8994	SE94	CN	円形	92	－	190	－	中世土師器・珠洲・青磁・加工木		15C	75.27	
SE8998	SE98	CN	－	－	－	－	－	珠洲				
SE9000	SE100	CN	円形	214	180	141	－	珠洲・瀬戸美濃・箸・曲物		15・16C	75.66	
SE9006	SE106	CN	円形	130	100	194	－	中世土師器・白磁		13・15C後半	75.10	
SE9009	SE109	CN	円形	75	70	－	－	珠洲				
SE9011	SE111	CN	円形	－	－	148	－	珠洲		15C	75.64	
SE9012	SE112	CN	円形	87	85	174	－	中世土師器・珠洲・越前・青磁・石臼		14・15・16C	75.45	
SE9019	SE19	CS	円形	108	－	－	－	珠洲				
SE9020	SE20	CS	円形	110	90	－	－	珠洲・加工木				
SE9122	SE22	CS	楕円形	152	80	－	－	中世土師器・珠洲・石臼・砥石・石鉢・柄		15C後半		
SE9138	SE38	CS	楕円形	－	－	－	－	珠洲				
SE9158	SE58	CS	円形	98	92	－	－	珠洲				
SE9176	SE76	CS	楕円形	117	75	－	－	越前・石硯		16C		
SE9215	SE115	CS	楕円形	160	98	－	－	珠洲・越前・石鉢・石臼				
SE9216	SE116	CS	楕円形	155	102	－	－	珠洲				
SE9325	SE25	C1	円形	94	86	55	－	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・青花・瓦質土器		16C	76.69	
SE9342	SE42	C1	円形	75	－	90	暗灰茶褐色粘質土	珠洲	SD9341＞SE9342		76.68	
SE9352	SE52	C1	円形	80	74	104	黒褐色粘質土	縄文土器	SK9466＞SE9352		76.13	
SE9359	SE59	C1	円形	95	75	31	茶褐色粘質土	中世土師器		15C後半	77.72	
SE9373	SE73	C1	円形	95	90	106	－	珠洲・瀬戸美濃			76.35	
SE9382	SE82	C1	不整形	146	97	30	－	中世土師器・珠洲・鉄滓			77.11	
SE9388	SE88	C1	楕円形	75	67	72	黒灰褐色粘質土	石臼			76.54	
SE9389	SE89	C1	円形	102	－	149	－	珠洲				
SE9412	SE112	C1	円形	110	95	118	黒褐色粘質土	珠洲・石臼・加工板		15・16C	76.27	
SE9427	SE127	C1	不整形	－	76	129	黒褐色粘質土	羽口		?	75.53	
SE9428	SE128	C1	円形	78	67	121	灰色粘質土	珠洲			76.22	
SE9429	SE129	C1	円形	78	－	101	黒褐色粘質土	珠洲			76.12	
SE9479	SE179	C1	円形	88	80	191	－	瀬戸美濃・箸・加工板		16C	75.54	
SE9480	SE180	C1	楕円形	112	90	207	－	石鉢・曲物・漆器・箸・下駄・底板・加工木			75.38	
SE9509	SE209	C1	円形	70	－	167	－	珠洲			76.12	
SE9618	SE318	C1	円形	91	－	155	黒褐色粘質土	珠洲	SK9606＞SE9618		76.89	
SE9648	SE348	C1	円形	62	－	220	黒褐色粘質土	中世土師器・青磁・櫛・底板		15・16C	76.10	
SE9728	SE427	C1	円形	106	80	－	－	中世土師器・瀬戸美濃		15末・16C		
SE9749	SE449	C1	円形	70	－	196	－	中世土師器・珠洲・青磁		15C～15C末	76.09	
SE9751	SE451	C1	円形	110	102	268	－	珠洲・越前・石臼・曲物・底板・漆器・茶筅・加工木		16C	75.31	
SE9752	SE452	C1	円形	105	92	200	－	珠洲		15C前半	75.97	
SE9789	SE489	C1	円形	65	－	118	黒褐色粘質土	珠洲・瀬戸			76.54	
SE9792	SE492	C1	円形	110	－	210	暗茶褐色粘質土	珠洲・下駄・底板	SE9792＞SE9791	15末・16C	75.53	
SE9806	SE506	C1	円形	82	70	－	－	珠洲・瀬戸美濃				
SE9835	SE535	C1	円形	97	88	－	暗茶褐色粘質土	中世土師器・珠洲・白磁・青磁・石製暖房具・砥石・曲物・竹製編物		13・15C		
SE9837	SE537	C1	円形	80		196	黒褐色粘質土	越前			75.40	
SE9872	SE572	C1	円形	89	－	213	黒褐色粘質土	珠洲			75.24	
SE9873	SE573	C1	円形	108	－	170	茶褐色砂質土	中世土師器・箸・底板		15C後半	75.95	
SE9875	SE575	C1	円形	102	82	205	黒褐色粘質土	中世土師器・珠洲		15C	75.35	
SE9879	SE579	C1	円形	80	－	148	暗灰褐色砂質土	珠洲			75.79	
SE9884	SE584	C1	円形	93	78	－	－	中世土師器・珠洲				
SE9905	SE605	C1	円形	83	－	253	茶褐色砂礫土	中世土師器・手桶・曲物・底板		16C	75.08	
SE9910	SE610	C1	円形	96	－	163	黒褐色粘質土	珠洲		15C	75.24	
SE9914	SE614	C1	円形	76	－	231	茶褐色礫層	珠洲・瀬戸美濃・側板			75.29	
SE9915	SE615	C1	円形	73	－	181	灰色粘質土・黒色粘質土	珠洲・漆器			75.17	
SE10109	SE09	C2	円形	78	－	54	暗茶褐色土・黒灰色粘質土	中世土師器・加工木			78.19	
SE10128	SE28	C2	円形	58	－	112	黒色粘質土	中世土師器			77.95	
SE10141	SE41	C2	楕円形	73	62	－	－	木製品				
SE10162	SE62	C2	円形	72	－	62	黒色土・礫	中世土師器・石硯・加工木			78.87	79.07
SE10170	SE70	C2	楕円形	125	103	122	黒色粘質土	珠洲		16C	78.22	79.00
SE10172	SE72	C2	円形	72	－	58	－	中世土師器（擂鉢）			78.60	78.98
SE10174	SE74	C2	円形	74	－	62	黒色粘質土・礫	珠洲・越前・石臼・箸・加工木			78.62	78.95
SE10175	SE75	C2	円形	60	－	68	黒色粘質土	珠洲・越前・漆器・加工木			78.37	78.81
SE10177	SE77	C2	円形	92	75	66	黒色土	石硯・加工木			78.33	78.81
SE10181	SE81	C2	楕円形	115	115	45	黒色粘質土	珠洲・五輪塔			78.62	78.85
SE10182	SE82	C2	楕円形	87	75	51	黒色粘質土	柄杓			78.55	78.83
SE10184	SE84	C2	円形	87	－	74	黒色粘質土	中世土師器・珠洲・漆器・曲物・加工木		15C	78.37	78.78
SE10225	SE125	C2	円形	76	－	123	黒色土	珠洲・越前・曲物・加工木		16C	77.75	78.34
SE10227	SE127	C2	楕円形	126	99	108	黒色粘質土	瀬戸美濃・柄杓・刀子状金属製品		16C	77.98	78.81
SE10228	SE128	C2	楕円形	82	60	73	黒色粘質土	中世土師器・瀬戸・瀬戸美濃		15・16C	78.13	
SE10229	SE129	C2	不整形	－	－	－	黒色粘質土	越前		16C		
SE10230	SE130	C2	円形	65	53	62	黒色粘質土	信楽・青磁・曲物・加工木			78.44	78.79
SE10242	SE142	C2	円形	67	52	228	暗茶褐色土・黒褐色粘質土	中世土師器（擂鉢）・珠洲		16C	76.17	77.73
SE10245	SE145	C2	不整円形	102	94	93	－	中世土師器		15C	78.10	78.74
SE10256	SE156	C2	方形	75	71	130	黄褐色土	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃	下層は石組井戸	16C	77.50	
SE10303	SE03	C3	円形	106	95	174	黒色粘質土・礫	中世土師器（擂鉢）・擂粉木・曲物			79.11	
SE10306	SE06	C3	楕円形	92	65	117	黒褐色粘質土	石臼			79.50	
SE10314	SE14	C3	不整円形	120	110	196	黒褐色粘質土	加工木			78.50	
SE10343	SE43	C3	楕円形	127	112	191	黒褐色粘質土	箸・木製容器・底板・加工板			78.35	
SE10344	SE44	C3	楕円形	103	85	250	黒褐色粘質土	箸・木製容器底板・加工木			78.00	
SE10419	SE119	C3	方形	96	96	136	黄褐色粘質土	漆器・加工木			79.08	
SE10452	SE152	C3	円形	52	－	110	黒褐色粘質土	青磁・漆器・底板		15末C	78.82	
SE10453	SE153	C3	楕円形	65	58	185	黒褐色粘質土	－			78.20	

第10表　井戸（中世後期）一覧 (3)

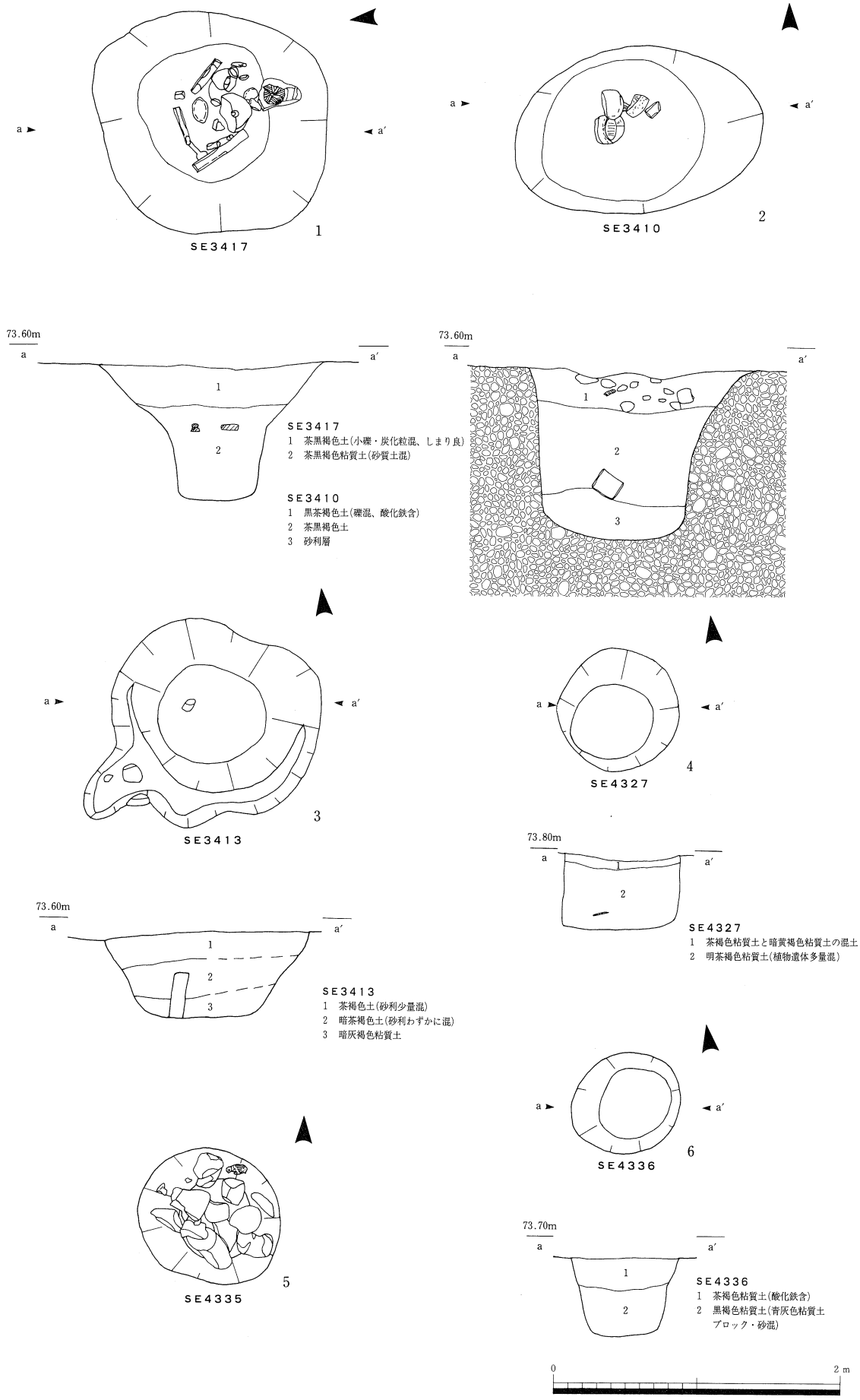


第184図　遺構実測図(中世後期)
1.SE3018　2.SE3688　3.SE3677　4.SE3599



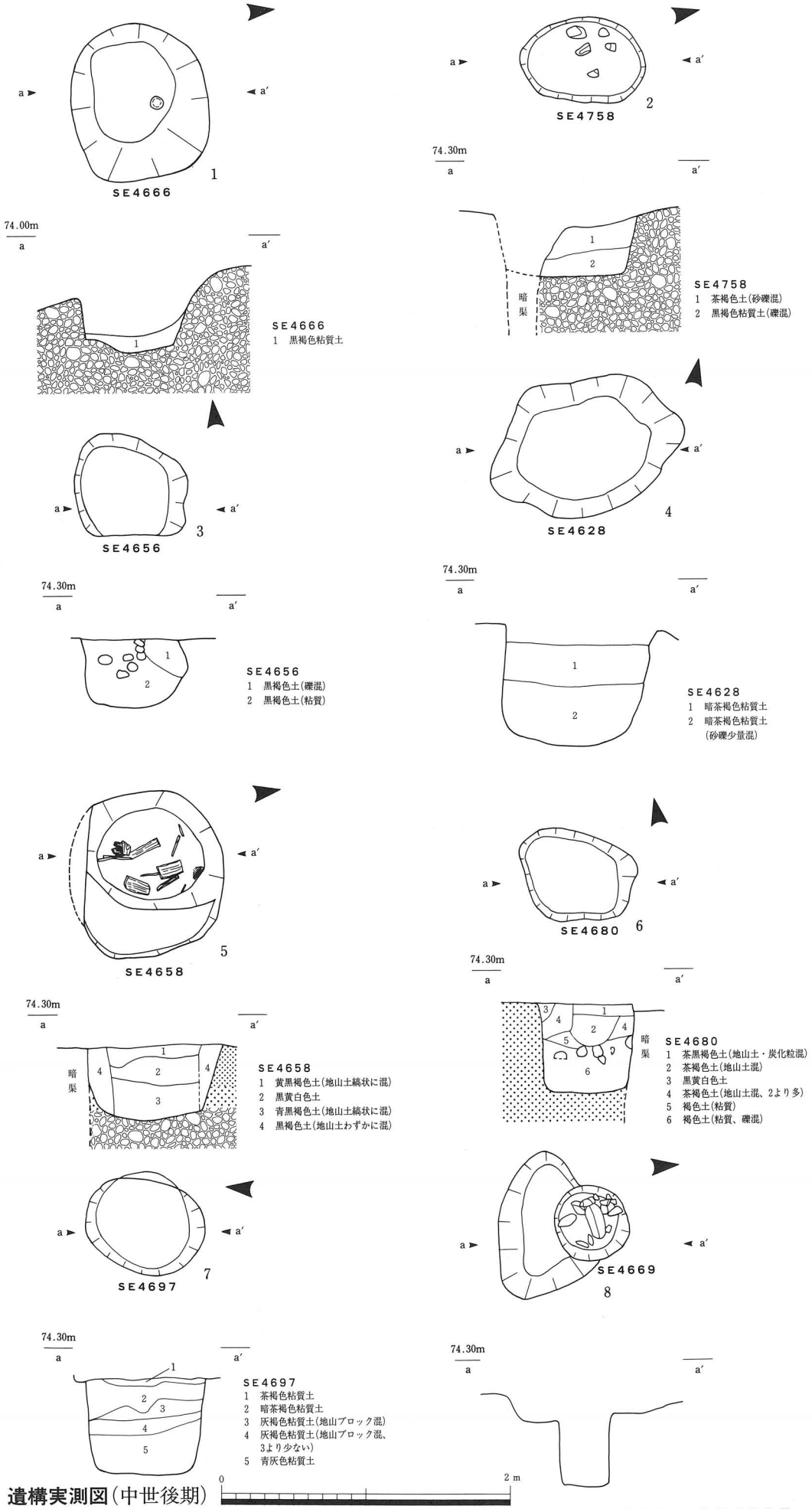
第185図　遺構実測図(中世後期)

1.SE3661　2.SE3706　3.SE3500　4.SE3636　5.SE3503



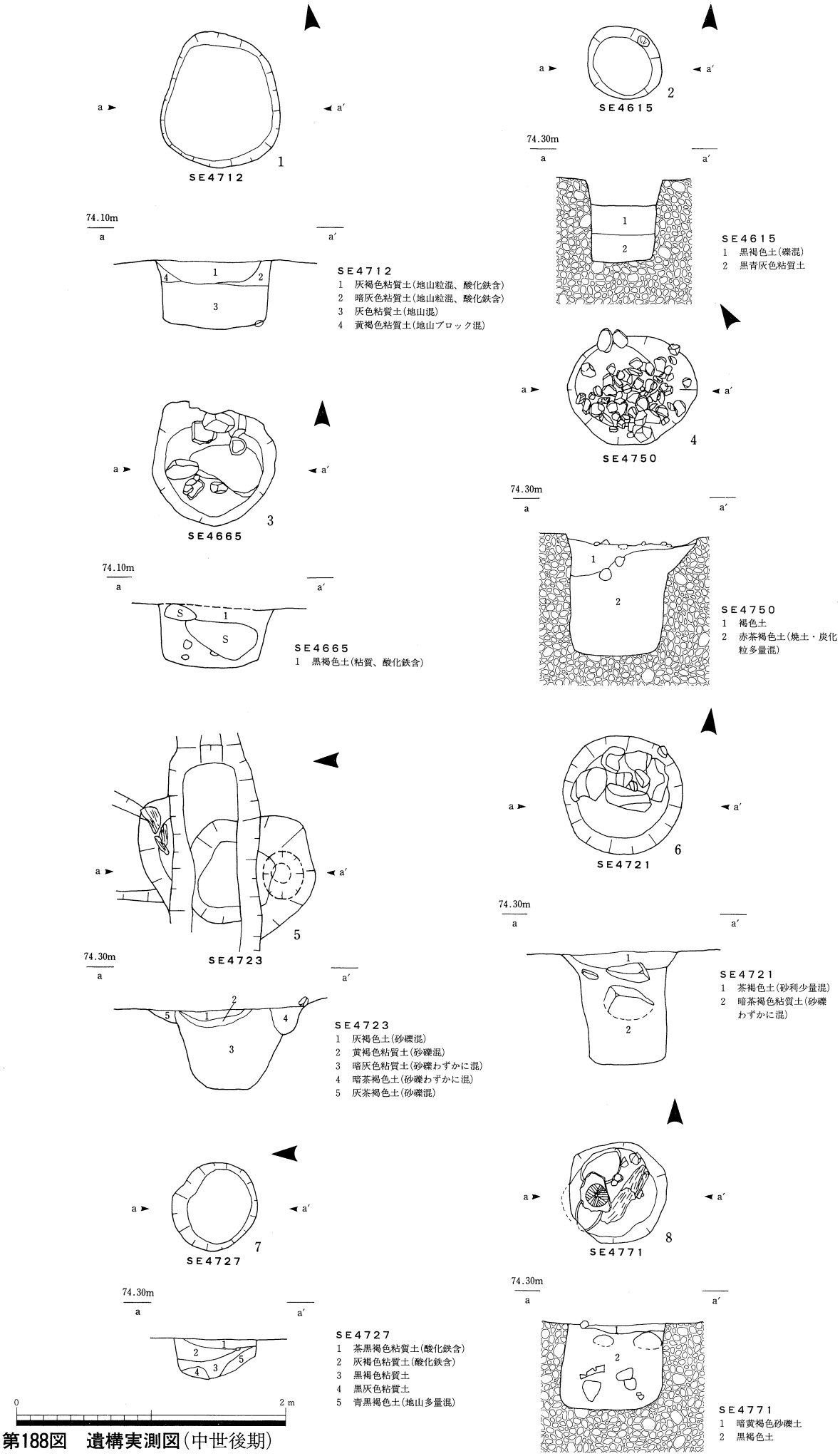
第186図　遺構実測図(中世後期)

1.SE3417　2.SE3410　3.SE3413　4.SE4327　5.SE4335　6.SE4336



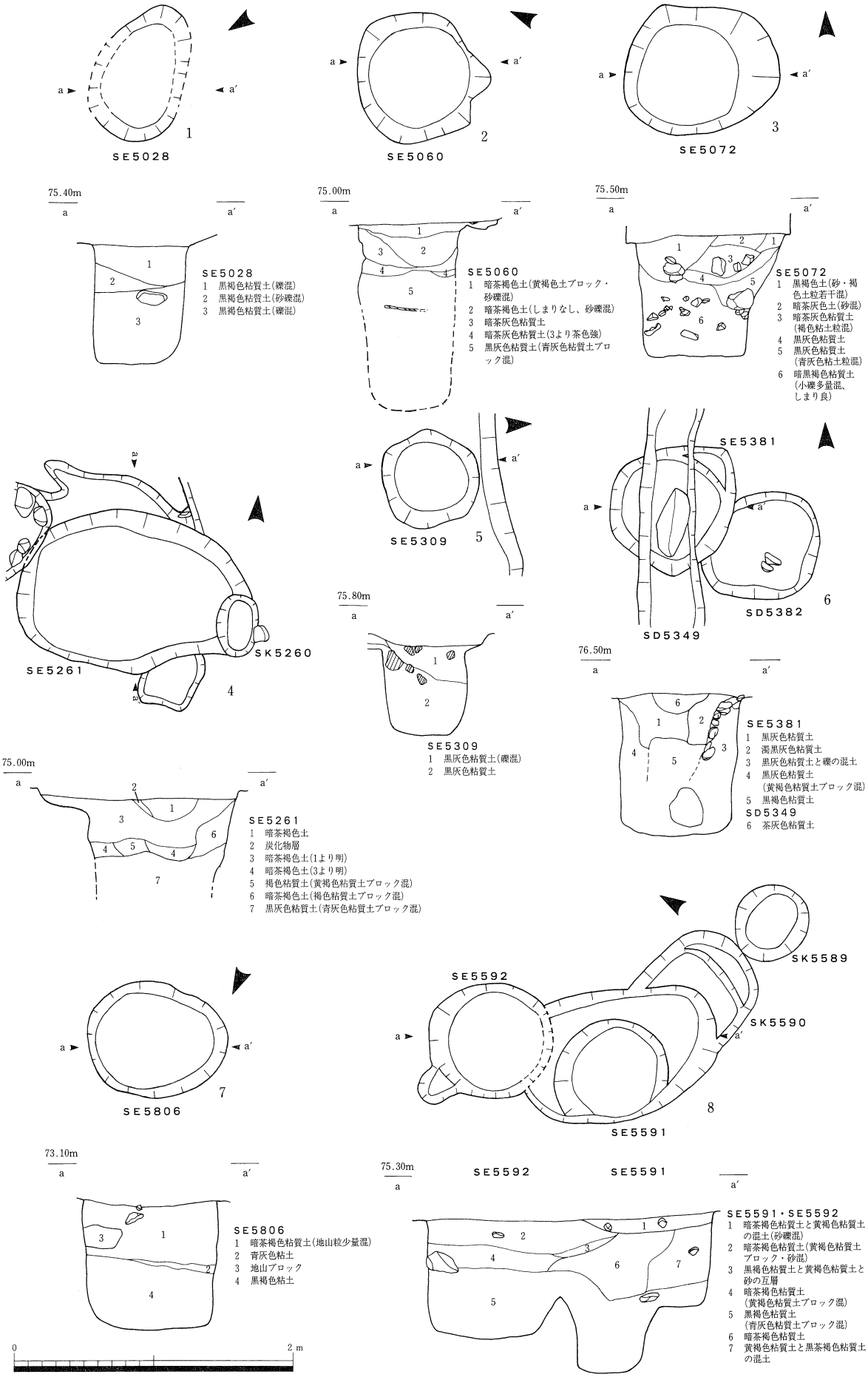
第187図　遺構実測図(中世後期)

1.SE4666　2.SE4758　3.SE4656　4.SE4628　5.SE4658　6.SE4680　7.SE4697
8.SE4669



第188図　遺構実測図(中世後期)

1.SE4712　2.SE4615　3.SE4665　4.SE4750　5.SE4723　6.SE4721
7.SE4727　8.SE4771



第189図　遺構実測図(中世後期)

1.SE5028 2.SE5060 3.SE5072 4.SE5261 5.SE5309 6.SE5381 7.SE5806 8.SE5591・SE5592